Student Survey 2016

学勢調査2016

Student Proposals

Tokyo Institute of Technology

東京工業大学
学勢調査2016提言書

2017年3月
学勢調査スタッフ一同

学勢調査 2016 提言書

2017 年 3 月

東京工業大学
学勢調査 2016 スタッフ一同

代表からの挨拶

現在、東京工業大学では教育改革により大学のあり方が大きく変化しつつあります。このような大学改革は本学だけではなく、他の多くの大学も打ち出しており、まさに日本の大学教育が大きく変わる時期が到来しています。また、IoT や人工知能の発展により、シンギュラリティの到来が議論されるように世界もまた大きく変わろうとしています。その変化についていくためには、自分自身も自発的に変わることが重要であると考えます。

学勢調査は学生の声をもとに様々な提言をする団体として、本学において重要な役割を担っています。これまでに、東工大メールニュース配信や生協におけるハラル推奨メニューの提供などを提言し、その実現に貢献してきました。このような活動の成果は、学生だけの力で成し遂げることは困難であり、学生活動に対して教職員の手厚いサポートがあることも東工大の強みであると考えています。

これまで学勢調査では、本学や世の中の動向をとらえ、大学に対してさまざまなフィードバックを行ってきました。学勢調査 2010 では附属図書館が現在の新設の図書館に移転したこともあり、附属図書館に関する学生の意見を提言に反映させました。学勢調査 2012 では東日本大震災を受けて、防災に関する項目を増やし、大学一丸となって防災について考えるよい機会になったと考えています。今年の学勢調査 2016 では、教育改革が始まったことを受けて関連する質問を増やし、教育改革に関して多くの提言をしました。

今回の学勢調査代表としての経験を通じて、判断することの重要性と難しさを実感しました。学勢調査の準備や提言書の作成において、学生間の意見の衝突は少なくありませんでした。ある点では改善したとしても、別の点で改悪となってしまう場合もあるため、提言の作成は大きな責任を伴う仕事です。また、自分の身の回りの環境は普段の生活で意識する機会が少なく、問題点を探しても主観的になりがちで客観的な視点で判断することは容易ではありません。様々な技術の発展により、以前に比べて各種の問題の解決のための手段は増えたとしても、問題点を見つけることや対処のための判断を下すことの重要性や難しさは変わらないと思います。普段の生活の中で自分の置かれた環境に対する意識を高め、よりよい判断を下せるように、これからも成長していきたいと思いました。

最後に、学勢調査 2016 に協力して頂いた教職員の方々、キャンパスミーティングに対応してくださった各部局の方々、学勢調査に回答していただいた学生の皆様のご協力に感謝いたします。一緒に設問を検討した学生スタッフ、提言書を作成した学生スタッフには大変お世話になりました。この場を借りて心より感謝申し上げます。代表としてこのような有意義な活動に参加することができ非常に幸せです。

本提言書の提言が今後のより良い大学づくりの一助となれば幸いです。

学勢調査 2016 代表
理学部　物理学科 3 年
児島　佑樹

副代表のメッセージ

副代表 Laosunthara Ampan

理工学研究科 原子核工学専攻 博士 2 年

副代表として代表の補佐をしました。データ班と学習班にも参加しました。学生メンバーの中で最年長であることに加えて留学生であるため、他のメンバーとは少し異なる視点で学勢調査を進めてきました。時にはぶつかることもありましたが、異なる視点から議論してみることも重要だと思っています。

個人的に学勢調査のこれからの課題として 3 つ挙げます。どの課題もこれから読んでいただく皆様に理解を頂きたいです。1. 学勢調査学生メンバーの不足です。学勢調査自体はまだ発展途上だと思います。そのため、新しいアイデアも必要ですし、積み重ねた技術・スキルも必要だと思います。幅広い学年の学生メンバーの参加が望ましいです。また人数も必要ですから学勢調査 2018 にはぜひ参加してくれると嬉しいです。2. 情報の伝達です。本学全体の課題でもあります。積み重ねてきた知識など新しい世代により伝わりやすい形にしないと消えてしまいます。学勢調査も皆さんに届けるためにどういう情報形態で伝えることが一番望ましいか皆さんの声が重要です。ぜひ聞かせてください。3.学勢調査のデータの活用です。現在、学勢調査で調査収集したデータは提言書作成のほか、部分的ですが学内で活用されてもいます。しかし、大規模調査のデータですから学生メンバーが気付かないこともあります。皆様に様々な側面で活用していただき意見をいろいろともらいたいです。そのため、学勢調査のデータを学生メンバー以外にも活用できるような形でいかに提供するかが課題です。

最後になりますが、学勢調査をきっかけに本学が取り組む姿勢・制度・情報を広く学内外に知ってもらい、それらを活用してもらうことができたら嬉しいです。

副代表 磯部 宇彰

環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程 修士 1 年

東工大に入って 5 年が経つ。キャンパスの風景は変わらないが、あの頃とは全く違って見える。大学の雰囲気も変わった。私は入試へ行く新幹線の中で、池上彰教授就任のニュースを知った。目に映るものは時間の許す限り手を出した。学勢調査もその一つである。学勢調査を通して貴重な出会いがあった。

学勢調査は「大学と学生の相互理解を促進する」機能をもつ、とのことである。この立ち位置の理解に苦しんだ。コンサルタントと労働組合を足して 2 で割ったような組織なのだろうか。単なる「学生の意見を執行部に伝える組織」であったらどれほど楽だろうか。学生の立場で、有効な提言を考えるのは難しい。正直言って、学生が考えるようなことは既にほとんど検討されている。「自分たちが考えている意味があるのか」と思うことが何度もあった。はたまた、「自分たちは学生の不満をただ伝えているだけではないか」と思うこともあった。それでも、やるのか。これからもやっていくのか。学勢調査によって東工大は“良く”なるのだろうか。

どのような組織においても、構成員のモチベーション維持は重要なテーマである。大学の財産は人である。大学が成長するためには学生・教職員・研究者のモチベーションが命である。その意味では、学勢調査で提言を書き続けることにも意味はあるのだろう。大学に文句を言うためではなく、互いの実態を知りながら共に大学を発展させるために学勢調査が存在するのである。

学習班の感想

班長 磯部 宇彰　環境･社会理工学院 技術経営専門職学位課程 修士 1 年

学習班では、学勢調査に寄せられた意見をなるべく素直に提言に反映させるようにしました。自由記述では、教育に対する熱い思いをぶつけて下さった方もいました。ただ、どうしても 1 つの意見として見ざるを得ませんでした。次回は、ぜひともそのような方に参加してほしいと思います。職員の皆さんや、水本副学長はじめ多くの先生方が意見を聞いてくださる素晴らしい場です。東工大に熱い思いを持つ学生の参加を期待します。

班員 Laosunthara Ampan　理工学研究科 原子核工学専攻 博士 2 年

学習班が扱っている内容は多彩です。履修登録などのわかりやすい問題だったり、留学の支援というどこまでが十分かというわかりにくい問題も扱っているので、もう少し議論や作業のための時間が確保できたらよかったと思います。特に、今回はスタッフが少ないうえ、前回の調査よりも短期間という点は大きな痛手だったと思います。次回の学勢調査はたくさんの後輩が参加することを祈ります。

班員 米岡 修一郎　環境･社会理工学院 融合理工学系 原子核工学コース 博士 1 年

私は学習班として学生支援課と教務課の事務窓口改善に関する提言を担当しました。提言を作成する中で感じたのは、学生の自主･自立意識の重要性です。大学の主人公はあくまでも学生です。主人公であるからには、主人公たる意識が学生に必要だと強く認識しました。今回の学勢調査の成果を広く学生の皆さんにご覧いただき、私たちの情熱を共有してくださるのであれば幸いです。最後に、忙しい中で学勢調査 2016 の作成に共に取り組んでくれた学習班のみなさん、特に班長の磯部君にあらためて感謝いたします。

班員 渡邊 正理　理学部 物理学科 学部 4 年

このたびは学勢調査 2016 にご回答･ご協力頂き、ありがとうございました。多くの学生から生の声が集まり、本学の抱える問題が浮き彫りとなりました。また、教育改革後初めての学勢調査ということもあり、意気込んで提言書の作成に取り組みました。私個人としては、問題発見から解決案の提示までのプロセスを実際に行うことができ、とても良い経験となりました。本提言書がより良い大学運営の礎となり、東京工業大学がますます発展しますことを切に願います。

サービス・施設班の感想

班長　長谷川　葉月　　生命理工学部　生命科学科　学部 2 年

学勢調査 2016 では、施設・サービス班班長を勤めさせていただきました。学勢調査に参加し、大学全体で協力すればより良い大学になる、それが徐々に実行されつつあると感じました。学勢調査がそのお役に立てれば嬉しいです。

班員　村山　真道　　理工学研究科　原子核工学専攻　修士 2 年

今回初めて学勢調査に参加いたしました。アンケートの結果集計や教職員の方との意見交換を通じて、いままで知らなかった大学内の問題を知ることができました。この提言書が学生生活や大学運営の改善に活かされれば幸いです

班員　栗林　純平　　工学部　高分子工学科　学部 4 年

学勢調査 2014 に続き、2 度目の参加でした。卒業研究のためにあまり貢献できませんでしたが、代表の児島君を中心に一人ひとりが尽力する様は前回以上だったと思います。この提言書がより良い大学の実現に繋がることを願っています。

班員　紺野　隆志　　工学部　機械科学科　学部 3 年

留学によって途中からの参加となりました。本提言書がより良い大学への一助となることを期待するばかりです。例年よりも動けるメンバーが少ない中で、リーダーとして尽力してくれた児島くんに感謝の意を表します。

班員　石曾根　香菜　　工学部　無機材料工学科　学部 3 年

今回、学勢調査に関わり、大学内の各部署とミーティングを行うことで初めて知った大学のサービスが沢山ありました。この提言書が学生と執行部の距離を縮め、学生がより良い大学生活を送る助けとなることを願っています。

データ班の感想

班長 米岡 修一郎　環境･社会理工学院 融合理工学系 原子核工学コース 博士 1 年

データというものは本質的に無機質なものです。今回私たちが取り扱った意見の一つ一つは、学生の皆さんが少なからぬ時間を割いて紡いでくださったものです。多数意見も、少数意見も、すべてが学生の皆さんの貴重な意見です。しかし、私たちはその意見をデータという客観的な数値としてしか判断することは出来ません。今回の学勢調査では、もちろん多数意見にはその多くの提言を割くこととなりましたが、中には数が少ないながらも学勢調査メンバーが効果的と判断した意見は議論の上で提言に盛り込むこととしました。無味乾燥なデータの群れから、その背後にある学生の皆さんの意見という本質をくみ取ることの重要性を認識しました。次回以降の学勢調査メンバーの皆さんにも、データとその傾向を踏まえた提言の作成と、データにとらわれない本質を見抜くための十分な議論を期待してなりません。最後に、共にデータ班の活動を頑張ってくださったAmpan Laosunthara さん、西川崇さんに心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

班員 Laosunthara Ampan　理工学研究科 原子核工学専攻 博士 2 年

データ班の役割は生データの集計、解析することです。また、集計したデータをグラフにしたり、データの重要性を訴えるような形にしたりすることが求められます。たとえば、棒グラフや色の配置などです。今回の調査では前半のデータ集計･解析に時間を消費しまいました。後半のデータの見せ方を考える部分について手が回らない現状でした。次回の調査のために、今回の経験を踏まえて引き継ぎをきちんと残したいと考えています。

班員 西川 崇　環境･社会理工学院 融合理工学系 原子核工学コース 修士 1 年

大学を学生にとってより良いものにするという目標に向かって、学年も専門分野も違う人たちと議論を交えながらチームで一丸なって、進むという貴重な体験を、学勢調査の活動を通して得ることができたと思います。大学の普段の学習というものは、自分の力でコツコツ進めていくことが多いと思います。自分一人でコツコツ努力することも大切ですが様々な人と意見を交えて、自分の考えを磨いていく事がそれと同じくらい大切であるということを是非、後輩の方々にも学勢調査という活動を通じて知って欲しいと思います。

目次

代表からの挨拶 1
副代表のメッセージ 2
学習班の感想 3
サービス・施設班の感想 4
データ班の感想 5

本提言書の見方 8
1. 学勢調査概要 10
1.1. 調査目的 10
1.2. 回答者数の推移 11
1.3. 調査母体 14
1.4. 調査項目の検討 14
1.5. 調査時期・調査対象・調査事項 14
1.6. 調査方法・分析方法 14
1.7. 全体会議の記録 15
1.8. キャンパスミーティング 15
1.9. 公表と報告 16
2. 全学を通して重要な提言 17
2.1. 提言概要 17
2.2. 重要な提言 1：教育改革における意見交換の促進 19
2.3. 重要な提言 2：情報に目を向けない学生への情報の伝達 20
2.4. 重要な提言 3：動画化による講義の補助 22
2.5. 重要な提言 4：留学への支援の更なる強化 23
3. 学習関連 27
3.1. 情報伝達 27
3.2. 講義 34
3.3. 学習環境 43
4. サービス関連 51
4.1. 事務 51
4.2. サービス全般 60
5. 施設関連 68
5.1. 施設一般 68
5.2. 設備一般 78
5.3. 図書館 83
5.4. 生協 87
6. 調査資料集 92

6.1. 基本情報 92
6.2. 大学関連 104
6.3. 学習関連 109
6.4. 施設関連 121
6.5. サービス関連 130
6.6. 設問一覧 138
6.6. Questions of Student Survey 2016 (English) 148
謝辞 158
学勢調査 2016 スタッフ 159
学勢調査 2016 WG 教職員スタッフ 160

本提言書の見方

本提言書は、全 6 章で構成されています。

- **第 1 章**
  学勢調査についての概要説明です。

- **第 2 章**
  学勢調査 2016 の回答の傾向から、大学をよりよくするためには、どのようにすると良いかを、学生スタッフで議論した結果、導き出された全学的に重要な提言です。

- **第 3 章～5 章**
  調査の結果を分析した学生スタッフによる、項目別の提言です。学習関連、サービス関連、施設関連の 3 項目にわかれています。

- **第 6 章**
  学勢調査によって得られたデータを、まとめた結果です。

下の図式は、第 3 章～5 章で用いたテンプレートの説明です。

学生の意見

学勢調査のアンケート項目の中で、自由記述項目に寄せられた学生の声を載せました。

現状分析

学勢調査のアンケート結果、大学の発信する情報、本学の様々な部署とのキャンパスミーティングを用いて、本学の状況を分析しました。

以前の調査との比較

今回のアンケート結果について、前回の学勢調査結果と比較するため、2014 年度以前の学勢調査のアンケート結果を載せました。

提言

現状分析をもとに、学生・大学の双方の状況・価値観を照らし合わせた上で、大学をよりよくするために学生スタッフがさまざまな案を考え、提言としてまとめました。

1. 学勢調査概要

1.1. 調査目的

学勢調査は、本学における大学の事業に学生の声を取り入れ、本学をより魅力のある大学とするために行う全学生を対象としたアンケート調査です。本学独自の取り組みであり、国勢調査になぞらえて、「学勢調査」と名付けられました。学勢調査は、2004 年度の試行を経て、2005 年度より本格実施となり、学生が分析と提言を行うシステムとなりました。今回の学勢調査 2016 は、このシステムが確立してから 6 回目の実施となります。過去 5 回の学勢調査（2005,2008,2010,2012,2014）では、いずれも学生の意見を大学側に伝える重要な役割を果たしてきました。

学勢調査を実施することで、施設設備の整備、学内のサービス向上などすぐ目に見える形での改善はもちろんのこと、教育改善などすぐには結果が見えにくいと思われる効果を追求していくことができます。これまでの学勢調査の結果を比較することで学生の変化も捉えることができます。

学勢調査の特徴は、調査内容の検討、本調査の実施、具体的な改善案の作成までを学生スタッフが行うことです。一般的に広く行われている学生生活調査は、大学の教職員が、学生の生活や意見を調査し、その結果を大学事業へ反映するものです。その方法では、大学が学生の要望を的確に把握できないまま、新規のサービスや施設を導入してしまう可能性があり、大学の提供するサービスが学生の要望と異なってしまう場合があります。一方、本学の学勢調査は一般的な学生生活調査に比べ、学生の視点が入ることにより、調査結果と改善案の関係性が高まり、より正確に学生の要望に応じたサービスを大学側が提供することが期待できます。これまでの具体的な実績としては、講義室改修・電子掲示板設置・リフレッシュルーム拡充・学内コンビニエンスストア出店・教務 WEB システム設置等が挙げられます。また、教職員の意識改革も進みつつあり、教職員と学生のすれ違いや不満を解消する役割を果たしています。

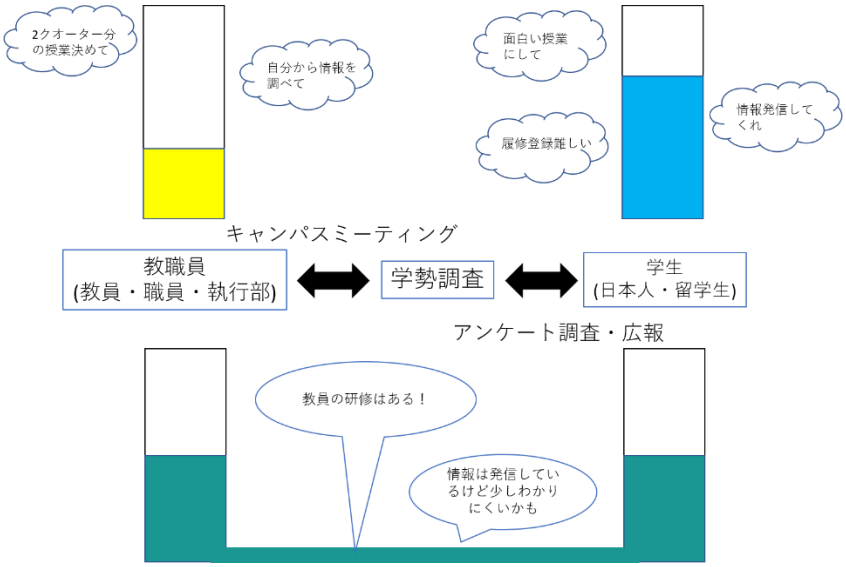

図 1. 1. 1　教職員・学生・学勢調査の関係

（異なる思いを持つ学生と教職員を繋ぐ学勢調査を表しました。）

ここから学勢調査の理念、役割をより詳しく説明します。図 1. 1. 1 は学勢調査の役割を模式的に表したものです。大学は大きく分けると教職員と学生から構成されています。教職員は教員・職員・執行部で構成され、学生は日本人と留学生で構成されます。学勢調査は両者の認識のすれ違いを減らすことが役割を持っています。

両者の認識のすれ違いを減らすためには、教職員と学生とのコミュニケーションが必須です。しかし、同じ場所や時間を共有できないなどの制約があるため、この機会が十分ではないのが現状です。つまり、立場や生活の違いにより学生が教員、ましては執行部とじっくりコミュニケーションをとることは困難です。そのような機会を増やすため、学生の活動を支援する取り組みがすでに行われています。例えば、2017 年 2 月に学生支援センター自律支援部門が主催した「第 10 回学生応援フォーラム」では学長や副学長を交えて活動報告および懇親会の場で様々な意見交換が行われました。しかし、全学生が参加していたわけではありません。これに対して学勢調査では、時間や空間の制約を低減し、学生に自分の意見を述べる機会を与えています。アンケートを通じて、多数の学生の意見を学勢調査スタッフが提言書としてまとめる過程で、学勢調査のスタッフと、教務課や学生支援課等の様々な部署とがキャンパスミーティング（下記「1.8 キャンパスミーティング」を参照）を行い、そこでの議論を提言の中に反映します。図 1.1.1 では教職員の思いを黄色い水、学生の思いを青い水にたとえ、学勢調査によって両者を繋ぎ水位も色も混ざる様子を示しています。教職員と学生、双方の実態や価値観を照らし合わせることにより、お互いの主張を伝えあうことができます。学勢調査は相互理解を促進する場になっています。

また、学勢調査は大学内の認識のすれ違いを知る良い機会にもなると考えられます。大学は運営部局が細分化されているため、組織の横のつながりが薄くなりがちで、そのため気づかず見落としてしまうような事柄が生じる可能性があります。その見落としていると思われる事柄を大学に提言することで改善に繋げることができます。

1.2. 回答者数の推移

学勢調査の課題は、回答率が年々減少傾向にあることと大学院学生（特に博士）の回答率が学部学生に比べて低いことが挙げられます。大学院生の回答率が低いと大学院生の意見を反映することが難しくなります。回答率の推移を図 1.1.2 と図 1.1.3 と表 1.1.2 に示します。まず、全体の回答率について述べます。図 1.1.2 は、これまでの学勢調査の回答者数とその内訳を示しています。今回行われた学勢調査 2016 のアンケートを最後まで回答した回答者数は 1794 名でした。回答者の所属に関する質問項目を変更したため、2012 年度と 2014 年度では学部と修士と博士に加えて専門職学位課程と研究生が内訳に加わっています。2016 年度では更に「その他」という項目を追加しました。回答者数は 2010 年度の 2343 名が最多であり、2012 年度以降は減少傾向にあります。図 1.1.3 は各年度における学部・修士・博士の在籍学生数を示します。表 1.1.1 は各年度における在学生の総数を示しています。表 1.1.1 の括弧内には留学生数を内訳として記述しました。

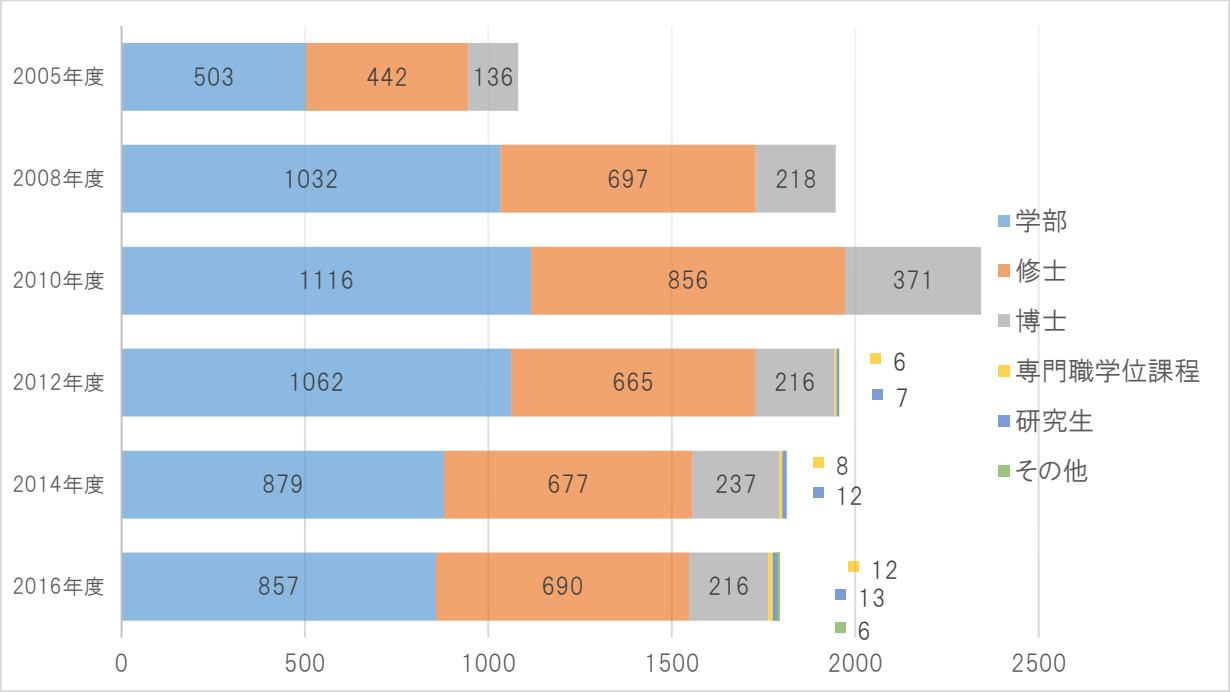

図 1.1.2　学勢調査回答者数の推移

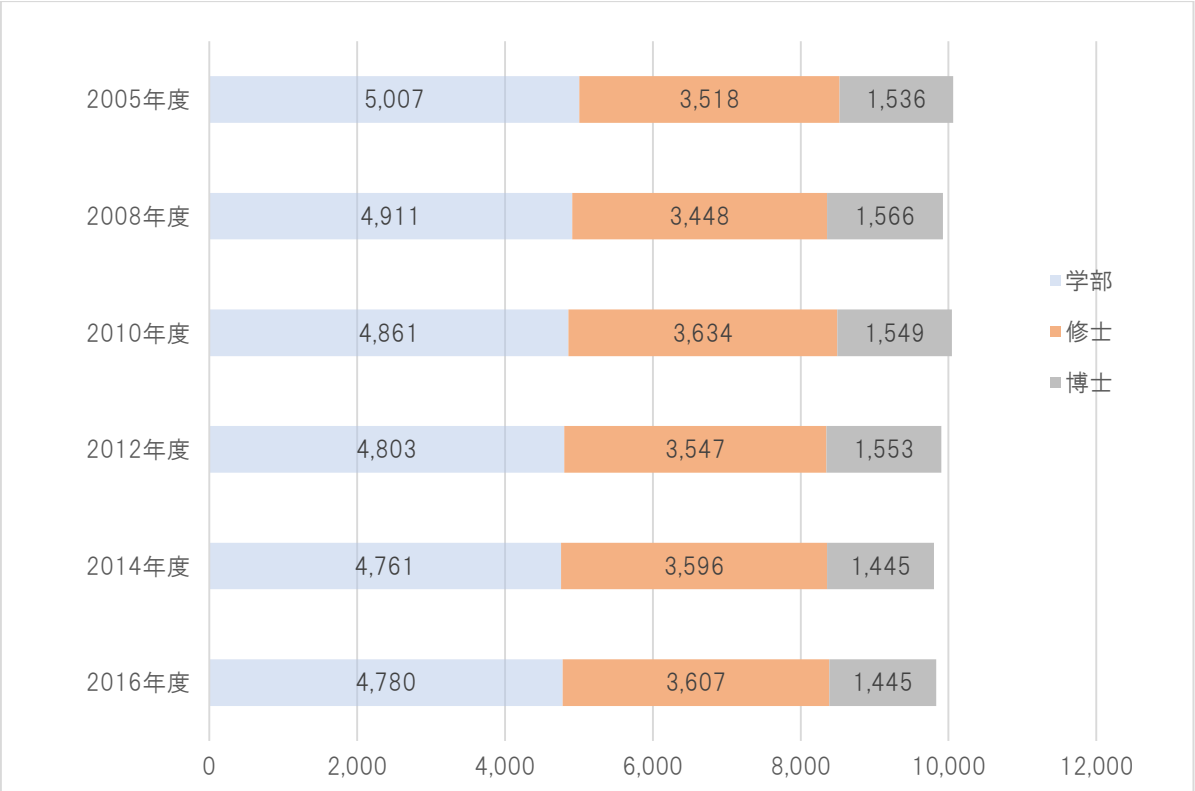

図 1.1.3　在籍学生数の推移

表 1.1.1 各年度の学生の総数 ()の中は留学生の数[1]

年度/在学生	学部	修士＋専門職学位課程	博士
2005	5,007(294)	3,518(229)	1,536(328)
2008	4,911(273)	3,448(327)	1,566(358)
2010	4,861(242)	3,634(392)	1,549(461)
2012	4,803(190)	3,547(376)	1,553(530)
2014	4,761(174)	3,596(406)	1,445(473)
2016	4,780(211)	3,607(419)	1,445(441)

表 1.1.2 は各年度の回答率を、表 1.1.1 の在学生数と図 1.1.2 の回答者数をもとに計算したものです。2010 年度をピークに、その後、学部学生の回答率は減少しています。一方、修士学生と博士課程学生の回答率は一旦減少しましたが 2014 年度に回答率の回復が見られたこともあります。博士学生の回答率が他課程の学生よりも低いことも今後の課題です。

表 1.1.2 各年度の回答率

年度	回答率%（学部）	回答率%（修士）	回答率%（博士）
2005	10.0	12.6	8.9
2008	21.0	20.2	13.9
2010	23.0	23.6	24.0
2012	22.1	18.7	13.9
2014	18.5	18.8	16.4
2016	17.9	19.1	14.9

[1] データブック 東工大 広報センターが発行： http://www.titech.ac.jp/about/disclosure/facts.html

1.3. 調査母体

学生支援センター自律支援部門に置かれている学勢調査 WG(主査:科学技術創成研究院　沖野晃俊准教授)が、学生スタッフの募集をしてアンケート調査を実施致しました。

1.4. 調査項目の検討

前回の学勢調査 2014 スタッフを含めて新たなスタッフを募集し、計 6 回にわたって調査項目の検討と、新項目の選定および、不必要項目の削除を行いました。学勢調査 2016 設問検討会議の記録は以下の通りです。

第 0 回　2016 年 4 月 26 日(火)　　学勢調査オリエンテーション
第 1 回　2016 年 5 月 10 日(火)　　顔合わせ・方針の確認・役割決め
第 2 回　2016 年 5 月 17 日(火)　　項目検討―Ⅰ基本情報＆Ⅱ生活基盤について
第 3 回　2016 年 5 月 25 日(水)　　項目検討―Ⅲ大学・学科・専攻＆Ⅳ学習について
第 4 回　2016 年 6 月 15 日(水)　　項目検討―キャンパスライフ・防災・アルバイト
第 5 回　2016 年 6 月 22 日(水)　　質問項目確認・調整

1.5. 調査時期・調査対象・調査事項

本学勢調査は、2016 年 10 月 18 日～同年 11 月 17 日に実施しました。本学勢調査では本学に在籍している学士・修士・博士学生と専門職大学院生、研究生を対象としました。

調査事項については、「6. 調査資料集」に掲載しましたので、そちらをご参照ください。

1.6. 調査方法・分析方法

本学勢調査は、外部業者に委託して東工大ポータル内に学勢調査専用のページを設置して実施しました。本学学生のみが回答できるものの、個人は特定できないようにアンケートを集計するシステムになっています。

アンケートによる調査データは項目ごとに分類し、アンケート調査実施と同時に募集した学生スタッフがデータの分析・課題発見・現状分析・解決策議論を行いました。学生スタッフの各班とその担当範囲は以下の通りです。

― 代表　……　全体の進歩状況管理・方針決定・事務局連絡
― 副代表　……　代表の補佐
― 学習班　……　本学学生の学習状況・生活
― サービス・施設班　……　本学の各種サービスと本学の各施設・図書館・生協
― データ班　……　調査結果整理・解析、提言書仕上げ

1.7. 全体会議の記録

学勢調査 2016 設問検討スタッフに加え、新たなメンバーを募集し計 11 名の提言書作成スタッフを結成し、提言書作成に関しての議論等を計 10 回行いました。学勢調査 2016 提言書作成会議の記録は以下の通りです。ここに示す全体会議以外にも、必要に応じて各班で集まり、議論を重ねました。

第 0 回　2016 年 12 月 07 日（水）　オリエンテーション
第 1 回　2016 年 12 月 14 日（水）　提言書作成の進め方と予定
第 2 回　2016 年 12 月 21 日（水）　提言案の作り方・班分け
第 3 回　2017 年 1 月 12 日（木）　提言案発表（学習班）
第 4 回　2017 年 1 月 18 日（水）　提言案発表（施設サービス班）
第 5 回　2017 年 1 月 26 日（木）　表紙について・中間検討会
第 6 回　2017 年 2 月 15 日（水）　添削のやり方・キャンパスミーティングについて
第 7 回　2017 年 2 月 23 日（木）　全体提言について・キャンパスミーティングの報告
第 8 回　2017 年 3 月 2 日（木）　添削・修正作業
第 9 回　2017 年 3 月 22 日（水）　提言書最終確認

1.8. キャンパスミーティング

キャンパスミーティングとは、調査結果ならびにそれに基づいて作成された提言案について、本学の事務局各部署へ質問書を提出し、学勢調査スタッフと教職員の方々との意見交換を行うものです。キャンパスミーティングを行うことにより、大学と学生の間の情報不足による誤解を避け、双方の実態や価値観を照らし合わせることで、相互理解を促進させ、より現実的で実効性のある提言案を作成することができます。今回、ご協力いただいた事務局担当ならびに教職員の方は以下の通りです。ご多用の中、キャンパスミーティングにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

— 水本副学長（教育運営担当）　……　本学の教育とそのサービスについて
教務課
— 人事課　……　本学の人事と TA の給与について
— 国際教育推進機構　……　留学の広報と奨学金について
— 学生支援課　……　学生生活全般について
— 情報図書館課　……　図書館について
— 生協本部　……　食堂について

1.9. 公表と報告

本提言書は、本学学長に提出後、インターネットの専用サイトおよび冊子で公表されます。冊子は、大岡山とすずかけ台の両図書館で閲覧できます。

※学勢調査専用サイト：http://www.siengp.titech.ac.jp/gakuseichousa/

学勢調査 2016 データを利用する際には、学内外に関わらず、事前に学生支援センター自律支援部門 gakuseichousa1〔@〕jim.titech.ac.jp へご連絡ください。

2. 全学を通して重要な提言

2.1. 提言概要

本章では、学勢調査 2016 の全体像を通し、重要な事項を取りまとめて提言します。今回の学勢調査では数値データや自由記述においても教育改革が大きな話題になっていました。学生の意見としては「元に戻してほしい」など教育改革に反対する意見も届きましたが、教育改革はまだ始まったばかりです。学勢調査にすべてその是非を問うほどに十分な期間が経っていないことと、制度の変更による混乱や教職員の不慣れが学生の意見に大きく関わってきていると思われることから、提言作成には慎重を期しました。教育改革の途上において生じていると思われる不具合に注目し、学勢調査のデータから学生の目線で解決を図り、教育改革を学生目線でサポートできるような提言を行います。本章「全学を通して重要な提言」は教育改革が学生や教職員全員にとって少しでも良いものになるように願った提言となっています。

本章で挙げる重要な提言を表 2.1.1 にまとめました。「1. 教育改革における意見交換の促進」では教育改革への意見交換の促進について提言を行います。「2. 情報に目を向けない学生への情報の伝達」では、自ら情報を得ようとしない学生にもしっかりと情報を伝えることを目的としており、大学の様々なサービスを学生にとってより有効なものへとすることを目指します。教育改革によって今後の大学のサービスも状況に合わせて変化する中、様々な広報の手法を考え、提言を行います。「3. 動画化による講義の補助」ではクォーター制や講義の英語化によって学生はより多くの予習、復習が必要になってきており、その学習を補助することと、病欠や学会参加等で講義を受けられなかった学生のために学習機会を提供することを目的に講義の動画化について提言を行います。講義の英語化が学生の精神的負担となっていることに対する解決策の一つとして、留学経験を与えることが考えられますが、依然として留学に行く学生の数は少ないのが現状です。「4. 留学への支援の更なる強化」では、留学によって学生に国際的経験を積んでもらう本来の目的に加え、留学を促すために、語学に自信がない学生へのフォローと経済的支援が重要であると考え、提言を行います。

2. 全学を通して重要な提言

表 2.1.1 重要な提言テーマとその具体的な提言一覧

提言テーマ	具体的な提言
1. 教育改革における意見交換の促進	大学は学生の意見や提言などを踏まえて、急激な変化による混乱を収束させることを今一度心がける。
	大学主導の下、教育工学の専門家と東工大の職員を交えて制度の長所や短所、今後の展望をまとめるような意見交換会を行う。
2. 情報に目を向けない学生への情報の伝達	附属図書館のリフレッシュルームに留学の手引きなどの情報冊子を設置する。
	大型のフリースペース等を設置する場合にはタッチパネル式の電子掲示板を設置する。
	附属図書館で留学フェアの広報をする。
	大岡山の旧附属図書館跡地に建設予定の建物で、留学フェアを行う。
3. 動画化による講義の補助	講義の動画化への問題点を分析するため、教員に向けたアンケートやヒアリングを行う。
	簡易的な録画の手法での「動画化による講義の補助」を試行的に行う。
	動画化への補助スタッフとして、TA 雇用を大学側がサポートする。
4. 留学への支援の更なる強化	東工大の在学生向けの留学案内の HP に「留学を始めようと考えている方へ」というページを作る。
	「月 8 万円の支援」からさらに支給額を上げ、渡航費も支援する。

2.2. 重要な提言 1:教育改革における意見交換の促進

今回の学勢調査で学生から最も多く寄せられた意見は教育改革に関するものですが、なかでも抵抗感によると思われる意見が数多く寄せられました。制度を急激かつ大幅に変えるとき、抵抗感は必ず伴いますので、この抵抗感を早く緩和させる工夫を同時に考慮する必要があります。東工大の教育改革は学内の関係部局の多大な努力で実行されています。混乱を最小限にするための対応も非常に迅速に行われていると感じています。それでも、図 2.2.1 に見られる、教育改革によって実施されるようになった講義の英語化に対する抵抗感や自由記述に寄せられた多くの意見をひとつの例として考えると、依然として解決すべき課題は多く残されています。大学は今後も学生及び教職員の意見や要望に耳を傾け、大学が一体となってより良い教育環境を作っていこうという意識を共有していく事が重要であると考えられます。学勢調査の結果には学生の数多くの意見が盛り込まれているため、教育改革をより実効性のあるものにするために参考になる面が大きいであろうと思われます。これらを踏まえて、生じている混乱を早期に収束させる働きかけを今一度試みていただくことを提言します。教育改革がスタートして 1 年が経とうとしています。すべての構成員が改めて制度の特徴を把握し、認識を統一するためにも、教育工学の専門家と東工大の教職員を交えて制度の長所や短所、今後の展望をまとめるような、意見交換会を行うことを提言します。

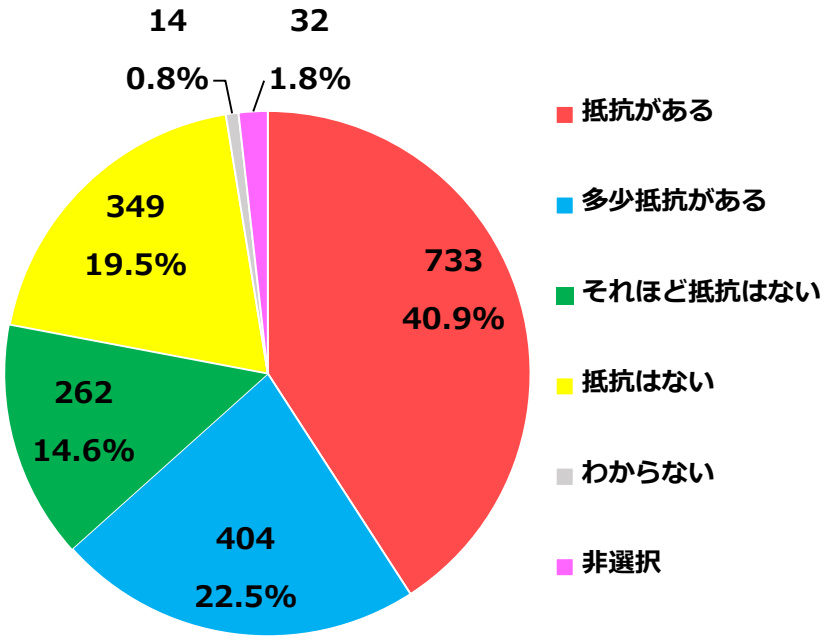

図 2.2.1　教育改革で実施された制度に対する反応の例
（英語で行われる講義に対する抵抗感）

2.3. 重要な提言 2：情報に目を向けない学生への情報の伝達

学勢調査 2016 の回答学生から、「（奨学金・留学などの）サービスの情報をもっと広報してほしい」という意見が自由記述に 21 件寄せられました。大学は様々なサービスを展開し、東工大メールニュースなどで情報発信をしていますが、それを十分活用できていない学生が多数存在していると考えられます。大学を卒業するという点において、留学などの情報は必ずしも必要ではなく、そのような情報に目を向けない学生も多いと考えます。根拠として、重要な提言 4 でも述べますが、70%の学生が留学を経験していない一方、50%を超える学生が「大いにしたい」「機会があればしたい」と答えている現状にあります（図 2.5.3）。東工大のリベラルアーツ教育にみられるように、広い知見と積極性をもつ学生を育てることが重要視される中、普段の学生生活の中で幅広い知見に触れ合う機会を増やす情報伝達の重要性が高まっていると考えます。留学フェアや奨学金などの様々なサービスの存在を知り、活用することができる学生がいる一方で、情報に目を向けようとしていない学生は、様々なサービスの存在を知ることがないためにサービスを活用できていないということが考えられます。そこで提言として、大学の発信する情報に積極的に目を向けようとしていない学生への情報伝達の手段について提示します。

サービスは有効に利用したいユーザーがいてこそ効果を発揮するものであり、学生への情報伝達は様々な大学サービスを展開する上で極めて重要です。これまでの学勢調査においても情報伝達に関する事項は多く提言されてきました（学勢調査 2010、2012、2014）。その結果、大学も学生への情報伝達のツールを着々と拡充しており、全学生に配信される東工大メールニュースや HP の見やすさの向上、学修コンシェルジュ等の発信機能の強化等を例としてあげることができます。その一方、大学が多くの情報を発信しているにも関わらず、今回の学勢調査でも学生から情報伝達の不足という意見が寄せられていることから、今回は別の視点からこの課題にアプローチをすることを考えました。

大学のホームページや窓口からの情報取得は、学生がこれら情報媒体に対して自主的なアクションを起こすことが必要であり、情報に目を向けようとしない学生はその情報の存在すら知らないままでいる可能性があります。このような学生にも効果的に情報伝達を行う手段として、学生の動線に情報を配置することが有効であると考えました。前回の学勢調査 2014 では、教務課の前に設置されていた「大地震対応マニュアル」を、学生の目につきやすい場所に設置することで学生への配布を促進することを提言しました。その結果、講義室の前に「大地震対応マニュアル」を入れた小箱が設置され、実際に箱の中の冊数が減少していっていることから、この対策は有効であったと考えられます。このように学生の目に触れやすいところへの情報媒体の設置が重要であると考えられます。本節では、情報に目を向けようとする意識が希薄な学生への情報伝達に対して、学生生活における動線への情報の設置を対処策として 2 つの提言をします。

1 番目に、リフレッシュルームなどのフリースペースに留学手引きなどの情報冊子や、電子掲示板（プラズマディスプレイなど）の設置を提言します。学内へのポスター掲示等では、載せられる情報量が少ないことや、目に留まらず見過ごされるケースも多いことから、不十分な面もあると考えられます。廊下などに掲示する広報手段は自ら積極的に情報を獲得しに行く学生には有効ですが、その他の学生に対してはあまり有効ではないと考えられます。普段、学生は学内では何かしらの目的をもって行動していることが多く、そのような状態では情報は見過ごすことが多いため、休憩中などの手が空いている時に情報を得られるようにすることが有効であると考えます。リフレッシュルームは情報伝達するには良いスペースです。実際に、南 7 号館では図 2.3.1 のように就職活動に関するチラシが置いてあります。このような情報伝達の展開をさまざまなところで行えると考えます。ただ、リフレッシュルームは各学院等の管轄であるため、情報には部局間の連携が必要となります。そのため情報を

発信したい場合、各部局の連携強化が重要になると考えます。ただし、就活や留学の情報はたびたび更新する必要があり、手間がかかることが問題です。その解決策としては、QR コードを活用することで物理的な手間を削減できるのではないかと考えます。また、電子掲示板も情報を伝える有効な手段です。電子掲示板の広報は一定の効果があると考えられます（図 2.3.2）。紙面での情報伝達では、その更新に手間がかかりますが、電子掲示板では紙面よりも比較的容易に情報更新ができます。課題としては、電子掲示板の設置は高額であることや、画面の切り替えによって一度に伝達できる情報量が限られること、学生の積極的な情報取得には向いていないことが挙げられます。費用の面を解決することは容易ではありませんが、タッチパネルの操作型電子掲示板を設置すれば、利用者が自由に積極的に情報を手に入れることができるようになると考えられます。以上を踏まえて、フリースペースにおける学生への広報の宣伝効果を調査するために、試験的に例えば附属図書館のリフレッシュルームに手引きなどの情報冊子を設置することを提言します。今後、大型のフリースペースを設置する場合には、タッチパネル式の電子掲示板を設置することを提言します。

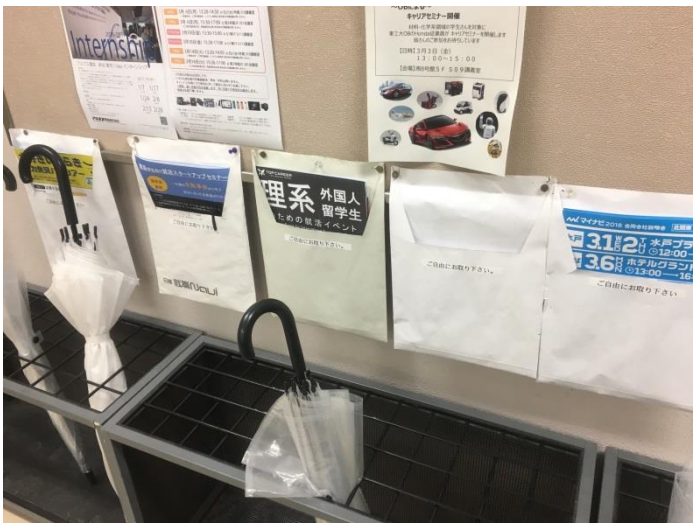

図 2.3.1 南 7 号館 2 階における広報の例

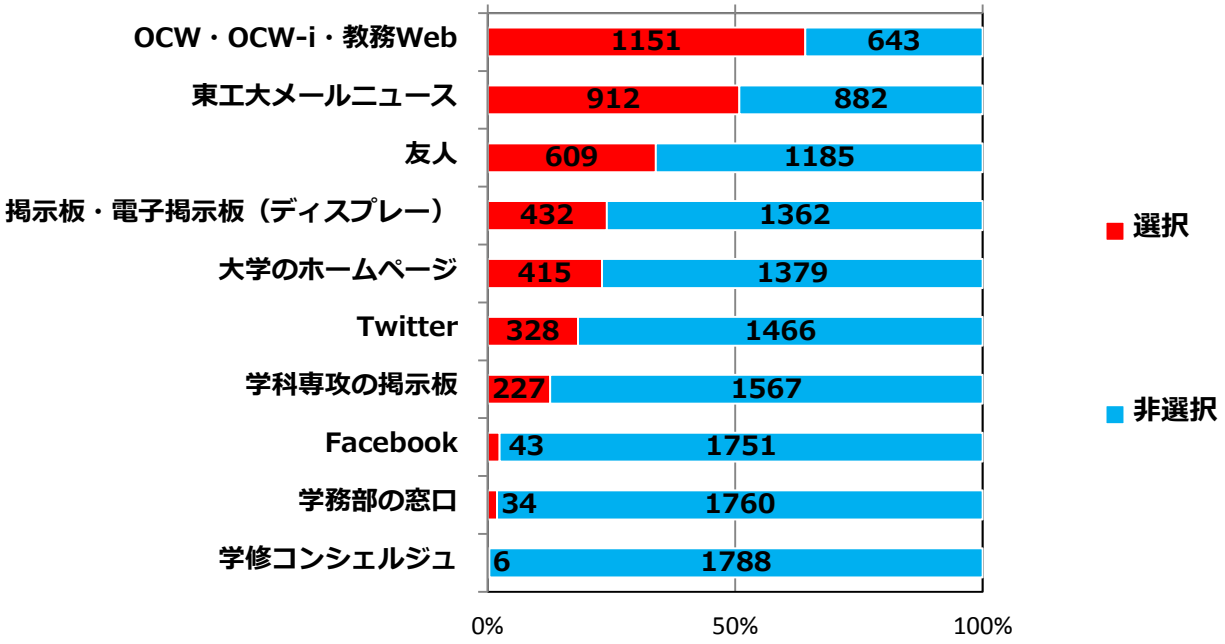

図 2.3.2　主に利用する情報源（最大 3 つ複数選択）

2 番目に、学生の集まりやすいスペースで留学フェアを行う、もしくは広報を行うことを提言します。留学フェアの主な対象は留学経験のない学生となるため、これまで留学を考えていなかった学生に対して広報を行う必要があります。現在、留学フェアは蔵前会館で行われていますが、蔵前会館の近くには講義室はなく、蔵前会館を通る学生は大岡山北地区の学生か、緑ヶ丘地区の学生に限られてしまい、学生の多くは蔵前会館を通らずに生活していると考えられるため、情報を事前に入手していない学生は留学フェアの存在を知ることができないままでいる可能性があります。そこで、附属図書館の地上階の学習スペースの場所に工大祭のカウントダウンのような形で大きく広報をすると効果的であると考えます。また、将来的な話ですが、大岡山の旧附属図書館跡地に建設予定の建物で、留学フェアを行うと登下校の際に足を運ぶ学生が増えるのではないかと考えます。

2.4. 重要な提言 3：動画化による講義の補助

本学は教育改革によってクォーター制となり、例えば 2 単位の科目は学期制だったときは週 1 回の講義が週 2 回と以前より多く行われるようになりました。それを受けて学生から「クォーター制になって週に 2 回の講義が実施されるようになったが、1 週間病気になると講義についていくのが難しい」といった意見が 6 件寄せられました。インフルエンザなどの病気や、学会参加などで欠席すると、週 2 回実施の講義では 2 回分の講義を続けて欠席することになってしまうことがあるため、大きく遅れを取ってしまいます。この問題に対し、講義を動画化して学生が後日受講できるようにすることで学習の遅れを補うことができるのではないかと考えます。また、教育改革ではグローバル化が進む社会に対応するため、平成 31 年 4 月には大学院の専門科目を英語で開講する予定となっていますが、学生からは「英語だと講義についていけない」との意見が 184 件と大変多く寄せられました。講義の動画化によって学生は事前に予習を行うことができたり，後から講義中に聞き取れなかった文言を聞き直すことができたりするようになるため、英語での講義をより効果的に学習できるようになると考えられます。

講義の補助としての動画化の課題の一つとして、講義を録画することへの教員側の抵抗感が大きいと考えられます。特に現在、東工大は MOOC というオンラインで講義を受講できるムーブメントに積極的な姿勢が見られ、撮影スタジオが設けられるなど設備や環境が整いつつあります。一方で、動画化された講義は一部のみであり、学生にとって実用的な補助教材にはなっていないように感じられます。この状態を打開するためには、具体的にどのような抵抗感が教員側にあるのかを明らかにする必要があります。そこで、後述の提言 2-6「教員調査の実施と情報公開」のような教員に向けたアンケートやヒアリングを通して問題点を分析することを提言します。

次に講義の動画化を実現するための具体的な方策について述べます。先程の講義を録画することへの抵抗感には次のものが予想されます。

1. 動画にするために、講義の準備や編集などに手間や時間が多くかかる。
2. 動画化をするためには内容の完全性が必要であり、それを担保するための負担が大きい。特に英語の講義では内容だけでなく英語力の向上も必要になる。
3. 教育改革によりカリキュラムが変わり、そのための準備をしているため、動画化の準備にまで進むことができない。
4. 録画されていると、集中して講義を行うことができない。

今回の講義動画化の提案は予習や復習に対する補助が目的であるため、全世界への公開や、MOOC などのオンラインで講義をいつでもどこでも受講することができるといったところまで踏み込む必要はないと考えています。大阪大学ではすでに復習での活用を目的に講義自動収録配信システムが導入されており、本学での導入に参考になるものと考えます。[2]そこで、講義の様子をビデオカメラで録画し、その動画は附属図書館にある映像視聴機器からのみ利用できるようにし、視聴可能期間を設けて学生が視聴できるようにすることを提言します。これによって、視聴対象が大幅に制限されることから教員側の 2 番目に挙げた抵抗感が大きく減少するのではないかと考えます。次に 1 番目の抵抗感に関して、動画化への補助スタッフとして学生を TA として雇うことを提言します。TA が補助作業を行うことにより、教員の負担を減らせることができるようになると考えます。3 番目と 4 番目の抵抗感に関しては、今後、時間の経過によって解決していくものと考えます。

今回提言している簡易な動画化制度をまず設けることで、MOOC などのオンライン配信を段階的に達成しやすくなるのではないかと考えます。講義を公開する規模は小さくなりますが、簡易な録画手法での動画化による講義の補助を試行的に行っていくことを提言します。

2.5. 重要な提言 4:留学への支援の更なる強化

学生の留学経験の有無は、図 2.5.1 のようになっています。社会のグローバル化が進む中、留学経験を積むことは異文化理解だけでなく、海外での活躍などの様々な場面で役に立つと思われます。現在、東工大ではさまざまな留学支援が行われていますが、より一層の支援が必要であると感じられたため、留学未経験者向けの留学情報の拡充及び経済的支援について提言します。

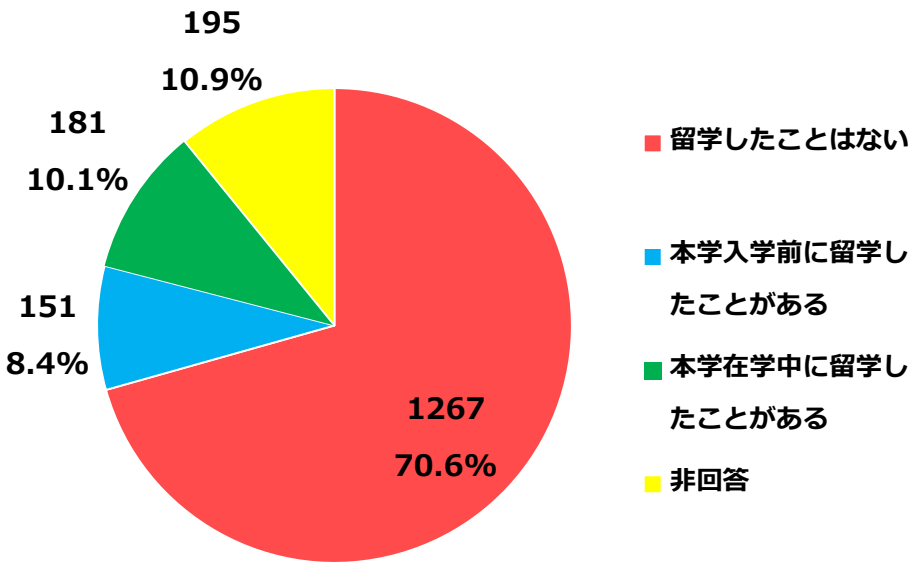

図 2.5.1　留学の経験

[2]大阪大学　教育学習支援コモンズ 「講義自動収録配信システム EchoSystem(ECHO360)」: http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/ictfored/forteachers/echo360

2. 全学を通して重要な提言

グローバル化が進む社会に対応するために、教育改革で大学院の講義が英語化されましたが、今回の学勢調査で、留学経験が講義の英語化への抵抗感の低減に効果的である可能性が示されました。講義の英語化に対する抵抗感についての調査結果は前節の図 2.2.1 に示した通りですが、一方で、わずかですが講義の英語化に抵抗を感じていない学生がいる事もわかります。学生が二極化していることを表しているようにも思われますが、この二極化には留学経験の有無が関わっている可能性が示唆されました(図 2.5.2)。留学経験のない学生は非常に多いですが(図 2.5.1)、その一方で留学したいと考えている学生も同じ程度に多いことがわかりました(図 2.5.3)。留学の支援の更なる強化が求められていると考えられます。

留学をしたいと思っていない学生にその理由を聞いてみたところ、図 2.5.4 のような結果になりました。留学をしたくない理由は、「語学に自信がない」が 1 番目となり、「経済的理由」が 2 番目となっています。本節でそれぞれに対して提言します。

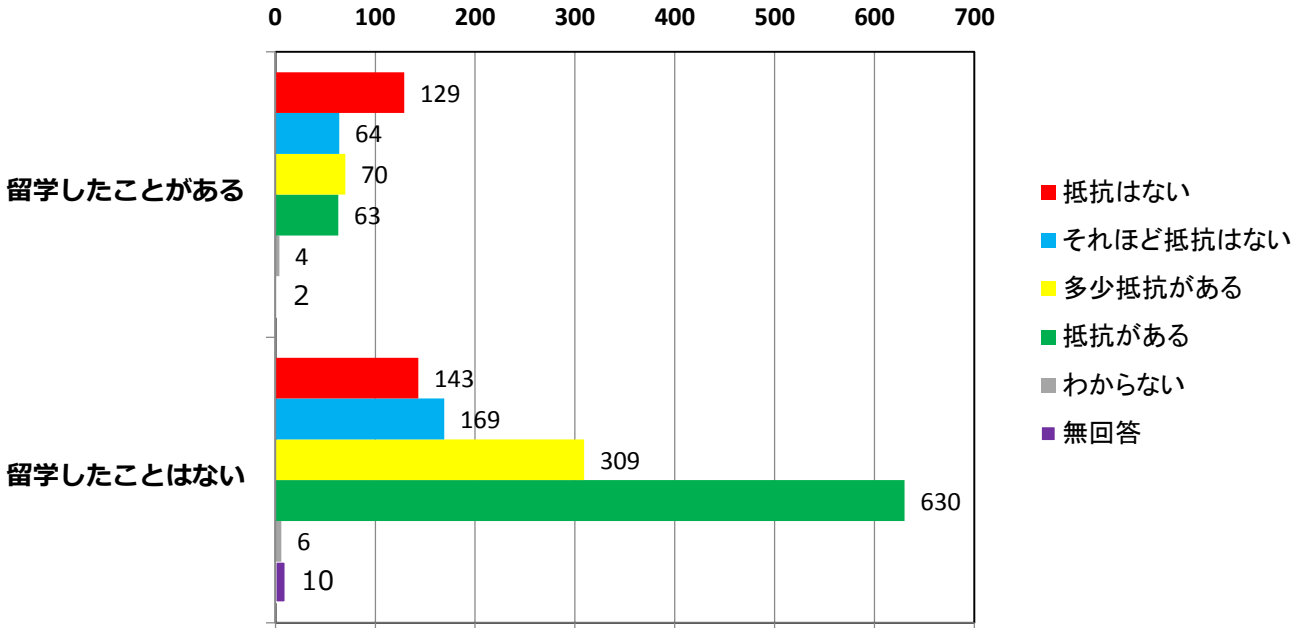

図 2.5.2　講義の英語化への抵抗と留学の経験の関係

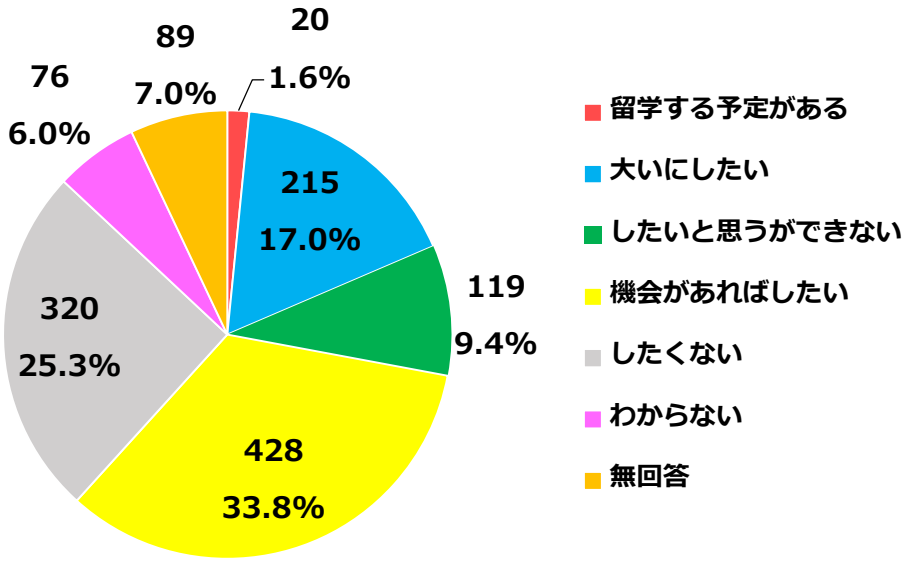

図 2.5.3　留学の経験

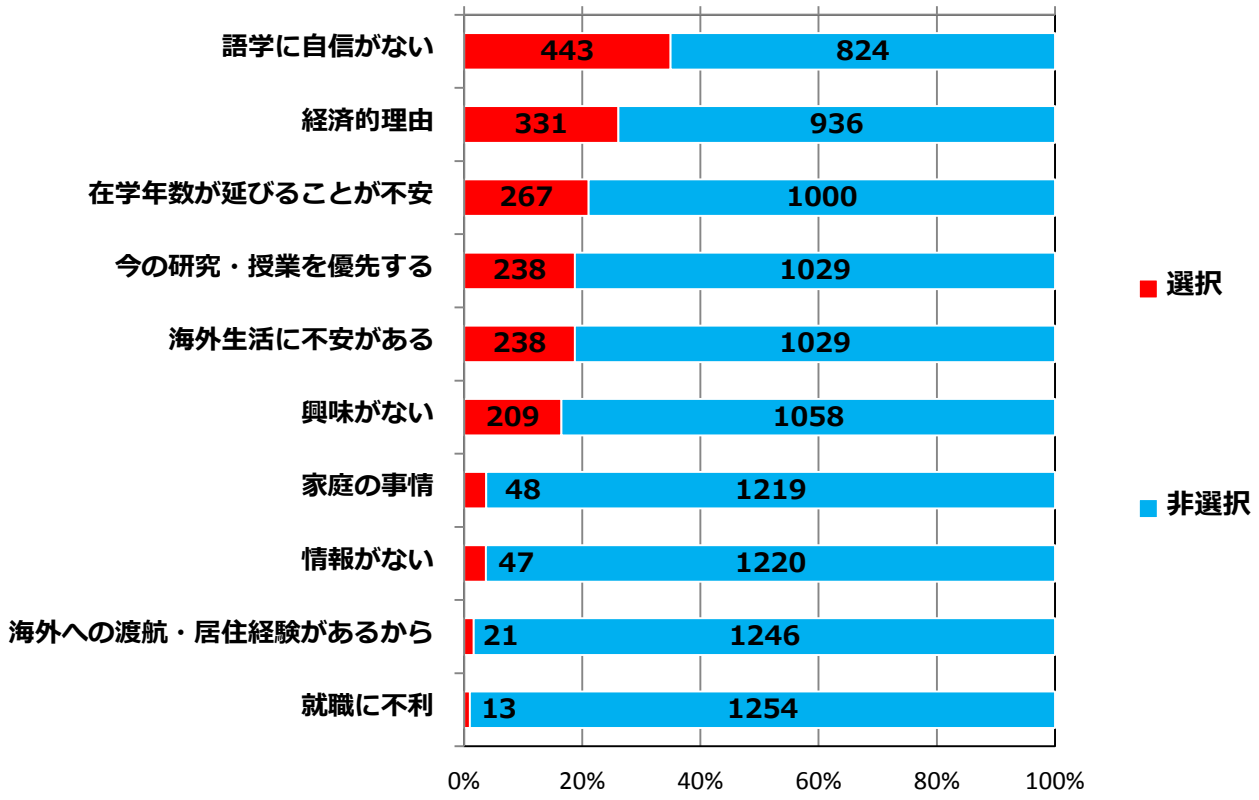

図 2.5.4　留学の経験のない学生の留学に行かない理由

「語学に自信がない」学生に対して留学を促すためには、留学フェアや留学コンシェルジュを利用しての留学相談が効果的です。留学は語学力を培う上でのモチベーション強化になることから、語学力に自信がない学生にも積極的に留学を推奨するべきと考えます。自分の語学力が留学に必要な語学力と差があることを確かめるためには、相談をしたり調べたりすることが必要です。また、本学には留学経験のない学生が多く、周りの学生が留学をしていないために、留学に対して不安を感じている学生も多いと考えられます。その不安から留学を難しいものだと思い込み「語学に自信がない」と感じている学生もいると考えられます。そのため、留学相談をより強化する必要があると考えます。そのためには、留学情報を効率的に伝達する必要があります。自ら情報を集めようとしない学生への情報伝達については前節で述べましたが、本節では留学を経験したことがない学生に対して、より効率的に情報を伝達することに焦点を当てます。学勢調査の回答では「情報がない」という回答は少なく(図 2.5.4)、留学に関する情報は多いのですが、留学未経験者向けの情報は少ないように感じられました。例えば留学についてよく知らないでいる学生は、具体的な情報よりも、まずはそもそも留学とはどれほど費用が必要なのかといった一般的な情報が必要であると考えられますが、東工大ホームページの留学案内[3]では、実際のプログラムの参加募集であったり、奨学金の募集概要であったり、詳細な内容が多くなっています。具体的には留学相談の窓口、留学の流れ、留学への不安などを解説する Q&A のようなものを主に必要としていると考えられます。現在の東工大ホームページの留学案内のページでは、留学相談の窓口を案内する項目がページの 1 番下にあることからその存在を見つけづらく、また相談は予約制となっているため、利用に対する心理的なハードルが高くなっていると考えられます。また、留学の流れ、留学への不安などを解説した Q&A は残念ながら目につくようなところには見当たりません。これらを踏まえて、留学案内のホームページに、例えば「留学を考え

[3]東工大ホームページ「留学案内」:http://www.titech.ac.jp/enrolled/abroad/

始めた方へ」というページを設けることを提言します。留学の流れとして留学をしようとする学生のモデルケースを示し、留学フェアの参加や窓口での相談を促し、留学への不安を解消するような Q&A を作って掲載するとよいと考えます。

次に、留学は「経済的負担が大きい」ことが図 2.5.4 から読み取れます。東京工業大学では留学に対する様々な経済的支援を行っていますが、今回の調査からは、留学に対する経済的支援が十分ではないと学生が感じていることが示されています。図 2.5.5 を見ると、留学経験がある学生の多く(6 割強)が留学費用の支援強化を求めています。現在の大学からの経済的支援について国際教育推進機構にキャンパスミーティングで確認したところ、主な費用支援は月 8 万円(JASSO)であり、その他の制度として「トビタテ！留学 JAPAN」[4]という官民協働のキャンペーンなどを紹介しているとのことでした。留学費用の支援には渡航費が含まれておらず、その分の経済的負担が大きいと感じるかもしれません。また、キャンパスミーティングによると留学を支援する奨学金についてはそれほど応募が多いわけではなく需要に応じて供給できる状態であるとのことでした。こうした現状から、月 8 万円の費用支援からさらに支給額を引き上げる事と、渡航費用の支援強化を提言します。

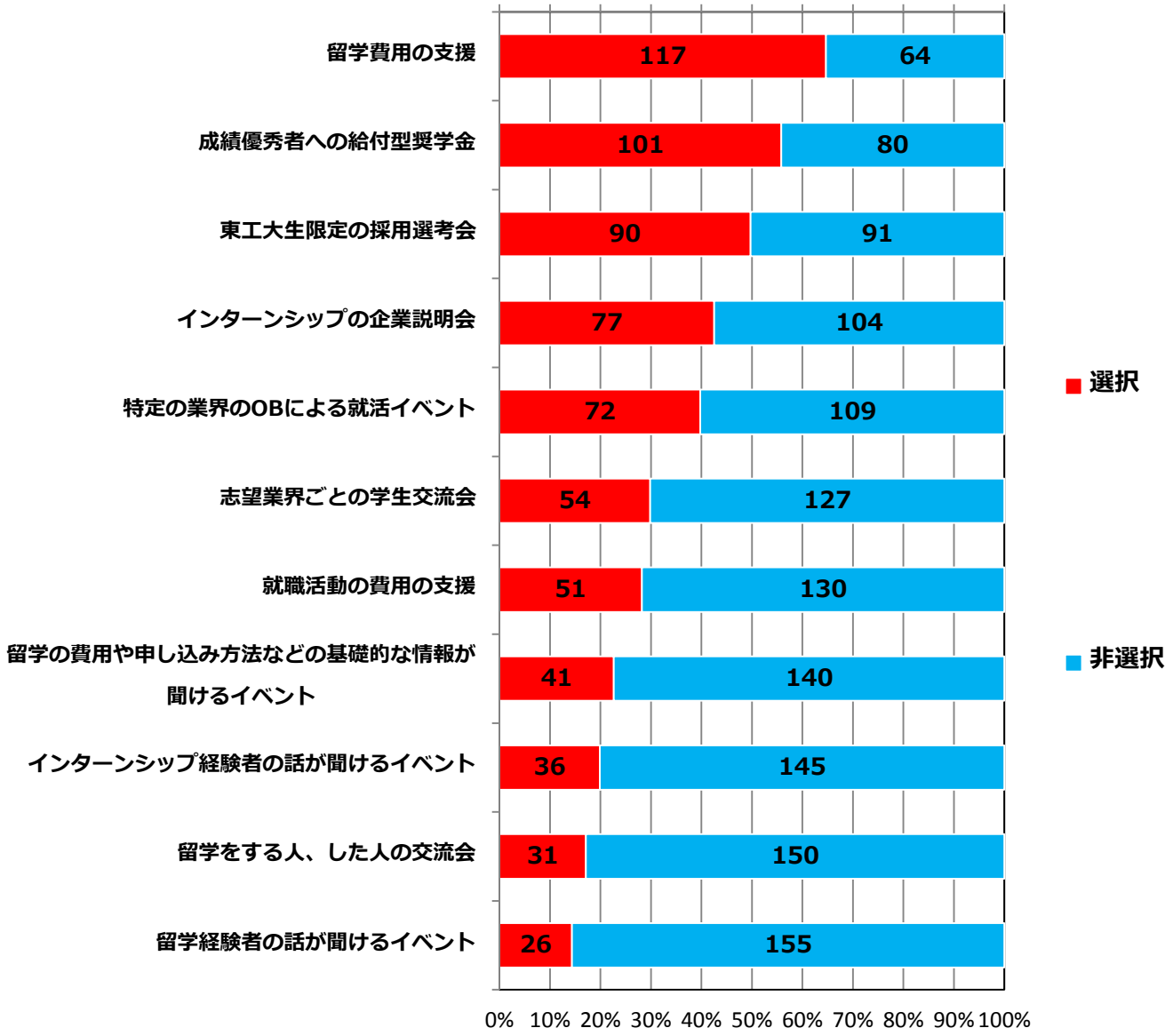

図 2.5.5　留学経験のある学生が望む、拡充してほしいサービス

[4] トビタテ！留学 JAPAN　HP：http://www.tobitate.mext.go.jp/

3. 学習関連

3.1. 情報伝達

3 学習
1 情報伝達

提言 3-1　時間割表の見やすさ改善

学生の意見

- 時間割表が見づらい。（同様意見 8 件）

現状分析

現在、教育改革によって旧カリキュラムと新カリキュラムの科目が混在していますが、東工大ホームページに掲載されている旧カリキュラムと新カリキュラムの時間割を見比べながら時間割を組むのは容易ではありません。

専門科目群の時間割表にはカレンダー形式が存在することから時間割が組みやすくなっていますが、文系や教養科目にはカレンダー形式の時間割表はありませんでした。視覚的で把握しやすいカレンダー形式の時間割表に統一するのがいいと考えます。次に、東工大のホームページの時間割表は OCW のシラバスとリンクされていないため、各自が OCW で調べ直さないとならない状況です。ホームページにリンクを貼ることによってアクセスしやすくなり、シラバスのアクセス数が向上すると考えられます。また、他学科の講義を履修するとき、様々な学科の時間割表を確認しなければならないことも問題ですので、リンクの改善が望まれます。

一方、教務 WEB の履修申告システムは全学科の講義をまとめた検索機能があったり、OCW へのリンクが貼られていたりするので、時間割を組むのに非常に便利になっています。しかし、教務 WEB の履修申告システムを用いた履修計画は、履修申告期間にならなければ行うことができません。このため、現状では履修申告期間よりも前に履修計画を組むためには、ホームページにある時間割表や OCW を複雑に参照する必要があります。この教務 WEB の履修申告システムと同等のシステムを OCW 等で公開すれば、早期に時間割を組みやすくなると考えられます。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 教務 WEB にある科目の検索機能を OCW に搭載し、履修科目の選定の助けにするというのは可能でしょうか。

A1. 技術的には可能ですが、大きな構造の変化に加え、改修には予算が必要となることから、他の開発事項と調整が必要です。

Q2. 時間割表で文系科目や教養科目などカレンダー形式になっていないものが存在しますが、これにはどのような理由があるのでしょうか。

A2. 100 番台については平成 28 年度の後学期からカレンダー形式のものも掲載しましたが，200～300 番台については特に語学の科目の配置が系で異なる事と，平成 29 年度から系の学生が受講する1年目のために人数の把握が難しいこともあり、カレンダー形式のものには組み込めていません。

Q3. ホームページに掲載されている時間割表に OCW のリンクを張る事は可能でしょうか。

A3. 技術的には可能ですが、一つ一つにリンクを張る作業を短期間で実施することは困難です。また、時間割を載せる時期が早く、シラバスがそろっていないこともあり、そこも難しいと考えられます。教務 WEB システムの講義科目をクリックすることで、OCW のシラバスに移動できるので活用してほしいです。

キャンパスミーティングでの議論を踏まえて考えると、カレンダー形式の時間割表を早期に作成することは容易ではないと考えられますが、カレンダーをクリックすると該当する時間割を表示できるシステムであれば、比較的簡単に作成できるのではないかと考えられます。視覚的にも学生が時間割を組みやすくなるのではないかと考えます。また、ほかの教務 WEB のサー

3. 学習関連

ビスを OCW に載せる案や、東工大のホームページの時間割にシラバスへのリンクを張る案については、現在は実現困難なようですが、将来的には不可能ではないと考えられます。

提言

以上を踏まえて、2つ提言します。

- 教務 WEB の検索機能を OCW に設置することを提言します。
- 図 3-1.1 のように東工大のホームページの 200～300 番台の文系科目にカレンダーを作成し、指定の曜日の時間帯をクリックするとその時間帯の科目が掲載されているページに移動するものを用意する事と、科目にリンクを用意して OCW のシラバスに移動できるようにする事を提言します。

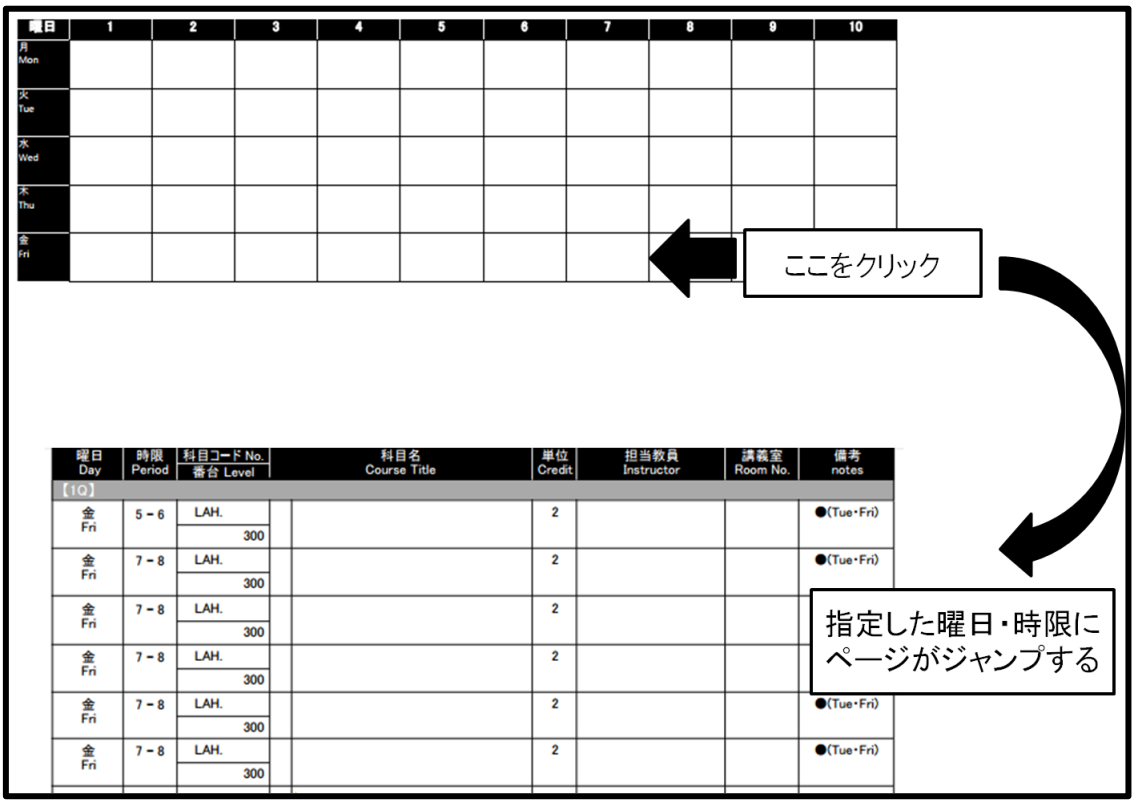

図 3-1.1　カレンダーからページが移行する模式図

提言 3-2 大学院における文系ガイダンスの導入

学生の意見

- 講義が始まる前に文系の抽選を行っているが、内容の情報が少ないので選びにくい。（同様意見 43 件）
- 文系のガイダンスがないので選べない。（同様意見 18 件）
- ガイダンスがあるが不十分。（同様意見 3 件）
- 申請方法がわかりづらく、期間も短い。（同様意見 20 件）

現状分析

文系科目の履修に関して、学部では文系ガイダンスをもとに講義の内容を把握してから科目選択を行うことができますが、大学院では文系ガイダンスがなく、講義が始まる前に受講の抽選を行っているため、シラバスなどの情報のみで講義内容を判断して科目を選択しなければならない状況です。

今回の学勢調査に寄せられた意見は、シラバスだけでは講義を選択する情報として不十分であるというものが多く見られました。講義を選択するためには、講義の雰囲気やスタイルなど、文字だけでは伝わらない情報も必要です。OCW では科目ごとにシラバスがありますが、各科目を比較するためには、学生には多大な労力が必要です。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 大学院の文系科目に対して学部 1 年次の文系ガイダンスのようなイベントを開くのは可能でしょうか。

A1. 2017 年度の前学期より、大学院修士課程入学生に対してガイダンスの実施を予定しています。

提言

以上を踏まえて、3 つ提言します。

- 2017 年度の前学期より大学院修士課程入学者に対するガイダンスを行うとのことですが、新入生だけでなく修士課程の全学生を対象に各講義の内容を説明するガイダンスを行うことを提言します。
- ガイダンスの終了後に、例えば第一希望から第五希望まで記入できる用紙を用意し、それをもって履修者を抽選することを提言します。
- 講義の概要を説明する初回の講義を動画化して公開することを提言します。講義の映像があれば、履修選択時に講義の雰囲気を把握できるようになると考えられます。

3 学習
1 情報伝達

提言 3-3 各種教育プログラムの情報拡充

学生の意見

- それぞれどんなメリットがあるのか分からない。（同様意見 4 件）
- 何をやっているかわからない。（同様意見 25 件）
- グローバル理工人が履修しにくい。（同様意見 8 件）
- 時間の都合上履修できない。しにくい。（同様意見 12 件）
- このような教育プログラムを実施・運営するには人手もお金もかかっているはずなのに、肝心の学生が集まらないのでは、存在している意味がないのではないか。（同様意見 5 件）

現状分析

学士課程学生の認知度

図 3-3.1、図 3-3.2 に示すように四大学連合複合領域コースおよびグローバル理工人育成コースは 90%弱の高い認知度を示す一方、それらに「参加したい」と考える学部生は 30%以下と、認知している学部生の 3 分の 1 程度に留まっています。また、自由記述に寄せられた「グローバル理工人が履修しにくい」、「時間の都合上履修できない。しにくい。」などの意見と合わせて考えると、教育改革以前から始まっているプログラムを、教育改革後のカリキュラム下で修了できるのかと不安・疑問に思う学生が少なからずいると考えられます。

他の教育プログラムは大学院のプログラムであるため、清華大学との大学院合同プログラムを除くといずれも 10%弱かそれ以下の認知度であり、「参加したい」と考える学生も 5%以下でした。また、自由記述での「何をやっているかわからない」という意見と合わせると、プログラム認知度の低さが「参加したい」と考える学生の少なさに影響していると考えられます。

教育改革により学部から大学院までの教育計画をより練っていく重要性が高まる中、学部生に対しても各教育プログラムを周知すべきと考えられます。

修士課程・博士後期課程学生の認知度

図 3-3.3、図 3-3.4 に示すように認知度は学部生と比べるといずれのプログラムに対しても高く、10%から 40%強ですが、「参加したい」と考える学生は 10%以下でした。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 各種教育プログラムの定員充足状況はいかがですか。

A1. 大学院課程:リーディング大学院、特別教育研究コースの定員はありません。清華大プログラムは、募集人員は若干名としていますが、受入定員は設定されていません。なお、リーディング大学院及び特別教育研究コースは、大学院入学後に当該プログラムに参加するかどうかを決定しますが、清華大プログラムは入学試験の時点で選抜を行うこととしています。

学士課程:グローバル理工人育成コース、四大学連合複合領域コースともに定員はありません。後者については少人数制のコースもあり、選抜を行っています。よって定員割れではありません。

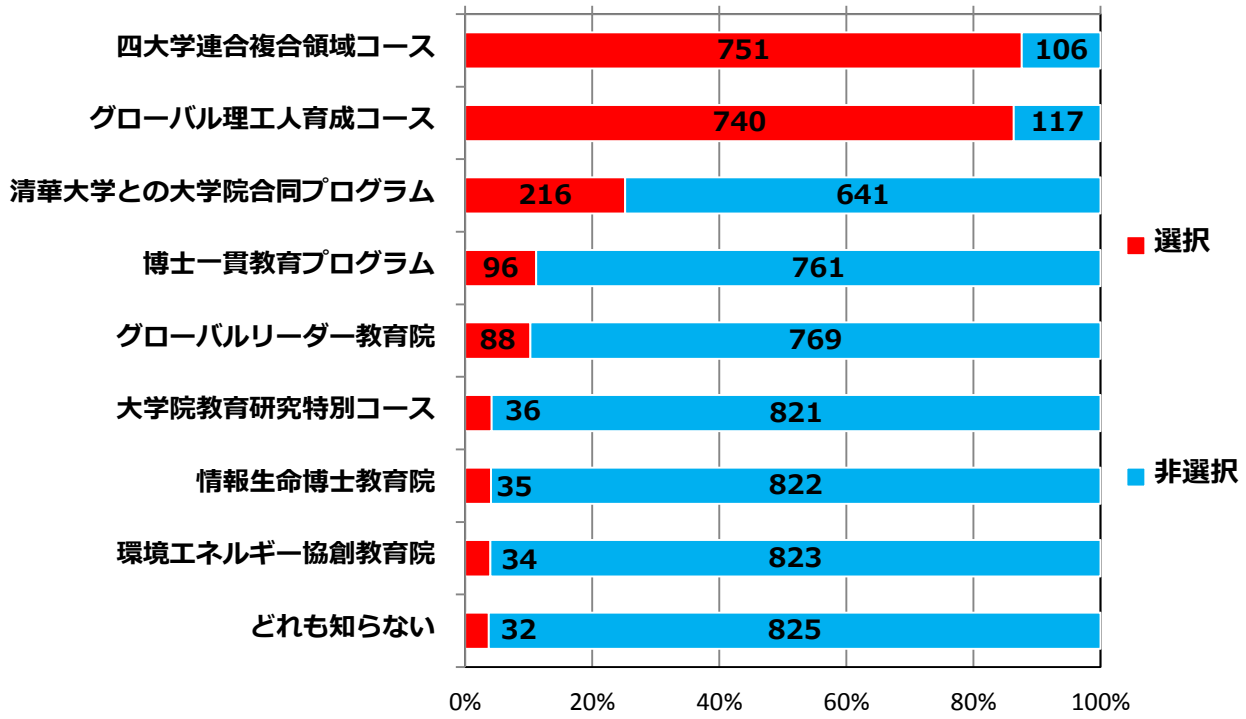

図 3-3.1 学部生におけるプログラムの認知度（大学院向けのプログラムを含む）

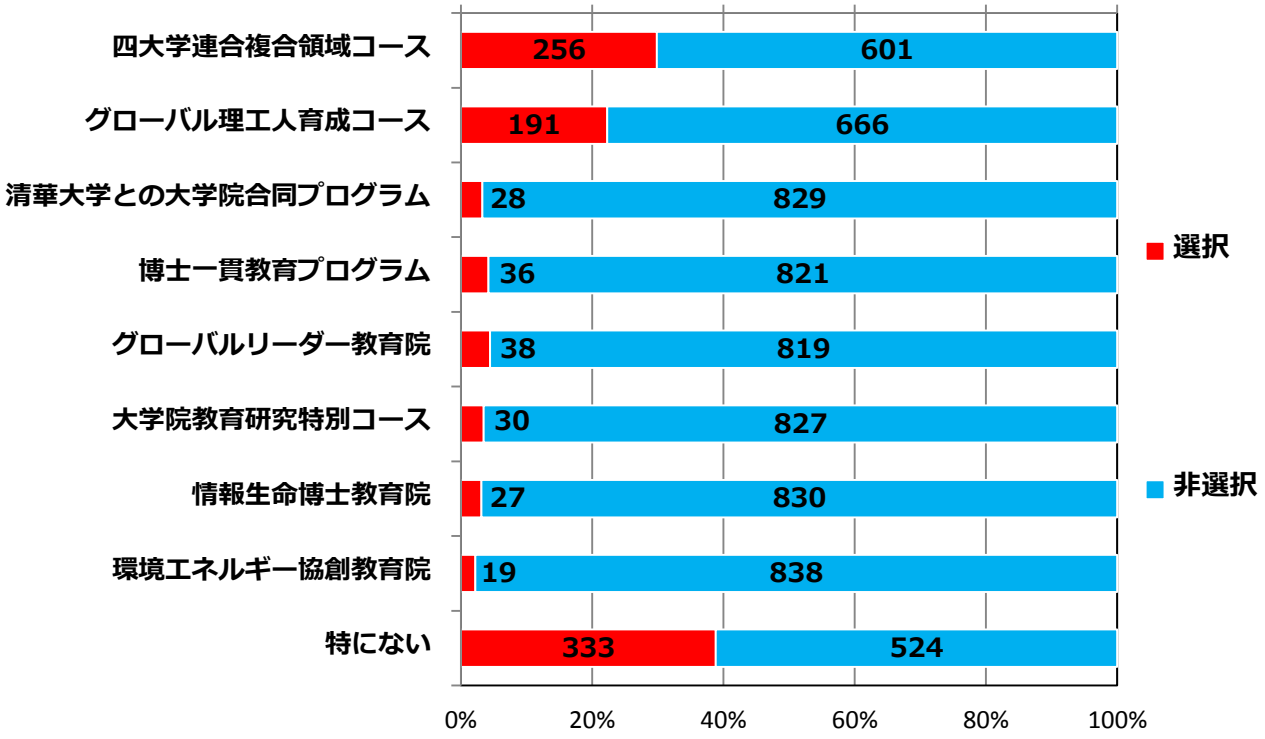

図 3-3.2 学部生の参加したいプログラム（大学院向けのプログラムを含む）

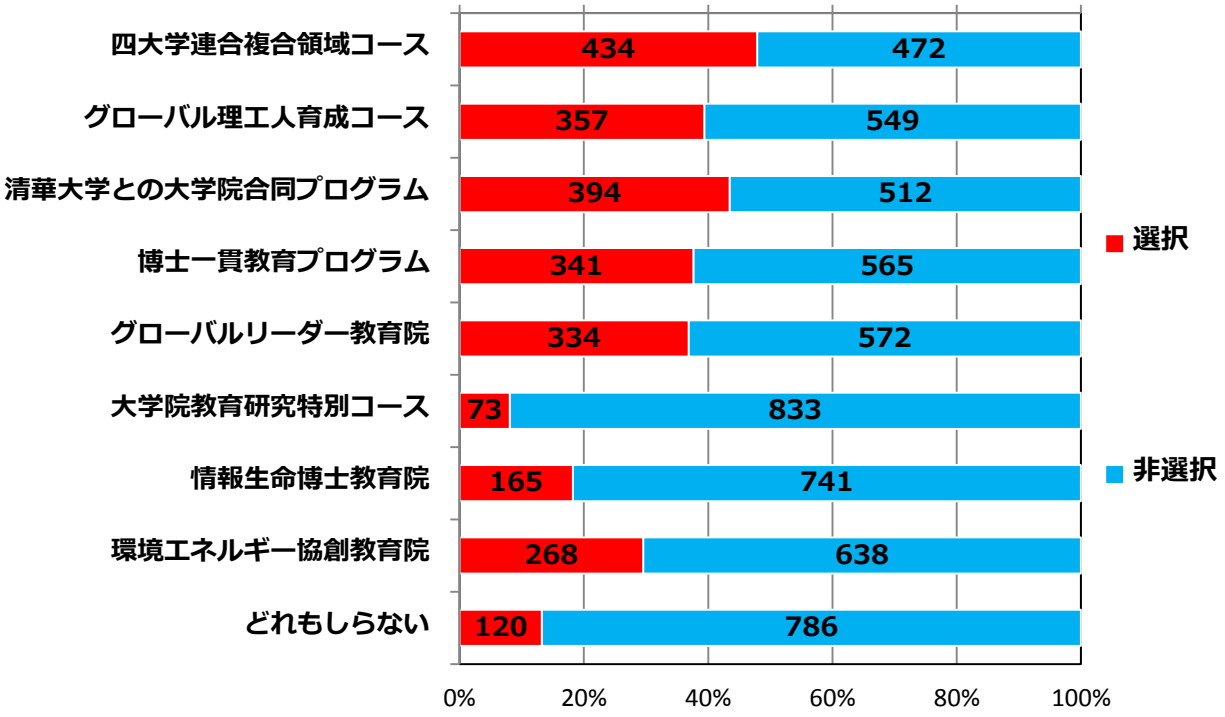

図 3-3.3 大学院生におけるプログラムの認知度（学部生向けのプログラムを含む）

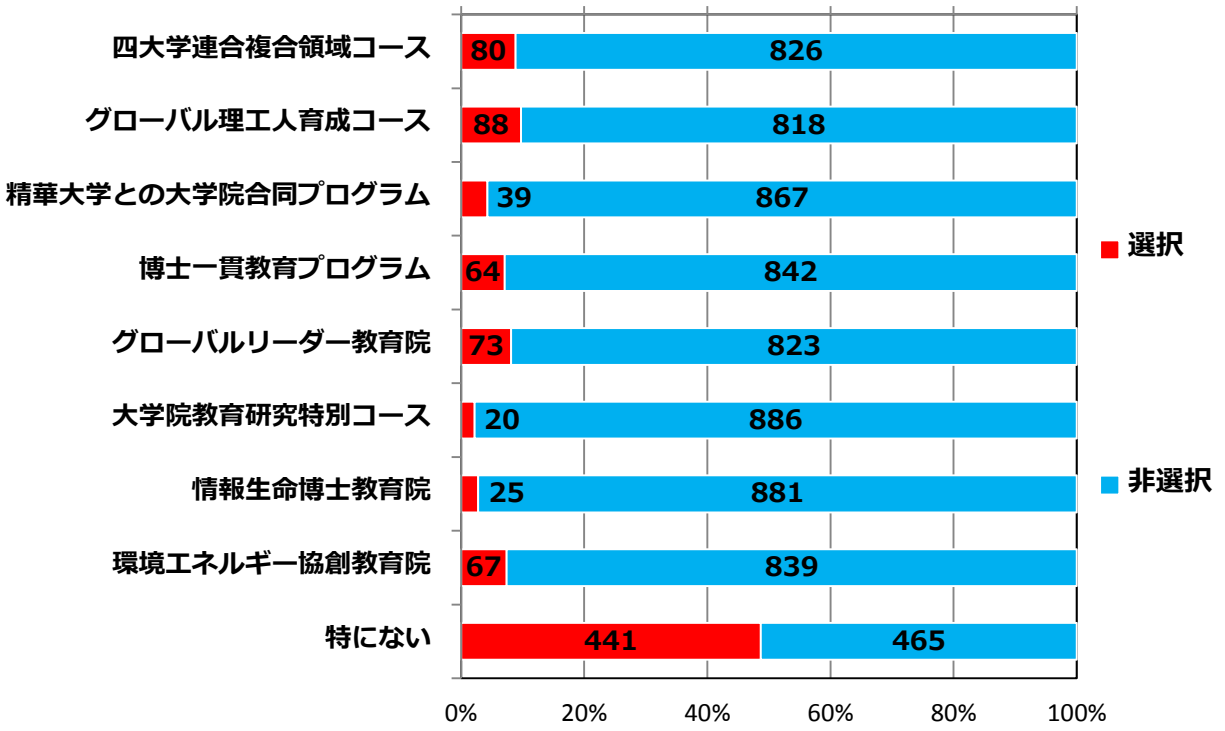

図 3-3.4 大学院生の参加したいプログラム（学部生向けのプログラムを含む）

以前の調査との比較

教育プログラムの認知度および参加度は、学勢調査 2014 の傾向と一致していました。

提言

学部生や修士課程・博士後期課程の学生に認知度を上げ、各種教育プログラムに参加したいと思ってもらうためには、必要な情報の可読性を向上させることが必要だと考えます。そこで、在学生向けホームページの「在学生向け教育プログラム」のページ[5]の改善を提言します。具体的には、以下の3つの改善案を示します。

- **各種教育プログラムと対象の系・コースのマトリックスの掲載**

  在学生向けホームページの「在学生向け教育プログラム」のページに、所属(系・コース)と参加可能な教育プログラムのマトリックス(対応表)を掲載する事を提言します。参加可能なプログラムについて正しく知ることは、学生が自身に必要な情報を調べる助けとなると考えます。

- **コース修了者の感想や系ごとの履修計画例の掲載**

  セメスター制からクォーター制に移行したことで、各種教育プログラムを修了できるのか疑問に思う学生が少なからずいます。系ごとの履修計画例を提示する事で、そういった疑問や不安を低減できると考えます。

  また、コース修了者の感想を掲載することで、学生からの「何をやっているのか分からない(25 名)」という問題を解消できると考えます。

- **各種教育プログラムの詳細情報のフォーマットの統一**

  現在、各種教育プログラムの紹介ページ[6]で提供している情報の種類が統一されておらず、教育プログラム間の比較が容易ではありません。自分に合った教育プログラムの選択を助けるために情報のフォーマットを統一するべきと考えます。また、教育プログラムの概要・開始時期・参加することによって得られる能力や奨学金・履修計画例・修了者の感想などの情報を掲載すると良いと考えます。

---

[5] 「在学生向け教育プログラム」のページ:
http://www.titech.ac.jp/enrolled/certificate_current/index.html

[6] 教育プログラムの紹介ページの例(四大学連合複合領域コース) :
http://www.titech.ac.jp/enrolled/certificate_current/confederation.html

3.2. 講義

3 学習
2 講義

提言 3-4　四大学連合の履修環境の改善

学生の意見

- 時間割が合わない。（同様意見 67 件）
- 情報が少ない。（同様意見 12 件）
- 申請手続きが難しい･期限が早い。（同様意見 4 件）
- 科目が限られている。（同様意見 8 件）
- 遠くて受講しにくい。（同様意見 18 件）

現状分析

前節の図 3-3.1、図 3-3.2 に示した通り、四大学連合複合領域コースは 90%程度の高い認知度を示す一方で、参加希望者はその約 3 分の 1 の 30%となりました。自由記述には「時間割が合わない」、「遠くて受講しにくい」などの意見が合計 79 件と多く寄せられました。本学ではクォーター制が採用されたものの、他大学はセメスター制のままであるという問題が影響していると考えられます。また、クォーター制の下でコースを修了した学生が未だおらず、先輩からのアドバイスが得られないことも一つの原因だと考えられます。自由記述での「情報が少ない」という意見に対しては、本学の四大学連合複合領域コースのホームページからは時間割やシラバスを入手することができないということが主な問題と考えられます。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. そもそも教育改革では、他大学の講義の履修を推奨しているのでしょうか。 四大学連合の今後の動向として、縮小や拡大など方針はありますでしょうか。四大学連合を推奨しているのなら時間割の改善をする必要があるのではないでしょうか。

A1. 本学の教育を第一に考えた上での教育改革であり、他大学の講義履修を推奨するために教育改革しているというわけではありません。しかし、興味のある学生は、4年間の中で時間を見つけ、他大学の講義履修を学修の幅を広め、深めてほしいと考えています。なお、教育改革については、東工大ホームページの「東工大教育改革の歩み」[7]に説明があるので 他の項目の参考にしてほしいと思います。

Q2. 教育改革で生じる、四大学連合プログラムの支障にはどのような対策が講じられていますか。

A2. 本学はクォーター制であり、時間の組み方が他大学とは異なります。ただし、東京外国語大学はすでにクォーター制になっており、一橋大学もクォーター制が導入される予定となっていますので、クォーター制による時間割の問題は解消の傾向にあると考えられます。また、遠隔講義も進めようと考えています。

Q3. 現状の時間割でコースを現実的に修了できない系は存在するのでしょうか。

A3. 正確には把握していませんが、系によっては学士2年目には余裕がなく、3年目と4年目で他大学の講義を取りに行くことになると思います。なお、コース所属した以上はコース修了することが絶対必要ということではなく、1～2科目程度であっても、他大学のキャンパスで他大学生と一緒に講義を受ける事はとても良い経験であり、説明会においてもそういった説明をしています。

[7] 東工大ホームページ「東工大教育改革の歩み」：http://www.titech.ac.jp/education/reform/index.html

提言

以上の現状を踏まえて、以下の 3 つを提言します。

- **系ごとの履修計画例の提示**

  系ごとの四大学連合科目を受講できる履修計画例を東工大ホームページ上に掲載し、系に所属した後のガイダンスで配布することを提言します。履修計画例を提示することで、四大学連合複合領域コースを修了することができないのではないかという学生の不安を減らすことができると考えます。クォーター制のもとでコースを修了した学生が未だおらず、先輩からのアドバイスを貰えないことを考えると、そうした履修計画例を提示することで学生が長期的な履修計画を立てる上での助けになると考えます。

- **他大学の時間割・シラバスをまとめた冊子の配布およびホームページ(教務 web システム等)上での公開**

  現在、各大学の時間割はそれぞれが独自のフォーマットで提示しており、履修計画を立てにくくする障害となっています。また、四大学連合複合領域コースに所属することでどのような講義を受けることができるかを知るために必要なシラバスを入手することは困難です。そこで、他大学の時間割・シラバスをまとめた冊子の配布および東工大のホームページ、OCW 上での公開を提言します。

- **遠隔講義の充実**

  講義の遠隔配信・映像化を提言します。遠隔講義を実施することで、移動にかかる時間を削減することができ、移動時間の問題を解決できると考えます。

3 学習
2 講義

提言 3-5 文系科目の増強

学生の意見

- 文系科目を増やしてほしい。(同様件 31 件)
- キャリア科目や文系科目を必修にするなら講義科目を増やしてほしい。(同様意見 8 件)
- 抽選を行うため、取りたい科目を取ることができない。(同様件 16 件)

現状分析

平成 27 年度以前の修了要件に含まれる文系・教養科目は、学士課程 18 単位・修士課程 2 単位・博士後期課程は必要なしとなっていました。教育改革により、平成 28 年度から修了要件に含まれる文系・教養・キャリア科目は、学士課程 13 単位・修士課程 5 単位・博士後期課程 6 単位となりました。

このため、多くの修士・博士後期学生が文系科目に殺到し、抽選・履修制限などによって「取りたい科目を取れなかった」という自由記述に繋がったと考えられます。また、後学期からは文系科目の「履修予約」制度が開始されました。これによって、教室から学生があふれる現象はなくなりましたが、学生は何のガイダンスもない状態で履修する文系科目を決定しなければならなくなりました。

学修案内および教授要目で確認したところ、文系教養科目数の推移は図 3-5.1 のようになりました。学部生向けの文系教養科目は卒業要件の単位数減少とともに減少しましたが、修士・博士後期向けの文系・キャリア科目の増加は修了要件の単位数増加に見合っていない可能性があります。

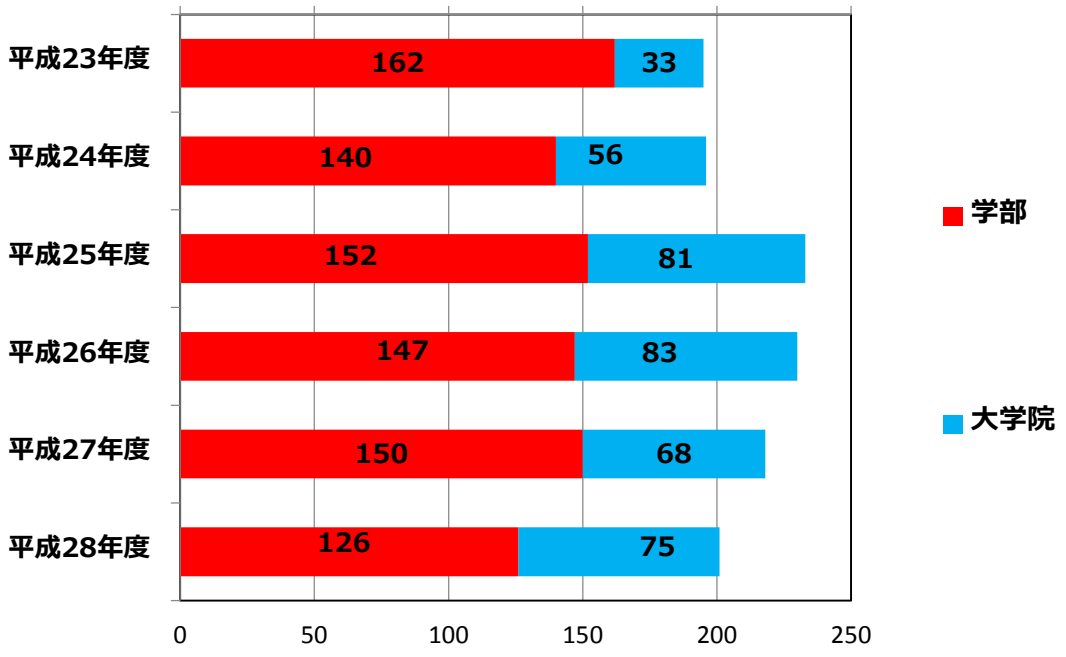

図 3-5.1 文系教養・キャリア科目数の推移

また、図 3-5.2 は人文系科目が充実しているかを調べた結果です。平成 26 年度調査では 5 段階評価、平成 28 年度は 4 段階評価となっていますが、評価の中央値が「1 充実している」に近づいているため、人文系の科目の充実度は増加しているといえます。

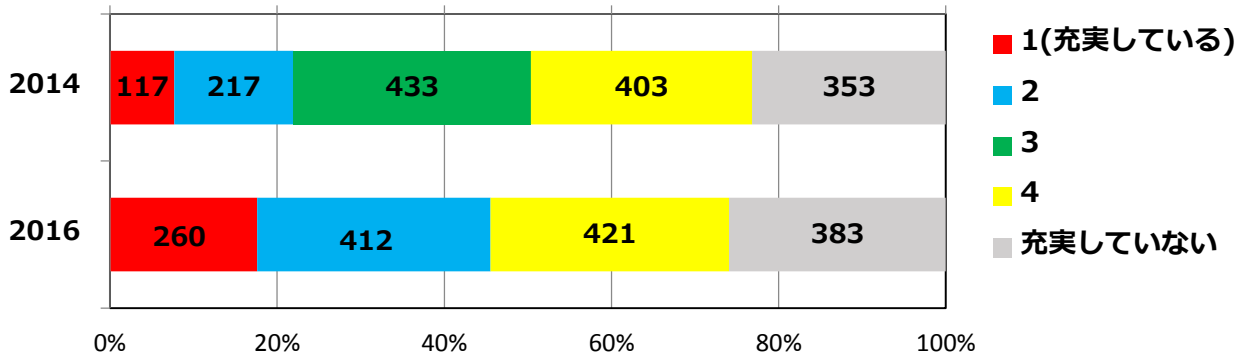

図 3-5.2 人文系の科目の充実度

一方で、図 3-5.3 のように人文系科目が理工系の科目に比べて講義の充実度が低く感じられている事がわかります。

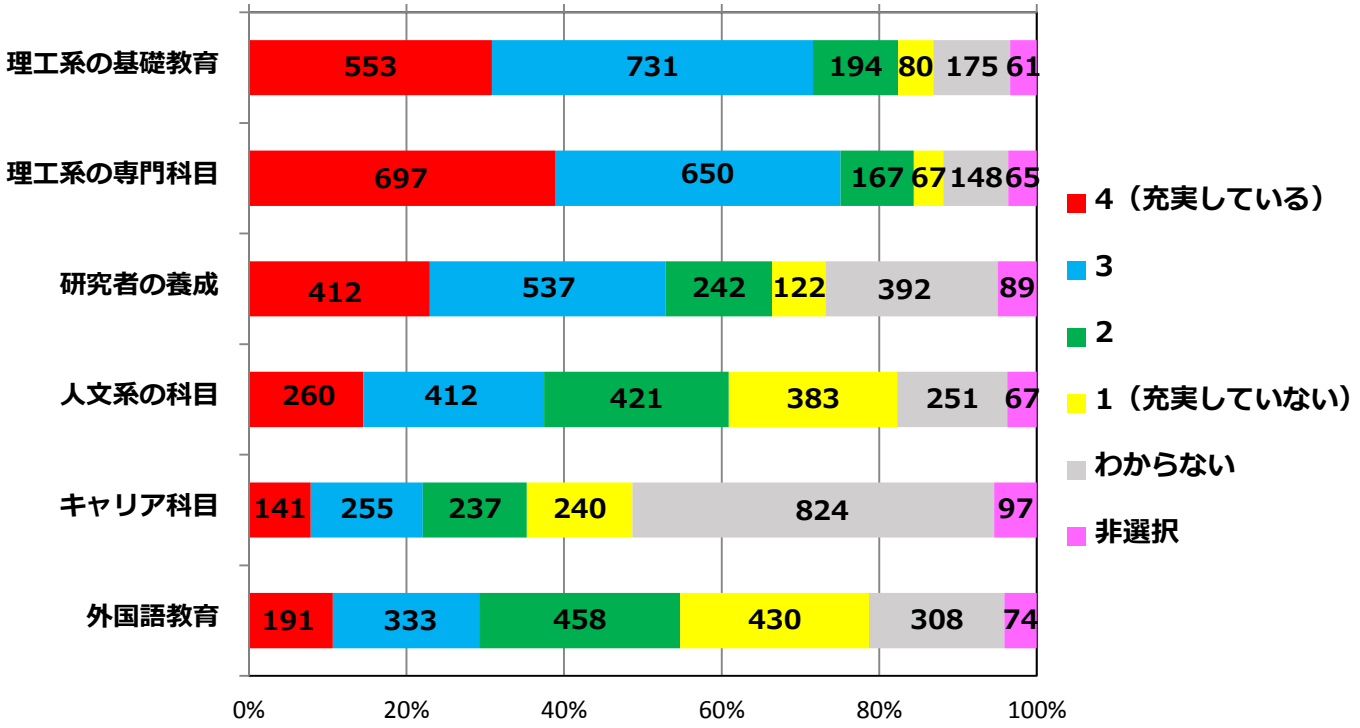

図 3-5.3 講義の充実度

提言

平成 26 年度から平成 28 年度にかけて人文系科目の講義数は減少していますが、充実度は上がっていることから、講義内容は改善されていると考えられます。今後は文系科目数を充実させていくことを提言します。

参考までに示しますと、表 3-5.1 は、学勢調査 2016 に寄せられた「本学のカリキュラムに追加してほしい科目」です。青は文系教養科目、赤は理工系科目、緑はキャリア科目を表しています。表から、文系教養科目への要望が多いことがわかります。

表 3-5.1 本学のカリキュラムに追加してほしい科目

経済	8	音楽	7	歴史	7	プログラミング	7	コラム	6	統計	6
地理	6	日本語	6	キャリア	5	デザイン	5	文学	5	生物	5
ラテン語	4	芸術	4	哲学	4	力学	4				

3 学習
2 講義

提言 3-6 留学推進のためのカリキュラム

学生の意見

- 学士課程 3 年目の第 2 クォーターに必修の講義があるせいで留学の時間が取れない。（同様意見 13 件）

現状分析

平成 28 年度の教育改革により、クォーター制が導入されました。クォーター制導入の一つの狙いとして、通常の在学期間でも留学やインターンシップをしやすくすることが挙げられています。特に、学士課程 3 年目の第 2 クォーターでは必修科目がないため、留学しやすいとされています。しかし、学勢調査には「必修講義があるせいで留学することができない」という自由記述が 13 件寄せられました。

日本経済新聞[8]によると、明治大学がおこなった調査では、海外の大学や大学院・語学学校などに留学したことがある男性の平均年収は 645 万円で留学未経験者よりも 70 万円高く、女性の留学経験者の平均年収は 439 万円と留学未経験者よりも 109 万円高いとの結果になりました。このように、留学経験と生涯年収には相関があると考えられます。

学勢調査の結果からは、博士後期課程では留学予定者・留学経験者が多く、学士課程・修士課程では「機会があれば留学したい」と考えている学生が多いことがわかりました（図 3-6.1）。

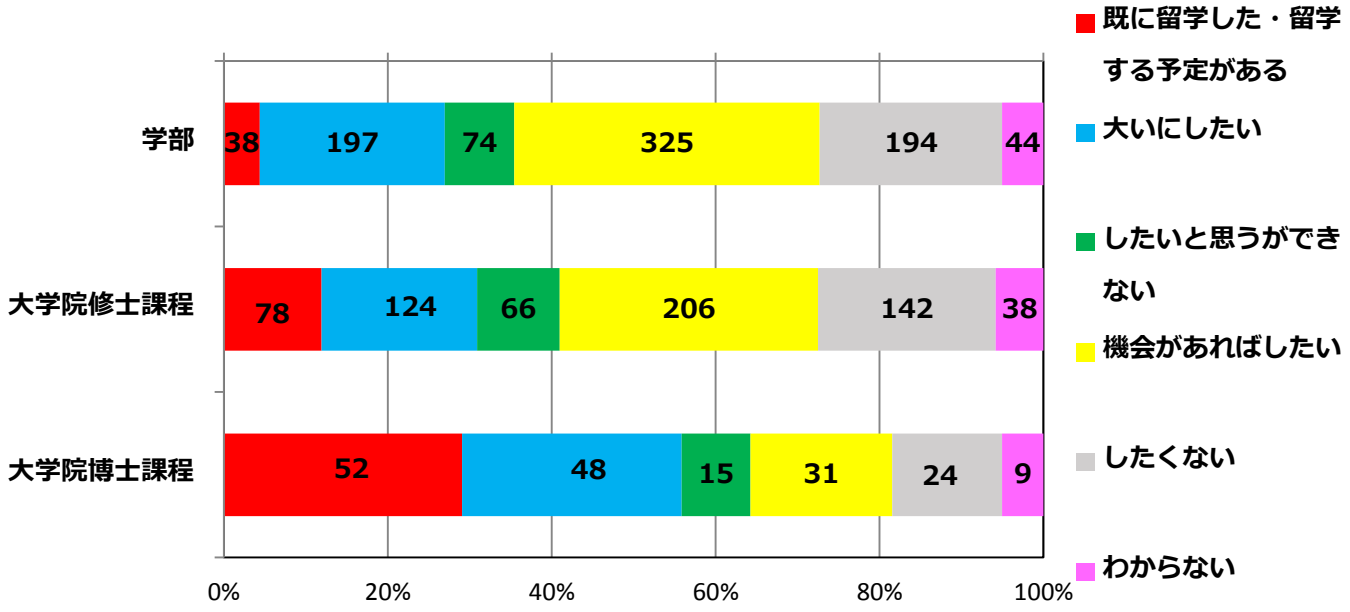

図 3-6.1 課程ごとの留学意欲

図 3-6.2 は留学していない学生の「留学しない・できない理由」を示しています。語学・経済面での不安から留学を躊躇する学生が 30%程度であることがわかります。また、現在の研究を優先すること、在学年数が伸びることが不安と考える学生がそれぞれ約 20%存在することがわかります。

[8] 日本経済新聞 2015 年 12 月 16 日（http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG18H9V_W5A211C1CR8000/）

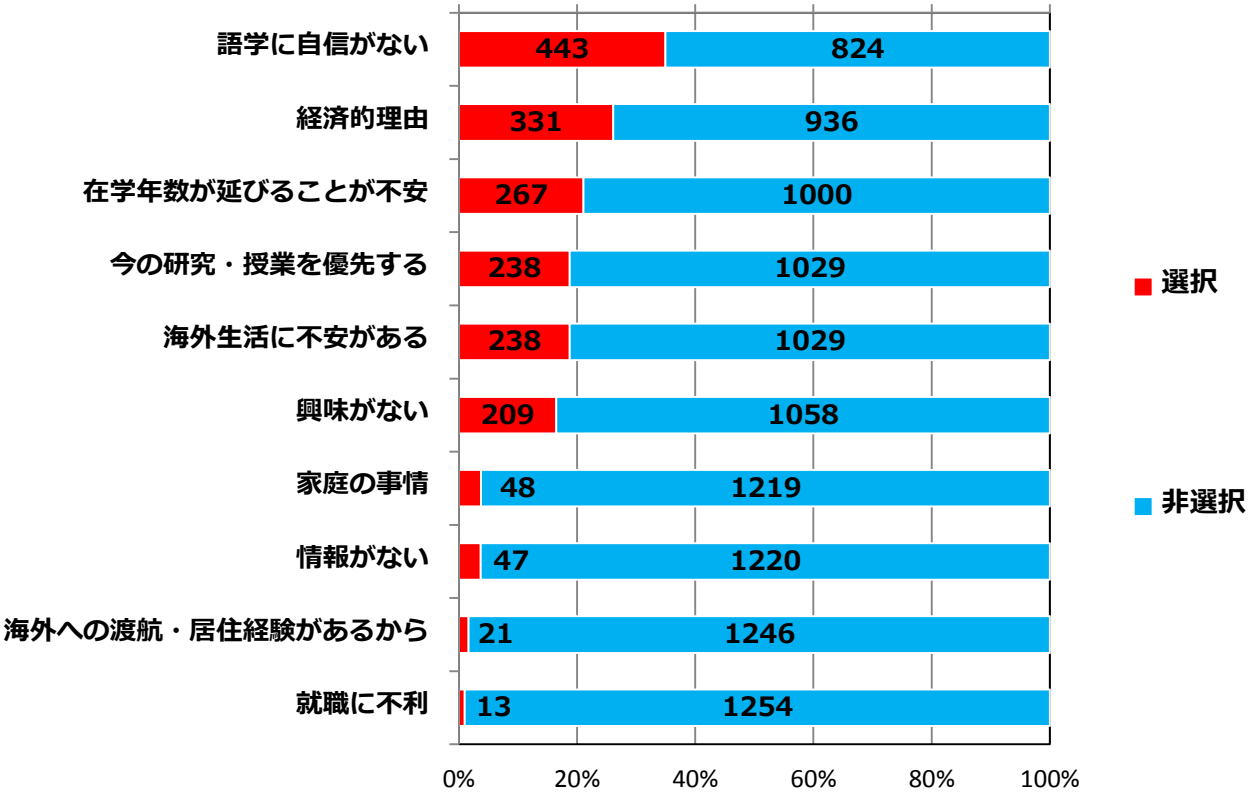

図 3-6.2 留学しない･できない理由

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 3 年次に必修科目がないクォーターを作って、その時期に留学するチャンスを与えているとの事ですが、必修科目が間違いなく無いということは確認していますか。

A1. 新カリキュラムにおいて、必修科目が無いことは教務課で把握しています。なお、過渡期の特例措置として、時限付で設置される可能性はあります。

Q2. 3 年次の 2Q での留学を推奨しているのはなぜでしょうか。

A2. 短期間の留学でも視野が広がり、これからの学修に大きな影響･刺激を与えると考えています。早い時期に留学をしてほしいですが、基礎学力が身につき、専門科目の学修が落ち着く3 年目が適切と考えました。(4 年目は研究が始まりますし、大学院の入試もあります。)さらに、夏はサマープログラムとして海外の大学で多くの募集がある(7月～9月)ことから、夏休みとあわせて留学できるように2Qを選びました。なお、3 年目の 2Qに限らず、チャンスがあれば積極的に留学してほしいと考えています。

提言

学士課程･修士課程では｢機会があれば留学したい｣と考えている学生が 30%強存在するので、この学生に向けて留学を支援することが有効であると考えます。

語学や経済面での不安から躊躇する学生が多いので、語学の強化や留学体験談などに触れる機会を与える等を通して自信をつけさせることが有効と思われます。また、約 20%の学生が現在の研究や在学年数の延びを気にして留学を躊躇しているため、留学によって在学年数が延びないような工夫や、留年を過度に恐れない雰囲気作りも重要であると考えます。

以上を踏まえて、重要な提言 4 で提言された経済的支援の強化などの支援策に加えて、留学によって在学年数が延びないように留学者向けのカリキュラムを設定することを提言します。

3 学習
2 講義

提言 3-7 履修単位数と成績の関係の調査

学生の意見

- 履修申告上限を以前の 60 単位に戻すべきだと考えます。申告しすぎが問題になることは自分でわかります。大学生であれば自分で調整できるものでと思います。
- 卒業に 128 単位必要なのに、48 単位は少ないと感じます。（同様意見 7 件）

現状分析

平成 28 年度よりキャップ制が導入され、年間の履修申告上限が 60 単位から 48 単位に減らされました。ただし、前年度の年度 GPA が 3.0 未満で当該年度前学期の学期 GPA≧3.0 の場合は 52 単位、前年度の年度 GPA≧3.0 の場合は，56 単位までの履修が認められています。

大学が履修上限を設けるのは、過剰な履修登録によって1単位あたりの学習時間が減少し、教育効果が低くなる事を防ぐためだそうです。文部科学省の大学審議会[9]では、年間の履修上限を 36 単位とすることが議論されています。また、法令上（大学設置基準）でも「一単位の講義科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成すること」が定められています[10]。この理由としては、1 単位の取得には週 3 時間の学修が必要であり、月～土まで毎日 9 時間の学修を 15 週間続けることによって取得できる単位数が 36 単位であるからとなっています。

実際に、愛知みずほ大学の桜井栄一氏が当大学の学修データを用いて行った研究[11]では、表 3-7.1 の通り、履修単位数とGPAには有意な負の相関があることが明らかにされました。この相関が東京工業大学においても成立するのであれば、キャップ制の妥当性が認められる事になります。

表 3-7.1 成績登録単位数と GPA 等の相関

	GPA	科目履修率
履修登録単位数とのピアソン相関	-0.71*	-0.88*

（サンプルサイズ:N=1828，有意水準 *：p<0.05）

提言

以上を踏まえて以下の 3 つを提言します。

- 成績優秀者には年間最大 56 単位まで履修が認められるので、48 単位以上の講義を取りたい学生はまずGPAを上げることに挑戦することを大学が促すように提言します。
- 東京工業大学においても履修単位数と成績の間に負の相関が存在するかどうか、データを用いて検証し、それをもとに履修に関するガイダンスの中で説明する事を提言します。

---

[9] 文部科学省 大学審議会「大学教育部会（第 99 回）議事要旨」:
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_daigaku_index/bunkabukai/gijiroku/1315636.htm

[10] 文部科学省 「大学における教育内容･方法の改善等について Q3」:
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/003.htm

[11] 愛知みずほ大学 桜井栄一「本学学生の学業成績と各種条件の統計的解析」:
http://www.mizuho-c.ac.jp/images/library/kiyo_08/session04.pdf

提言 3-8 広域の学修サポート(副専門等)

学生の意見

- 他学科や他専攻の科目が履修しにくい。(同様意見 10 件)
- 副専門プログラムに関する説明がほとんどなかった。
- 副専門プログラムで取得する専門科目の単位が卒業単位数に含められるのかどうかを明記してほしい。
- 副専門プログラムの要件が急に変えられたせいで計画が崩れた。制度を変える場合は段階的に移行してほしい。
- 副専門制度を調べるのにとても苦労した。ホームページを整備してほしい。
- 他学科の専門科目を理解するための基礎知識が足りない。

現状分析

教育改革によって、専門に加えて教養も含めた幅広い視野や専門分野間の横断的な教育が可能になったと本学ホームページに掲げられています。また、学長は学生が自主的に将来に必要な活動を行うことを期待していると発言されています(「第 10 回学生応援フォーラム」2017 年 2 月 22 日開催、学生支援センター自律支援部門主催)。しかし、現状ではそのことが容易ではないように思われます。具体的な問題点として以下があげられます。

1. クォーター制と他学科の時間調整:他学科の科目履修は可能ですが、クォーター制で週 2 回の講義になることで、自分の学科・専攻と他学科の講義時間が重なり受講することができなくなる確率が高まります。
2. 副専門制度と広報の不十分さ:学部から博士まで長期にわたる履修で、修了証が発行されることになります。修了証は履修のモチベーションを上げる要因となりますが、修了証が発行されることについては大学院学修案内に記載がないなど、広報が少ないように感じます。
3. 他専攻・他学科の履修へのサポート:他学科の科目を受講する学生は、基礎知識が足りないことも多いと思います。そのような学生について配慮する必要があると考えます。

図 3-8.1 において、学習意欲向上に有効だと思われる項目について、他学科の講義を取りやすくすることが上位にあがっています。図 3-8.2(a)は「他学科科目の履修について、満足に履修できていますか」という設問で、不満・やや不満が 16%、わからないは 21%、そもそも取りたいとは思っていない学生は 23%でした。一方、満足・やや満足は 27%に留まっています。一方、図 3-8.2(b)は「他大学科目の履修について満足に履修できていますか」との設問からは、学生の関心が低いことがわかります。そのため、教養等も含めた幅広い分野を身につけるという目的であれば、本学の他学科の履修をしやすくすることが優先されると考えています。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 副専門制度が、修士と博士後期課程をまたいで取る事はできないという制度になっていますが、学院になってからはどう改善されましたか。
A1. 平成 28 年度より、副専門学修プログラムが開設されました。所定の単位を修得した場合、当該コースで修了認定を行った後、学位取得時に修了証が発行されます。
副専門学修プログラムは、原則として修士課程及び専門職学位課程を対象としていますが、博士後期課程の学生もコースの判断によって申請可能です。
Q2. 副専門学修プログラムの修了証が発行される事の記述が平成 28 年度の学修案内にはありません。平成 29 年度の学修案内に記載してもらえないでしょうか。
A2. はい、平成 29 年度の学修案内に記載します。

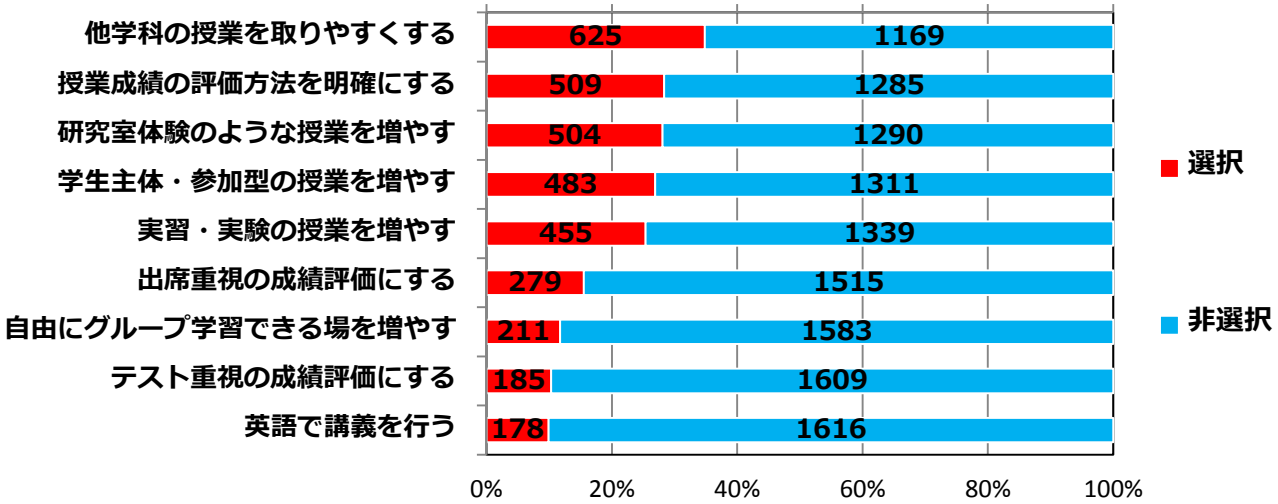

図 3-8.1：学習意欲向上に有効と思われるもの

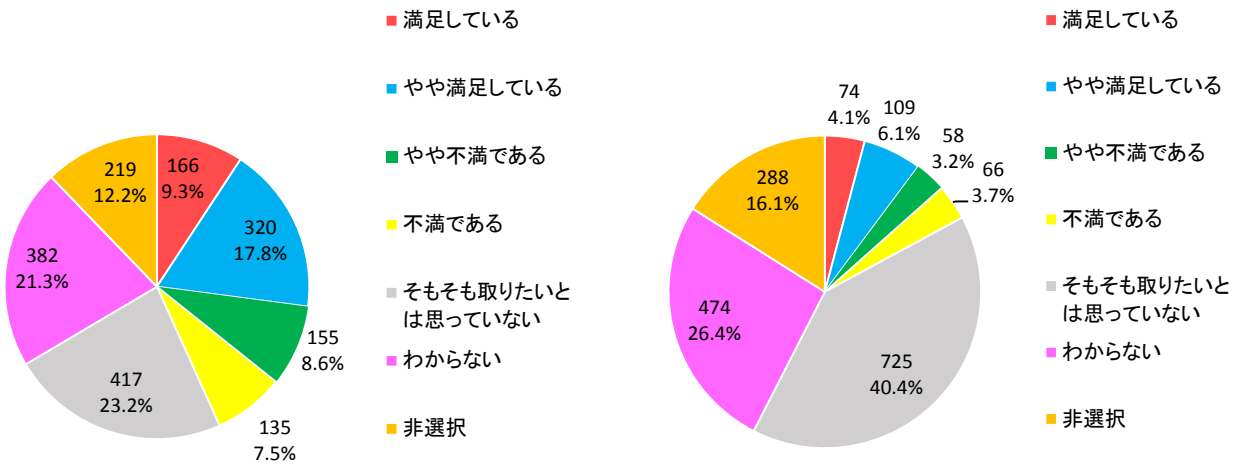

図 3-8.2 (a)他学科科目の履修について満足　　(b)他大学科目の履修について満足

提言

以上を踏まえて以下の 3 つを提言します。

- 時間割の構成について他学科・他専攻の科目を履修しやすくなるよう配慮をお願いします。
- 履修のモチベーションを高めるためには、学修案内に副専門学修プログラム修了証について記載すること、および、学生にその制度について広報することを提案します。
- 基礎知識が足りない学生のために、オフィスアワーを設定するなど、質問を受け付けやすく配慮することを提言します。

3.3. 学習環境

3 学習
3 学習環境

提言 3-9　公欠制度の導入

学生の意見

- 毎回の出席を求められる講義を必修単位にされると、それが学会参加を妨げる要因になる。
- 博士後期課程の学生は多様な背景をもち、各自で進路を考えている。博士後期課程の卒業要件において、文系科目とキャリア科目は必修である必要はないと感じる。
- 研究時間確保のために、博士課程のキャリア科目や文系科目をもっと負担の少ないものにした方がよいと思う。（同様意見 28 件）

現状分析

平成 27 年度までのカリキュラムでは、修士号取得のために必要な教養・共通科目は 2 単位であり、博士号取得のために教養科目を履修することは必要ではありませんでした。平成 28 年度からの教育改革により、文系・キャリア科目が修士号取得には 5 単位、博士号取得のためには 6 単位必要になりました。

成績評価には講義中に実施される小テストを用いることが可能ですが、小テストを受けるために学生は出席することが前提となります。一方で修士・博士後期課程の学生は学会へ参加することもありますが、一般に学会は学生のカリキュラムを配慮しているわけではなく、学会と講義が重なり、どちらかへの出席を諦めなければならないことがあります。このとき講義への出席を諦めた場合、小テストを受けられず点数を下げてしまうことになります。このことが学会への参加の妨げになると考えられます。

学勢調査 2016 の調査結果と以前の調査を比較すると、図 3-9.1、図 3-9.2 にみられるように修士・博士ともに講義を除く勉強・研究時間が減少していることが明らかになりました。この原因として文系科目・キャリア科目の必修化が影響を与えている可能性があると考えます。

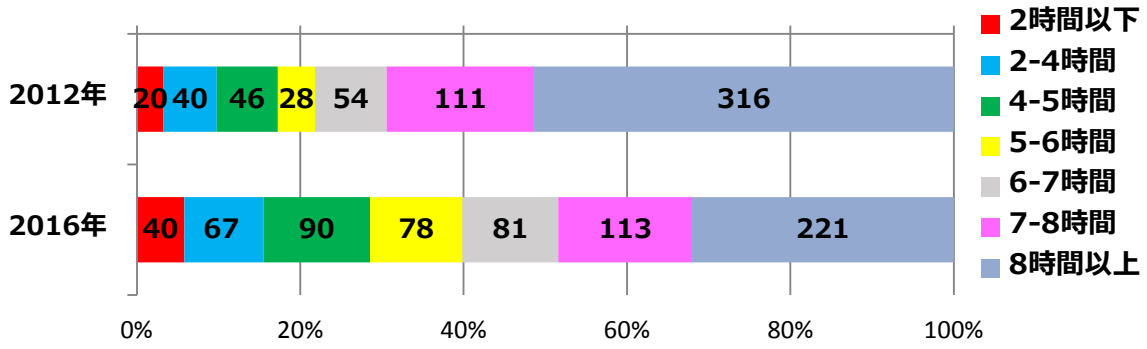

図 3-9.1 修士課程学生の勉強・研究時間の変化

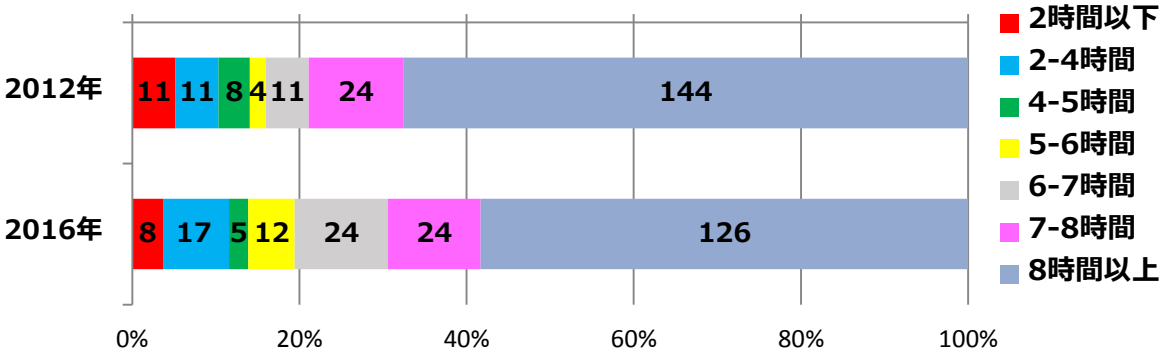

図 3-9.2 博士後期課程学生の勉強・研究時間の変化

3. 学習関連

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 修士・博士後期課程においても文系・キャリア科目を必修化したのはなぜですか。

A1. 大学院課程でも文系教養科目やキャリア科目を必修化したことは、専門に偏りすぎず、幅広い知識・教養を身につけてほしいからであり、また、自身と社会とのつながりを意識したうえで、自身の学修に反映してほしいからです。

Q2. 文系科目の「公欠」の基準はありますか。

A2. 大学としては、公欠制度はありません。

提言

学会への参加は、研究の最先端に触れる学生の本分にかなう活動です。しかしながら、学会への参加によって講義の点数を下げてしまうことがあります。このような状況を改善するために、次のような「公欠制度」の導入を提言します。

1. 学会参加と講義が重なる場合、課題などを与えて講義内容を学習できるよう配慮する。
2. 学生が 1.の課題などを完遂した場合、成績に不利がないようにする。

また、重要な提言 3「講義の動画化」によって、講義のフォローアップをスムーズにすることができます。

提言 3-10 履修申告制度の改善

学生の意見

- なぜ 1Q、3Q 開始の時点で 2Q、4Q の履修登録もしなければいけないのか。変更期間もあるが、二度手間なので毎 Q 開始時に履修登録できるようにして欲しい。（同様意見 165 件）

現状分析

平成 28 年度前学期では、1Q のはじめに 1、2Q 分の履修登録をする必要がありましたが、平成 28 年度後学期からは 2Q、4Q 開始時に教務 Web システム上で「追加申告」や「申告取消」ができるようになりました。実質的に、2Q,4Q 開始時に履修申告を行うのと同等の手続きが取れるようになっています。

しかし、改善を求める自由記述が 165 件もあったことから、学生の認知度が低い、もしくは抵抗感があるものと考えられます。「追加申告」や「申告取消」では別々に処理を行う必要があることから手間が多く、抵抗感の原因となっていることが考えられます。また、現在のシステムでは WEB 上で手続きを行うことができますが、以前のシステムでは「申告取消」は書面で手続きを行う必要があったことから、そのまま誤って認識している可能性があります。

他のクォーター制を導入している大学について調べたところ、表 3-10.1 のように半期の前半に2Q 分の履修登録をする大学が多くなっています。

表 3-10.1 クォーター制を導入している他大学における履修登録の状況

クォーター制導入校	後半科目の履修登録の状況
早稲田大学	半期の前半科目と同時に登録。
一橋大学	半期の前半に登録期間と登録確認期間。
東京大学	半期の前半に登録期間。中間に追加・削除期間。
埼玉大学	半期の前半に登録・抽選期間。中間に削除期間。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 2Q, 4Q の頭にも履修登録ができるようなシステムにすることはできますか。できないとしたら何が問題になっていますか。

A1. 平成 28 年度の 4Q 開始時に教務 Web システム上で「追加申告」や「申告取消」ができるようにしました。実質的に、2Q、4Q 開始時に履修申告を行うのと同等の手続きが取れるようになっています。

A1: 篠崎和夫先生. 長期的に直近2Q くらいの計画は立てることが出来て欲しいので、現在のシステムにしています。

提言

現在の履修申告制度では「追加申告」や「申告取消」によって 2Q,4Q に申告するのと同等の手続きがとれるようになっています。一方で、多くの学生から 2Q,4Q に申告できるようにしてほしいとの意見が上がっています。これらを踏まえてシステムの改善と制度の認知度を高める広報の強化を提言します。

- 抵抗感を減らすために「追加申告」や「申告取消」の手続きを「更新」という手続きにまとめることを提言します。また「更新」では 1Q,3Q の履修申告と全く同じように編集することができるシステムにすることを提言します。
- 学生の認知度を高めるため、十分な周知を行う事を提言します。特に、手続きが WEB 上で行うことができることを周知するべきと考えます。

3 学習
3 学習環境

提言 3-11 教員調査の実施と結果の公開

学生の意見

- 教員の講義に面白みが無い。（同様意見 15 件）
- 教員の事務作業が多い。（同様意見 28 件）
- 教員の研究室運営に問題がある。（同様意見 17 件）

現状分析

図 3-11.1.のように、学勢調査の「履修申告をした講義に出ない主な理由は何ですか」という質問に対し、「講義に魅力がない」と回答した学生が全体の 24%でした。

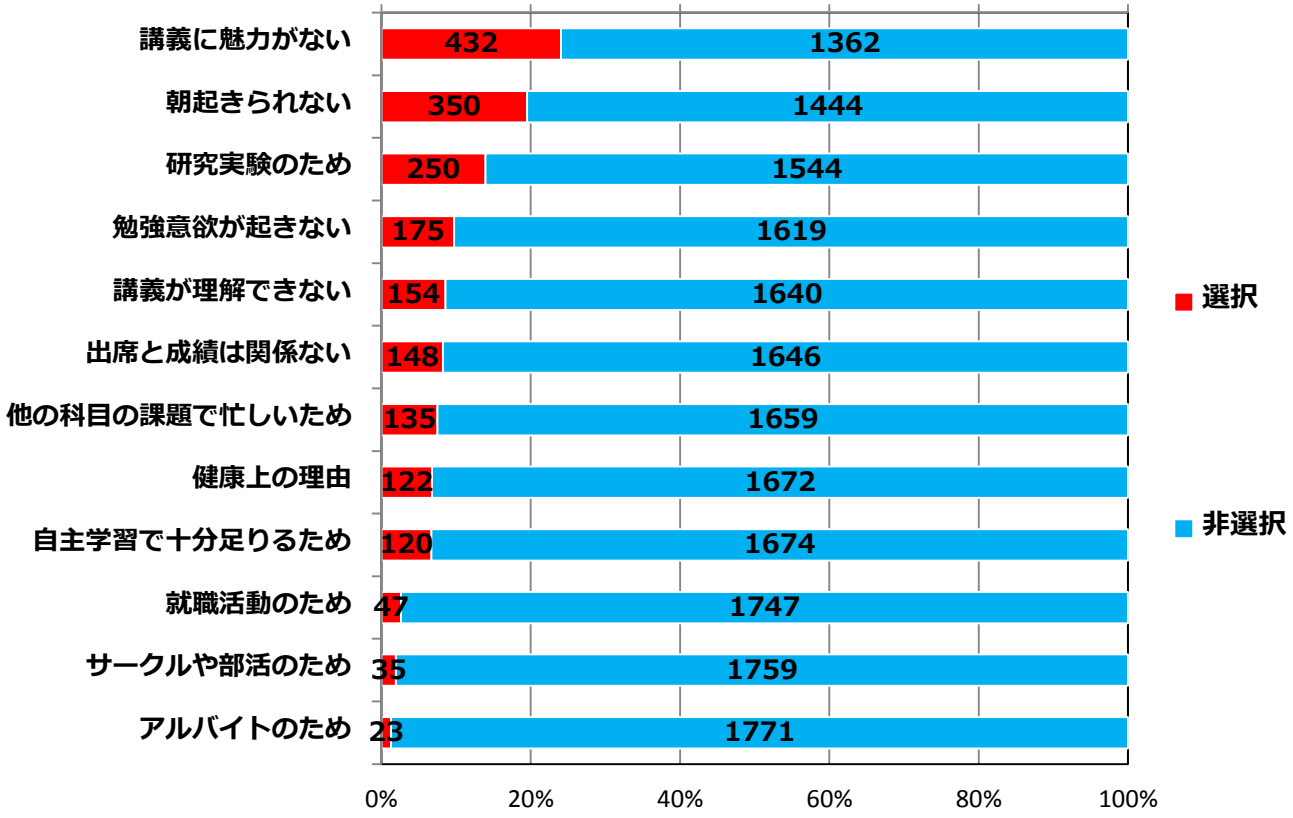

図 3-11.1. 履修申告をした講義に出ない理由

また、教員の事務作業が多いという内容の自由記述が 28 件寄せられたことから、事務作業に時間を取られて講義の準備に手が回らない教員が一定数いるのではないかと考えました。ある衆議院議員のブログ[12]において、煩雑な事務手続きが本学のローカルルールとして定着しているという指摘があります。また、本学の「出張用務等確認書」の手続きが Twitter 上[13]で話題になったこともあります。

[12] 衆議院議員　河野太郎公式サイト「まだまだ研究者の皆様へ」
https://www.taro.org/2016/12/%E3%81%BE%E3%81%A0%E3%81%BE%E3%81%A0%E7%A0%94%E7%A9%B6%E8%80%85%E3%81%AE%E7%9A%86%E6%A7%98%E3%81%B8.php

[13] 東工大の「出張用務等確認書」に対する大学関係者の皆様の反応→ついに「実害」発生（追記あり）
https://togetter.com/li/860145

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 本学は研究機関でしょうか、教育機関でしょうか

A1: 水本副学長. 研究もやり、教育もやります。どちらでもあります。割合は教員によります。

Q2. FD 研修への参加は義務でしょうか。

(FD(ファカルティ・ディベロプメント)研修 : 大学教員の教育能力を高めるための実践的な研修。[14])

A2: 水本副学長. 現段階では任意です。しかし、現時点で FD 研修を受けた教員の割合は 5 割を超えています。

A2: 教務課. 他大学の平均は約 1 割であり、それと比較すれば高いと思われます。

Q3. TA や RA と同じように、OA(Office Assistant)の制度を作って、学生がアルバイトで教員の事務作業を手伝えるようにしてはどうでしょうか。

A3: 水本副学長. 教員が忙しいのは、その教員にしかできない仕事が増えたからです。学生が代替するのは難しいと思います。

なお、学勢調査の「教員の対応は適切ですか」という問に対して、68%の学生が「適切である」(3,4)、16%の学生が「適切でない」(1,2)と回答しています(図 3-11.2.)。

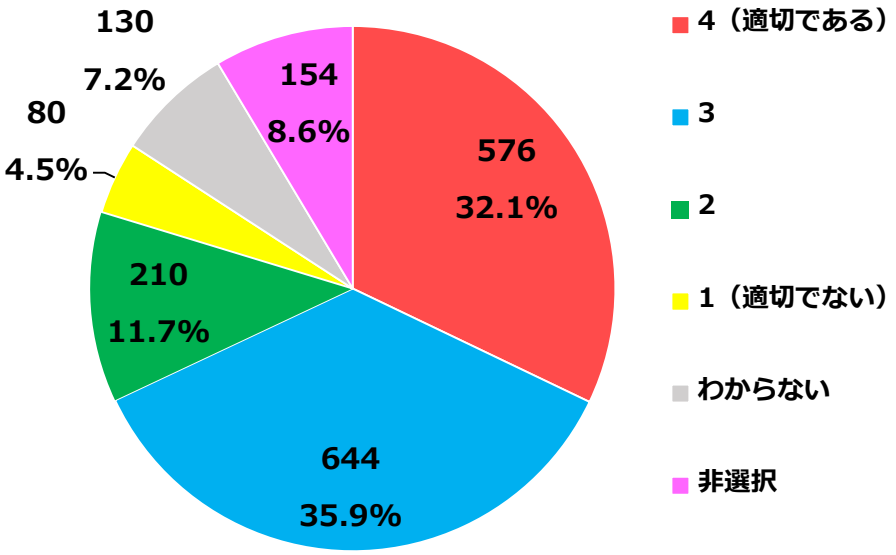

図 3-11.2. 教員の対応に対する満足度

[14] 東京工業大学 教育・国際連携本部 FD 活動とは: http://www.eduplan.titech.ac.jp/w/fd_about/

以前の調査との比較

教員の対応に対する満足度は、学勢調査 2010 から徐々に高まっていっています。(図 3-11.3.)

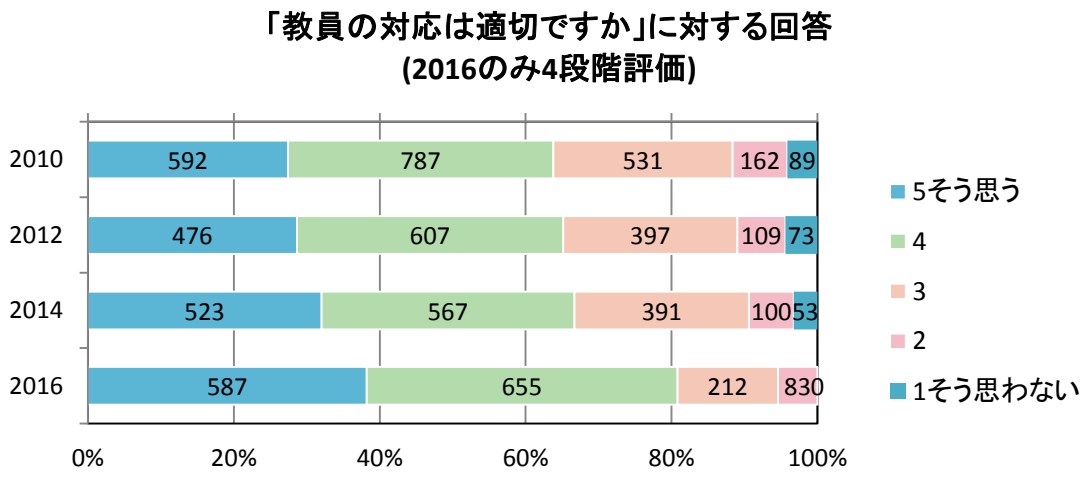

図 3-11.3. 教員の対応に対する満足度の推移

提言

教員への調査を実施し、大学が教員の多忙度などを把握することを提言します。

学生の意見・現状分析から、一定数の教員が事務作業等によって忙殺されている可能性がわかります。業務の改善を図るためにも、教員の現状を明らかにする必要があります。

また、教員調査の結果を公開することを提言します。時間の使い方など、教員の教育に対する姿勢を学生に示すことは、学生の学習意欲向上に繋がると考えるからです。

なお、具体的に調査する項目として、以下の内容を提言します。

- 研究室運営や講義・研究活動・学会活動などにそれぞれどのくらいの時間を使っているか。
- 講義の動画を作成することに抵抗はあるか。
- 教育改革についてどのように感じているか。
- キャンパス間の移動が面倒だと感じることがあるか。

提言 3-12 事務窓口の業務運営改善

学生の意見

- 昼休みの時間など事務窓口の開いている時間を延長して欲しい。（同様意見 5 件）
- 祝日講義日や夜間、早朝も窓口を開けて欲しい。（同様意見 10 件）

現状分析

学勢調査の結果では、職員の対応は適切であるという意見は 60～70%ほどですが、不適切であるという意見も 30～40%存在します（図 3-12.1）。

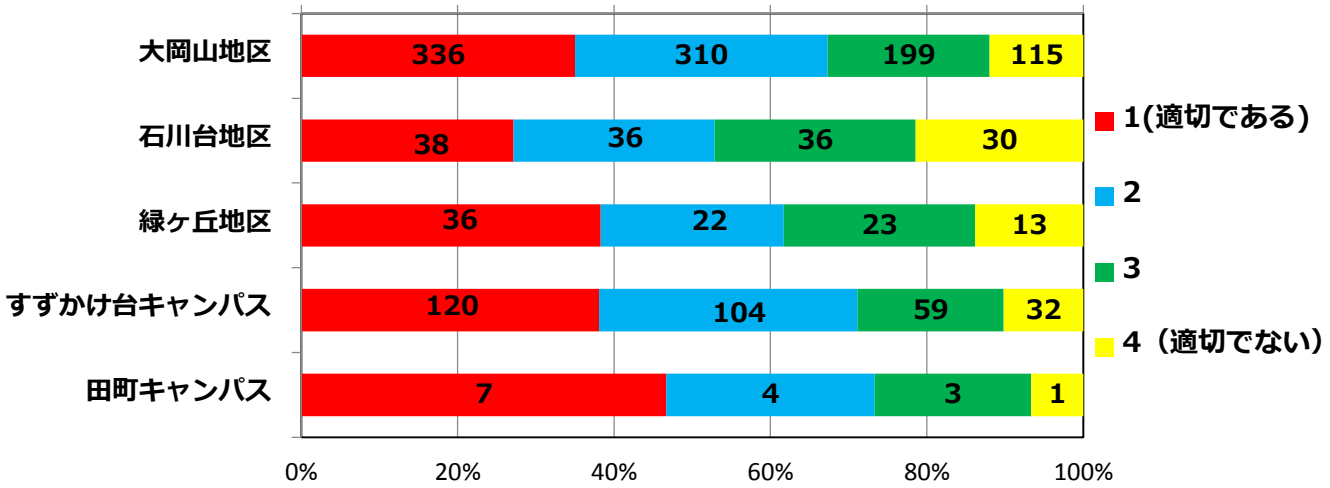

図 3-12.1 地区別における事務職員の対応の満足度

これらの分析から、事務側のサービス不足が「事務の対応が不適切である」という意見の原因であると考え、現実的な課題解決策として、講義のある祝日講義日の窓口営業や、事務職員の昼休み時間の変更をすることで学生の満足度がより高くなるのではないかと考えました。

この現状を踏まえ、教務課および学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 学生と事務職員の昼休みが重なっているために、不便を感じている学生が存在しているようです。窓口職員は昼休みに来る学生にどう対応していますか？

A1. 昼休みでも、少なくとも各グループで1名は窓口に対応できるように当番を決めており、昼休みに窓口に誰もいないという事態は起こらないようにしています。また、教務課では 4 月の講義開始後の1～2週間は、昼休みにも通常の半数近い職員を配置して対応しています。

Q2. 祝日講義日も窓口を開けて欲しいという意見が寄せられていますが、対応は可能ですか？

A2. 教務課に関しては、祝日講義日も窓口を営業しています。学生支援課は講義に直結する支援業務がないため、対応していません。

以上の事から、学生と事務職員の認識の差が、学生側の「不適切」という意見の原因であると考察しました。事務側は昼休みにも対応者を配置しているので十分と判断しているようですが、学生の視点からすれば講義の無い昼休みや講義のある休祝日に事務的用件を済ませたくなるので、事務と学生のバランスが悪化していると考えられます。これが、学生側の「不適切」という意見につながっているのではないかと考えます。また、昼休みに窓口の対応者がいても、具体的な要件の担当者が不在では、学生は再度窓口に行かなければなりません。祝日講義日についても、教務課は祝日講義日には対応していますが、学生支援課は対応していません。

こういった認識の差異に至る原因として、学生がどのような事務的用件を誰に相談したらよいのかを適切に把握できていない、また、把握する手段がない事が考えられます。誰に相談したらいいか分からずに、ひとまず教務課や学生支援課に聞こうと学生が足を運ぶが、行ってみたらここは担当ではないと言われて他部署を紹介される、といったことが起きていると推察されます。この解決のためには、単に事務窓口の業務向上だけでなく、学生の認識不足を解消するための施策が必要であると考えました。

以前の調査との比較

以前の調査と比較しても、事務職員の対応が改善されたという意見は、さほど多くはなっていないように見えます。（図3-12.2）

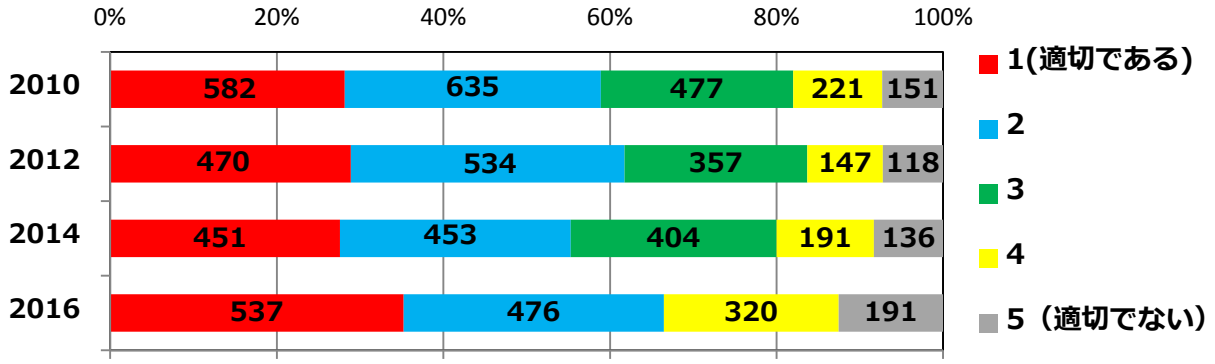

図 3-12.2 事務職員の対応の満足度の推移

つまり、これまでにない新しい提言が必要であることがわかります。以上の考察から、次の提言を策定しました。

提言

● 学生支援課や専攻事務の祝日講義日の窓口営業

教務課同様、学生支援課や専攻事務にも祝日講義日の窓口営業を実施する事を提言します。確かに、学生支援課や専攻事務には講義に直接関係する業務はありませんが、学生は学生支援課が利用できると大変助かります。

● 自動化窓口の導入・設置

自動化窓口の機能は主に 2 つです。まず、基本的なトラブルシューティングを行う機能です。用件内容に対してそれをどの課の誰に相談するのが適切かを教えてくれます。この機能は後述のトラブルシューティングマニュアルと基本的には同じです。次に、用件内容の担当者は現在窓口に在席しているかを伝え、不在の場合は面会を予約することのできる機能です。これにより、学生と担当者は予約した時間に窓口で面会することができるので、業務がスムーズになります。

以上の理由により、この自動化窓口はそれぞれの建物に一つ設置し、学生が学生支援課や教務課の前まで行かなくても、確認や予約ができるように整備することを提言します。

● 事務関連のトラブルシューティングマニュアルの作成・配布

事務側の対応改善のみでなく、対応される側の学生の認識を改善する必要があると考え、学生向けのトラブルシューティングマニュアルの作成・配布を提言します。どういった用件はどの課に相談すればよいのか、などを具体的な事例を挙げて記述すべきと考えます。また、学生支援課・教務課職員の顔(写真)と名前、担当がわかるように作っていただきたいです。これにより、学生はどういった用件をどの課の誰に相談すればいいのかを認識でき、学生支援課や教務課を訪問するという事態が低減すると思われます。

このトラブルシューティングマニュアルを WEB で公開し、さらにいつでも学生の手に取れる場所に置いてあると便利です。学生支援課・教務課だけでなく、各学部・専攻・コースにも配布することを提言します。

4. サービス関連

4.1. 事務

4 サービス
1 事務

提言 4-1　学生アシスタントの給料システムの変更

学生の意見

- 学生アシスタントの給料が離散的なので都合がわるい。
- レポート採点など時間外労働に対して給料が発生しない。
- TA 業務に差がある。（同様意見 2 件）
- TA の人数が不足している。
- TA,RA の給与の引き上げ。（同様意見 3 件）

現状分析

大学の「学生アシスタント取扱要項[15]」には、表 4-1.1 のように学生アシスタントの給与が定められています。学生アシスタントの給与は段階的であり、各時間単価の幅は大きいように思えます。また、学部生の TA 業務(1 号)が平成 28 年 10 月より時給 910 円から時給 940 円に上がりましたが、東京都の最低賃金は時給 932 円(平成 28 年 10 月以前は時給 907 円)であり、TA 業務(1 号)の給与は依然として低いことがわかります。学生スタッフが足りていないとの声もあることから、給与を上げることが望まれますが、幅の大きい段階的な制度は給与の引き上げに不都合であると考えます。

表 4-1.1　学生アシスタントの区分、業務内容、時間単価(平成 28 年度 10 月 1 日以降)

区分	研究補助員 リサーチ・アシスタント(RA)	ティーチング・アシスタント (TA)	その他 ・チューター ・広報サポーター ・省エネサポーター など
業務内容	研究補助	教育補助	東工大の業務の遂行に必要な支援業務
時間単価	学部学生		

学部学生

区分	1号	2号	3号	4号
単価	940円	1,600円	2,400円	3,200円

修士課程学生及び専門職学位課程学生

区分	1号	2号	3号	4号
単価	1,000円	2,000円	3,000円	4,000円

博士後期課程学生

区分	1号	2号	3号	4号
単価	1,200円	2,400円	3,600円	4,800円

区分	単価
1号	940円
2号	1,000円
3号	1,100円
4号	1,200円
5号	1,300円
6号	1,400円
7号	1,500円

これらの現状を踏まえ、人事課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 学生アシスタントの給与システムの予算はどうなっていますか。給与の財源はどこですか。

A1. 給与の財源はケースバイケースです。教務課の TA であれば教務課の TA 用の予算で、RA であれば科研費などです。一律の財源というのではなく、多岐にわたっています。

Q2. 時給が修士課程学生の場合 1,000 円(1 号)と 2,000 円(2 号)となるが、それについて業務にはどのような違いがありますか。

A2. 業務内容の難易度によって、教員に決めてもらっています。

Q3. 時給単価はどのようにしたら上がりますか。それぞれの単価の人数や割合はどうなっていますか。

---

[15] 学生アシスタント取扱要項：http://www.jinjika.jim.titech.ac.jp/syoku/sub3.html

A3. 単価を変更するのは、研究室の教員の判断です。単価に対する明確な決まりは現状ありません。それぞれの単価の人数や割合は、学士修士博士の延べ 5,000 人中、学士は 400 人(1 号:60%弱 200 人強、2 号:35%　150 人、3 号:3%、4 号:4%)で、修士は 2400 人(1 号:60%、2 号:30%、3 号・4 号:6%)、博士は 1,300 人(1 号:20%強、2 号:30%、3 号:35%、4 号:10%強)です。

Q4. 時給単価の 1 号と 2 号の間に 1,200 円や 1,500 円を追加できませんか。

A4. 時給単価は、学内の規則で決まっています。その幅が適切かは検討の余地があるので、どうあるべきかを提言してもらえれば、人事課で検討できるかもしれません。しかし、実際にどこで中間的単価を設定するかは難しい問題です。要は、仕事内容と雇用財源を総合して考えて単価を決めていく話になります。

Q5. レポートの採点など、時間ではなく業務に対して給与を与えるシステムはありますか。

A5. 現在のところ、そのような制度はありません。あくまでも労働時間に対する報酬なので、法律上、時間を決めざるを得ないです。現在のところ、業務に応じた時間で算出していただく形になります。

提言

表 4-1.1 の学士修士の時間単価の区分について、1 号と 2 号の給与では単価が約 2 倍の設定となっているため、仕事量に応じた給与とするには不便であると考えられます。またさらに、キャンパスミーティングの結果によると、この割合は、1 号だけで 6 割もあり、1 号に該当する学生の中でも給与設定を細分化する必要があると考えられます。そこで、1 号と 2 号の間に、学士課程は単価 1,200 円を、修士課程は単価 1,500 円を追加するように、学内規則を変更することを提言します。また、学生の意見の「レポート採点など時間外労働に対して給料が発生しない」という現状を踏まえて、レポートやテストの採点に対して、業務の量に応じて給与を支払えるように規則を変更することを提言します。

提言 4-2 英語表記の充実

学生の意見

- イベント(就活含む)の告知が日本語のみでわかりにくい。（同様意見 6 件）
- 学食のメニューに英語表記がないのでわかりにくい。（同様意見 3 件）
- 東工大ポータルの英語表記が不十分なので使いにくい。（同様意見 3 件）
- 英語が対応可能なスタッフの増員を希望します。（同様意見 9 件）

現状分析

大学から発信される履修や奨学金に関する情報は、留学生にとっても非常に重要です。大学が配信する情報を留学生がどのような情報源から得ているかを図 4-2.1 に示します。

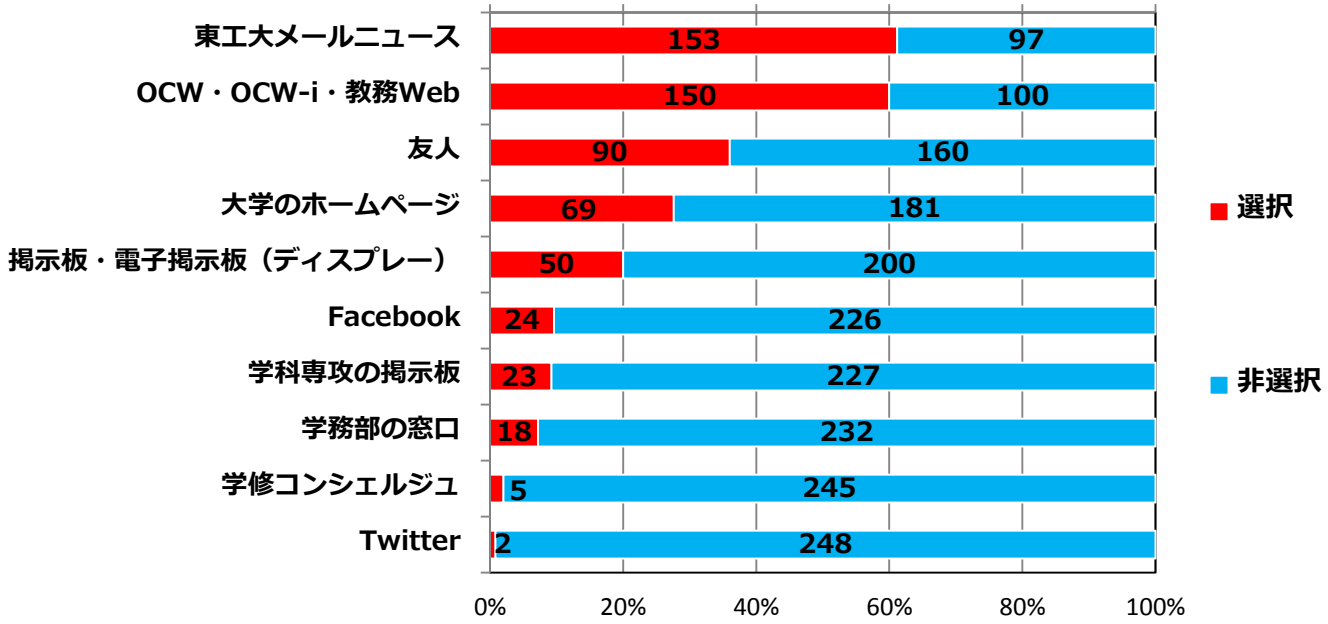

図 4-2.1 講義や学内行事など大学の発信する情報取得源(留学生のみ対象)

図 4-2.1 から、留学生は大学が発信した情報を主に東工大メールニュースや東工大ポータル、友人、本学ホームページから得ていることがわかります。

- 東工大ポータルには英語版が用意されていますが、リンク先が日本語版サイトになっているページが存在します(学勢調査 2014 時のキャンパスミーティングでは、リンク先はまだ英語化されていないという回答でした)。図 4-2.2 に一例として、Web メールの操作・設定ガイドのリンクミスと思われるページを示します。1.で「Webmail」を選択すると、日本語の操作・設定ガイドページ(2.)にリンクし、言語を英語にすると、英語のポータルログインページに移動します(2017 年 3 月 4 日の時点で改善が確認されました)。このほかにも 2017 年 3 月 4 日の段階では、お知らせページ[16]は日本語にしか対応しておらず、「重要なお知らせ」として発信される情報も日本語表記のみです。

[16] 東工大ポータル「お知らせページ」:https://portal.titech.ac.jp/info/index.html

4. サービス関連

1. http://portal.titech.ac.jp/new-en//guide/service.html

↓

2. http://portal.titech.ac.jp/ezguide/webmail.html

↓

3. http://portal.titech.ac.jp/portal-e.pl

図 4-2.2 Web メールの操作・設定ガイドに関するリンクミスの例

- 専攻によっては、専攻配信のメールが英語化されていないことがあります。
- 第 1、2 食堂ともに、ショーケースのプライスカードにはメニューの英語併記はされていません（出食コーナーと同じメニューカードを使っているものはメニューの英訳が併記されています）。出色コーナーの上部に貼ってあるメニューカードには、そのメニューの英訳が併記されています。（例：「ヒレカツカレー」→「HIREKATSU KARE, Curry and rice topped with pork fillet cutlets」）

図 4-2.3 第 1 食堂入り口のショーケース中のプライスカード

これらの現状を踏まえ、生協とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 食堂のメニューが日本語のみの表記でわかりにくいという意見がありましたが、英語の併記は可能ですか。

A1. 出食コーナーの上部に貼ってあるメニューカードは、英語でも書かれていますが、ショーケースのプライスカードには英語が表記されていません。英語表記したポップを作成することは可能ですが、スタッフの業務時間内に作成するとなると、難しい面があります。

また、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 東工大メールニュースの冒頭部分に「英語表記は下部にあり」のような注意文を挿入することは可能ですか。

A1. 対応可能です。

Q2. 教務課から各専攻に対して専攻メールの英語表記を義務化させることは可能ですか。

A2. 教務課として各専攻に専攻メールの英語化を義務化するのは難しいですが、学生からの要望として専攻メールの英語化が寄せられているため対応してほしい、と専攻メールの英語化を推奨することは可能です。

また、人事課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 英語に対応可能な職員を増員することは可能ですか。

A1. 国際部所属の職員を配置している部署もあり、文書の翻訳等をしてもらっているので、そのような部署では国際部を通すより早く英語化された情報発信が可能になっていると思います。

また、国際事業課から書面にて以下のような回答を頂きました。

Q1. 専攻ごとのメールを教務課や国際部が英語化して配信することは可能ですか。

A1. 「専攻ごとのメール」が国立大学法人東京工業大学事務局組織規則に規定される事務局内の部・事務区からのメールであると解釈して回答します。国際部には事務局が使用する事務文書等の英語化を支援するチーム（以降「英文化支援チーム」）があり、重要な通知の翻訳や、繰り返し利用する英語文書の雛形作成を行っています。担当者のうち 1 名は、教務課に配置され、学生向け文書を優先して翻訳しています。また、2015 年 5 月には、大学から事務局へ、重要なメールの和英併記に係る協力依頼が出されました。したがって、部・事務区の発信するメールのうち、学生の利益または不利益、安全管理等にとって重要であると部・事務区の担当者が判断したものについては英語化されていることが望ましく、また、英文化支援チームで翻訳や雛形作成を行うことができます。ただし、英文化支援チームではリソースの制約から、重要な講習や説明会以外のイベントに関するメール等、単発の告知に関しては原則として取り扱うことができません。これは優先度の問題であり、留

学生や外国人研究者が必要最低限の情報だけでも確実に入手できる環境を、限られたリソースで実現するための方針です。

Q2. メールニュースや掲示物などの翻訳はどれくらいの期間で行っていますか。

A2. ここで言及されているメールニュースは学生向けのメールニュースだと思われますが、現状国際事業課が英語化に関わることはほぼないと認識しています。英文化支援チームが掲示物等の翻訳依頼を受けた場合、通常 A4 紙 1 枚あたり約 3 営業日程度で翻訳と英語話者によるレビューを行います。ただし、英文化支援チームのリソースは限られており、依頼を受けてからすぐに作業を開始できない場合がほとんどであるため、実際にはより時間がかかります。

以前の調査との比較

前回の学勢調査 2014 において

4-4 掲示情報の英語化

留学生の情報入手源として利用頻度の高い「OCW、OCW-i、教務 WEB」等の英語表記を進めることを提言しました。

4-11 留学生の教務 WEB システムの利用に関して

OCW-i の英語版マニュアルの作成、留学生向けの WEB システム利用説明会の開催、東工大 WEB システムについて、すぐに質問できる留学生向け窓口の設置を提言しました。

提言

グローバル大学を目指すのであれば、留学生への配慮や留学生以外の学生が日常的に英語に触れる機会を増やすことが必要不可欠です。そのためには大学の発行物や掲示物に英語を併記することや、利用可能なシステムの英語版を完備していく必要があると考えられます。現在、本学では英語対応可能なスタッフを各部署に配備するなど対策を進めていますが、より国際化を図るために以下の 3 つを提言します。

- 学内イベント(公演等)のチラシや掲示物について，英語併記する事を提言します。英語化の全てを英文化支援チームに依頼することは困難なようなので、学生スタッフをアルバイトとして雇用(TOEIC や TOEFL のスコアを採用基準として設ける)すればいいと考えます。将来的に、各部署に英語対応可能な職員の数を増やしていくことを希望します。
- 東工大メールニュースおよび専攻からのメールについて，英語併記及び、冒頭部分に”Please scroll down for the English version.”という注意文を入れることを提言します。
- 生協食堂のショーケース中の全てのプライスカードに、メニュー名やそのメニューの簡単な説明を英語で併記する事を提言します。

提言 4-3 職員の対応向上

学生の意見

- 窓口での対応が悪い等の特定の職員への苦情。（同様意見 98 件）
- 事務や職員への感謝。（同様意見 23 件）

現状分析

図 4-3.1 からわかるように、事務職員の対応が適切であると評価している学生の割合は 6 割近くであり、多くの事務職員の対応は適切であると言えます。一方で、特定の職員への苦情が意見として寄せられており、必ずしもすべての職員の学生対応が良いとは言えないようです。もちろん、学生の要望がすべて満たされるわけではなく、大学の役割や目的に鑑みて学生の意見が受け入れられないこともあります。難しい問題ではありますが、職員の対応向上を図る制度を作ることが必要であると考えられます。

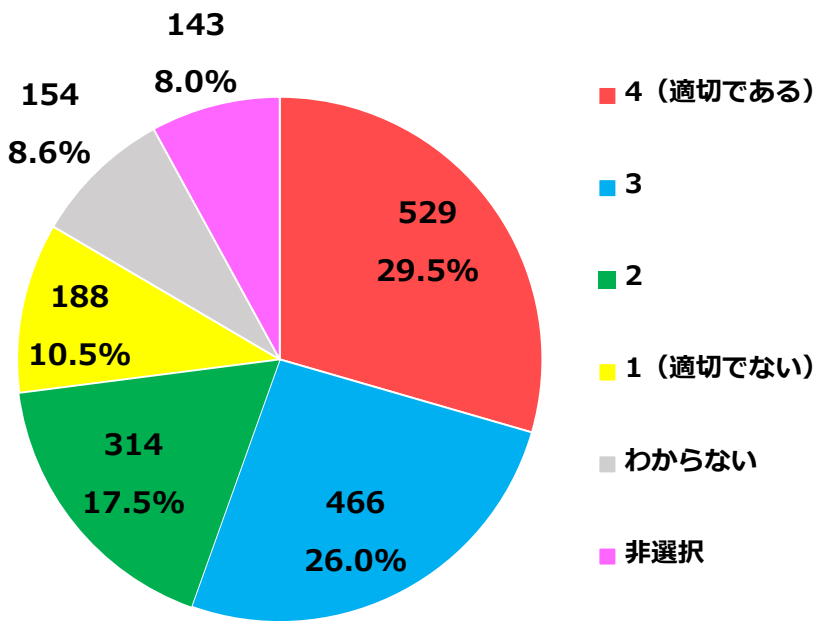

図 4-3.1「事務職員の対応は適切ですか」という設問に対する回答

現状としては事務職員の対応向上のため、本学では事務職員に対して階層別、職種別に様々な研修が用意されています。新採用職員には、職員としての在り方、職務の遂行上必要となる基礎知識等を習得する研修を行い、ビジネスマナーの研修や、それぞれの部署での先輩職員との懇談の場も用意しているとのことです。窓口対応を行う事務職員に対しては CS 研修（顧客満足研修）も行われているとのことです。

これらの現状を踏まえ、人事課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 学生の意見に基づいた職員の表彰制度導入は可能でしょうか。

A1. 職務表彰というものがあります。学生は限られた職員にしか会わないため、学生の投票のみで表彰するのは適当ではないと思われます。学生対応の部署のスタッフには CS 研修を受けてもらっており、窓口の対応向上努力を行っています。大学全体としては、学生のみなさんに満足してもらえるように努力をしています。

Q2. 職員に名札をつけてもらうことは可能でしょうか。

A2. すでに行っています。大学からストラップ付きの名札を職員に配布し、携帯してもらうように推奨していますが、携帯していない職員がいるのであれば、周知を強化していきたいと思います。

提言

学生の意見に基づいた職員の表彰制度を導入した場合、表彰対象の多くが窓口対応職員になり、不平等感を生んでしまう可能性が高いと考えられます。すでに窓口対応職員への CS 研修などにより、対応の質の向上は図られています。実際に、学生からも職員への感謝の意見も多く寄せられました。さらなる対応向上のために、人事課から推奨されている名札携帯の徹底と、学生に対応する際はその名札がはっきりと見えるようにしていただくことを提言します。

提言 4-4 留学生のサポート

学生の意見

- Everything is written in Japanese.
- Important e-mails from the faculty should also be written in Japanese and English to improve communication.
- Sharing of information with international students.(newsletters are mostly in Japanese, but not everyone can speak Japanese.)
- 日本での生活に関する留学生支援を充実してほしい。（同様意見 4 件）
- 留学生への就職サポートを充実してほしい。（同様意見 6 件）

現状分析

現在、本学全学生の 1 割が留学生です[17]。毎年 1200 人程度の留学生が入学し、2011 年度以降は留学生のうち約 7 割が大学院生です。その留学生を迎えるためのサポート制度がまだ充実していないように思われます。また、提言 4-2 であげた英語併記が不十分である問題や、文化交流プログラム等の不足の問題もあります。その他にも、留学生を支援するための制度の一つとしてチューター制度がありますが、チューターとしての質が十分ではない学生もいる可能性があります。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 教務課から各専攻に対して専攻メールの英語表記を義務化させることは可能ですか。

A1. 教務課として各専攻に専攻メールの英語化を義務化するのは難しいですが、学生からの要望として専攻メールの英語化が寄せられているため対応してほしい、と専攻メールの英語化を推奨することは可能です。

提言

グローバルな大学をめざしていく上で、留学生がより学び、生活しやすい環境を整えることは重要であると考えられます。しかし、専攻によっては専攻配信のメールが英語化されていないなど、留学生への対応が不十分な点があると考えられます。専攻ごとにどのような留学生サポートが行われているかの実態調査を行い、必要なサポートを進めていく必要があると考えます。 そこで、以下の2つを提言します。

- 大学による専攻ごとの留学生支援の実態調査を実施する。大学から、各専攻も含めた大学全体での留学生への支援強化を推奨する。
- 留学生のチューター選びの際、学生のやる気や、TOEIC や TOEFL 等による英語力等の採用基準を設ける。

[17] 東京工業大学　統計データ: http://www.titech.ac.jp/about/disclosure/facts.html

4.2. サービス全般

4 サービス
2 サービス全般

提言 4-5 防災セミナーの実施

学生の意見

- 防災訓練は水曜日に行われているが、水曜日は講義がないため、学外にいる。（同様意見 13 件）
- 学部生がどのように防災訓練に参加すればよいかわからなかった。
- 学生のみでなく、近隣住民の避難も十分に行える訓練が必要。
- 留学生に日本の防災情報を十分に伝える必要がある。（同様意見 3 件）
- 避難訓練の重要性について教える機会を設けるべき。（同様意見 3 件）
- 避難経路が危険な場所を通っている。

現状分析

防災訓練は年に 1 回開催されています。2016 年は 11 月 9 日(水)の 12 時 15 分から開催されました。しかし、学生の意見にあるように、「水曜日は講義がなく学外にいる」などの理由で参加していない学生も多くいます。今回の学勢調査で回答した学生に 2015 年に行われた防災訓練に参加したかを聞いたところ、参加した学生が 601 名、参加しなかった学生が 461 名でした(回答者数 1794 名)。防災訓練に参加していない学生がとても多いことがわかります。

また、学生の意見として、近隣住民を対象とした避難訓練の実施と留学生に防災情報を伝える機会の必要性や、避難経路が危険な場所を通っている、という指摘がありました。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 過去の防災訓練の参加者数はどれくらいでしょうか。

A1.【大岡山地区の参加者数】

28 年度:3,959 名

27 年度:4,358 名

Q2. 防災訓練の広報は具体的にどのようになされているのでしょうか。

A2. ホームページに掲載，学内の各掲示板にポスター掲示，一週間前くらいから正門と蔵前会館付近に看板を設置しています。また，メールニュースで 10 月，11 月，前日に配信しています。

Q3. 防災訓練以外に，防災時の行動について説明する機会はありますか。

A3. 入学時に，「大地震対応マニュアル」「健康・安全手帳」「緊急連絡・大地震時 安否確認票」を配布しているので，目を通してほしいと思います。

Q4. 避難経路はどのように決められていますか。

A4. 各地区の避難場所への経路については，防災訓練実施ワーキンググループで議論され，適宜見直しを行った上で現状の避難経路となっています。

Q5. 現在の防災訓練は、学部生にはあまり訓練としての意識が見えないのですが，研究室所属学生が主な対象なのでしょうか。

A5. 全学生と教職員が対象です。学部生には教員が避難誘導することになっています。[18]

[18] 平成28年度 東京工業大学大岡山キャンパス 防災訓練の実施について(学内限定)：
http://www.gsmc.titech.ac.jp/bousai/bousaikunren/H28/28poster-o.pdf

Q6. 学勢調査 2014 のキャンパスミーティングでは、災害が起きた際はスタッフが誘導するという話でしたが、休日などでも行われるのでしょうか。

A6. 講義のある休日であれば、出勤している職員ができる範囲で行うことになります。「災害時の基本行動」「大地震対応マニュアル」を作成しているので、一人一人が意識し行動してほしいと考えています。[19]

Q7. 学勢調査 2014 のキャンパスミーティングでは、避難経路の標識を設置するのは難しいとの話でしたが、三角コーンの設置は可能でしょうか。

A7. 三角コーンを設置しても、高さが低いので、避難経路の案内に適さないのではないかと思います。

Q8. 避難経路などの見直しや、防災訓練の評価はされているのでしょうか。

A8. 防災訓練実施ワーキンググループにおいて、毎年防災訓練の実施内容を検討しています。また、実施後も今後の課題について検討を行っています。

提言

防災訓練は全学生と教職員を対象にしており、しっかりと広報されているにも関わらず、学生の参加人数が少ないため、改善が必要と考えます。

現在、避難訓練は年に 1 回行っていますが、避難訓練以外に防災時の行動について説明する機会はないとのことです。入学時に配布される「大地震対応マニュアル」などを学生自身が読むことが期待されています。学生一人一人が意識して行動することは重要ですが、災害時に混乱が生じてはなりません。また、近隣住民を対象とした避難訓練の実施や留学生に防災情報を伝える機会が必要であるという意見があったことから、以下について提言します。

- 入学式後に、新入生に防災に関する情報(「大地震対応マニュアル」の解説など)を説明する機会を設ける。
- 防災セミナーを、留学生を含む全学生と教職員向けに放課後に開催し、避難ルートや防災情報についての情報を共有する。近隣住民を対象とした防災セミナー等についても検討する。

避難経路は防災訓練実施 WG で毎年検討されているとのことですが、学生から危険なルートを通っているという指摘があったことから、以下についても提言します。

- 研究室のある建物の避難経路は、その建物にある危険物を把握している研究室と協議して決める。

[19] 総合安全管理センター　防災関係(学内限定):
http://www.gsmc.titech.ac.jp/bousai/bousai.html

4 サービス
2 サービス全般

提言 4-6 ポータルのサービス向上

学生の意見

- SSL-VPN が Google Chrome や Firefox でも繋がるようにしてほしい。（同様意見 18 件）
- メンテナンスの時間帯(4:00～9:00)をずらしてほしい、短くしてほしい。（同様意見 6 件）
- メンテナンスが多すぎる。（同様意見 2 件）
- メンテナンス日程を試験期間や履修申告期間にかぶせないでほしい。（同様意見 2 件）
- OCW-i からシラバスを閲覧できるようにしてほしい。（同様意見 5 件）
- ポータルログイン時のマトリクス認証が面倒なので、なくしてほしい。（同様意見 96 件）

現状分析

今回の学勢調査では、ログイン時のマトリックスコード入力をなくしてほしい、メールが使いにくい、という意見が学生から寄せられました。前回の学勢調査でも同様の意見が寄せられましたが、マトリックスコード入力はセキュリティの面から省略は難しいようです。これらの問題は、学生への広報によって理解が得られる可能性が高いと考えられます。

東工大ポータルのメンテナンスが頻繁であり、その時間が 1 限の開始時刻と被っていると、講義資料や講義室変更などに関する情報が得られないことも考えられます。OCW-i に講義資料がアップロードされていない講義もあるので、講義資料を OCW-i からダウンロードできない、ということも起き得ます。

また、前回の学勢調査と同様、SSL-VPN を Google Chrome や Firefox といったブラウザに対応させてほしいという意見が多く寄せられました。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 東工大ポータルのメンテナンス時間はなぜ 4:00～9:00 となっているのでしょうか。また，メンテナンス時間をずらしたり，短縮したりすることはできますか。

A1. 教務 Web システムはシステム間のデータ連携のために 4:00～9:00 までの間、メンテナンス時間を設けています。利用者の利便性を考慮し、メンテナンスは週 2 回に設定しています。なお、講義資料のダウンロードは OCW を利用して頂きたいと考えています。

また、情報基盤課からは書面で以下のような回答を頂きました。

Q1. 東工大ポータルのリンクミスなどを発見した学生が、そのことをすぐに報告できるページを用意することは可能でしょうか。

A1. 質問や意見に対する Web 受付システムは、利便性が高い反面、Web サイトの改ざん等を目的とした攻撃者に狙われやすいため、導入は考えていません。ポータルへのログイン後であればセキュリティが確保されていますが、不便であるため利用が見込めません。リンクミス等を発見された場合には、東工大ポータルに記載されている問合せ先[20]にメールまたは電話で連絡していただきたいです。

[20] 東工大ポータル　問い合わせ先：http://portal.titech.ac.jp/inquiry.html

以前の調査との比較

- 学勢調査 2014 4-6「東工大ポータルのログインの簡素化」

前回の学勢調査での情報基盤課とのキャンパスミーティングでは、セキュリティの関係上、ログイン時のマトリックスコード入力の省略や、 OCW-i など利用頻度の高いサービスへのログインをパスワード入力のみにするということは難しいという回答を頂きました。

- 学勢調査 2014 4-12「SSL-VPN について」

不具合が生じた状況を特定できるような質問項目を設定し、不具合を発見した学生が報告できるシステムを搭載したトラブルシューティングセンターの設置を提言しました。

提言

様々な OS やウェブブラウザのアップデートごとに不具合の検証を行うことは難しいと考えられます。また、東工大ポータルにあるリンクが正常に機能しているか全て確認することも現実的ではありません。そのため、不具合を見つけた人が報告できるフィードバック機能が重要であると考えられます。情報基盤課からは、ポータルログイン後に Web 受付システムを設置しても不便であり利用が見込めない、との回答を頂きました。しかし、現在ログイン前の画面に問合せ先一覧を掲載したページが存在しているにもかかわらず、学生から上記のような意見が寄せられたということは、その問合せ方法が十分に機能していない可能性があると考えられます。原因として、メールや電話で問い合わせるという行為はハードルが高いと考えられ、その結果、東工大ポータルの不都合や不具合が放置されてしまっている可能性が考えられます。そこで以下の 2 つを提言します。

- リンクミスやメンテナンスによる不都合、SSL-VPN の不具合などを発見した学生が、いつでも情報基盤課に報告出来るような Web 受付システムをポータルログイン後の画面に設ける。

また、一限の開始時刻である 9:00 まで東工大ポータルのメンテナンスが行われていると、講義の直前に講義資料をダウンロードすることが出来ず、学習に支障をきたす可能性があります。そこで以下の案を提言します。

- 東工大ポータルのメンテナンス時間を 3:00～8:00 に変更する。

4 サービス
2 サービス全般

提言 4-7 ハラスメント対応の向上

学生の意見

- 関係者･第三者含めて、見て見ぬ振りで何もしてくれない。（同様意見 7 件）
- （ハラスメントが起きた時に）別の研究室に異動する対応をしてくれた。（同様意見 5 件）
- 大ごとにしたくなかったので何もしなかった。（同様意見 6 件）
- 相談窓口の周知が必要である。（同様意見 4 件）

現状分析

学内にはハラスメント相談窓口や学生相談室など、ハラスメント問題に対応できる窓口が複数あり、ハラスメントの疑いがある場合には相談できるようになっています。「国立大学法人東京工業大学におけるハラスメントの防止等に関する規則」[21]には、相談者を保護するために二次被害等が発生しないような対策が施されています。

しかし、相談窓口の学生の認知度は下図 4-7.1 の通りで、学生相談室の認知度は比較的高いものの、ハラスメント相談窓口や電話相談デスクの認知度はそこまで高くありません。これらの相談窓口を利用したいか、という設問に対する回答が次項図 4-7.2 のようになっており、各種の相談窓口を利用したいと考える学生が多いわけではなく、また、知っていても利用したいと思う学生が少ないようです。

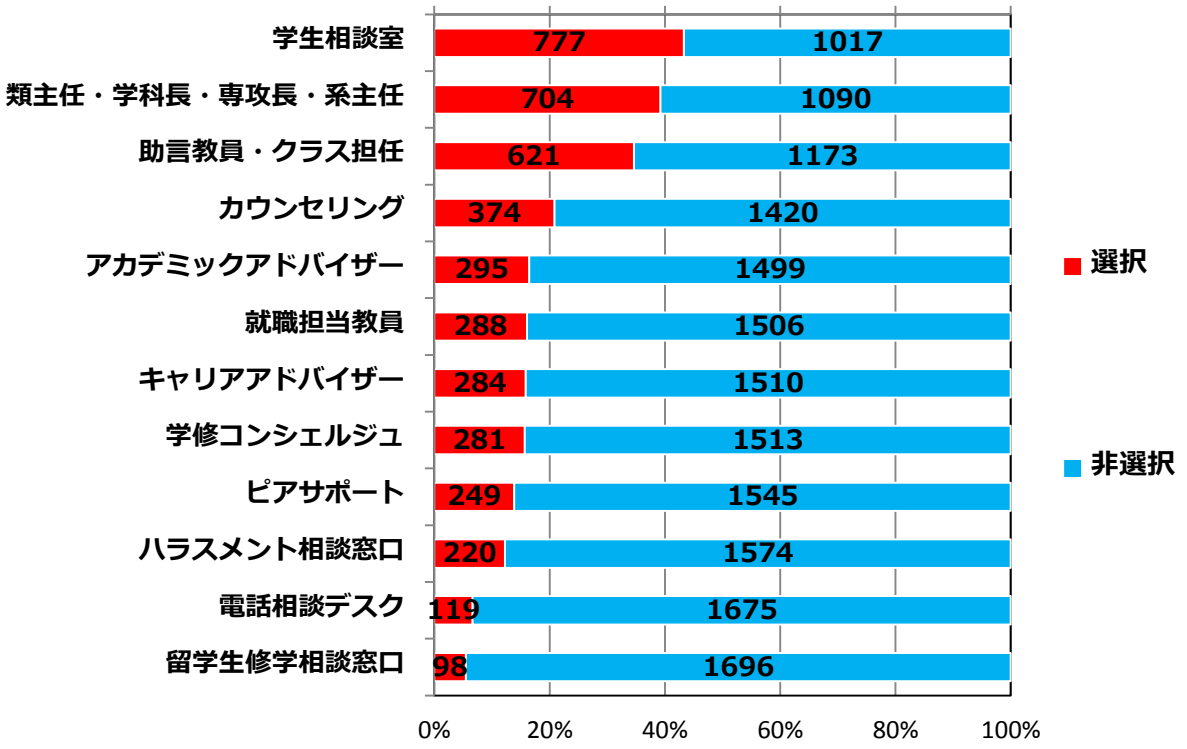

図 4-7.1 相談窓口を知っているか

相談窓口の認知度や利用希望の低さの原因としては、相談窓口の広報不足が考えられます。すずかけ台キャンパスでは、一部のトイレの個室に学生相談室のポスターが貼ってあるほか、洗面台の横に「さよならミスマッチ」というハラスメントに関するリーフレットが置いてありますが、他の相談窓口のポスター等を見ることはありません。東工大ホームページのハラスメント対策のページや保健管理センターの年報には、窓口の対応手順や利用者数データ等が掲載されています。ハラスメント事例に関しては、「さよならミスマッチ」に 1 例あたり 100 文字程度の説明文が 4 例挙げられているのみとなっています。

[21] 「国立大学法人東京工業大学におけるハラスメントの防止等に関する規則」:
http://www.titech.ac.jp/about/policies/efforts/pdf/rule_ja.pdf

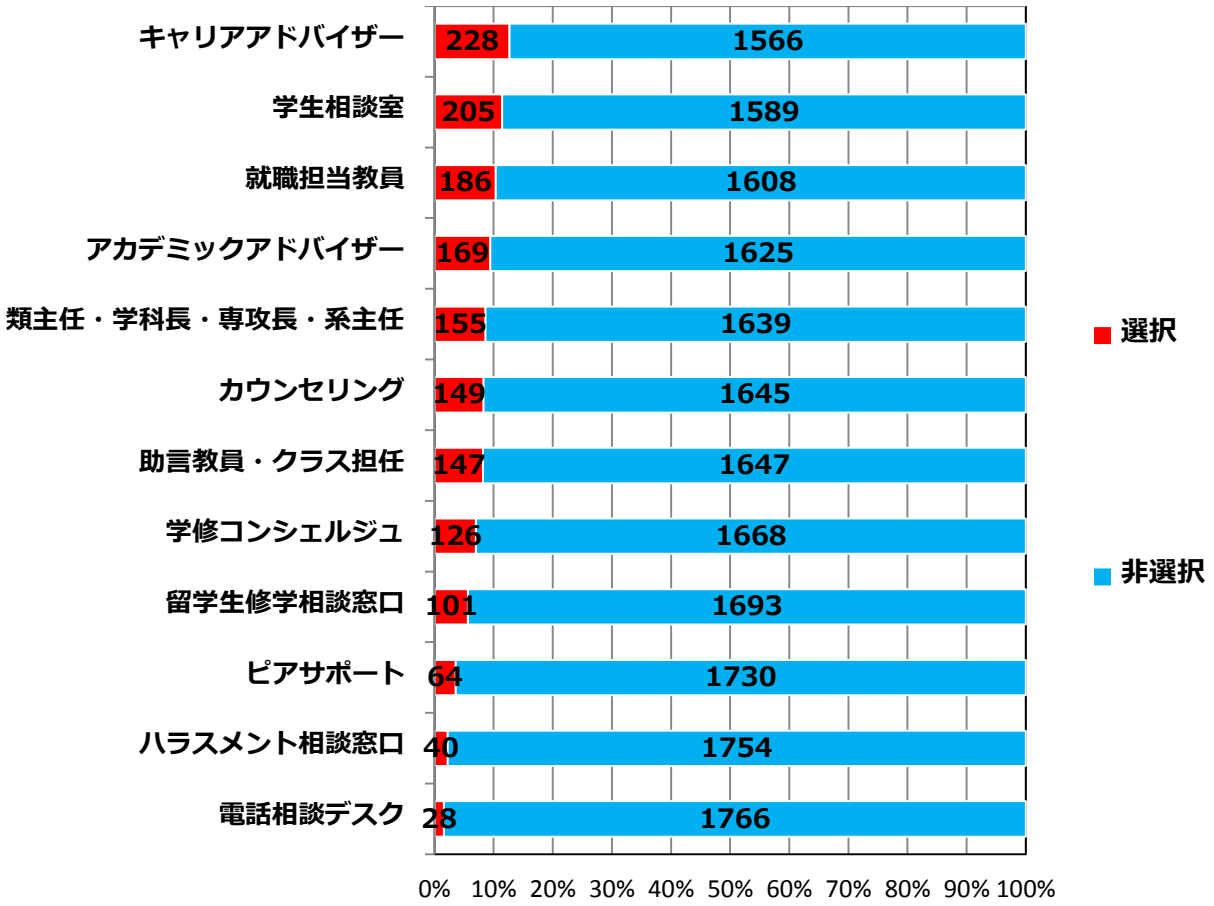

図 4-7.2 各相談窓口を利用したいと思うか

学内でハラスメントを見聞きしたことがあるかという設問に対する回答は図 4-7.3 の通りです。割合としては決して高くありませんが、ハラスメントが起きていることは無視できない事実です。また、ハラスメントを経験した、もしくは見聞きした時の自分自身や周囲の対応については、大ごとにしたくないので我慢した、見て見ぬ振りをされたといった意見があげられました。研究室での人間関係を考えて、ハラスメントを相談できない可能性や、研究の忙しさゆえにハラスメントの相談をする余裕がない可能性も考えられます。

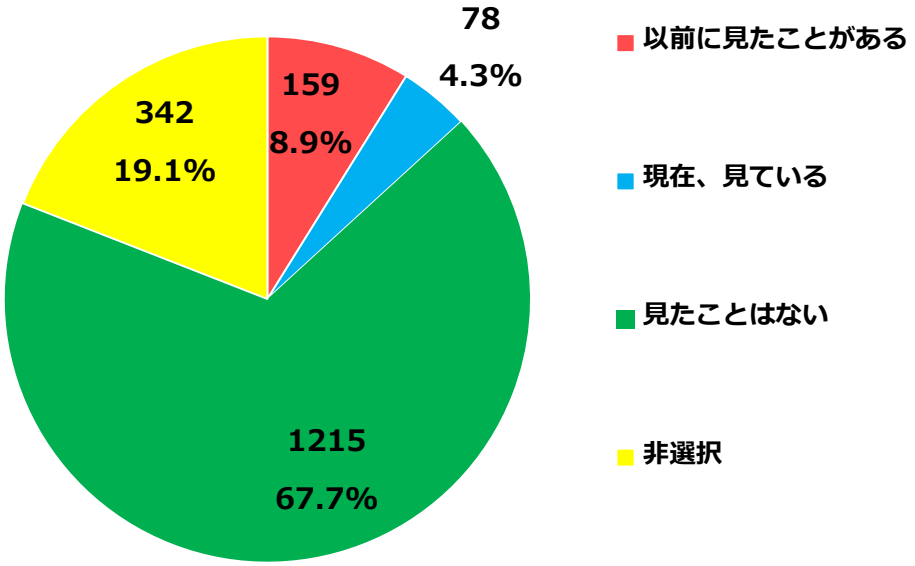

図 4-7.3「学内でハラスメントを見聞きしたことがありますか」という設問に対する回答

これらの現状を踏まえ、学生支援課とキャンパスミーティングを行い、次のような回答を頂きました。

Q1. ハラスメントが起きた時に周りも自分も何もしなかったという意見が多くなっていました。ハラスメントが起きたらどうしたらいいのかがわかっていない可能性があります。東工大ホームページのハラスメント対策のページを見れば出てきますが、事務手続きが書いてあったり、教員が担当だったりと相談しにくい部分がある可能性があるのではないでしょうか。

A1.「さよならミスマッチ」という冊子(リーフレット)を配って、窓口などに関して情報発信しています。もちろん調べればハラスメント相談に関する情報はわかるようになっています。情報管理は徹底されており、教員等に漏れることはありません。

Q2. ハラスメントにあったときは、調べられる状態ではないこともあります。入学時には気にしていなくても、いざ情報が必要になったときにどうすればいいのか分かっていないこともありうるのではないでしょうか。

A2. ホームページにさまざまな相談窓口や内容が掲載されています。たとえば、電話だけで相談できる窓口(電話相談デスク)もあります。

Q3. ハラスメントが起きたことや対処方法を公表してほしいという意見がありますが、公表は可能でしょうか。

A3. ハラスメントの事例がリーフレットに書いてあります。公表については被害者側の感情等も考慮する必要があるため、極めて慎重に対応する必要があります。

Q4. 今話して頂いた情報がワンストップで発信され、ケアが一括に受けられる場所があると良いのではないでしょうか。

A4: 保健管理センター齋藤憲司先生. 早めに相談してもらえれば良い方向に持っていけることが多いですので、ぜひいずれかの相談窓口に連絡を入れてほしいと思います。また、教職員向けに種々の研修やリーフレット配布をすすめており、その中でハラスメント防止についての周知を図っています。なお、ハラスメント相談窓口には、教員、事務職員、カウンセラー等から選ばれた 10 数名の相談員が配置されており、相談しやすい立場の方に担当を依頼することもできます。

提言

大学内にはハラスメント相談窓口があるにも関わらず、見て見ぬ振りをする事態が発生しています。入学時のオリエンテーションでハラスメントに関する説明は受けるものの、入学したばかりでは自分がハラスメントに遭うとは思わず、聞き流したり、忘れたりしてしまい、いざ自分がハラスメントにあった場合にどうすればいいかわからなくなる可能性があります。ハラスメントに遭っている学生は、相談窓口などに関する情報を自ら取得できる精神状態にない可能性や、自分の境遇がハラスメントに該当するかがわからず相談を躊躇してしまう可能性も考えられます。問題が大きくなる前に学生に相談してもらい、ハラスメントを未然に防ぐことも重要です。以上から、学生がより相談しやすい環境を作るために、次の 3 つの案を提言します。

1. 学生の目に留まりやすい場所に相談窓口の情報を配置するのが有効と考えます。具体的には、リフレッシュルームや廊下、トイレの個室に以下の 4 つの相談窓口を中心に QR コード一覧を掲示することを提言します。

   ハラスメント相談窓口：

   http://www.titech.ac.jp/enrolled/counseling/harassment.html

   保健管理センター：
   http://www.titech.ac.jp/about/organization/institute_wide_support_centers/organization01.html

   学生相談室：

   http://www.titech.ac.jp/enrolled/counseling/guidance.html

   東工大電話相談デスク：

   http://www.titech.ac.jp/enrolled/counseling/telephone.html

2. 研究室配属時に、ハラスメントに関するオリエンテーションを再度行うことを提言します。自分がハラスメントに遭ったときにどのようにすべきか、どのような解決方法があるかを知ることができるだけでなく、友人や後輩などがハラスメントに遭った場合にどのように行動するのが適切か（相談窓口を紹介するなど）も知ることができます。
3. 架空の設定によるハラスメント対応事例集を作成することを提言します。自分の現状がハラスメントに該当するのか、もし相談した場合どのように解決してもらえるのかがわかっていれば、学生はより相談しやすくなると考えられます。現在もリーフレットが配布されていますが、その説明では情報が不十分である可能性があります。学生が必要とする具体的な相談方法・窓口の対応・ハラスメント告発者の保護についての説明を充実させる必要があると考えます。

5. 施設関連

5.1. 施設一般

5 施設
1 施設一般

提言 5-1 仮眠・休憩設備の導入

学生の意見

- 1 日の睡眠時間は、約 4 割の学生が、6 時間以下となっています。(図 5-1.1 参照)
- 充実してほしい設備のデータで、仮眠室が 1 位となっています。(図 5-1.2 参照)
- 講義の課題によって徹夜を余儀なくされているが、余っている部屋を仮眠や休憩のために開放してほしい。
- 仮眠休憩設備がほしい。(同様意見 4 件)

現状分析

学勢調査 2014 の際の学生支援課とのキャンパスミーティングでは、大学側としては、仮眠室を設置しないといけないような教育は間違っていると考えるとの回答を受けました。確かに、大学内に宿泊までしなければならないカリキュラムではないですが、課題などで徹夜をしたり、研究で夜遅くまで実験したりして、睡眠不足のまま次の日を迎える人は実際少なくなく、約 4 割の学生が 6 時間以下の睡眠時間となっています(図 5-1.1)。このような睡眠不足の状態にある学生が、講義や研究に効率よく取り組むためにも、仮眠がとれるような設備が必要ではないかと考えます。さらに、「充実してほしい施設」のデータで仮眠室が第 1 位になっているように(図 5-1.2)、多くの学生は、仮眠がとれる設備が欲しいと希望しています。ただし、夜間も使用可能な仮眠施設では、そこに泊まる学生がでてしまう可能性があるため、昼間だけ使用可能かつ警備員がいる仮眠室が望ましいと考えます。

現在、睡眠不足の学生は、机に伏せて仮眠をとったり、大学内にあるいくつかのソファで仮眠をとったりしています。附属図書館には、地下 1 階の窓際に白い椅子(図 5-1.3 参照)が設置されていますが、これは読書用の椅子となっています。旧附属図書館跡地に、約 3 年後にフリースペースなど学生のための施設が建設される予定で、ここに仮眠施設を設置できる可能性はあります。すずかけ台キャンパスには、大学会館の 3 階やいくつかの施設(J2・J3 棟など)に休憩用のソファが設置されています。

海外の大学を調査すると、ミシガン大学[22]やマイアミ大学[23]、マンチェスター大学[24]、テキサス A&M 大学[25]などの大学では、図書館などに仮眠室(図 5-1.4 参照)や Sleep Pod(図 5-1.5 参照)が設置されています。これらは 1 日前などに予約が必要で、使用時間は 1 人 30 分まで等と定められています。

---

[22] ミシガン大学: https://www.michigandaily.com/news/csg-implements-first-napping-station-ugli

[23] マイアミ大学: http://www.miaminewtimes.com/news/university-of-miami-students-now-have-9-000-napping-pods-to-use-on-campus-8241336

[24] マンチェスター大学: http://www.manchestereveningnews.co.uk/news/greater-manchester-news/manchester-university-installs-futuristic-sleeping-9197533

[25] テキサス A&M 大学: http://tamucc.edu/news/2014/03/030414%20Sleep%20Pod.html#.WK5iW_mLTb0

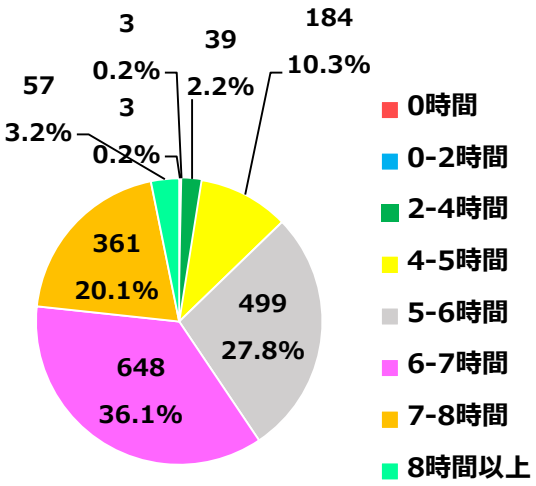

図 5-1.1　1 日の睡眠時間の回答結果

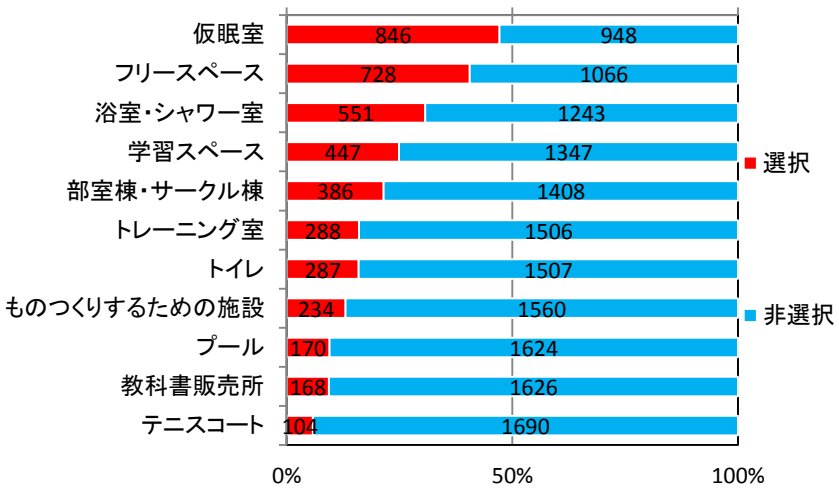

図 5-1.2　充実してほしい施設の回答結果

図 5-1.3　附属図書館の白い椅子

図 5-1.4　Napping Station（ミシガン大学）

図 5-1.5　Sleep Pod（マイアミ大学）

これらの現状を踏まえて学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 夜間は使用禁止の仮眠施設を設置できませんか。

A1. スペースがあれば、休息しやすい椅子を設置する事は可能です。昼間のみ使用できる休憩施設であれば実現できるかもしれません。

また、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 学生支援課は、夜間使用禁止の休憩スペースであれば実現可能とのことでしたが、教務課としてはどうお考えですか。

A1: 水本副学長. 私や教務課ではなく、学生支援課や附属図書館に対応して頂ければと思います。しかし、教育を運営する立場としての考えをお答えします。私は昼寝をするスペースはあればいいと思います。

A1. 徹夜をしてしまう教育が間違っていると考えていますが、そういった状況もあることは認識しており、仮眠や休憩のできる施設があってもいいと考えています。教務課としては問題ありません。

また、附属図書館とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 附属図書館に、開館時間のみ使用可能な仮眠設備を設置できませんか。

A1. 設置すると閲覧席が少なくなってしまいます。閲覧スペースと所蔵能力との兼ね合いの中で最大限努力して今の閲覧席数にしたため、追加でスペースを確保するのは難しい状況です。附属図書館は基本的に学習活動や読書のための場ですので、仮眠設備を導入することは現時点では考えていません。

Q2. 附属図書館の窓際にある白い大きな椅子を仮眠施設として活用できませんか。

A2. その椅子はリラックスしてもらうために、またくつろいだ気分で読書を楽しんで頂くために導入しましたし，そのように利用されています。あの椅子も、スペースの都合上、これ以上増やすことは難しいです。

また、理学院事務グループと工系事務第 1 グループから書面で以下のような回答を頂きました。

Q1. 学科のフリースペースの管理は、学科に任せていますか。

A1: 理学院事務グループ. 学科からの要望もあり、学科に管理を任せています。

A1: 工系事務第 1 グループ. フリースペース＝リフレッシュルーム等と理解して回答しますと、現在、各スペースの管理については系（旧専攻）ごとによって異なります。また、スペース及び共有施設において、その使用方法等における課題（整理整頓やゴミの散乱など）も報告されています。なお、大学（執行部）としての全学的な方針が示されれば、部局長等と相談のもと、仮眠・休憩設備について検討の余地はあると考えます。そのため、大学執行部からの回答が適切かと思われます。

以前の調査との比較

前回の学勢調査 2014 では、10～22 時に利用できる仮眠可能なフリースペースを設ける、もしくは特定のフリースペースの規則に仮眠可能を追加することが提言されましたが、実現されていません。

提言

教務課や学生支援課は、現状の学生の睡眠状況について認識されており、昼間のみ使用可能な休憩スペースであれば、設置に前向きな考えを示されました。しかし、大岡山キャンパスには新しく設備を導入できるだけのスペースがあまりなく、現存の施設の中に、新しく仮眠のための部屋を作るのは難しいと考えられます。そこで、附属図書館や学科のリフレッシュルームなど、いろいろな施設に、図 5-1.3 のようなあまりスペースをとらない仮眠可能な設備を導入することが望ましいと考えられます。

そこで、大学執行部に対して、大学内に仮眠設備を導入するという、全学的な方針を示していただくことを提言します。具体的には、各学科が管理しているリフレッシュルームや附属図書館などに、昼間のみ使用可能な、図 5-1.3 のような仮眠がしやすい設備の設置となります。また、盗難に備えて、図書館の受付や学科の事務に貴重品を預けられるようにすることを提言します。さらに、旧附属図書館跡地に建設予定の施設に、仮眠室もしくは、仮眠が可能な設備を導入するように検討することを提言します。

提言 5-2 講義のある祝日の施設運営

学生の意見

- 講義のある祝日も通常運営してほしい施設として、以下の意見が寄せられました。
  食堂 （7 件）
  図書館 （10 件）
  事務室 （9 件）

現状分析

今年度から、教育改革でクォーター休みができたことにより、講義を実施する祝日が増えました。しかし、学生は登校するにも関わらず、休日扱いで運営していない施設があります。学生からは、食堂や図書館、事務室も、講義のある祝日は通常通りに運営してほしいとの意見が出ています。実際に、祝日は学食も学内コンビニエンスストアも運営されていないため、学生は大学外で食事をしなければならない状況となっています。また、災害が起きた際に、学生の避難誘導をする職員が出勤していないと混乱が生じる可能性もあると考えられます。

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 現在、祝日の講義をクォーター休みにずらすなどの変更は予定していますか。施設を利用できない祝日に講義があることに関して、学生から不満の声が上がっていますが対策はありますか。

A1. 変更は予定していません。平成 29 年度はクォーター間の休みはありません。週 2 回の講義を円滑に進めるため、極力、曜日の入れ替えは行わないように講義日程が組まれています。

Q2. 講義のある祝日に施設が運営されていないことは問題と考えられていますか。災害が起きた場合どう対応するのか、マニュアルなどは作られていますか。台風が来た場合などに講義を行うか判断し、メールを配信するのはその日の朝だと思いますが、祝日はどのようにされていますか。

A2. 総合安全管理部門で,「災害時の基本行動」「大地震対応マニュアル」[26]を作成しています。台風が来て休講にするかについては、休日でも職員が連絡を取り合って対応しています。

Q3. 祝日は教務課や学生支援課などは運営されていないとの意見が上がっていますが、対策本部（災害が起こった際に設置される）の構成員の方は出勤していますか。

A3. 教務課は祝日でも通常運営しています（講義の運営に関わる部署は通常運営）。教務課の構成員は出勤していますが、学生支援課などの他の部署は休日となっているため、電話で連絡を取り合い、被害状況によって本部を設置する必要が生じた場合には、出勤します。

Q4. 来年度（平成 29 年度）の祝日講義はどのくらいありますか。

A4. 4/29（土）、7/17（月）、11/3（金）の 3 回です。

A2 で回答をいただいた、地震対応マニュアルの 30 ページに、表 5-2.1 の災害発生初動時の教職員と学生の対応をまとめた表がありました。この表では、祝日でも講義がある日は就業・就学中の区分となり、対策本部の構成員は全員出勤していることになっています。しかし祝日は、講義の運営に関わる部署以外は休日扱いとなり出勤していないため、現時点では、祝日講義の際の、教職員の災害発生時のマニュアルが作成されていないことになります。

[26] 総合安全管理センター　大地震対応マニュアル：http://www.gsmc.titech.ac.jp/jishin/jishn%20manual.html

表 5-2.1　災害発生初動時の教職員と学生の対応について（震度 6 弱以上）

災害発生の区分	教職員・学生の区分	対応措置
就業・就学中	対策本部等の構成員	帰宅せず，復旧・復興活動を行う。
	構成員以外の教職員	帰宅指示後，帰宅判断をする。帰宅後は自宅待機。
	学生	帰宅指示後，帰宅判断をする。帰宅後は自宅待機。
休日・夜間	対策本部等の構成員	出勤可能な場合は出勤し，復旧・復興活動を行う。
	構成員以外の教職員	各キャンパスに徒歩圏内（半径２km）に住む教職員は出勤し，対策本部の指示に従う。
	学生	自宅待機とする。
通勤・通学途中	対策本部等の構成員	出勤可能な場合は出勤し，復旧・復興活動を行う。
	構成員以外の教職員	出勤可能な場合は出勤する。 その後は，対策本部の指示に従う。

※ 震度５強以下の場合においても，災害対策本部の設置が決定された場合には，上記の対応をとる。

提言

曜日を入れ替えて講義を行うことがないようにするため、祝日に講義を行うことは止むを得ません。しかし、現状分析にも書いた通り、祝日講義の際に災害が起きた場合のマニュアルは作成されておらず、災害が起こった場合には、その混乱状況によっては対策本部構成員がキャンパスに到着できないなどの問題が生じる可能性があります。

そこで、祝日講義の場合の災害対応マニュアルを作成する事と、祝日講義の際に対策本部構成員が出勤する事を提言します。また、生協には、祝日でも講義のある日には食堂を通常運営していただくことを提言します。

提言 5-3 喫煙スペースへの壁の設置

学生の意見

- 喫煙所が人通りの多いところにあり、臭いが拡散していて喫煙所の役割を果たしていない。（同様意見 55 件）
- 喫煙者は隅に追いやられており、いい気分ではない。（同様意見 5 件）

現状分析

今回の学勢調査において、喫煙所を利用している人は回答者数 1794 人のうち 80 人となりました。現在、大岡山キャンパスには以下の場所に喫煙所が設置されています（図 5-3.1）。

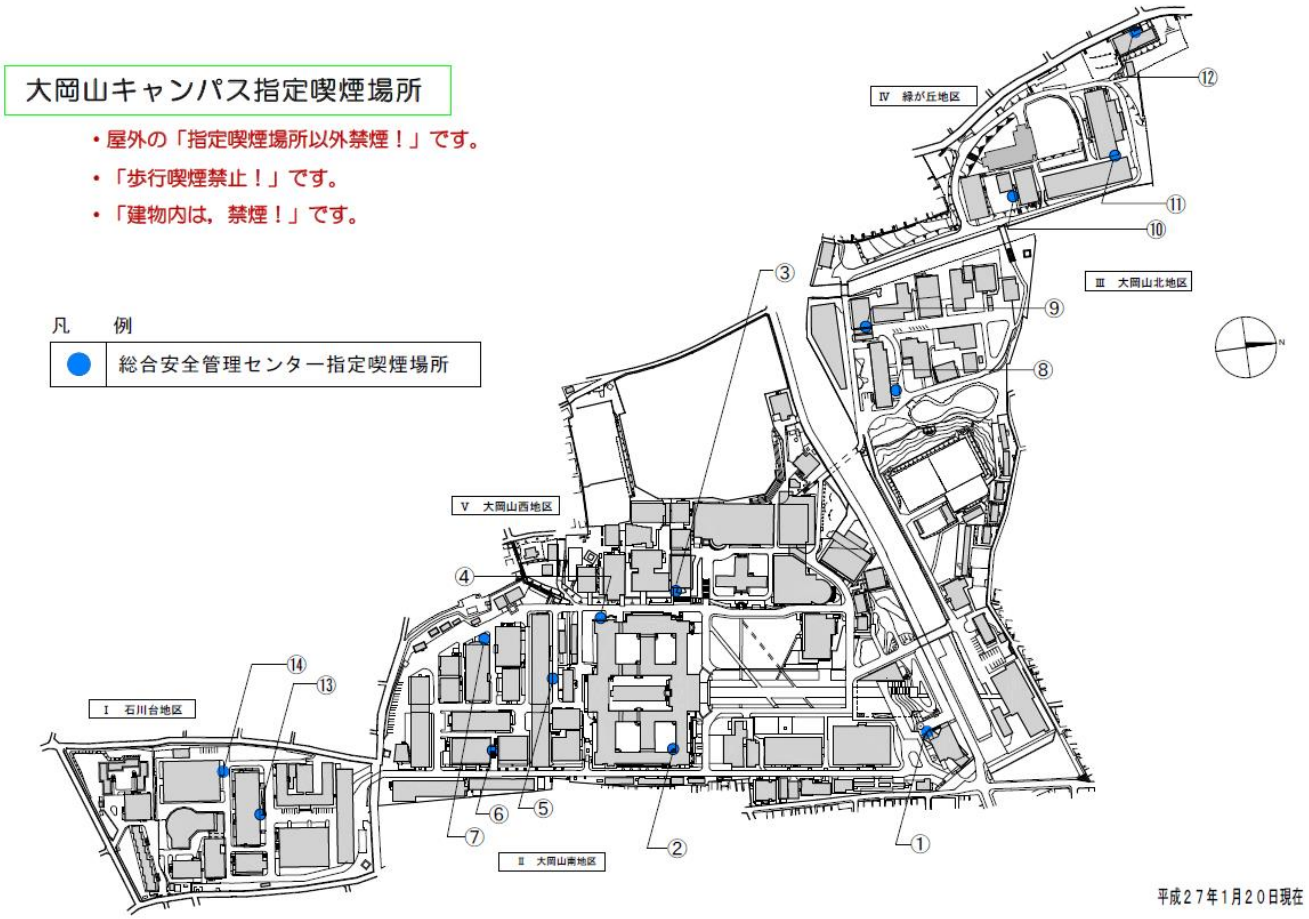

図 5-3.1 大岡山キャンパスの指定喫煙場所[27]

[27] 大岡山キャンパス指定喫煙場所：http://www.gsmc.titech.ac.jp/kituken/270121kituenmap-o.pdf

5. 施設関連

喫煙所の場所に満足しているかについて、喫煙所を利用する学生と利用しない学生で、以下の回答が得られました。

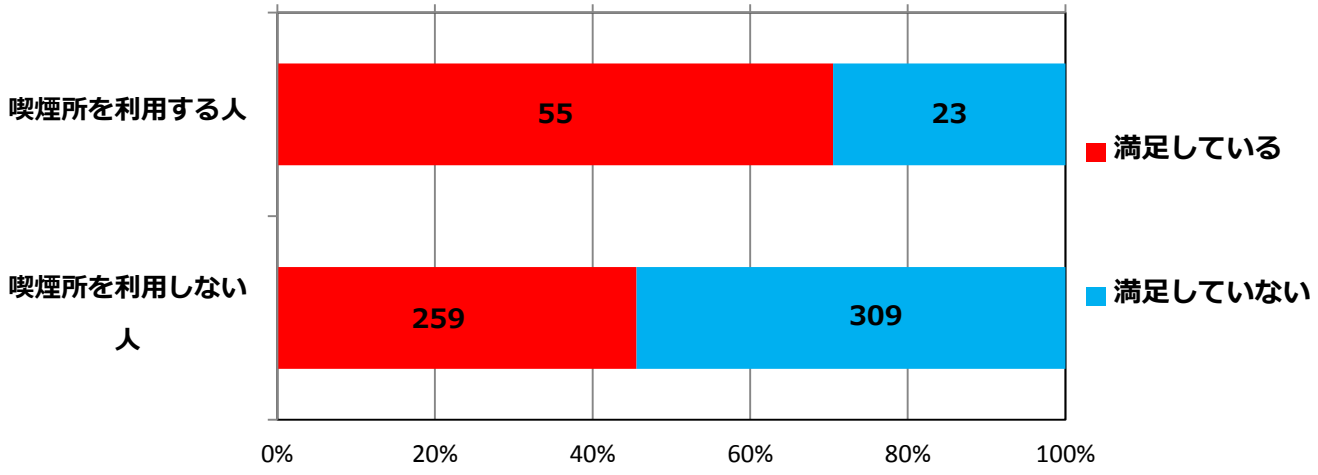

図 5-3.2 喫煙所を利用する学生と利用しない学生それぞれについての喫煙所に対する満足度の回答結果

図 5-3.2 より、喫煙をする学生は喫煙所に満足している割合が高く、喫煙しない学生は満足していない割合が高い事がわかりました。ただし、喫煙している学生の中にも、現在の喫煙所は隅に追いやられており、あまりいい気分でないという意見もありました。喫煙していない学生からは、喫煙所から臭いが拡散しているという指摘が多くありました。

また、屋外に設置された喫煙コーナーを建物から数十メートル離さないと受動喫煙を防げないというデータがあります[28]。

安全企画室から書面で以下の回答をいただきました。

Q1. 人通りの多い場所に設置されている喫煙所(正門、第 2 食堂近く)がありますが、通行量などは検討されていますか。また、何か設置に理由がありますか。

A1. 喫煙場所の設置は、当該エリアを所管する部局の安全衛生委員会で検討されます。検討結果については産業医が現場確認の上で適否を判断し、産業医の助言を受け、総合安全管理センターで審議されます。以前は相当数の喫煙場所が点在していましたが、ここ数年で大幅な見直しを行い、現在は 20 か所程度にまで削減されています。第 2 食堂近くの喫煙場所については、第 2 食堂西側の自動販売機横と、西 2、3 号館入口付近にあった 2 か所の喫煙場所を縮減させるために、風による通行者への影響の少ない現在の地に移設させた経緯があります。現在の喫煙場所は削減後の残った喫煙場所になります。正門については目隠しのある人目のつかないような場所が選択されていますが、それでも受動喫煙となって健康被害があるという事であれば、関連部署に連絡し、調査検討します。

Q2. なぜ喫煙所は外にあるのですか。周囲との間に壁や天井(屋根)は設置できませんか。

A2. これまでも不特定多数の方が利用する建物内の禁煙が厚労省の指針などで示されていました。そのため、全学的に建物内を禁煙とする方針が出されています。また、建物外への喫煙室の設置については、一部の喫煙者のための財源確保の問題に加え、東京都への建築確認申請などの難しい課題もあります。

Q3. 昨年の厚生労働省の勧告によって、教育機関の敷地内での喫煙はできないようになるのでしょうか。

A3. 平成 27 年 6 月から事業者および事業場の実情に応じ適切な措置をとることが、事業者への努力義務になりました(労働安全衛生法第 68 条の 2)。この中で、事業者は受動喫煙の現状把握と分析を行い、衛生委員会などで具体的な対策を決めて実施し、実施後は効果を確認し必要に応じて対策の見直しを行うことが望ましいとされています。本学では産業医による巡視を行って適切な指導を行い、管轄する各部局の安全衛生委員会で検討されます。厚生労働省では、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて受動喫煙防止対策の強化に乗り出しており、「敷地内禁煙」、「建物内禁煙」、「原則建物内禁煙(喫煙所設置可)」の 3 つに分け、不特定多数の人が出入りする公官庁や公共施設では「建物内禁煙」などを議論している模様です。また、これらの方針を盛り込んだ健康増進法改正案が今年の 3 月上旬に提出される見込みで、社会福祉施

[28] 国立保健医療科学院 欅田尚樹「煙防止対策の現状と課題」
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11201000-Roudoukijunkyoku-Soumuka/0000070592.pdf

設、大学、官公庁、バス、タクシーなどは「屋内禁煙」とする内容になっているようです。本学でも産業医を中心に学内喫煙について検討していますが、学内を全て禁煙にすることによる学内・学外への影響等（隠れての居室内喫煙や学外歩行喫煙や商店街への配慮等）も踏まえ、慎重に議論しています。

提言

喫煙スペースを利用しない学生からは、現状の喫煙スペースに満足していない意見が多いため、対策が必要と考えられます。また、臭いが拡散しているという指摘が多くありました。これは、健康問題に直結する可能性があるため、早急に対策するべき問題と考えられます。しかし、全ての喫煙スペースを建物から数十メートル以上離れた位置に置くことは難しく、屋内に喫煙スペースを設けることは行政上の問題があることを踏まえ、喫煙スペースの改善について以下を提言します。

- 現在存在する喫煙所が適切な場所に置かれているかについて、外部の調査機関等と連携して評価を行う。
- 喫煙スペースと人通りの多い道の間に壁（衝立）を設けることで、道路への煙の拡散を少なくし、利用者は壁から道にはみ出さないようにする。

5 施設
1 施設一般

提言 5-4 フリースペースについて

学生の意見

- フリースペースが少ない、増やしてほしい。（同様意見 14 件）

現状分析

- フリースペースとしては、附属図書館地下 1 階や西 9 号館 2 階、コミュニケーションラウンジなどがあります。
- 学科ごとのリフレッシュルームはありますが、生命理工学部のリフレッシュルームは大岡山キャンパスには存在せず、生命科学科、生命工学科の学生が主に使用できるリフレッシュルームもありません。

学生が充実させてほしい大学内の施設として、フリースペースは仮眠室に次ぐ 2 位となっています（図 5-4.1）。また、学習意欲向上に有効と思われるものとして、「自由にグループ学習できる場を増やす」を選択した学生が 211 名いました（図 5-4.2）。これらのことから、大学内での学生生活をより向上させるためにフリースペースの増設が必要と考えられます。

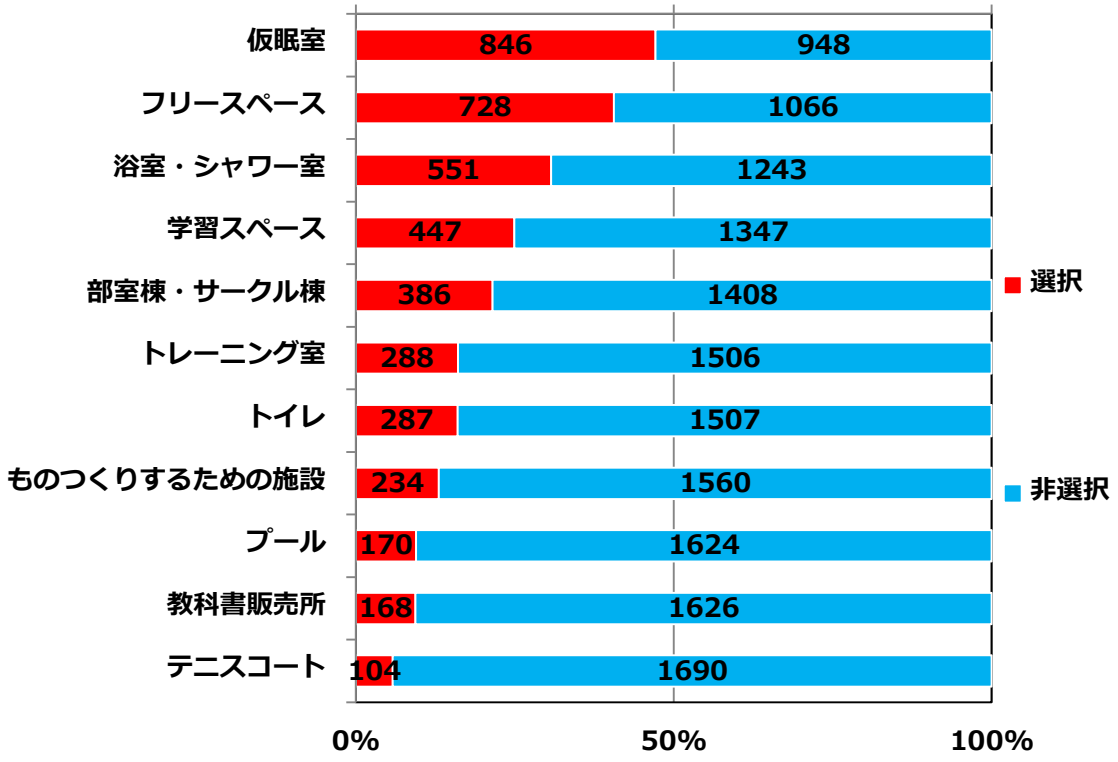

図 5-4.1 充実させてほしい大学内の施設

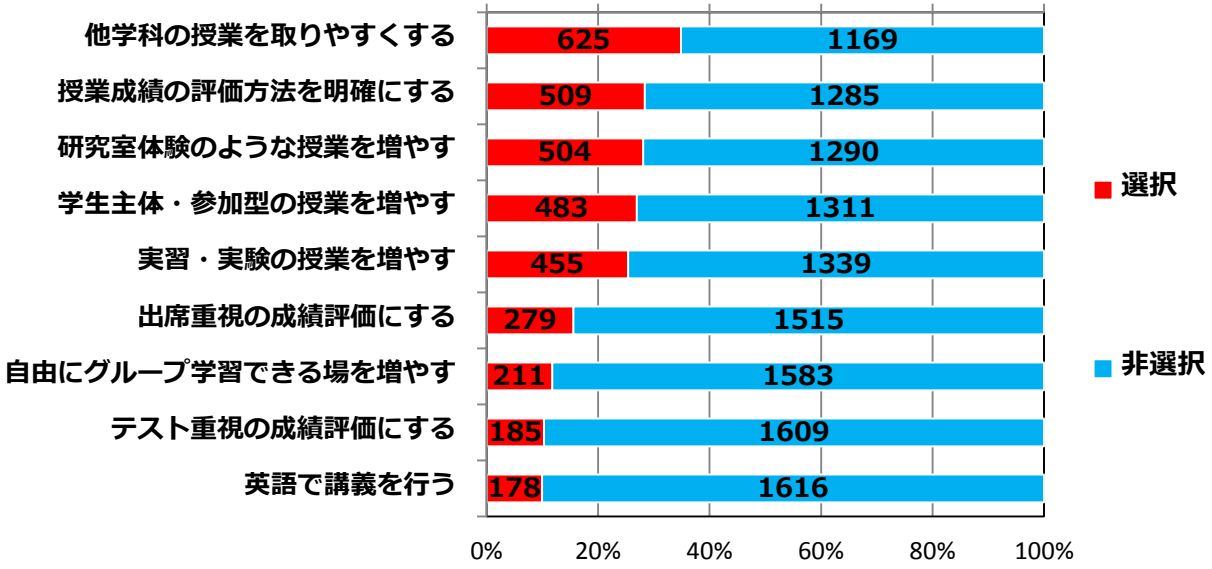

図 5-4.2 学習意欲向上に有効と思われる講義形態･施設･履修制度

これらの現状を踏まえ、学生支援課及び教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. フリースペースを増やすことは可能でしょうか。

A1.（学生支援課）

旧附属図書館跡地の利用方法については、学生からの意見を踏まえて検討中です。跡地に新しくできる建物の 1 フロアは 24 時間利用にできないかと考えています。建物の完成は約 3 年後で、学生主体に利用できる建物を考えており、留学生との交流の場にもする予定です。

Q2. 大岡山キャンパスには生命理工学部のリフレッシュルームがありません。

A2.（教務課）それは良くないと思うので検討してみます。

以前の調査との比較

学勢調査 2014 の教務課とのキャンパスミーティングで、「フリースペースの設置等を扱う部署として新しいセンターを設置する予定」とありました。

提言

現在、既存の建物内にフリースペースを増築することは難しいと考えられます。また、旧附属図書館跡地については、学生支援課主導のもと、学生の意見を積極的に取り入れた建物の建設が予定されていることがわかりました。この建物が学生のキャンパスライフをより充実したものにすることを期待するとともに、学生側もどのような施設を導入してほしいか意見を言える環境が必要であると考えます。旧附属図書館跡地に建設予定の建物についてはすでに学生との意見交換会は行われているようですが、このような意見交換会を定期的に行っていくことを提言します。

また、2018 年度以降、生命理工学院では学部 3 年生までの講義は主に大岡山キャンパスで開講される予定となっています。それにもかかわらず、大岡山キャンパスに生命理工学院のリフレッシュルームがないことは生命理工学院の学生にとって不便が大きいと言えます。旧附属図書館跡地に建設される建物の完成は約 3 年後であるため、生命理工学院のリフレッシュルームを大岡山キャンパス内に早急に設置することを提言します。

5.2. 設備一般

5 施設
2 設備一般

提言 5-5　ゴミ箱の増設

学生の意見

- ゴミ箱(図書館含む)を増やしてほしい。（同様意見 6 件）
- 図書館に消しカスを捨てるところがない。（同様意見 3 件）
- トイレのゴミ箱があふれて散らかっている。（同様意見 4 件）
- ゴミ箱を大きくしてほしい。

現状分析

大学内のゴミ箱は、屋内では講義室やトイレ、大岡山キャンパスの屋外では第 1 食堂前やなごみの広場、西 3 号館の前、第 2 食堂付近などに設置されています。屋外に設置されているゴミ箱の数は多くはありません。附属図書館では、ゴミ箱はトイレのみに設置されています。

休日にはゴミの回収が行われていないため、休日や休み明けにゴミ箱が溢れてしまうことがあります。特に屋外のゴミ箱や、附属図書館トイレのゴミ箱が溢れやすいようです。附属図書館では一口サイズのもの以外は食べることは禁止されているにも関わらず、弁当のゴミなどが捨てられていることもあります。屋外のゴミ箱は学外の利用者もゴミを捨てることができるということも、ゴミが溢れる原因の一つであると考えられます。

マサチューセッツ工科大学やジョージア大学、ハーバード大学などの海外の大学や東海大学など多数の大学が、BigBelly Solar というスマートゴミ箱(図 5-5.1 参照)を導入しています(参考文献 1,2,3 参照)。このスマートゴミ箱は、ソーラーパネルにより発電をし、ゴミの蓄積状況を、携帯電話回線網を通じてリアルタイムに報告したり、ゴミを自動圧縮したりする機能(圧縮により通常のゴミ箱の約 8 倍収納可能)を装備したりしています。このスマートゴミ箱を導入することで、ゴミが溢れることを防ぎ、ゴミ箱の設置場所の最適化を図れます。導入価格は 25～45 万円ほどですが、回収頻度を減らせるため人件費を削減ができ、費用を回収することが可能であると考えられます。

また、附属図書館では消しゴムのカスを捨てる場所がないとの意見が出ていたことから、他大学の対応を調査しました。すると、島根大学は図 5-5.2 のような、山口大学は図 5-5.3 のような消しカス入れを手作りしていました(参考文献 4-5 参照)。

参考文献(検索日:2017/02/25)

1. BigBelly Solar の販売会社: http://bigbelly.com/
2. 日本での販売会社: http://www.nsw-cloud.jp/cloud/service/m2m/bigbellysolar/#topic
3. 東海大学での導入: http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/takanawa/news/detail/post_300.html
4. 島根大学: http://www.lib.shimane-u.ac.jp/blog/blog.asp?disp=Bl326&ttl=%8F%C1%82%B5%83J%83X%93%FC%82%EA%81A%82%B2%97%98%97p%82%AD%82%BE%82%B3%82%A2
5. 山口大学: http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/blog/index.php?e=503

図 5-5.1　BigBelly Solar

図 5-5.2　島根大学の消しカス

図 5-5.3　山口大学の消しカス入れ

図 5-5.1 は参考文献 3 より、図 5-5.2 は参考文献 4 より、図 5-5.3 は参考文献 5 より、引用しました。

これらの現状を踏まえて学生支援課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. どのくらいの頻度でゴミは回収されていますか。ゴミ箱が溢れていることをどう考えていますか。

A1. 収集するのが火曜日と金曜日なので、学外の方が土日にゴミを捨てることによって、月曜などに溢れることもあるようです。清掃契約は財務部担当となっており、今あるゴミ箱の配置を精査して、場所を検討中とのことです。ただ、設置箇所を増やすとゴミがさらに捨てられる問題もあります。情報の周知の徹底を行いながら、設置の検討をしていくとのことです。年末年始にゴミ箱が溢れるのも、学内者ではなく学外者が捨てている可能性もあります。そうすると入構規制をする必要がありますが、現状では厳しい状況です。

Q2. 休日に清掃員を雇うことは可能ですか。

A2. 休日だと大学側で管理するのが難しく、費用もかさむので難しいです。

Q3. スマートゴミ箱の設置は可能ですか。

A3. スマートゴミ箱は費用がかさみます。

また、情報図書館課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. どのくらいの頻度でゴミを回収していますか。土日は回収していますか。

A1. 平日は毎日回収していますが、休日は回収していません。休み明けにトイレのごみが溢れていることもあります。土曜日の午後や日曜日の朝あたりからゴミが溢れ始めます。図書館の 2,3 階は一口サイズのもののみ食べることは可能ですが、食べ残しや弁当のゴミなどが捨ててあることもあります。ゴミは持ち帰るように掲示していますが、あまり効果がありません。

Q2. 今よりも大きなゴミ箱に変えることや、ゴミ箱の数を増やすことはできますか。

A2. 旧附属図書館では、各階にゴミ箱を置いていましたが、使われ方が悪い問題がありました。人がいるカウンターの前にも置いていたのですが、使われ方が悪いままであったため、結局トイレだけに置いています。トイレのゴミ箱も溢れますが、さすがにゴミ箱をすべてなくすことはできないという状況です。多少大きなゴミ箱にすることは可能ですが、学生のマナーの方を改めてほしいです。また、衛生面の問題もあるので、ゴミ箱をトイレの外には出したくありません。

Q3. 休日は、図書館スタッフやバイトの学生にゴミの回収をしてもらえないですか。

A3. 学生スタッフ(図書館サポーター)は、基本的に平日の 17 時までの勤務です。月 20 時間以内で講義の合間にできることという方針のためです。休日は契約した外部業者に業務をお願いしています。契約上、ゴミの回収は休日スタッフの業務に含まれていませんが、今後、見直しができるかもしれません。

Q4. 休日はゴミ箱を撤去するもしくは、金曜日の夜にゴミ箱を閉じてしまうことは可能ですか。

A4. 休日のゴミ箱撤去や、金曜日の夜にゴミ箱を閉じることは検討できます。

Q5. 附属図書館における消しカスの処分について不満が上がっていますが、図書館は消しカスの掃除はどのようにしていますか。また、消しカス回収専用の小さなゴミ箱や塵取りなどをおいてもらえないでしょうか。

A5. 消しカスの掃除は、朝に清掃業者の方がしています。学生スタッフに紙でゴミ箱を作ってもらって、そこに捨ててもらうのはどうでしょうか。

提言

以上を踏まえて、以下の 4 つを提言します。

- 屋外のゴミ箱が休日や休み明けに溢れてしまう問題に関して、現在屋外にあるゴミ箱に変えて、BigBelly Solar 等のスマートゴミ箱に置き換えることを提言します。
- 附属図書館のトイレのゴミ箱が同じく休日や休み明けに溢れてしまう問題に関して、学生には、附属図書館のゴミ箱は消しカスやティッシュを捨てるために設置されているものであり、ペットボトルや弁当のゴミを捨てるところではないと改めて認識してもらうためにマナーを守るよう呼びかけることを提言します。
- 附属図書館には、一口サイズ以外の食べ物を食べることが禁止されていること、附属図書館にゴミ箱がある意味などが学生にはあまり伝わっていないという現状を踏まえ、学生に伝えたい情報や学生に守ってもらいたいマナーについての大きなポスターを入口など目につきやすい場所に貼ることを提言します。

- 消しカスを捨てるところがほしいという学生の意見に関して、他大学のように（図 5-5.2 や図 5-5.3 など）、附属図書館の学生スタッフが消しカス入れを作成し、机に設置し、自由に使用可能とすることを提言します。また、学生スタッフが集めた消しカスを回収して捨てる業務をすることを提言します。

提言 5-6 プロジェクター設備の拡充

学生の意見

- 「東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。(複数選択可)」において「施設の環境の向上」が一番高かった。(図 5-6.1 参照)
- プロジェクターに HDMI を対応させてほしい。
- プロジェクターの故障など、施設上の問題への対処が追い付いていない。

現状分析

いくつかの講義室(本館の H101 や H201 など)で、一部のパソコンとプロジェクターの相性が悪いことや、プロジェクターの端子が最新のパソコンに対応していないことが原因で、プロジェクターを使用できないことがあり、講義運営にも支障が出ています。インテル社によると、2010 年から、大手のパソコンメーカーは VGA から HDMI や DisplayPort に移行しており[29]、VGA のプロジェクターは時代遅れとなってきています。特に、薄型のパソコンは VGA に対応していないものが多いため、接続するには別途アダプターが必要となることがあります。また、Mac では Thunderbolt や Mini DisplayPort と USB を兼ね備えたものなど、3 種類ほどバージョンがあります。端子変換アダプター(VGA から HDMI など)などは、プロジェクターを新しく購入するより、安価に購入することが可能です。

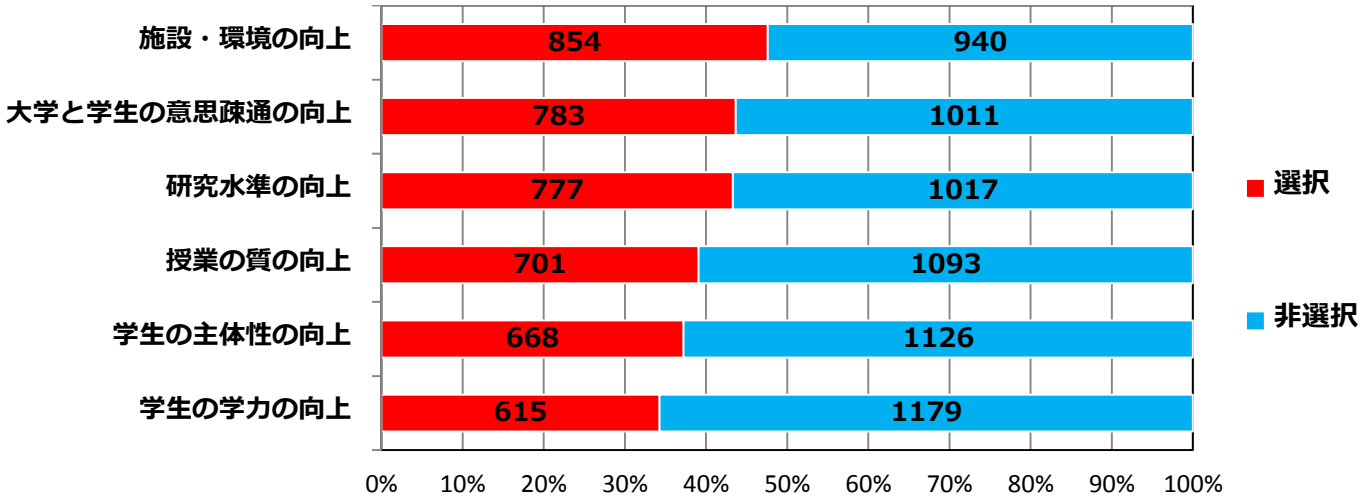

図 5-6.1 東工大をよりよい大学にするために、必要と思うものの回答結果

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 2010 年より VGA から HDMI や DisplayPort に移行する動向がありますが、HDMI ケーブルや Thunderbolt ケーブルに対応したプロジェクターや、変換アダプターを各教室に拡充できませんか。

A1. 教務課では各講義室の老朽化したプロジェクター等の機器を年次計画で更新を行っており、その際に HDMI 端子を設置するなどのデジタル化も併せて行っています。

Q2. すべての講義室を HDMI に対応させられますか。

A2. 順次変えていきますが、具体的にいつ完了するかは未定です。

---

[29] インテル社 ニュースルーム
「Leading PC Companies Move to All Digital Display Technology, Phasing out Analog」:
https://newsroom.intel.com/news-releases/leading-pc-companies-move-to-all-digital-display-technology-phasing-out-analog/

さらに、パソコンとプロジェクターの相性が悪いと、プロジェクターに映すことができない原因について、水本副学長から、以下のような解説を受けました。

A2: 水本副学長. コンソール付のプロジェクターだと、PC のソースの出力解像度が低いとプロジェクターに映りません。コンソールの仕様の問題です。また、VGA から HDMI に変換するアダプターと、PC のメーカーが異なると映らないことがありますが、これはアダプターが PC から電源を取っている場合に、PC がその電源をサポートしてないと問題が起きます。

提言

プロジェクターを使用して講義を行っている教員が少なくない中、プロジェクターがパソコンに対応しておらず使用できない場合があるのは不便であり、講義運営にも支障をきたします。しかし、全てのプロジェクターを新しくすることは、予算的に厳しいと考えられます。

そこで、全ての講義室のプロジェクターを調査し、端子が最新のパソコンに対応してない場合は、変換アダプター(HDMI や Thunderbolt への変換)やケーブルを設置することを提言します。また、パソコンとプロジェクターの相性が悪い場合に備えて、パソコンの貸し出しを行うことを提言します。

5.3. 図書館

5 施設
3 図書館

提言 5-7　図書館の開館時間の延長

学生の意見

附属図書館の開館時間の延長に対する要望が 53 件ありました。

- 朝早くから開館してほしい。(同様意見 10 件)

主な理由：　1 限前に講義の予習をしたいから。

- 遅くまで開館していてほしい。（同様意見 9 件）

主な理由：　研究室の帰りに利用したい。

- 24 時間開館してほしい。（同様意見 14 件）

主な理由：　海外の大学の図書館は 24 時間開放しているところも多く、海外の大学に倣ってほしい。

社会人学生は夜間や祝日の登校がメインであるため、24 時間開館していると利用しやすい。

- 自習室のみでも開館時間を延長してほしい。
- 祝日で講義がある日は平日と同じ開館時間にしてほしい。（同様意見 10 件）
- 土日の開館時間を平日と同じにしてほしい。（同様意見 9 件）

現状分析

現在の附属図書館(以下、図書館)の開館時間は以下のようになっています(表 5-8.1)。

表5-8.1　東工大図書館の開館時間

	大岡山キャンパス	すずかけ台キャンパス
通常平日	8:45-21:00	8:45-21:00
土日	11:00-19:30	11:00-17:00
祝日授業の日	11:00-19:30	11:00-19:30
長期休み	8:45-17:00	8:45-17:00

図書館の開館時間に対する満足度について尋ねたところ、図 5-7.1 に示す回答が得られました。

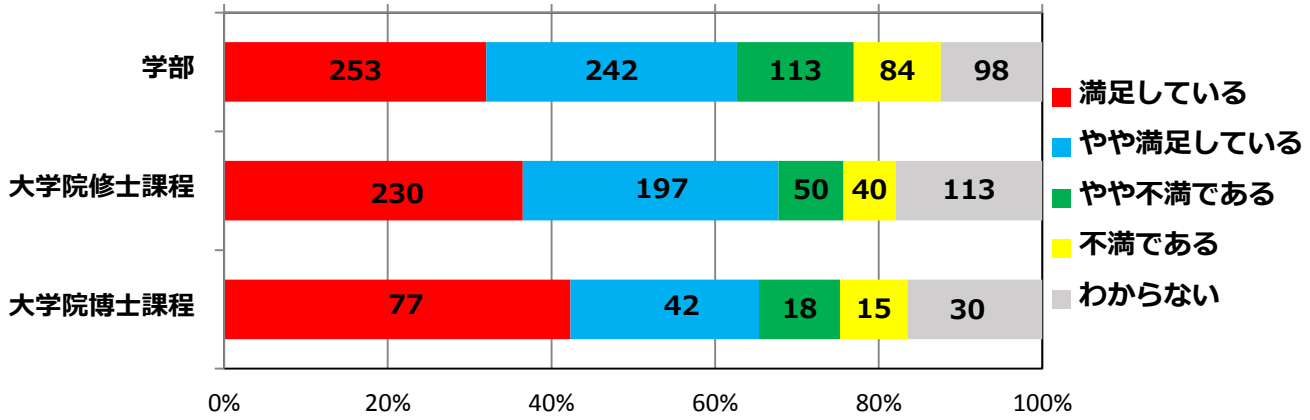

図 5-7.1　図書館の開館時間に対する満足度についての回答結果

「満足している」、「やや満足している」という回答が多いですが、一方で、「やや不満がある」または「不満である」と回答した学生も 15～25%ほどいることがわかりました(図 5-7.1)。

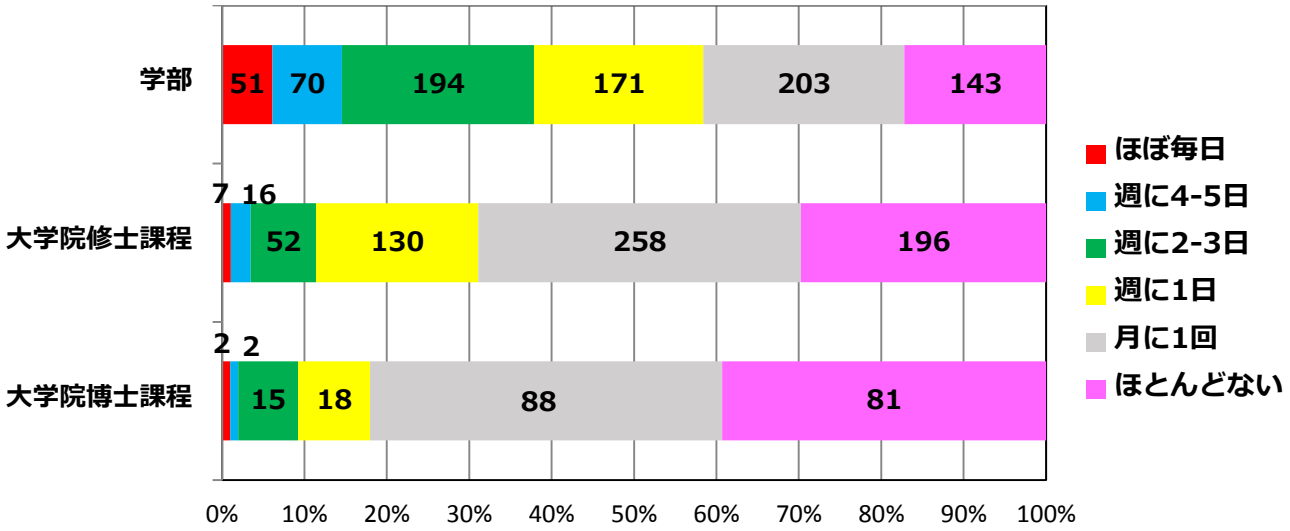

図 5-7.2　図書館の利用頻度についての回答結果

図書館を利用する頻度について尋ねたところ、以下の回答が得られました。学部生は「週に 2～3 日利用する」、「週に 1 日利用する」「月に 1 日利用する」が多いですが、大学院生は「月に 1 回」、「ほとんどない」が多くなっています（図 5-7.2）。

また、図書館を利用する学生の主な目的について、図書館の本の借り出しか自習学習かについて、前回学勢調査 2014 の結果は以下のようになっています。

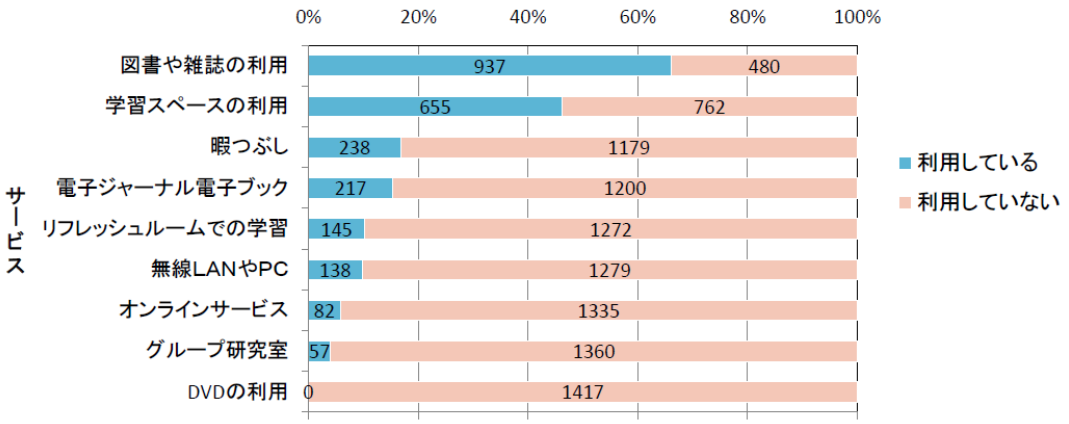

図 5-7.3　図書館の利用状況（大岡山キャンパス）（2014 年度）

図 5-7.3 より、学生の図書館利用状況は「図書や雑誌の利用」、「学習スペースの利用」が多いことがわかります。

また、開館時間の延長に関する要望は、学勢調査 2012 では 65 件、学勢調査 2014 では 62 件であったのに対し、今回の調査でも 51 件あることから、依然として開館時間の延長に対する要望が多いことがわかりました。

これらの現状を踏まえ、情報図書館課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 現在の図書館利用者数、利用時間はどのようになっていますか。

A1. 試験期間以外の平日は 20 時を過ぎると利用者が一気に減ります。また、試験期間中も 21 時を過ぎると利用者数が約 10 分の1になります。試験期間中の午前中の利用者数も少ないです。また、地上の利用者は少ないので、開館時間を延長するのであれば、地下のみでよいのではないでしょうか。

Q2. 夜間や朝早くに開館時間を延長する場合、何が問題になるのでしょうか。

A2. 開館時間を延長するには光熱費や人件費もかかるので難しいですが、安全面が一番の問題です。一番危惧しているのは学生が泊まる場所として使うことであり、その場合は厳重な警備が必要となります。そうすると人件費の問題も発生します。

学勢調査 2014 での提言を受けて、土日の開館時間を延長しましたが、今年度からクォーター制になって試験期間が増えたことにより、経費が増加しています。海外の大学では 24 時間開館しているという指摘がありますが、それは学内に寮があるためにキャンパスが安全に保てているためと考えられます。

なお、祝日講義の開館時間について、来年度は 9:00～20:00 に改善する予定です。朝早くから開館することについては、掃除をしている中でも利用したいのであれば可能かもしれません。

日本にも、図書館の一部を 24 時間開館している大学があり、その一つが京都大学の自習室 24 です。開館時間は月曜日-金曜日 10:00～22:00、土日祝日 10:00～19:00 です。学習室 24 はラウンジスペースと自習席スペースからなっており、自習席の席数は約 100 席です。京都大学附属図書館に利用状況や開館にあたっての注意点について伺いました。

Q1. 具体的に 24 時間開館していることによって生じる問題(安全や学生の利用マナーなど)についてどのように対処されていますか。

A1: 京都大学. 学習室 24 の入口は図書館本体とは別になっており、身分証の認証によって開閉する自動ドアになっています。退室時にも認証が必要です。図書館本体が閉館している深夜は、警備会社のガードマンが 1 名、ラウンジスペースに常駐しています。

学生のマナーについては、深夜に限ったことではないですが、荷物を放置したまま帰ってこない学生がいるため、特に試験期等は、他の学生から対応を求められることがあります。また、ラウンジスペースは飲食可にしています(他の館内エリアも蓋付飲物なら可)が、ときに臭いの強い食べ物を摂られる事があり、他の利用者からクレームが出ることもあります。

Q2. 学生の時間ごとの学習室 24 の利用割合についてご存知であれば教えていただけますか。

A2: 京都大学. 京都大学図書館報「静脩」に、休業期と試験期の夜間平均在室者数を載せています(平成 25 年度のデータ[30]として、試験期の 22 時～8 時は 50～80 名、休業期の 22 時は約 40 名で 8 時には 10 名ほどに減っている)。学習室 24 の利用者数は平成 26 年度を底に、翌年度から増加に転じています。

提言

図書館の開館時間について、現状に満足している学生が多いものの、不満に思っている学生も一定数いることから、改善が望まれます。また、研究室の帰りに利用したいという学生の意見から、開館時間の延長は研究の促進に役に立つと考えられます。

現状の学生の利用状況としては 20 時以降が少ないとのことですが、これは 21 時に閉館するためであり、閉館時間を遅くすると 20 時以降の利用者数が増える可能性があります。また、早くから開館していると学生が 1 限前に予習ができるという意見もあることから、図書館の開館時間について以下を提言します。

- 通常の開館時間は 8:20～22:00 にする。
- 土日の閉館時間を 20:00 にする。

さらに、自習室を 24 時間開館してほしいという学生の意見と、京都大学附属図書館の学習室 24 の夜間利用者数が年間を通してのべ 17 万人ほどいる[30]ということから、以下について提言します。

- 試験期間中のみ、試験的に自習室を 24 時間開館にし、どれくらい利用されるのかを調べる。

[30] 京都大学図書館報「静脩」:http://hdl.handle.net/2433/189268

5 施設
3 図書館

提言 5-8 図書館への給水施設の設置

学生の意見

- 図書館の近くに自動販売機を設置してほしい。（同様意見 2 件）
- 2,3 階の学習スペースに水飲み場(飲食含む)がほしい。（同様意見 4 件）

現状分析

現在、附属図書館の館内や周辺に自動販売機や給水所がないため、学生から設置が求められています。また、平成 27 年 1 月、地上階の学習スペースはリニューアルオープンによって水分補給が可能になり、コーヒーを飲みながら学習ができると宣伝されていますが、館内で飲料を購入することはできません。給水は学習効果を上昇させるとの報告もある[31]ため、学習室の近くで水分を摂取できる設備が必要と考えられます。また、夏期は附属図書館地上階にあるガラス張りの学習スペースは暑いとの声も上がっており、熱中症対策としても有効であると考えられます。

これらの現状を踏まえ、情報図書館課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 館内に自動販売機や給水所を設置できませんか。2 階をリニューアルした際に、自動販売機を置くなどの検討はされましたか。

A1. 自動販売機の設置は検討しました。しかし、自動販売機の業者から売り上げなどを考えて断られました。電気をどう取るかも問題です。1 階だと車椅子が通れなくなり、広い場所だとコンセントがなかったり、コンセントがあるのが非常ドアの近くで置けなかったりします。自動販売機は、第 1 食堂の近くには自動販売機があり、図書館に近いので設置は厳しいと思います。給水施設については、どこから水を取るかが問題になり、今は導入できません。

Q2. 附属図書館の周辺に自動販売機は設置可能ですか。

A2. 景観やスペース、電源等の問題もありますので、施設運営部等学内他部署との相談が必要になります。

Q3. 今後も自動販売機を設置することは厳しいでしょうか。検討もされませんか。

A3. 自動販売機を置いてほしいという声が大きいようであれば、検討します。

提言

現状では自動販売機の業者との問題や設備の問題があるため、附属図書館内に自動販売機や給水器を設置するのは難しいようですが、学生からの需要や、現状分析を踏まえると、給水設備の導入が望まれます。

そこで、附属図書館への自動販売機や給水器の導入を再度検討することを提言します。

[31] J Sch Health. 2016 Jun;86(6):407-13. doi: 10.1111/josh.12391.
https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/27122140

5.4. 生協

5 施設
4 生協

提言 5-9　ヘルシーメニュー等の充実

学生の意見

- 脂っこいメニューが多いので、野菜を増やして欲しい。（同様意見 95 件）
- ハラルフードは導入されつつあるが、糖質中心で、タンパク質や野菜などは未だ少ない。（同様意見 28 件）
- ベジタリアン向けのメニューが少ない。
- 栄養バランス良く食べようとすると値段が高くなる。（同様意見 24 件）

※弁当に対する意見も含む

現状分析

現在の学食メニューに対し、脂っこいという意見、野菜中心のメニューを増やして欲しいという意見が多数見受けられました。ヘルシーメニューを求めるのは女子学生が多いのではないかと考え、性別によってどのようなメニューを求めているのかを調査しました(図 5-9.1)。

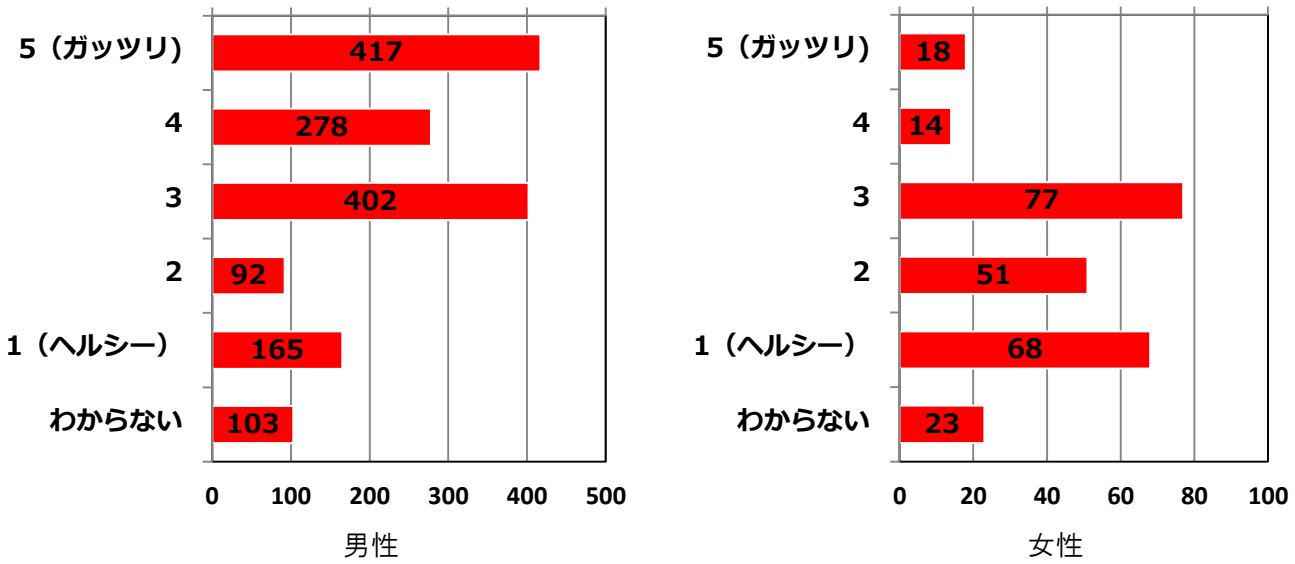

図 5-9.1 「学食のメニューに求めるものは何ですか？」という質問への性別ごとの意見

図 5-9.1 からわかるように、女子学生はヘルシーな食事を求める割合が多くなっています。男子学生は量やカロリーを求める割合が多いものの、一定数はヘルシーさを求める学生もいることがわかりました。本学は男子学生の比率が多く、販売数でみれば量やカロリーの多いメニューが多く売れると予想されます。そのため、ヘルシーなメニューを求めている学生から意見が寄せられたと考えられます。現状では、大岡山キャンパスの生協ではサラダは販売されていません。すずかけ台キャンパスの生協ではサラダが販売されています。

さらに、ハラル推奨メニューについても調べてみたところ、次のような現状となっていました。

- 全国大学生活協同組合連合会のホームページ[32]「ハラル推奨メニューの提供について」では、大皿のものばかりで、サラダなどは見つけられなかった。
- 東工大生協では、ムスリムの学生と共同でハラル推奨メニュー試食会を開催している。[33]

[32] 全国大学生活協同組合連合会「ハラル推奨メニューの提供について」
http://www.univcoop.or.jp/service/food/halal.html

これらの現状を踏まえ、生協とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 前回の学勢調査 2014 でのキャンパスミーティングでは、栄養バランスをよくするために小皿メニューの利用を推奨という方針でしたが、実際に小皿の売り上げはどのようになっていますか。

A1. 第 1 食堂におけるコールドショーケースの配置換えや小皿メニューのポスター掲示などにより、小皿やサラダの売り上げは増加しています。

Q2.サラダバーの復活は可能ですか。

A2. 衛生面の問題やコールドショーケースの導入を考慮すると難しいです。他大学ではコンビニエンスストアでサラダを買う学生が多いところもあるとの話があります。食堂にパッケージングされたサラダを置くことは検討できます。

Q3. ハラル推奨メニューを増やすことは可能ですか。

A3. ハラル推奨メニューを増やすよう努力しています。非ムスリムの学生が、自分たちは食べてはいけないのではないかと考え、そのようなことはないのですが、避けてしまうこともあってハラル推奨メニューを増やすのが難しいという現状です。

Q4. 女性向けのメニューを販売することは可能ですか？

A4. 過去に女性向けメニューを試験的に販売したことがありましたが、売り上げは良くありませんでした。東工大は男子学生が多いので、どうしても揚げ物や肉などが中心になります。ただ、魚のメニューもあり、今後増やしていく予定です。第 1 食堂と第 2 食堂でメニューの傾向を変えることならできるかもしれません。

以前の調査との比較

前回の学勢調査 2014 において、次のような提言をしています。

5.20 ヘルシーメニューの充実

小皿メニューをレジ周辺の目につきやすいところに設置すること、張り紙で宣伝する

5.23 ハラルメニューの充実

ハラルメニューの種類の充実、ハラルメニューの一般化に向けた環境づくり

5.20 は現在実施されています。図 5-9.2 は大岡山キャンパス第 2 食堂に掲示されているポスターの写真であり、出食を待つ列に並んでいる学生が見ることのできる位置に貼ってあります。

図 5-9.2 第 2 食堂の出食列の壁に掲示されている小皿メニューのポスター

[33] 東工大ニュース ハラル推奨メニュー試食会開催～ムスリム留学生が楽しく利用できる学食へ：
http://www.titech.ac.jp/news/2013/023781.html

提言

女子学生の増加や、グローバル化により、食堂メニューへの要望は多様化していると言えます。多くの利用者に配慮したメニューを提供することで、より生協食堂を活気づかせることができると考えられます。学業や研究に励み、将来社会で活躍する人材になるには体が資本であり、日々の食事は非常に大切です。そのためには揚げ物などだけではなく、野菜などの摂取も重要であり、ヘルシーメニューやサラダなどが購入しやすい環境になることが大切だと考えられます。これまで生協では様々な改善策をとっており、実際に、2014 年度に比べて 2016 年度ではサラダの売れ行きは増加傾向にあります。ヘルシーメニューのさらなる充実に向けて、次の 2 つを提言します。

- すずかけ台キャンパスのように、大岡山キャンパスの生協食堂にも、パッキングされたサラダを販売することを提言します。
- ハラル推奨メニューの充実には、売り上げ確保が重要です。ムスリムではない学生も利用可能であることをアピールする必要があると考えます。非ムスリムの学生も購入可能であることを宣伝し、利用対象を全学生に拡充することで、ハラル推奨メニューを充実することを提言します。

5 施設
4 生協

提言 5-10 食堂における混雑の解消

学生の意見

- 昼食時、非常に混んでいる。（同様意見 103 件）
- 食堂が混雑しているため座れないことがある。（同様意見 31 件）
- 下膳用のベルトコンベアが遅い。（同様意見 3 件）

現状分析

大岡山キャンパス、すずかけ台キャンパスの生協食堂を利用する学生は多く、半数近くの学生が昼食を生協食堂でとっています(図 5-10.1)。

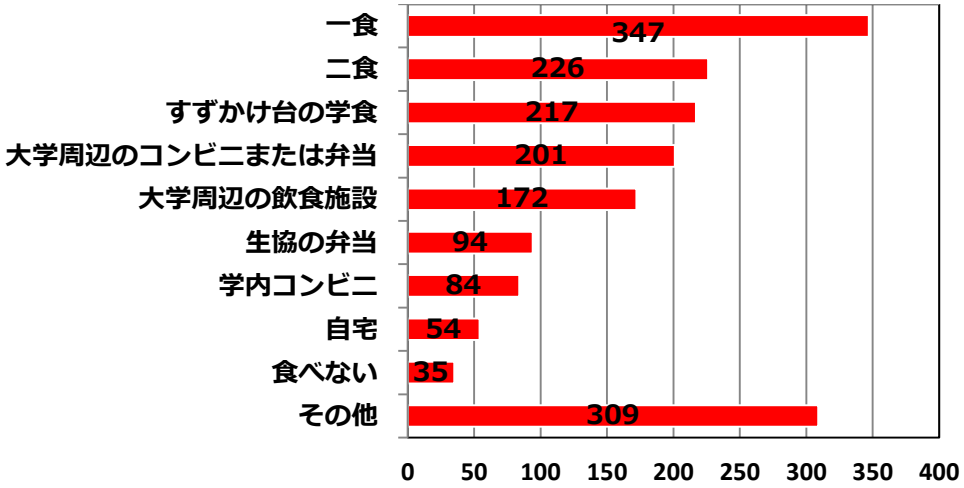

図 5-10.1 本学学生が主に昼食を食べる場所

また、週に 3、4 回以上生協食堂を利用する学生も半数近くおり(図 5-10.2)、学生にとって生協食堂は欠かせない存在であると言えます。

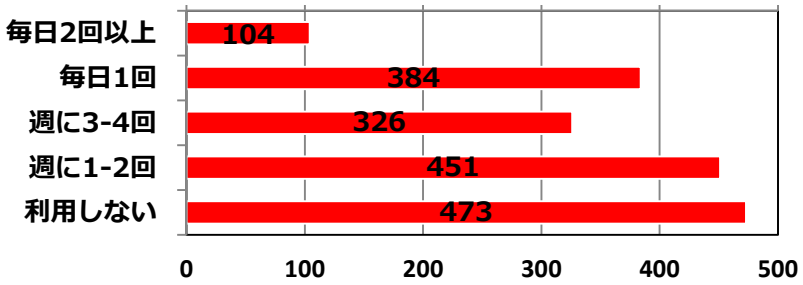

図 5-10.2 本学学生の学食利用頻度

ただ、利用学生が多い分、特に昼休みなど昼食時が混雑してしまい、利用しづらい面もあると考えられます。食堂の混雑の原因として、以下の事柄が考えられます。

- メニューの値段が 1 円単位のため、レジでの小銭の支払いに時間がかかっている
- すずかけ台キャンパスの食堂では、2 階がカフェとなったことで、利用できる座席数が減った
- 出食スペースでの混雑

これらの意見を踏まえ、生協とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 下膳のベルトコンベアの速度を速めることは可能でしょうか。

A1. その後の食器の仕分け等は人力で行っているため、ベルトコンベアの速度を上げるのは難しいです。

Q2. メニューの値段を 10 円単位にすることは可能でしょうか。

A2. 消費税が導入された際に、基本的に外税にしました。現場での価格変更は可能ですが、全てのメニューの価格を 10 円単位にするのは大変で、値上げの可能性も生じます。それよりは、IC カードを使って欲しいと考えています。学食パスは新入生の 30～40%しか利用していません。

Q3. 学食パスのチャージ機を学食近くに設置することは可能でしょうか。

A3. 学食パスに関しては手作業でチャージの記録を取っており、システムを変えることは難しいです。また、レジのせいで混雑しているわけではなく、出食（メニューを注文し、厨房から提供してもらう段階）のスピードによると考えています。出食のスピードを上げるには簡単に出せるメニューを増やせばいいのですが、それが美味しいと感じていただけるかという問題があります。

Q4. 座席数を増やすことは可能でしょうか？

A4. 本学は他大よりも座席密度を高くしており、これ以上座席数を増やすのは難しいです。院生などは学部生と時間がかぶらないように来てくれています。

提言

ベルトコンベアの速度上昇や、食堂付近の学食パスチャージ機の設置等は、システム上難しく、かつ混雑解消の根本的な解決方法にはならないことがわかりました。回転率を向上するために次の 2 つを提言します。

- 学部1～3 年生の主な利用時間である昼休みと被らないような院生・教員利用推奨時間を設け、ポスターで周知を図る。
- 厨房スタッフの増員を提言します。例えば第 1 食堂は厨房が広く、厨房スタッフを増やすことでより効率的に出食できるようになると考えられるので、食堂が混雑する昼休みの時間の厨房スタッフ増員を提言します。

6. 調査資料集

本章では、2016 年 10 月 18 日から 11 月 17 日にかけて行われた学勢調査 2016 アンケートの集計結果を掲載します。ここに掲載する集計結果は、自由記述回答の設問以外の全てです。集計結果のグラフや表中の数字は該当選択肢への回答者数です。今回の総回答者数は 1794 名です。一部の設問は表記の都合上、実際の設問とは異なっていますが、内容は同一です。

6.1. 基本情報

(1)回答日(システムの都合上 11 月 18 日分を含む)

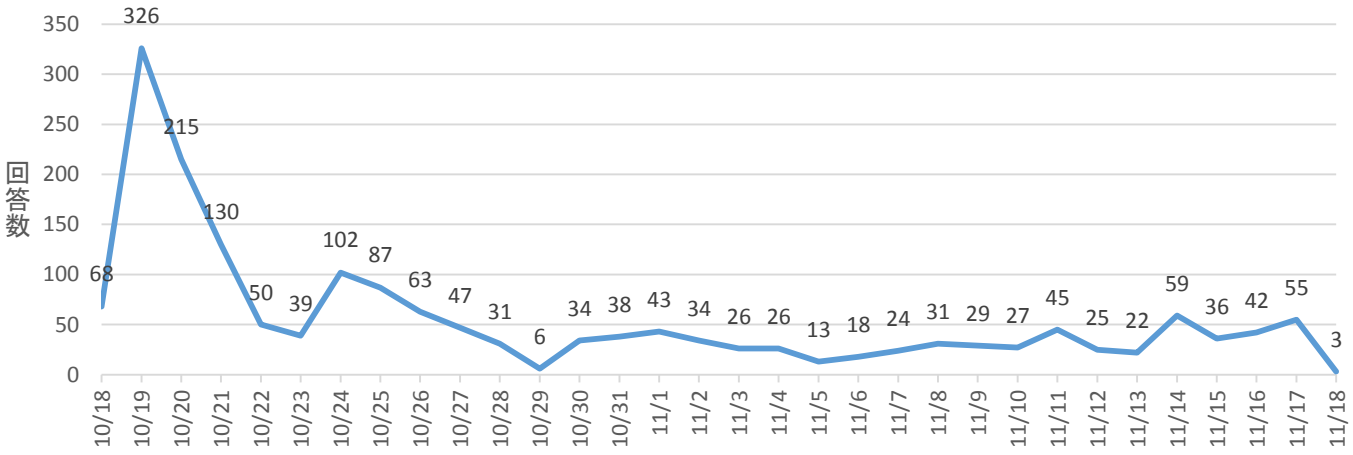

図 6.1.1 回答数

(2)回答場所

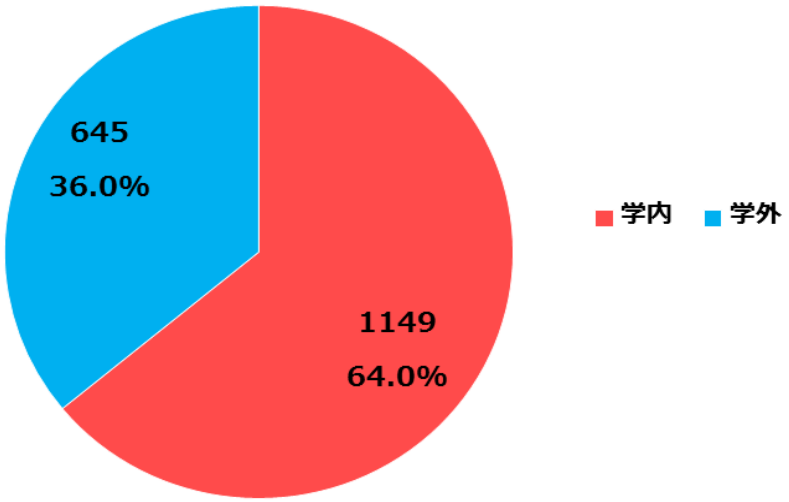

図 6.1.2 回答場所

(3)所属課程

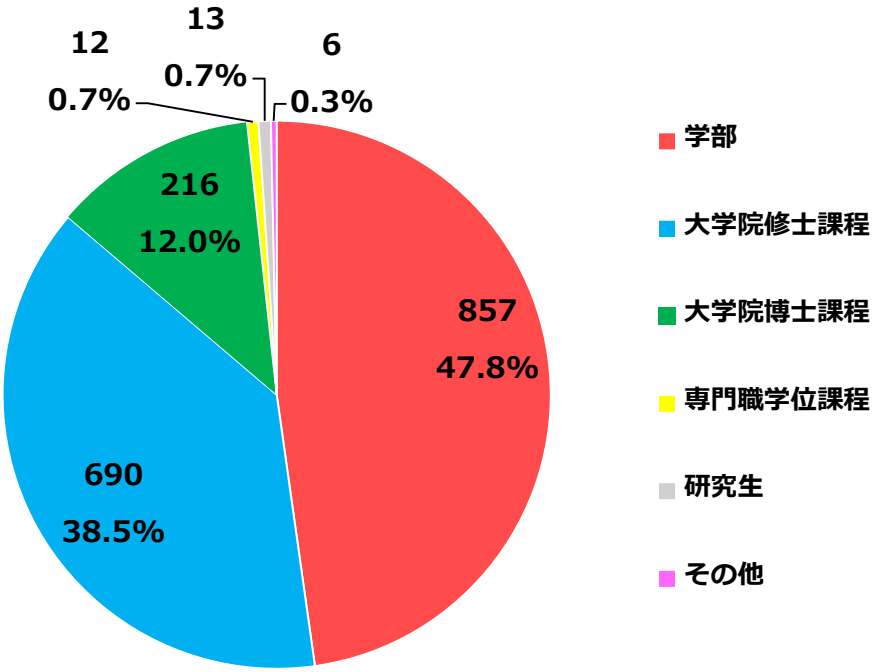

図 6.1.3　所属課程

(4)現課程への入学年度

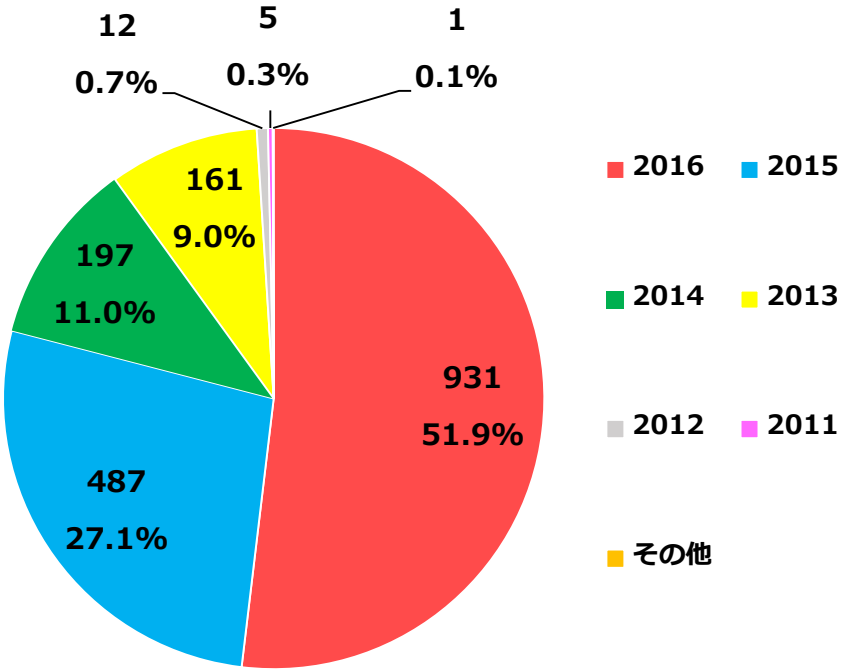

図 6.1.4　入学年度

(5)高専や他大学への在籍

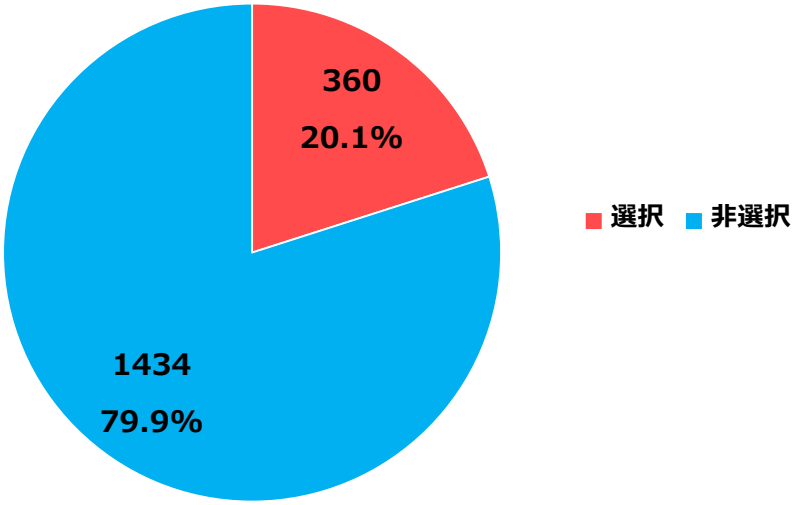

図 6.1.5 高専や他大学への在籍

(6)留学生

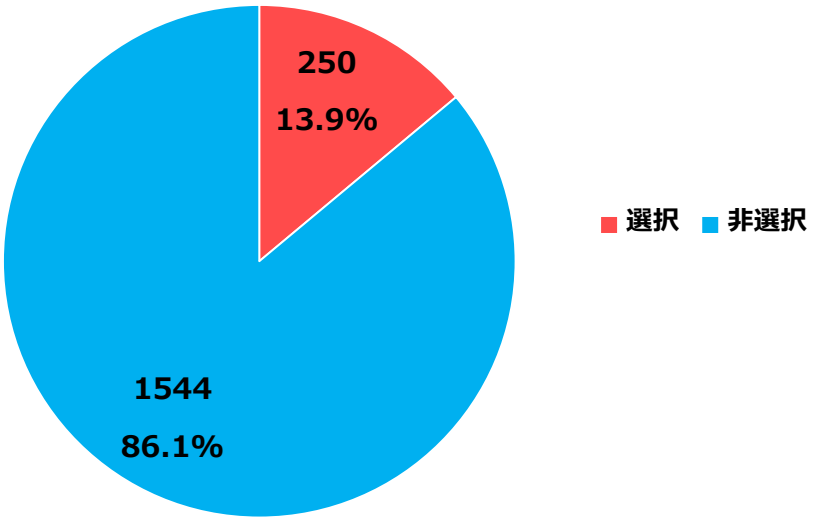

図 6.1.6 留学生

(7)性別

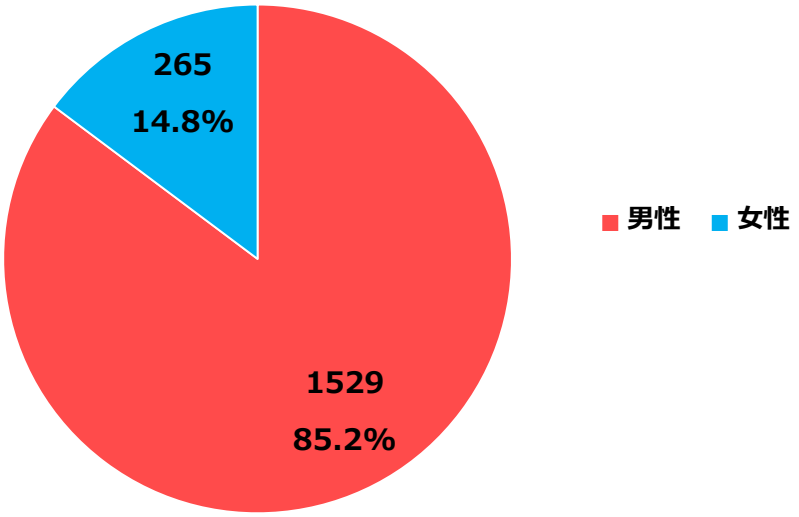

図 6.1.7　性別

(8-1)所属(類、学科または専攻)

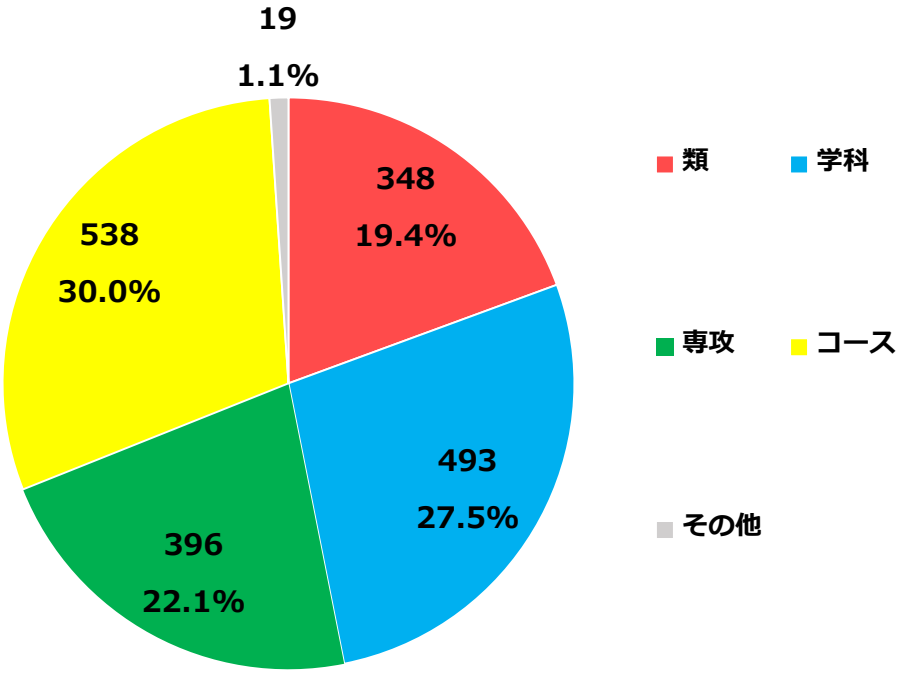

図 6.1.8　所属(類、学科または専攻)

(8-2)所属類

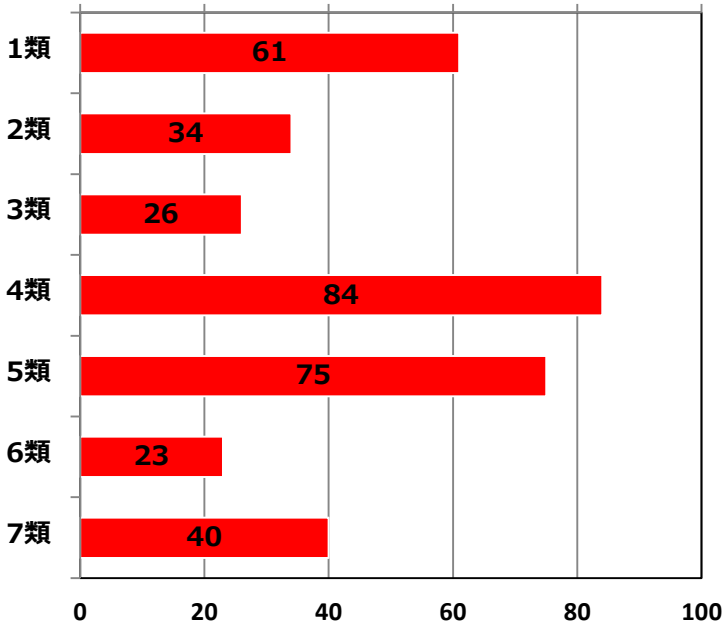

図 6.1.9 所属類(計 348 人)

(8-3)所属学科

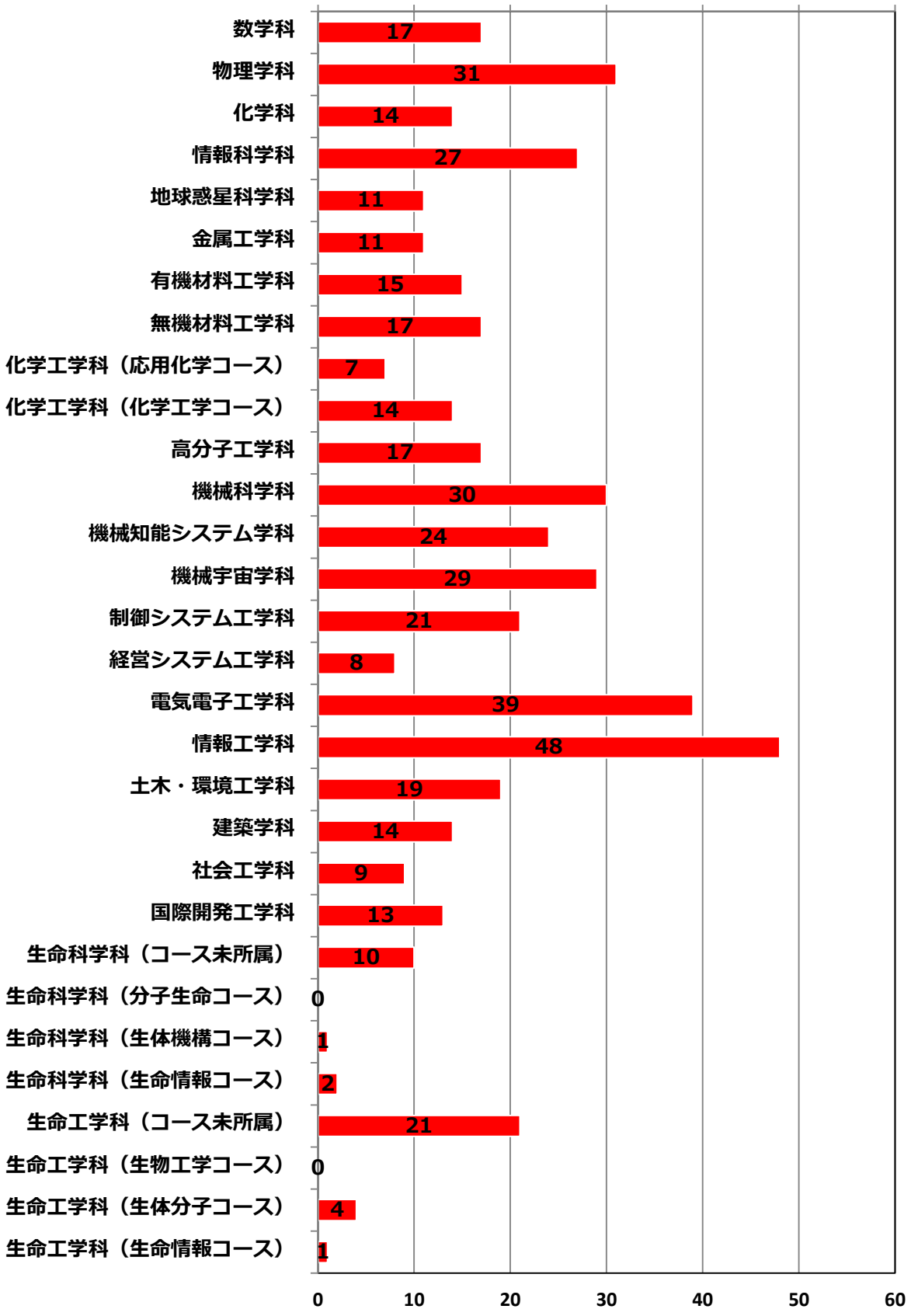

図 6.1.10　所属学科(計 474 人)

(8-4)所属専攻

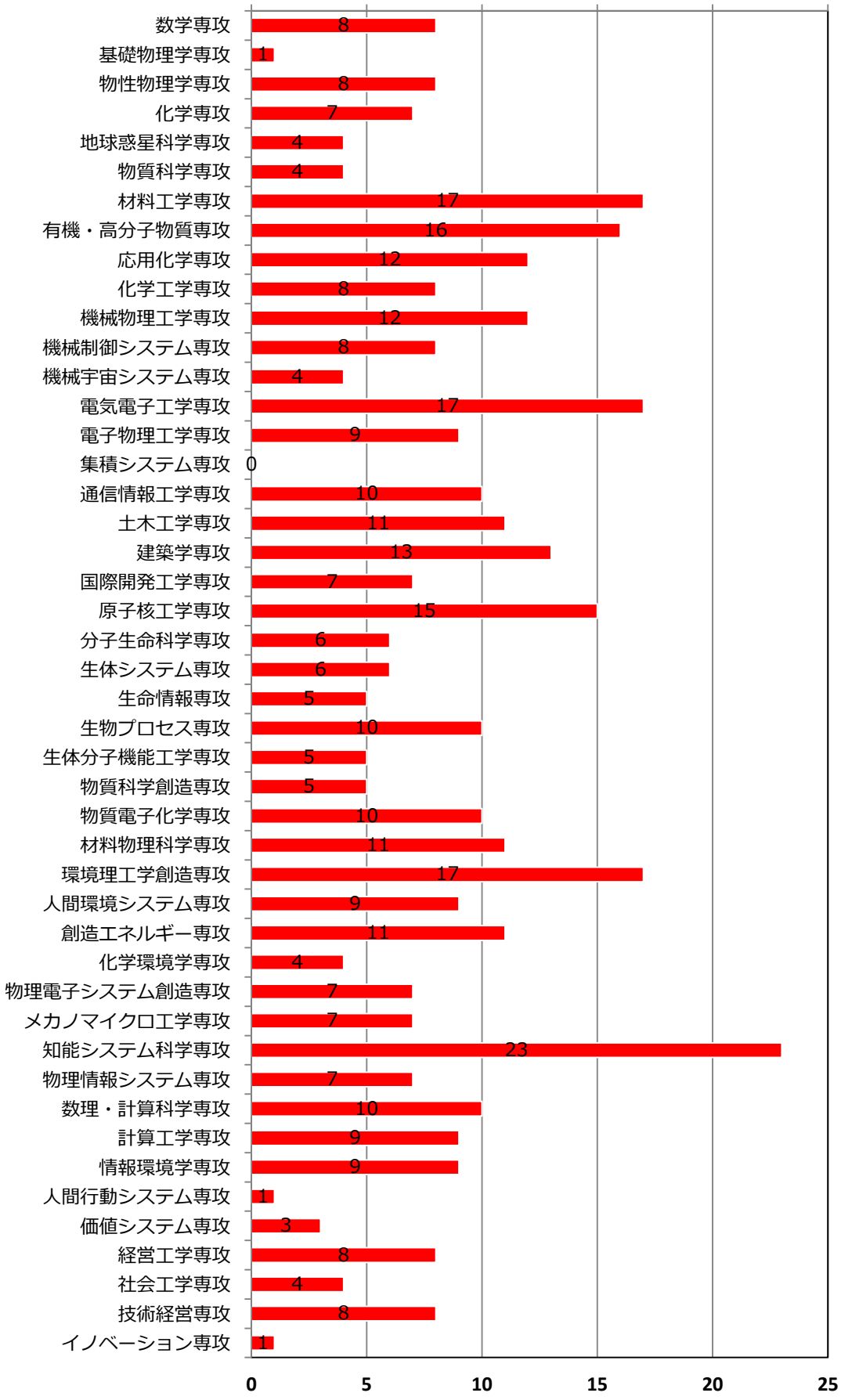

図 6.1.11 所属専攻(計 387 人)

(8-5)選択したコース

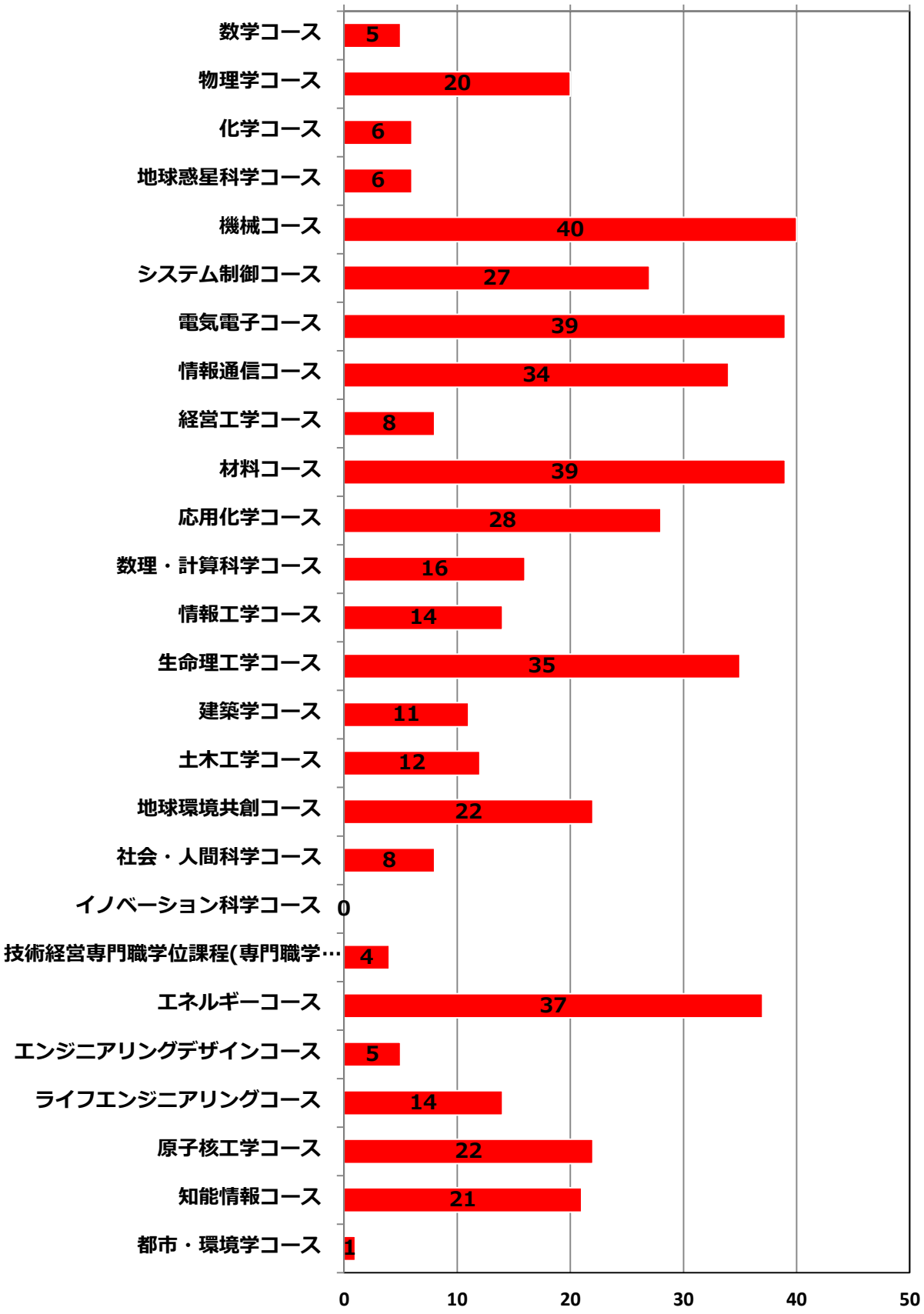

図 6.1.12　選択したコース(計 474 人)

(9) キャンパス内の主な活動場所はどこか教えてください。

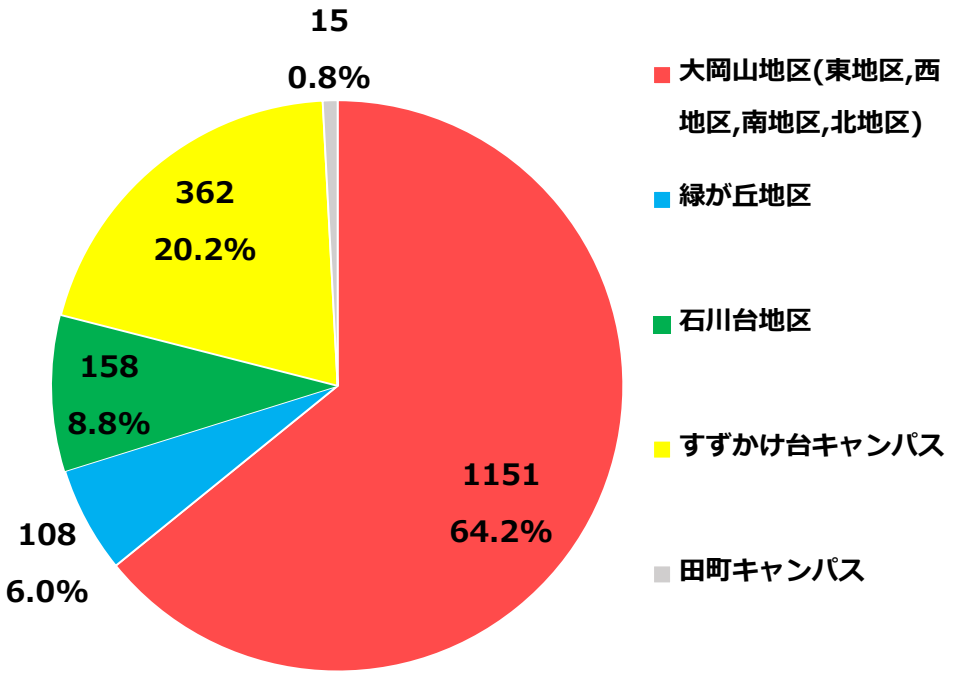

図 6.1.13 主な活動場所

(10)平日の平均的な時間の使い方を教えてください。

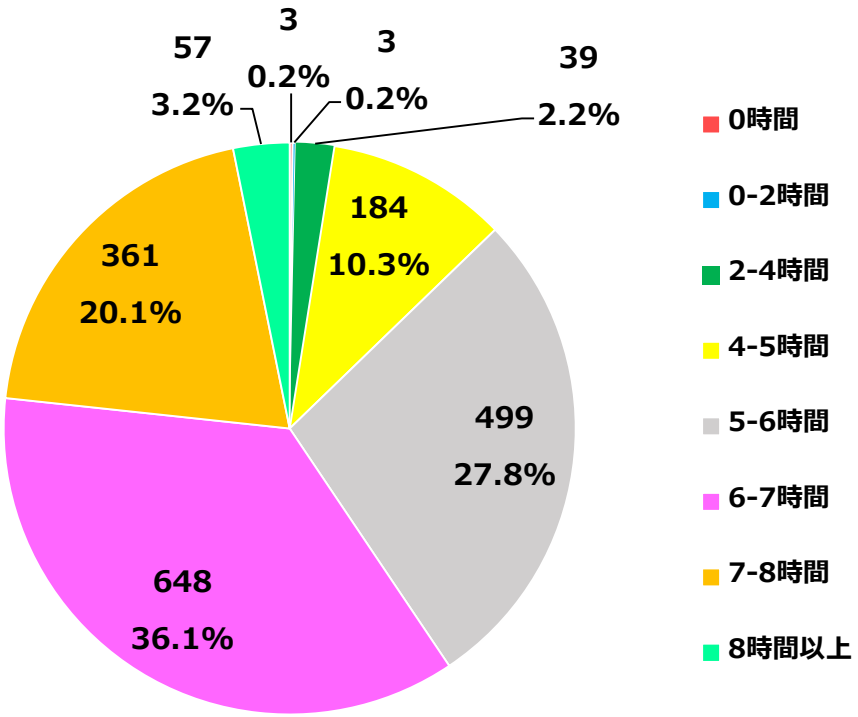

図 6.1.14　睡眠時間

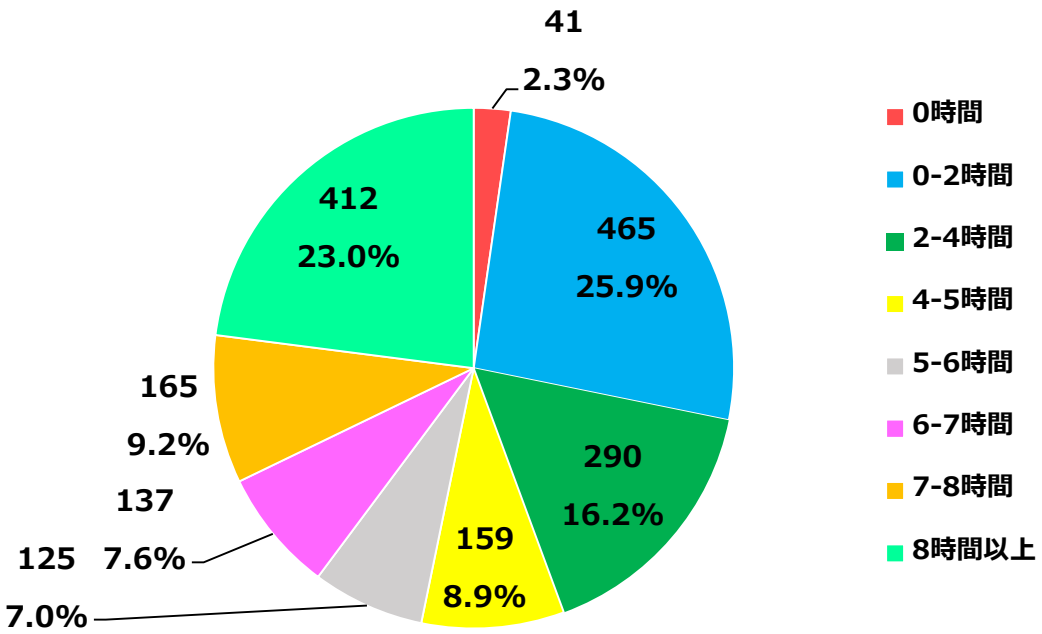

図 6.1.15　勉強･研究時間

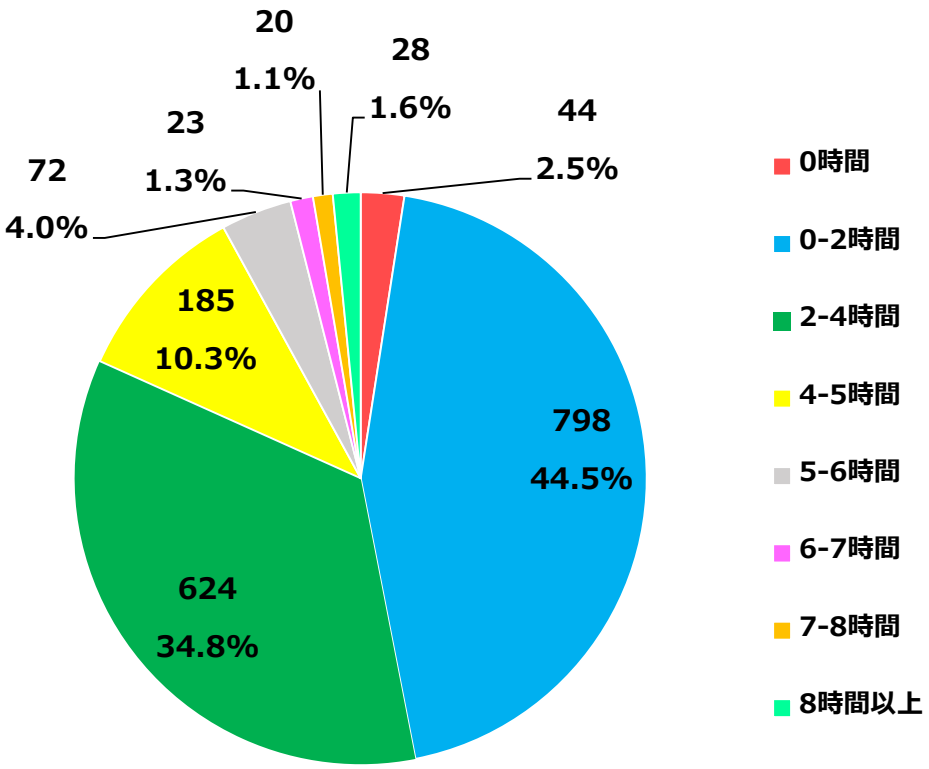

図 6.1.16　娯楽時間

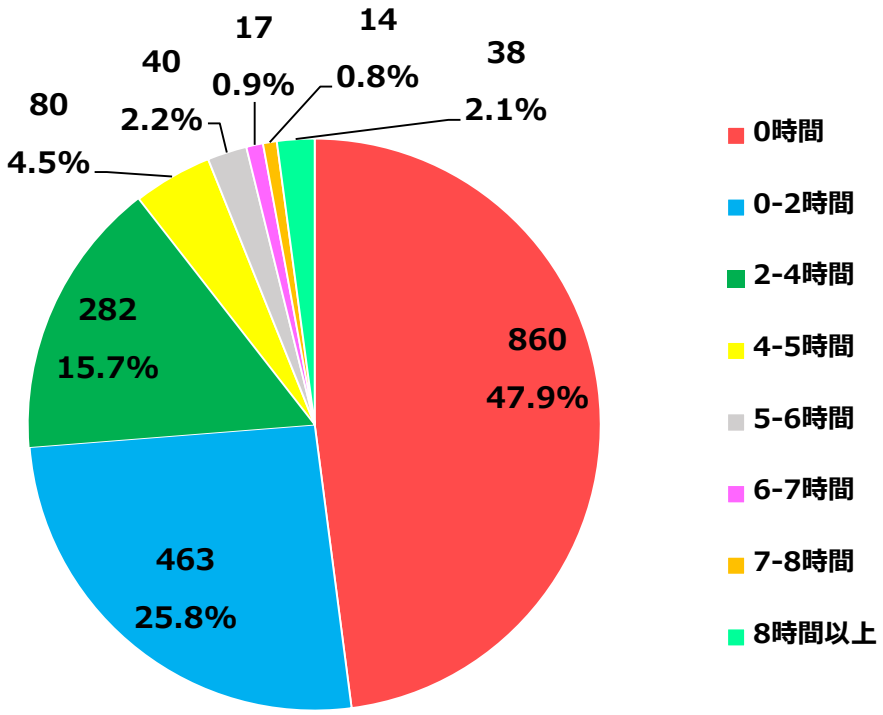

図 6.1.17　仕事･アルバイト時間

（11）過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

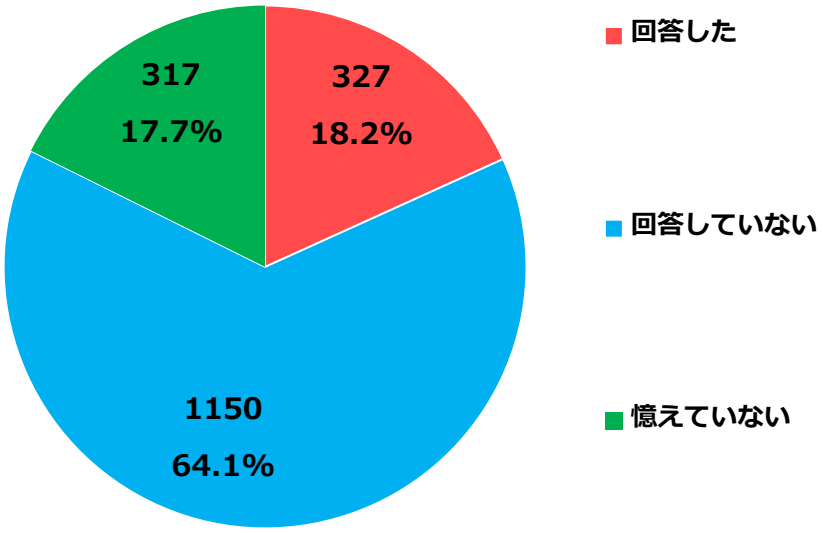

図 6.1.18　過去に実施した学勢調査に回答したか

（12）学勢調査 2016 をどこで知りましたか。

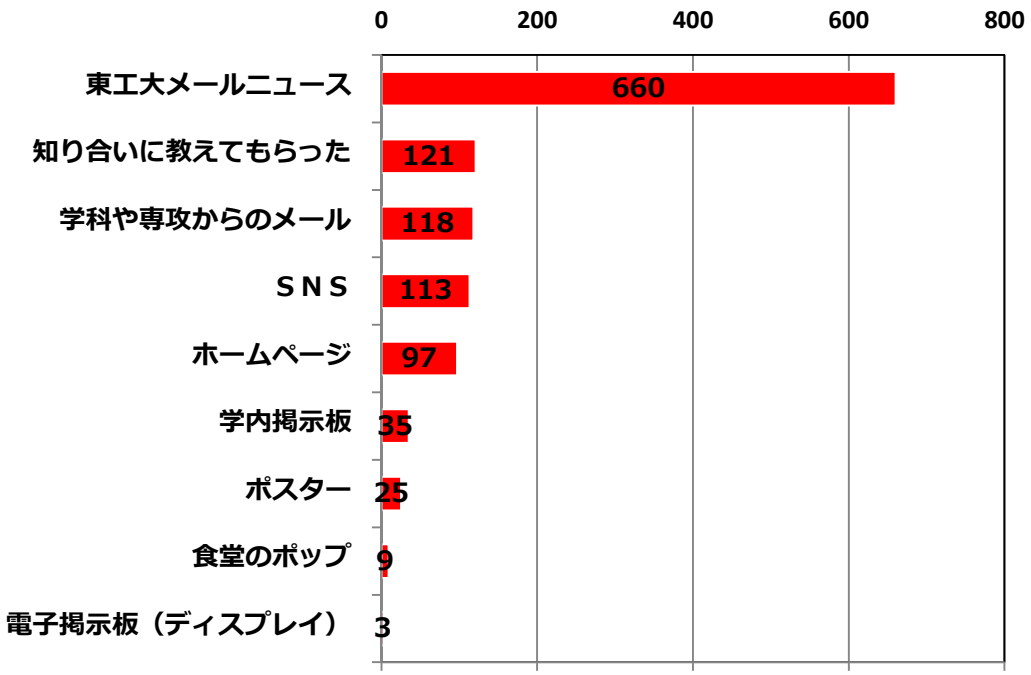

図 6.1.19　学勢調査 2016 をどこで知ったか

6.2. 大学関連

(1)東工大生としてプライドをもっていますか。

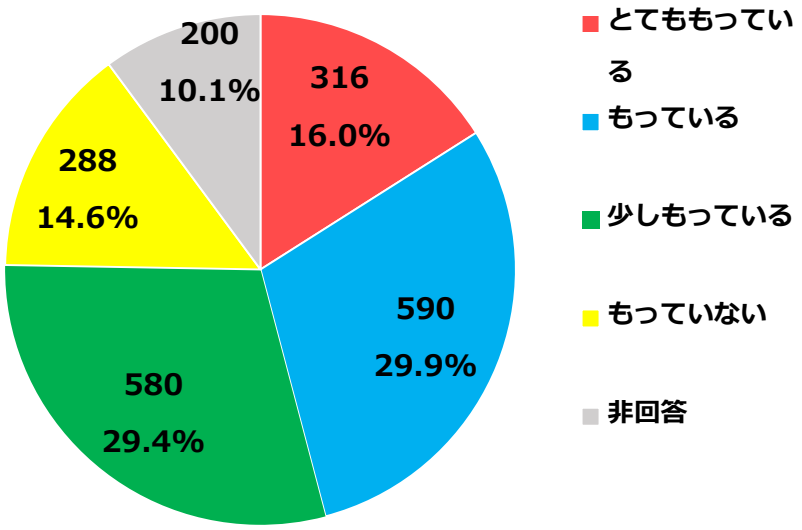

図 6.2.1　東工大生としてのプライド

(2)あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。

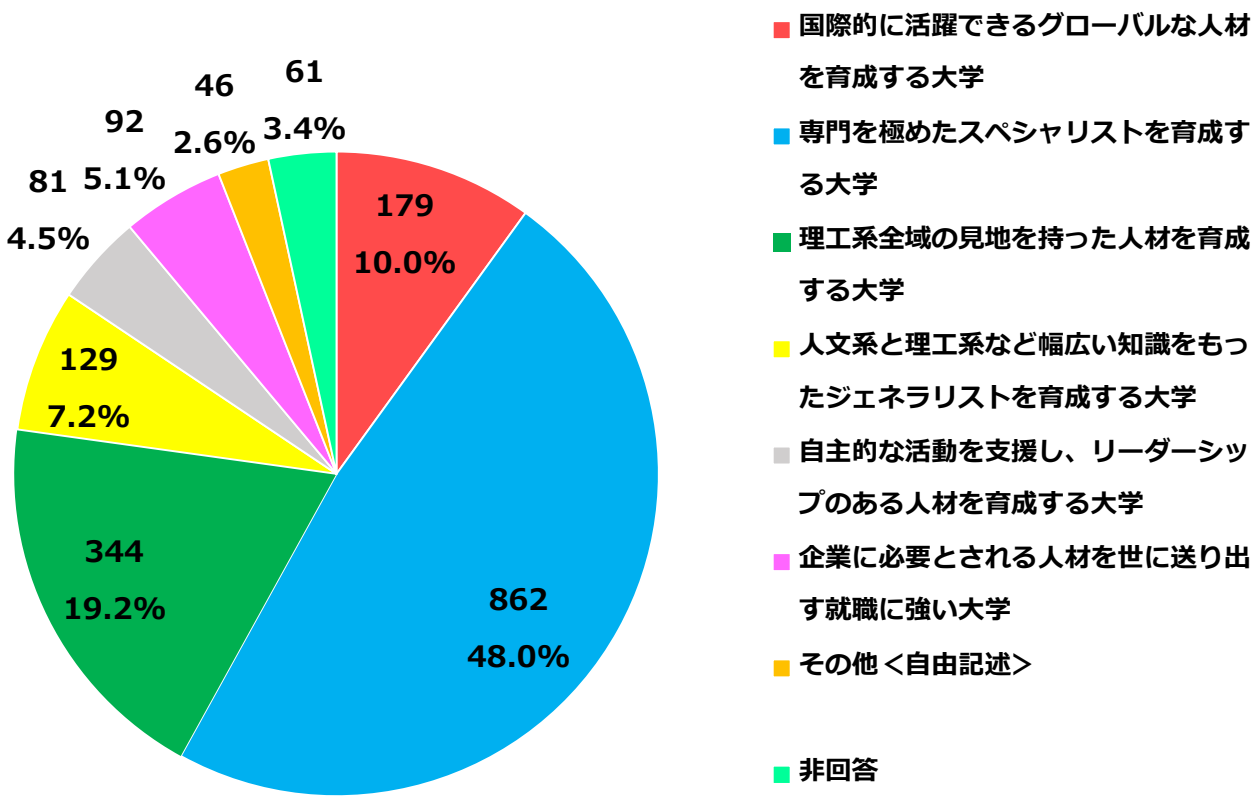

図 6.2.2　東工大が進むべき方向性

(3)東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。(複数回答可)

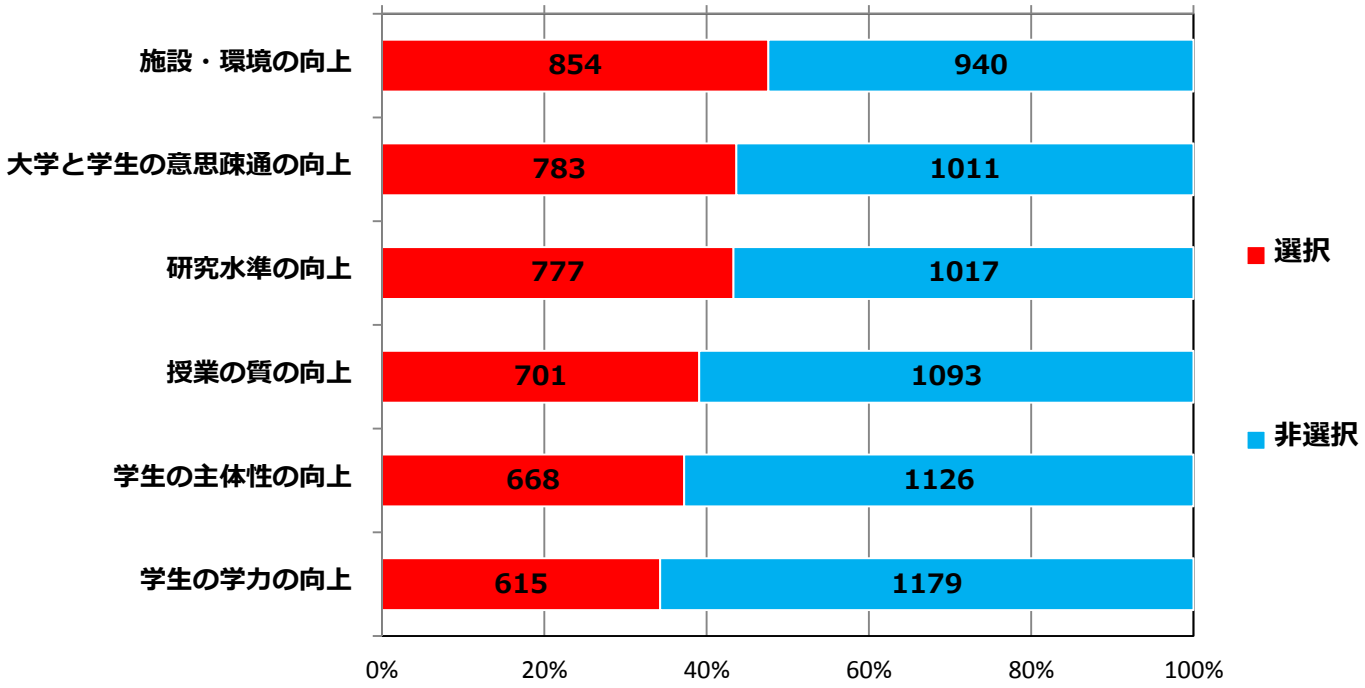

図 6.2.3　東工大をよりよい大学にするために必要なもの(複数選択可)

(4)本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。

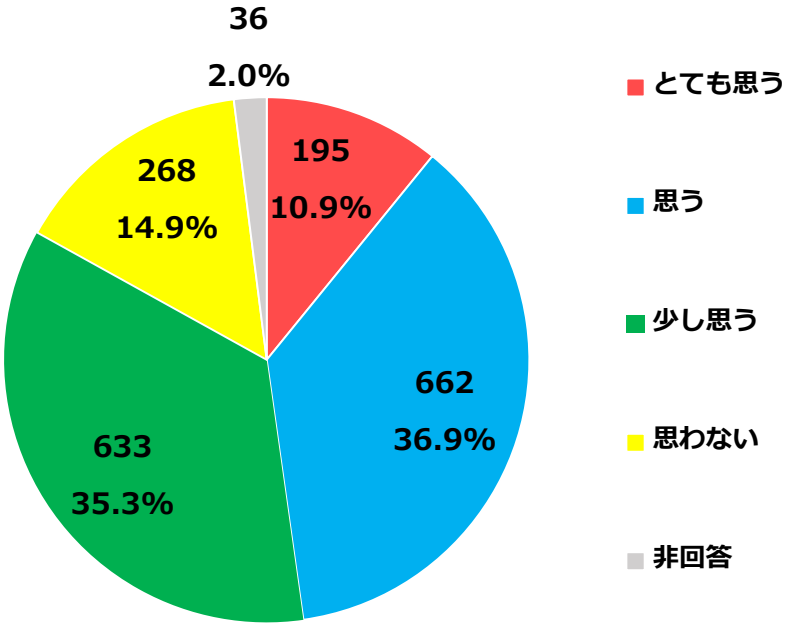

図 6.2.4　国際社会において先導的役割を担っているか

(5) 世界大学ランキングのなかでの東工大の順位を気にしたり、調べたりしたことがありますか。

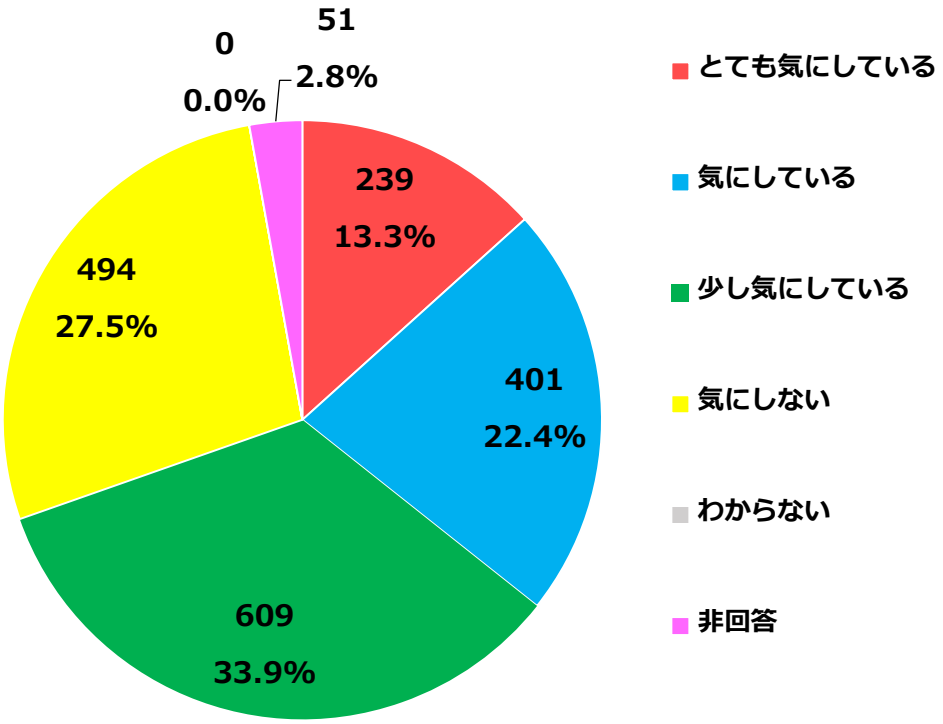

図 6.2.5 世界大学ランキングでの東工大の順位を気にするか

(6)本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか

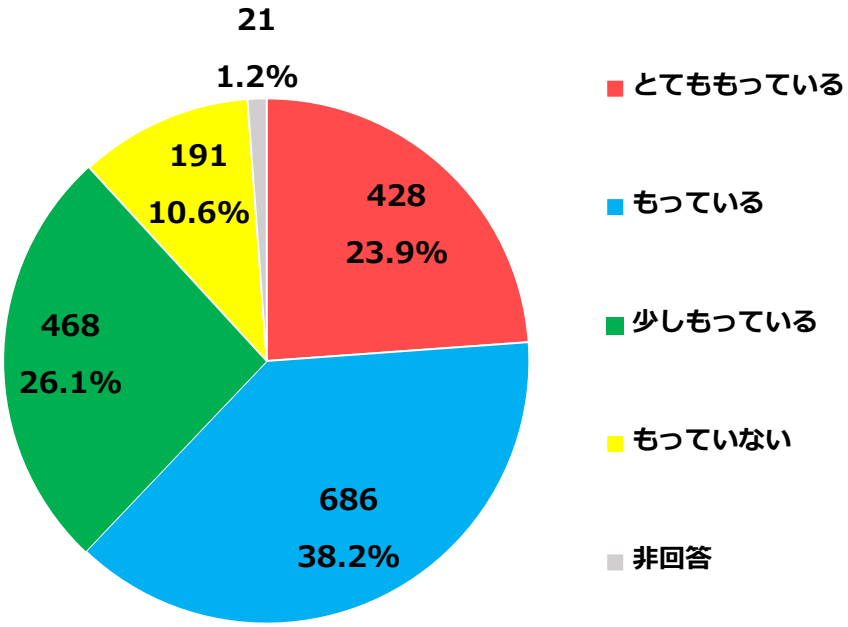

図 6.2.6 本学での目標

(7)大学に進学した理由を教えてください(複数選択可)

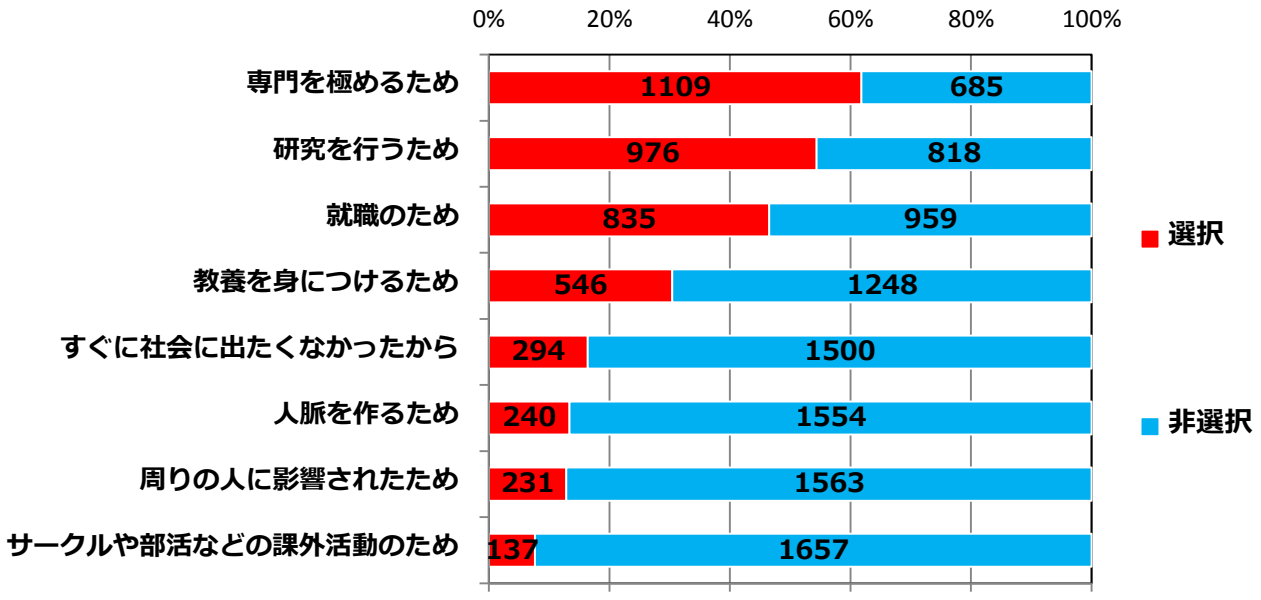

図 6.2.7　大学に進学を決めた理由(複数選択可)

(8)本学への進学を決めた理由を教えてください（複数選択可）

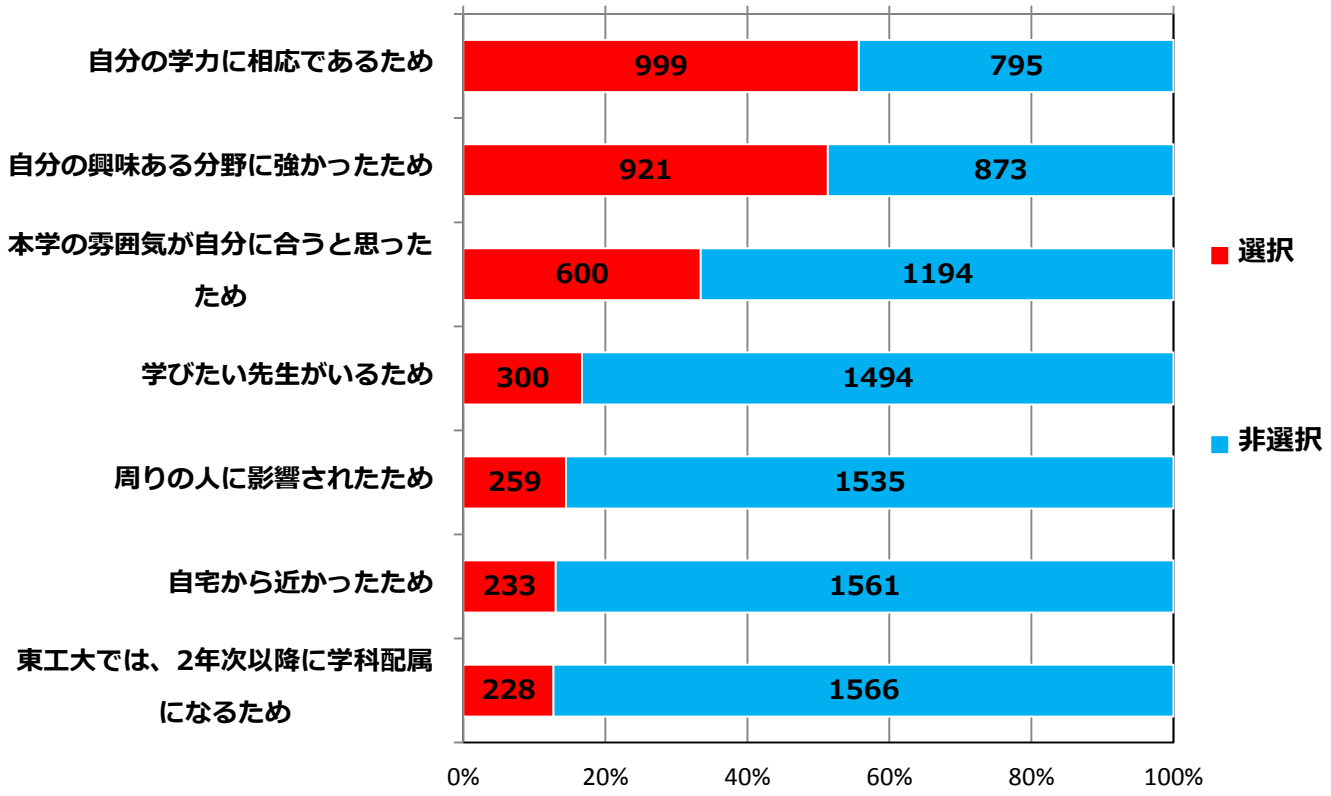

図 6.2.8　東工大に進学を決めた理由(複数選択可)

(9)現在在籍している類、学科、専攻、系(選択しているコース)等に満足していますか

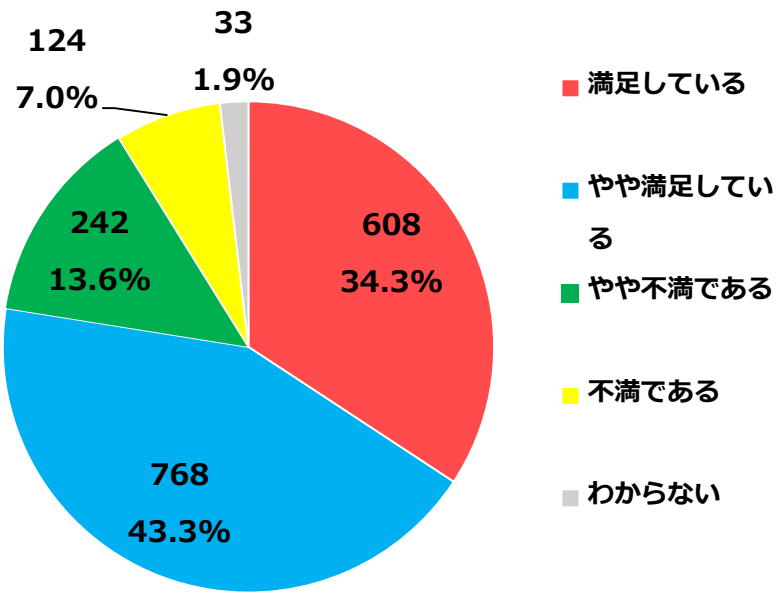

図 6.2.9 現在在籍している類、学科、専攻、系、(選択しているコース)等への満足度

(10)現在在籍している類、研究科、専攻、系(選択しているコース)等への不満(複数回答可)

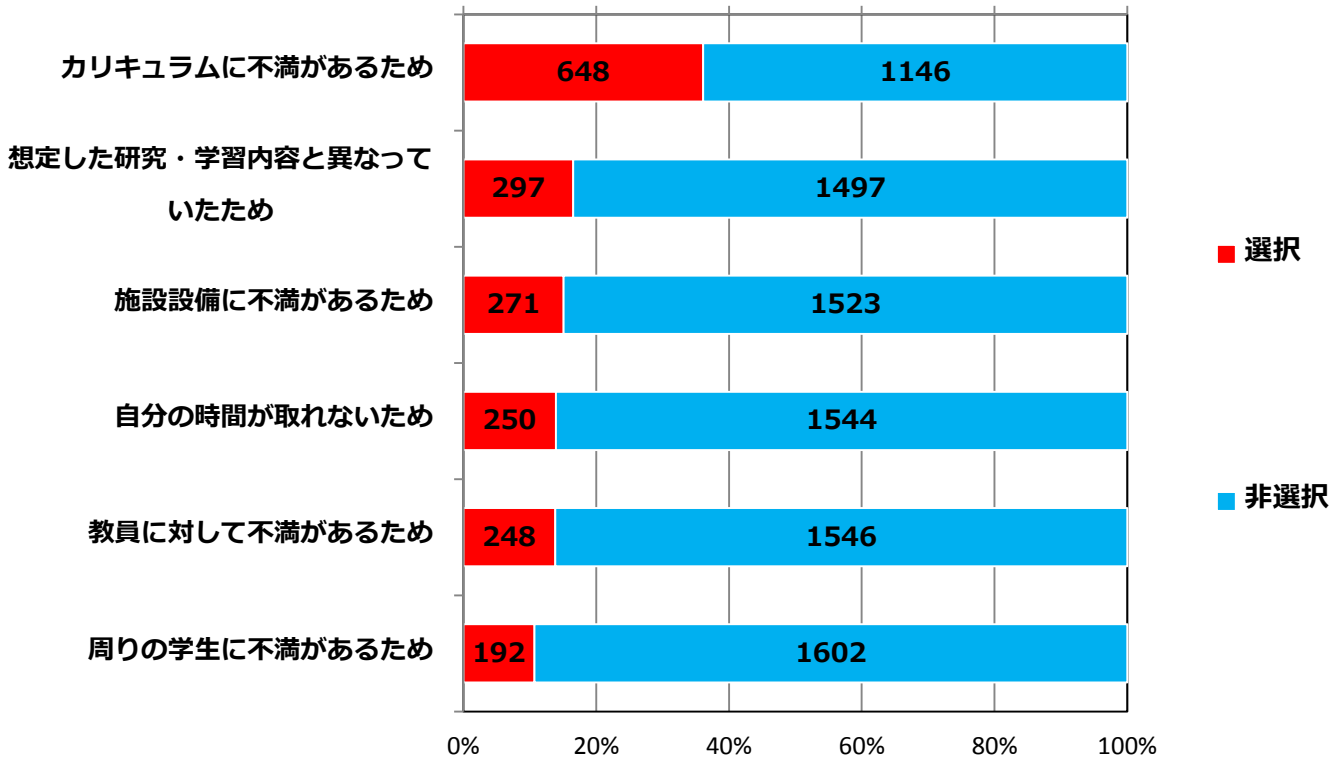

図 6.2.10 類、研究科、専攻、系(選択しているコース)等への不満(複数選択可)

6.3. 学習関連

(1)今年度の前期の講義の出席状況はどうでしたか

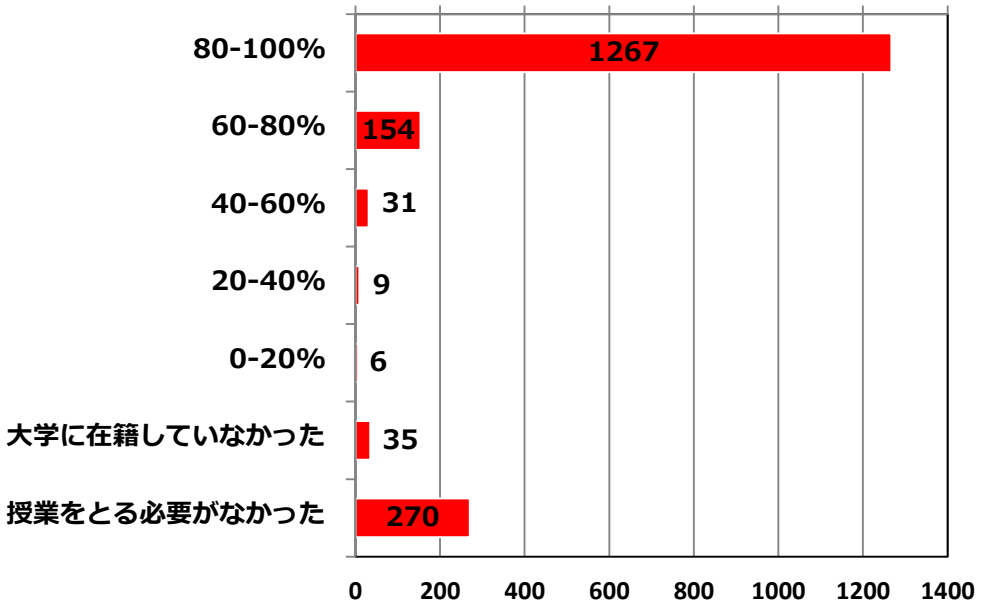

図 6.3.1　前期講義の出席状況

(2)履修申告をした講義に出ない主な理由は何ですか(3 つまで選択可)

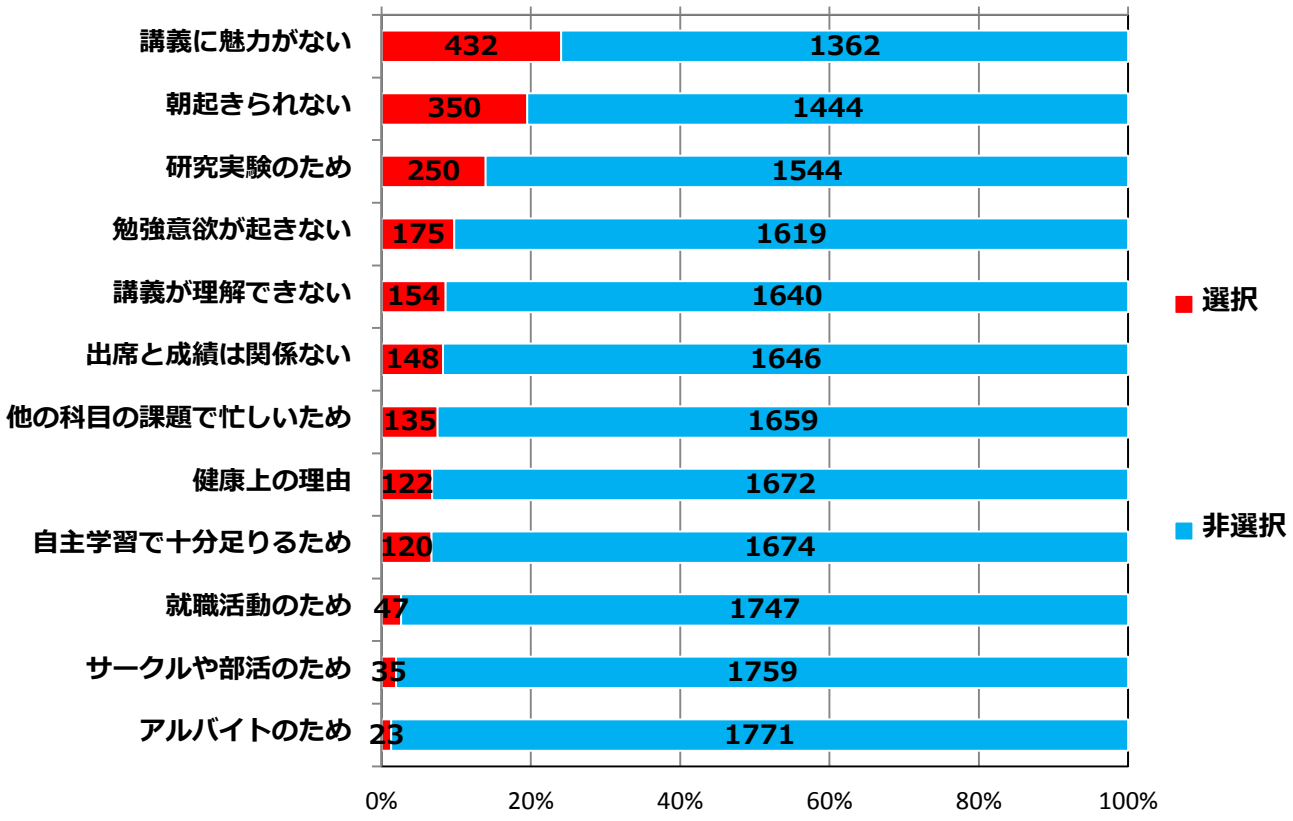

図 6.3.2　履修申告をした講義に出ない主な理由(3 つまで選択可)

(3)学習意欲向上に有効と思われるもの（3 つまで選択可）

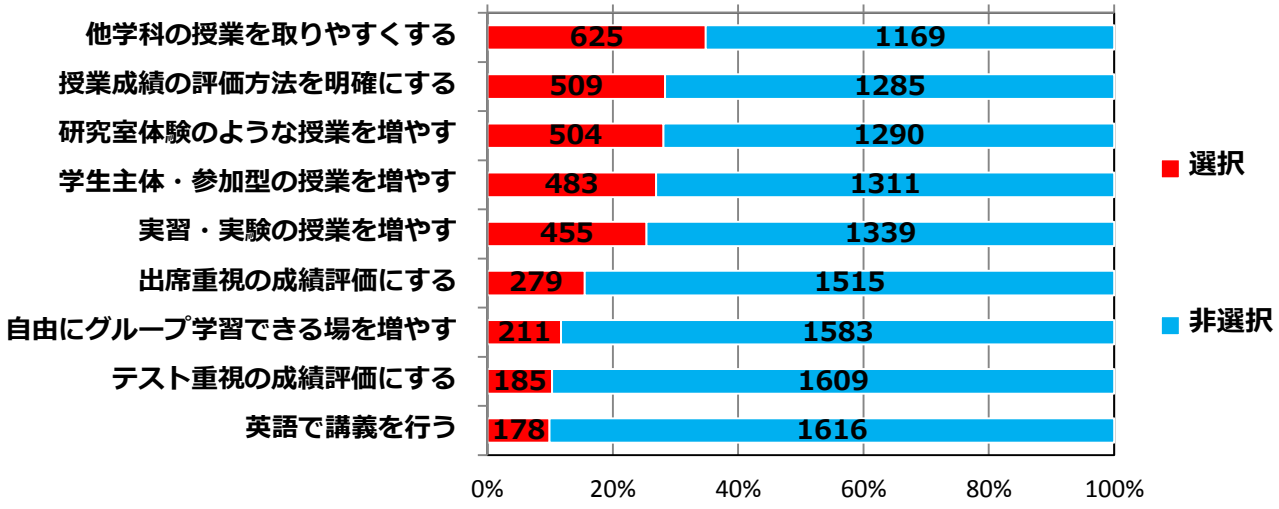

図 6.3.3　学習意欲向上に有効と思われるもの(3 つまで選択可)

(4)他学科科目の履修について満足に履修できていますか

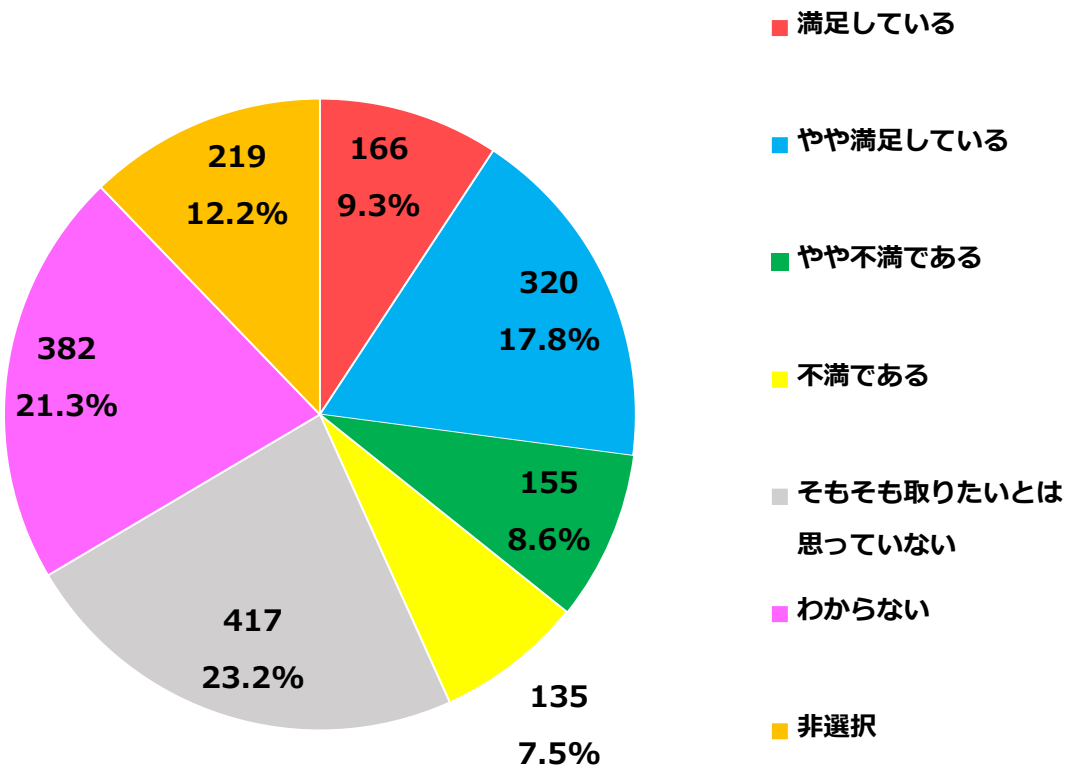

図 6.3.4　他学科科目の講義の履修状況

(5)他大学科目(四大学連合など)の講義の履修について満足に履修できていますか

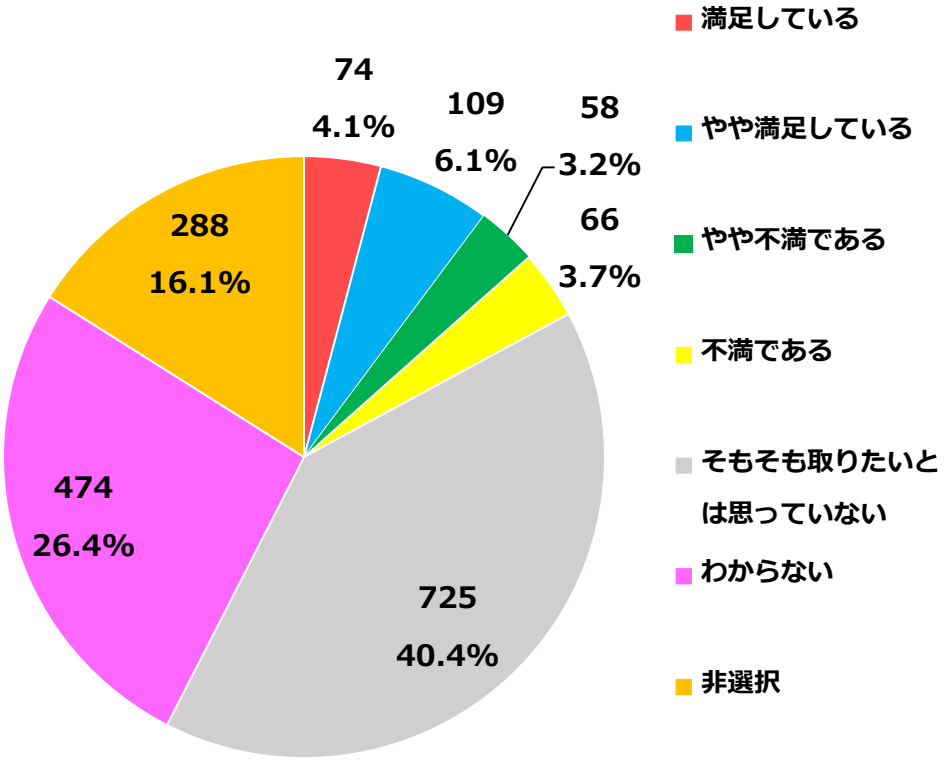

図 6.3.5　他大学の講義の履修状況

(6) 現在の履修申告の制度に満足していますか

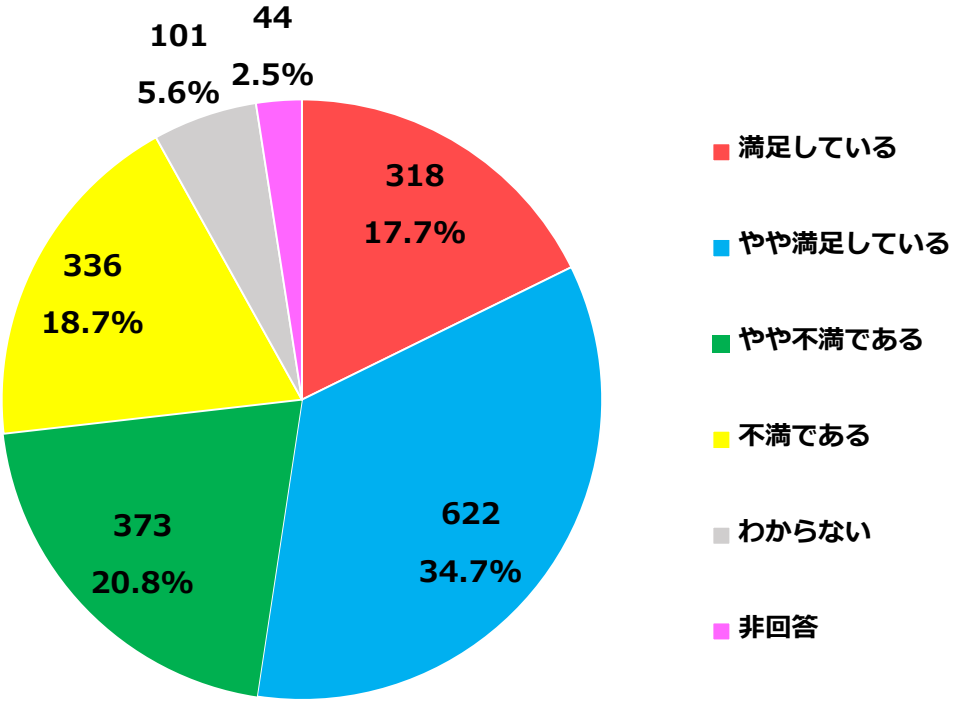

図 6.3.6　現在の履修申告制度に満足しているか

(7)本学の講義・カリキュラムについての印象

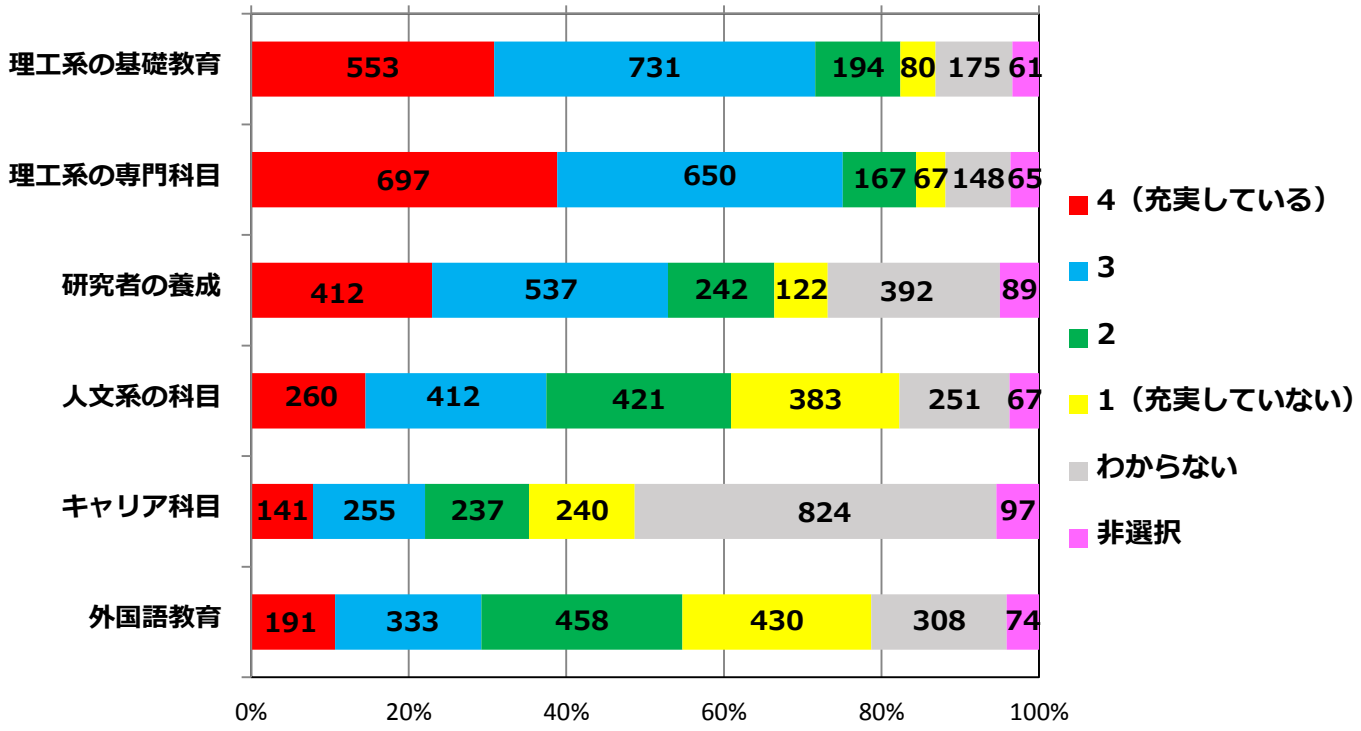

図 6.3.7　講義・カリキュラムについての印象

(8)英語で講義を受けることについて抵抗はありますか。

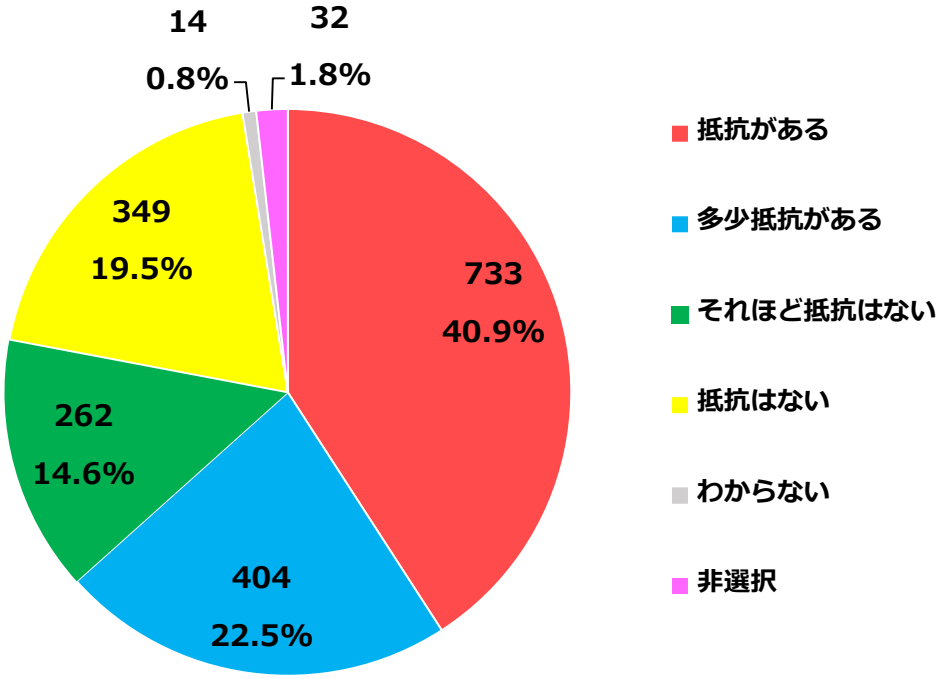

図 6.3.8　英語で講義を受けることへの抵抗

(9)英語での講義について、どのような印象を持っていますか。

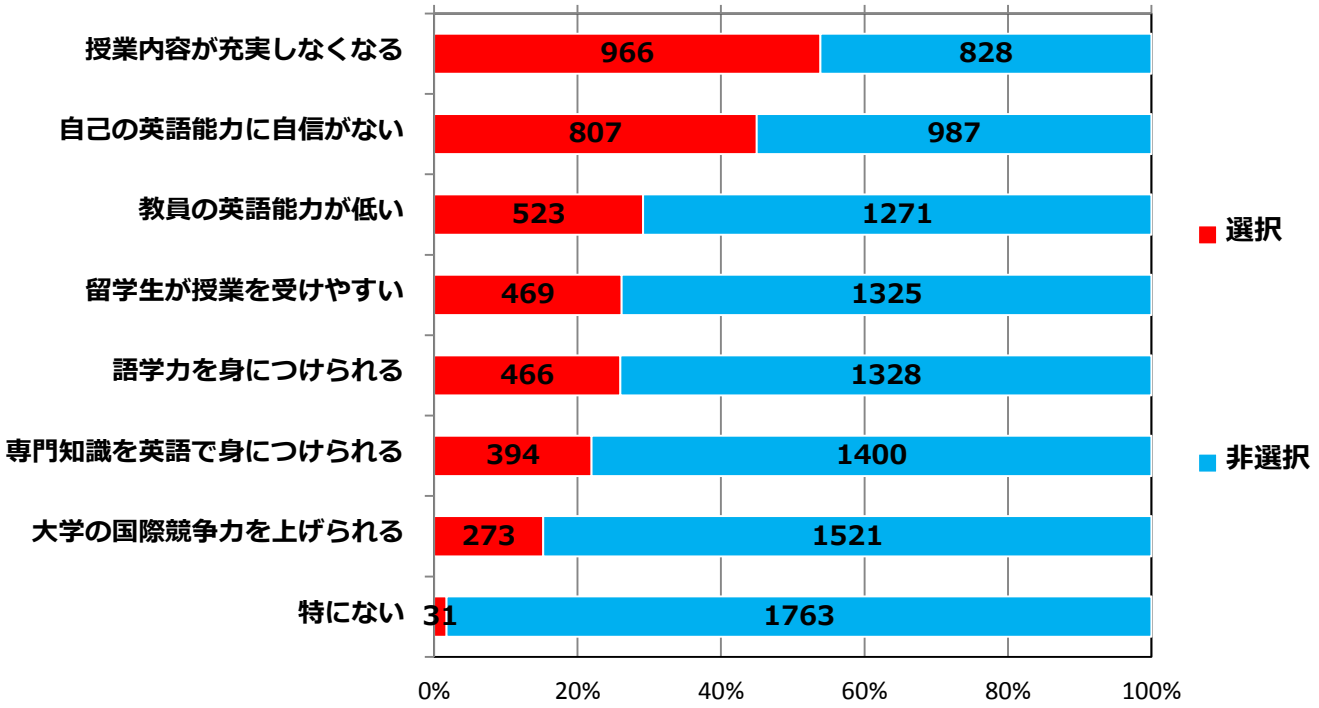

図 6.3.9　英語での講義についての印象

(10)祝日に実施されている講義をずらすとしたら、どこが良いですか

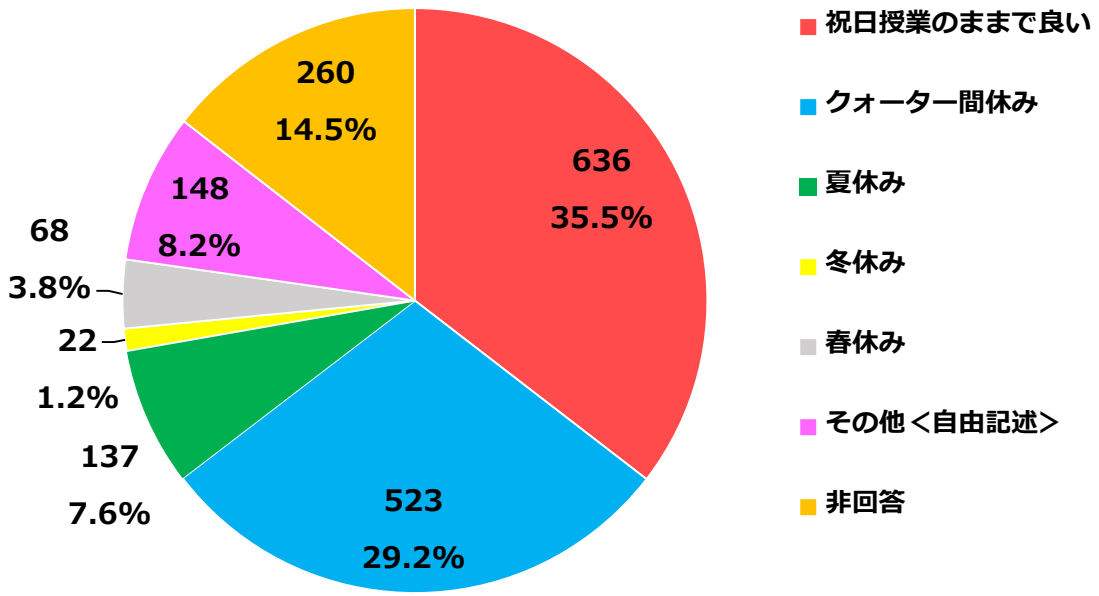

図 6.3.10　祝日講義をずらすとしたらどこにずらして欲しいか

(11)博士/修士課程までの進学予定(学部生 857 人中)

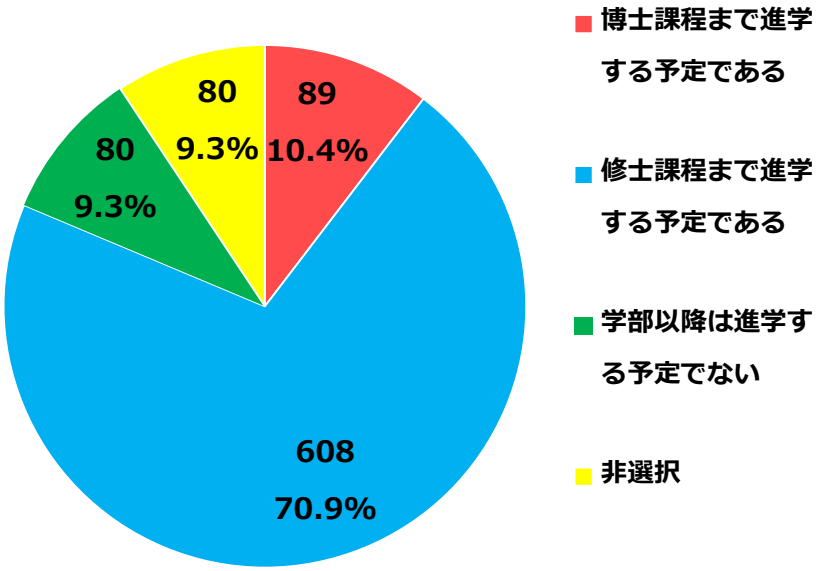

図 6.3.11　博士/修士課程への進学予定(学部生 857 人中)

(12)問(11)で学部以降は本学で進学する予定でない学生の理由(複数回答可)

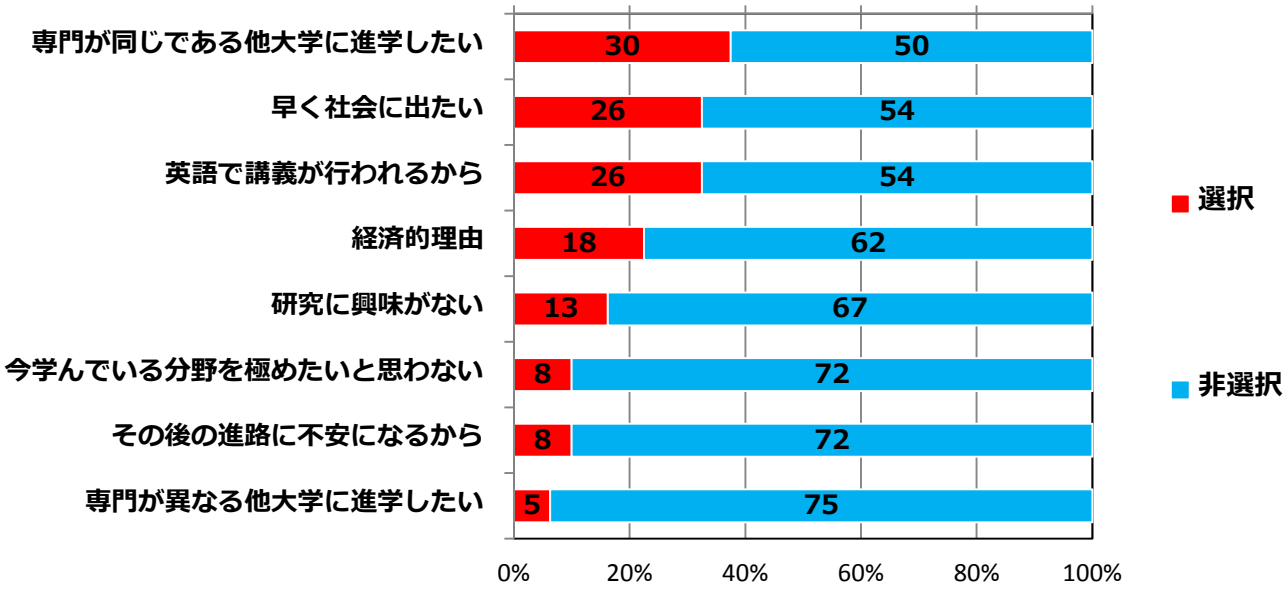

図 6.3.12　修士課程進学を選択しない理由(学部以降は本学で進学する予定でない学生 80 人中)

(13)問(11)で修士課程まで進学する予定の学生の本学での博士課程へ進学しない理由(複数回答可)

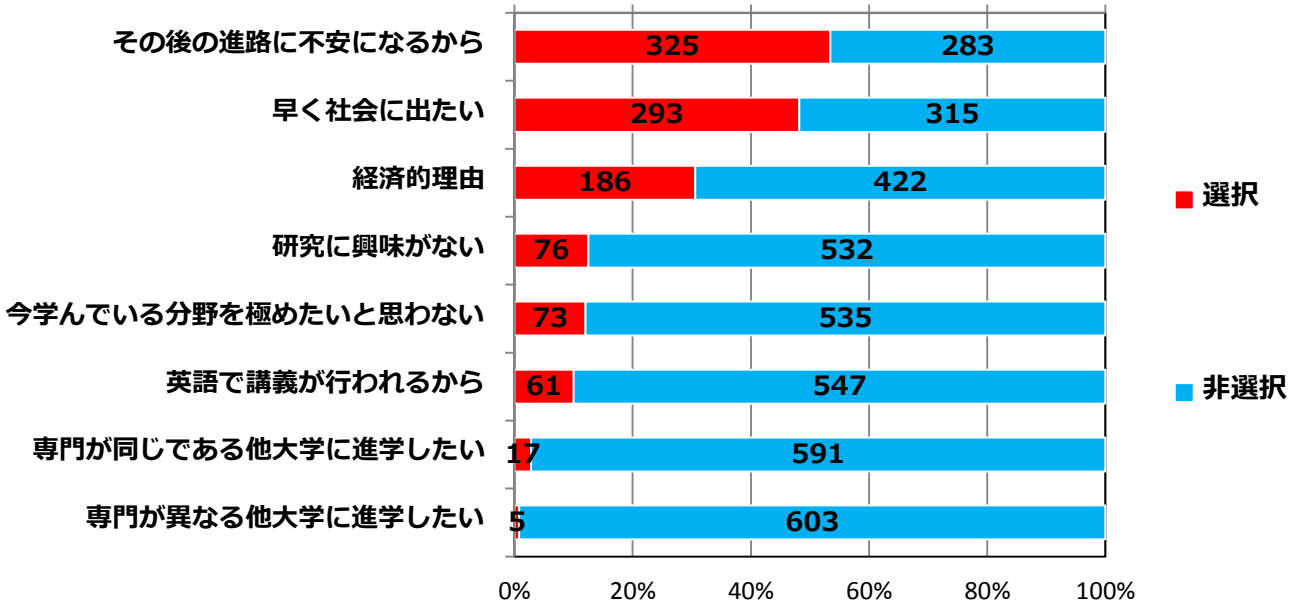

図 6.3.13　本学での博士課程進学を選択しない理由(修士課程まで進学する学生 608 人中)

(14)あなたは留学したことがありますか

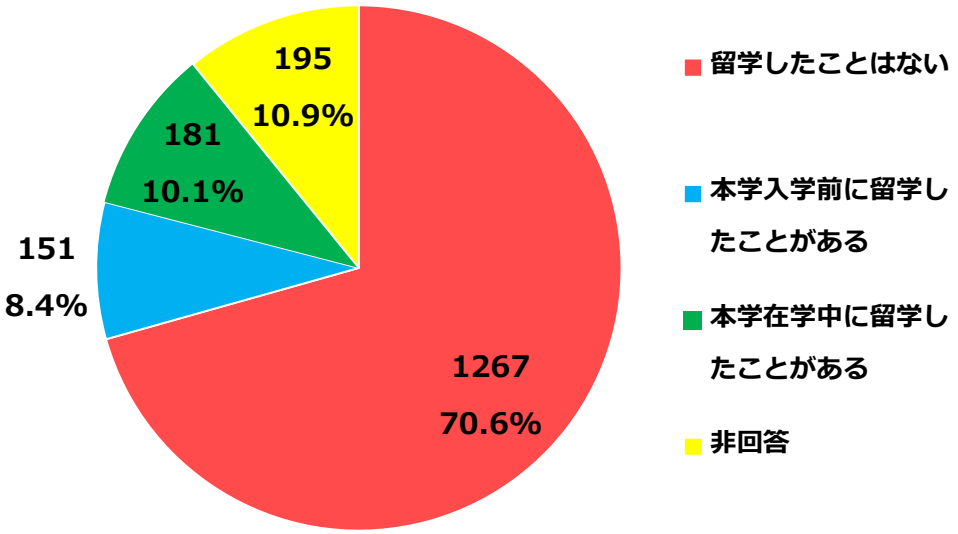

図 6.3.14　留学経験

(15)問(14)で留学経験がある学生の留学期間

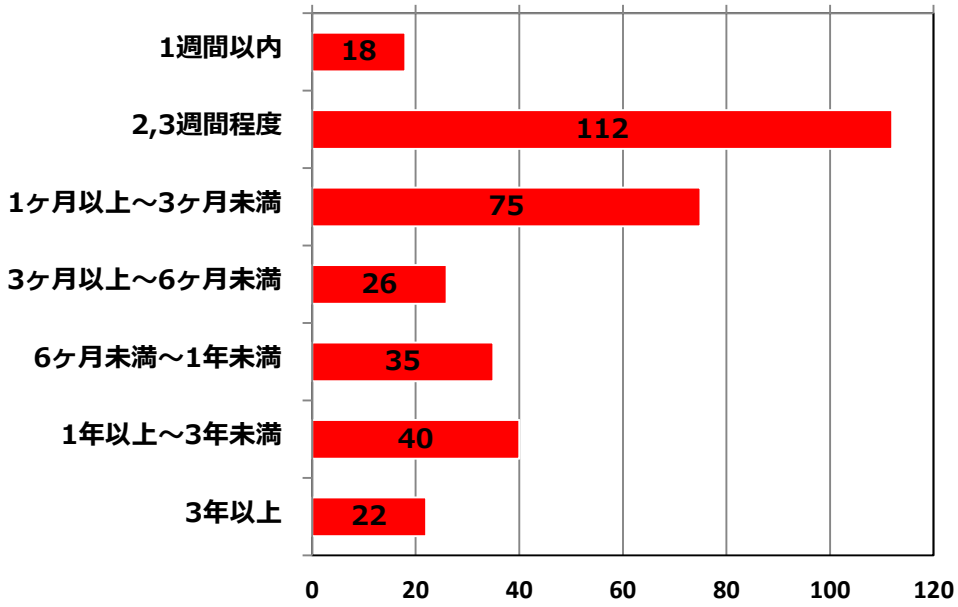

図 6.3.15　留学した期間（留学したことがある人 332 人中）

(16) 本学入学後で、一番長く留学したのはどの時期からですか。

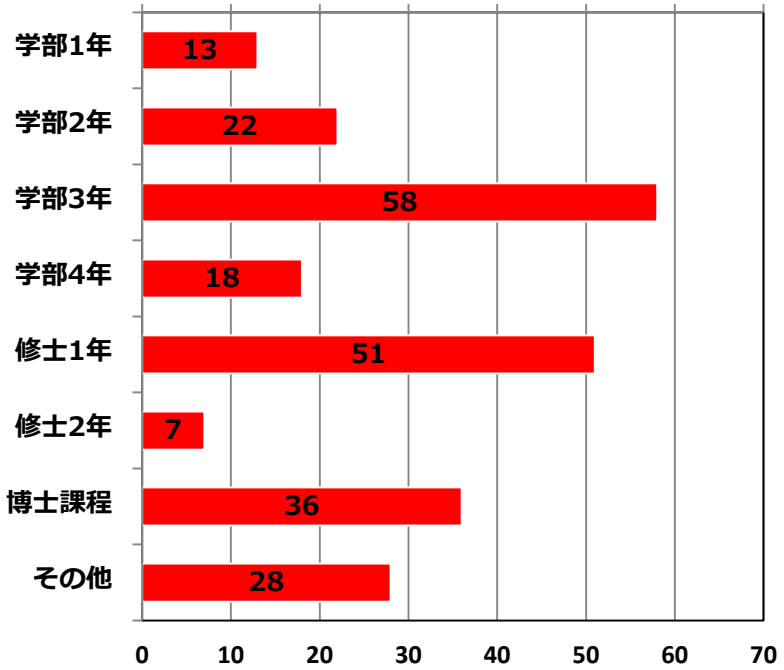

図 6.3.16　本学入学後で、一番長く留学したのはどの時期からですか。（在学中に留学経験がある人 181 人中）

（17）その留学（問（16）の博士課程・その他は除く）はどの期間でしたか？（複数回答可）

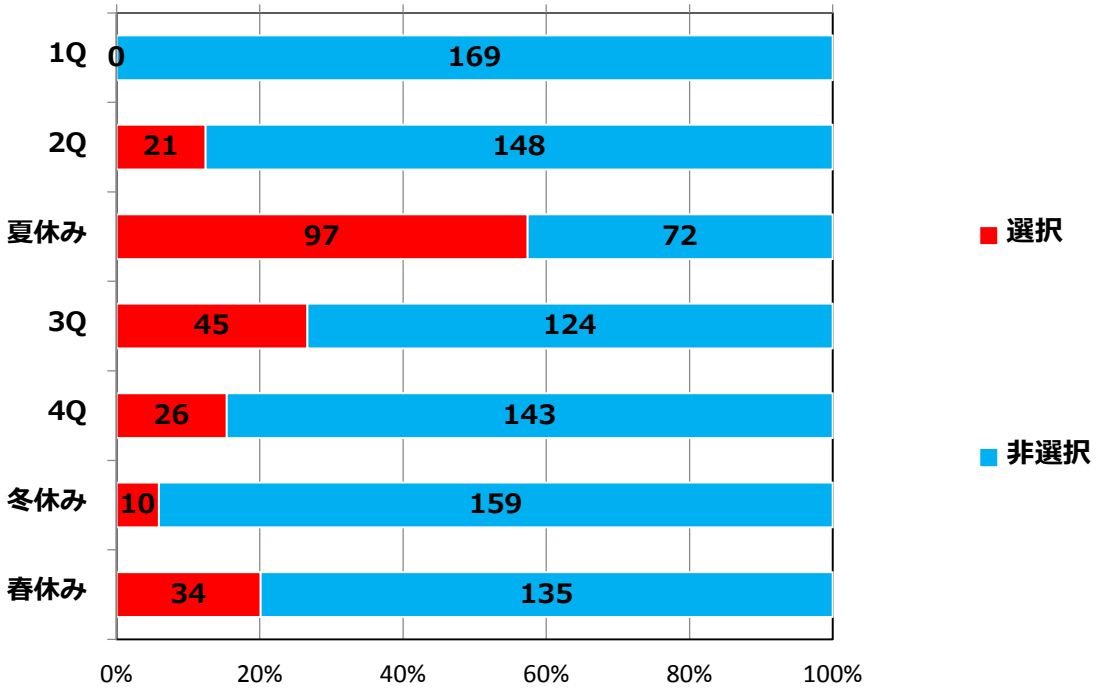

図 6.3.17 その留学はどの期間でしたか？（複数回答可）

（学部・修士課程の間に留学経験のある 169 人中）

（18）留学をしたいと思いますか。（3 つまで選択可）

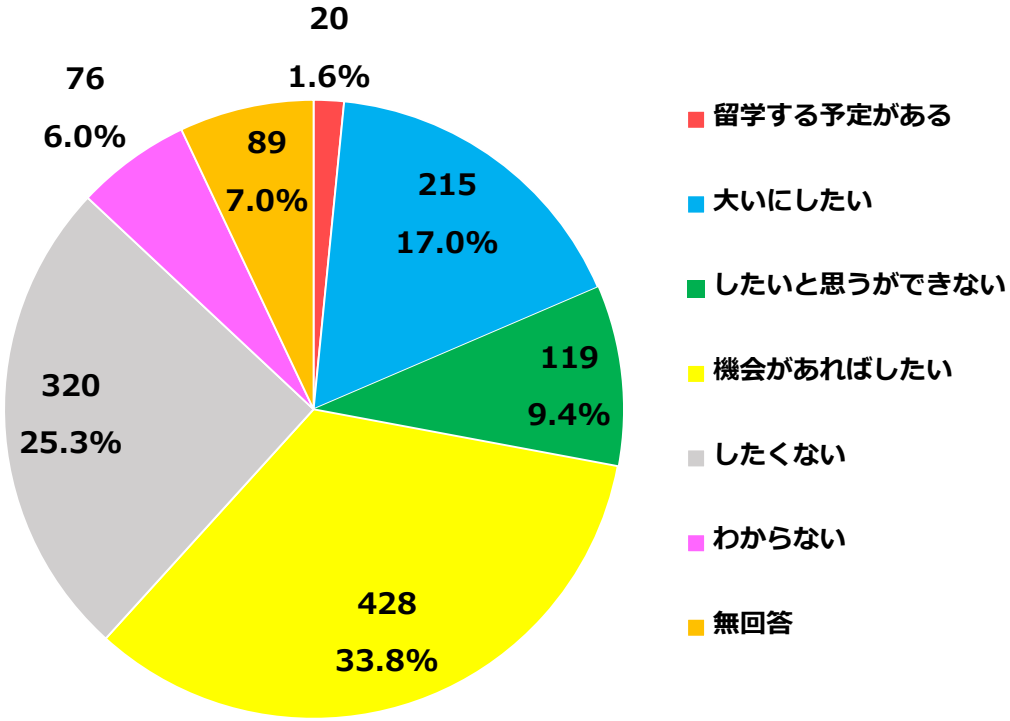

図 6.3.18　留学をしたいと思いますか。（3 つまで選択可）

(19) 問(14)で留学経験のない人で、留学をしたくない･できない理由を選択して下さい。(複数選択可)

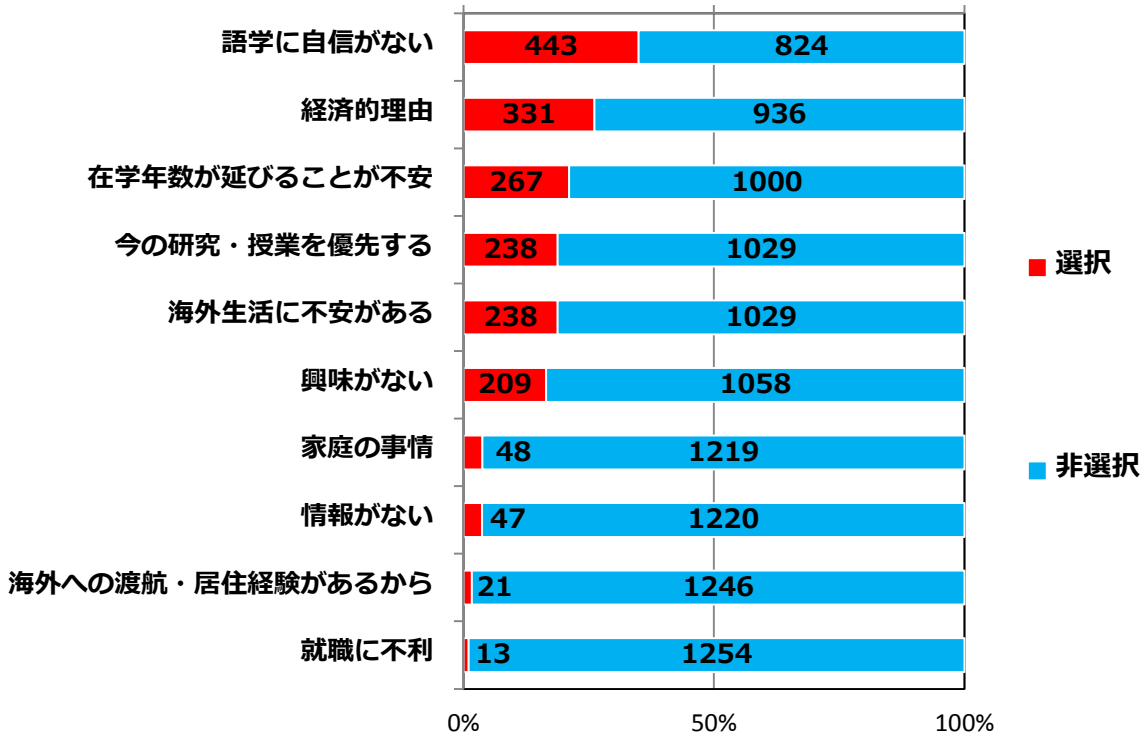

図 6.3.19 留学をしたくない･できない理由（複数選択可）

(20) 大学で実施している教育プログラムのうち知っているものがあればマークしてください。(複数選択可)

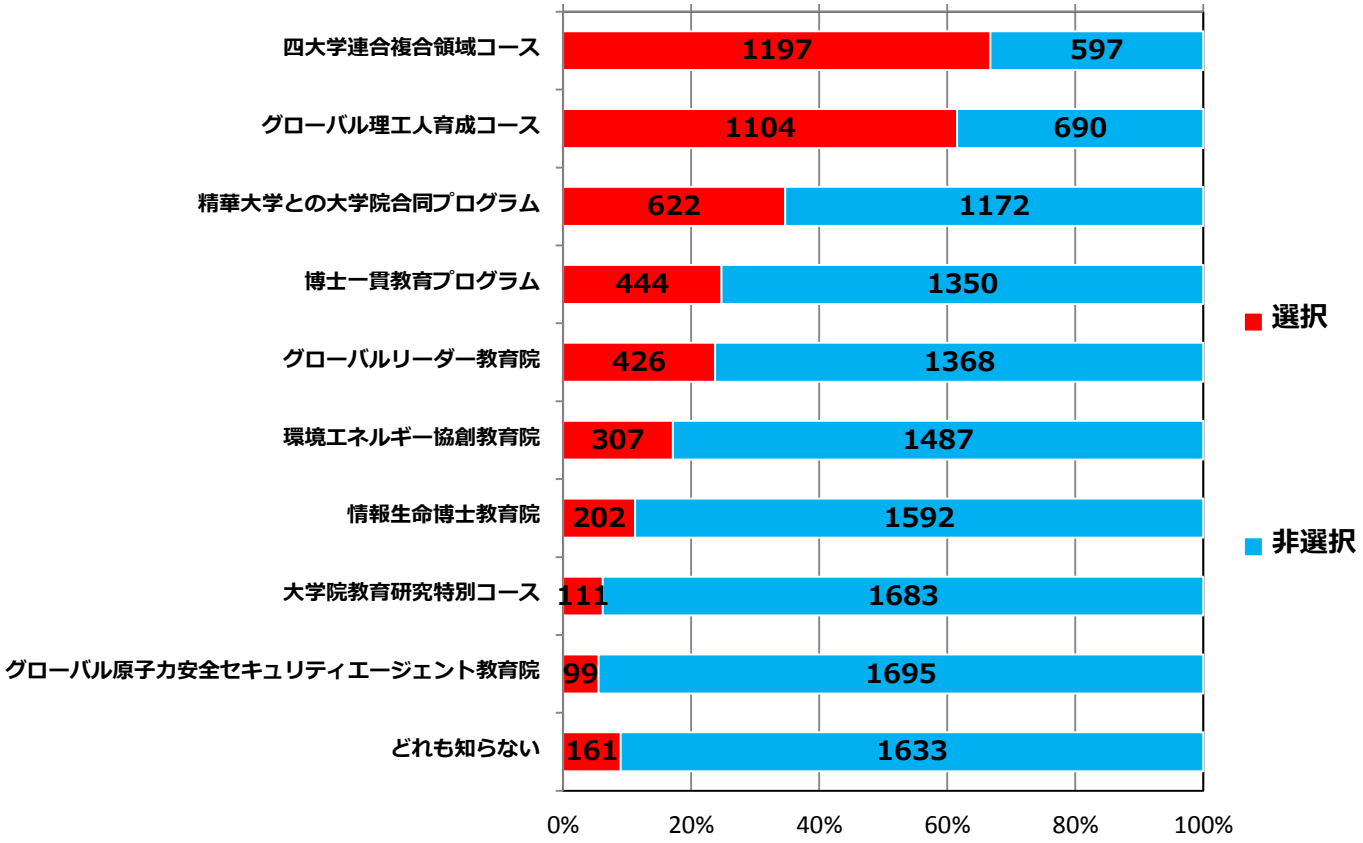

図 6.3.20 教育プログラムのうち知っているもの（複数選択可）

（21）大学で実施している教育プログラムのうち参加したいものがあればマークしてください。（複数選択可）

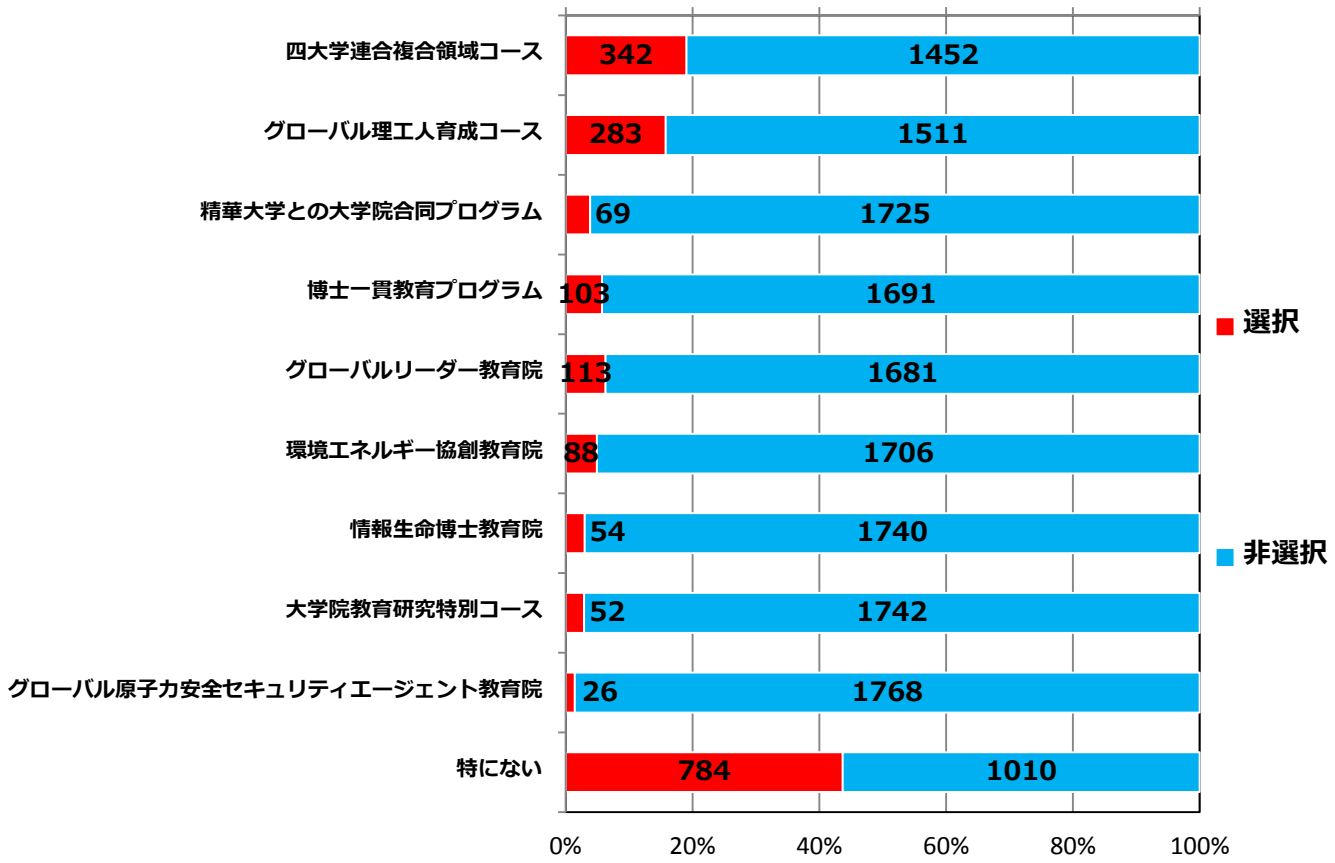

図 6.3.21 教育プログラムのうち参加したいもの（複数選択可）

（22）東工大ポータルへアクセスする際に使用する端末を選択してください。（複数選択可）

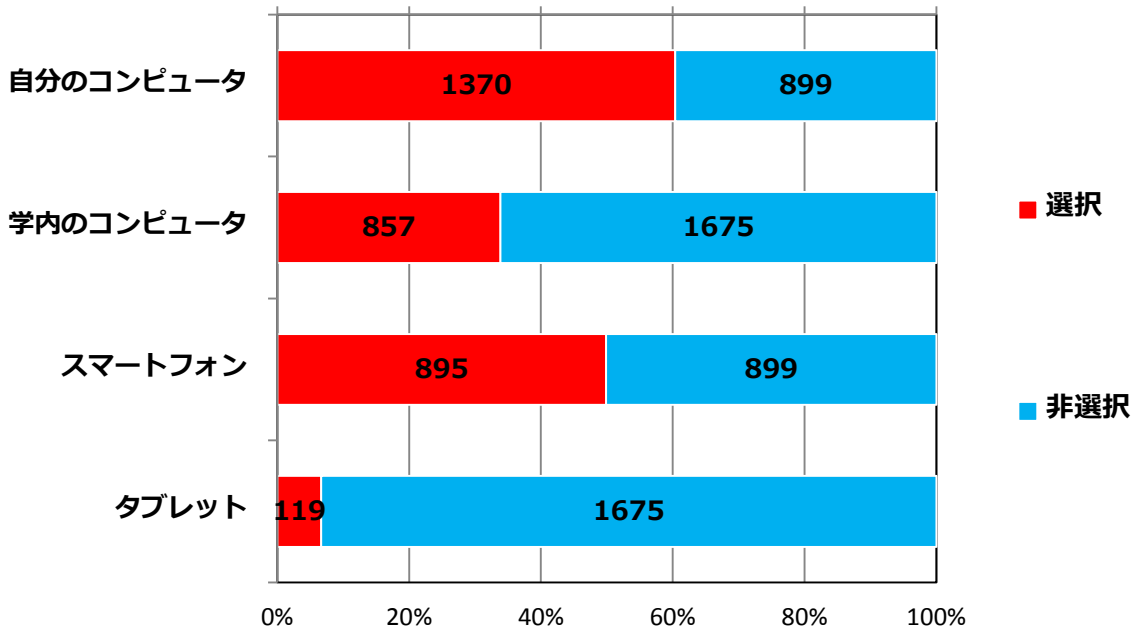

図 6.3.22 東工大ポータルへアクセスする際に使用する端末（複数選択可）

(23)SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)を利用することがありますか。

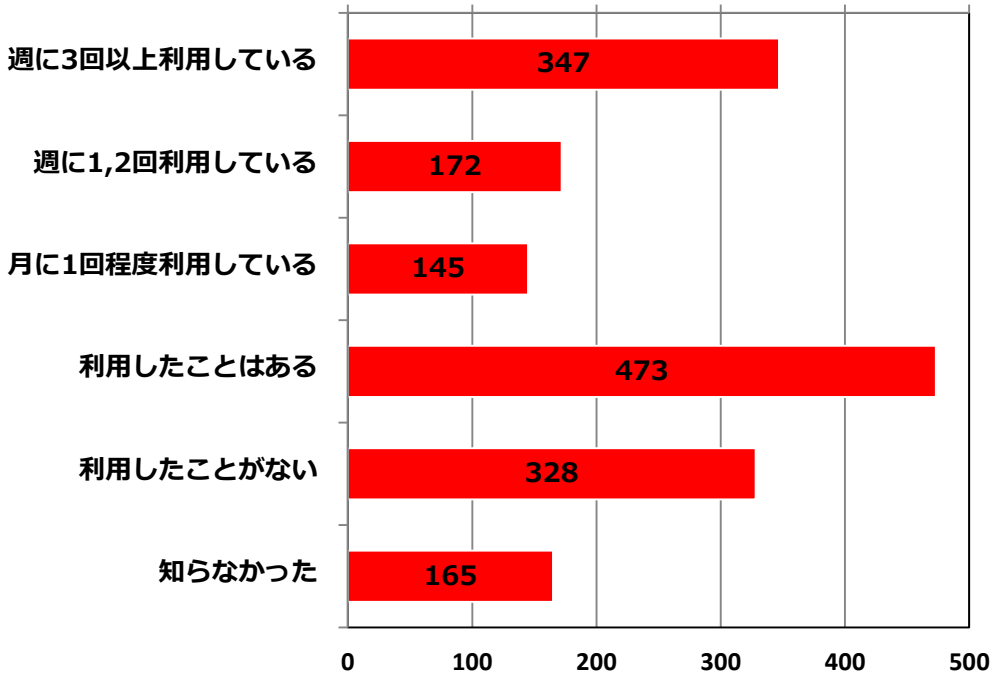

図 6.3.23 SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)を利用することがありますか。

6.4. 施設関連

(1)附属図書館をどの程度利用していますか

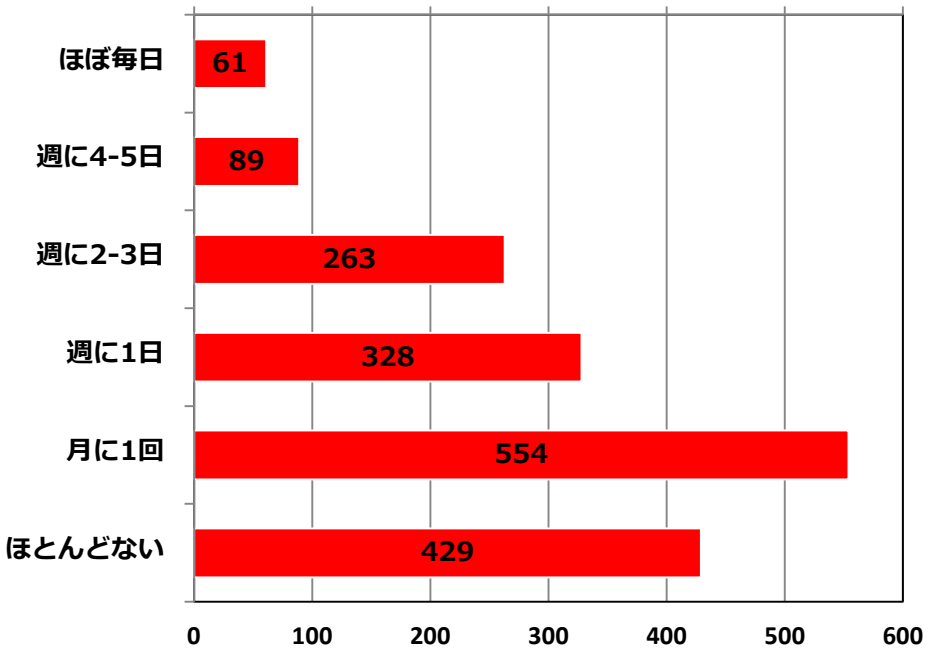

図 6.4.1　附属図書館の利用頻度

(2)図書館サービス：TDL オンラインリクエストを利用したことがありますか

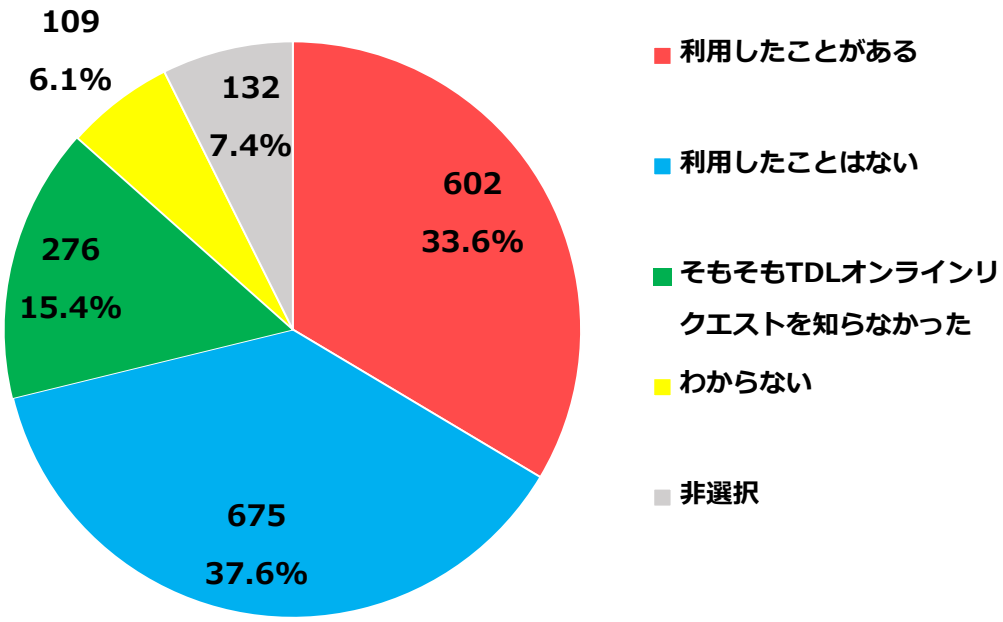

図 6.4.2　図書館サービス：TDL オンラインリクエストの利用

(3)現在の図書館の開館時間に満足していますか

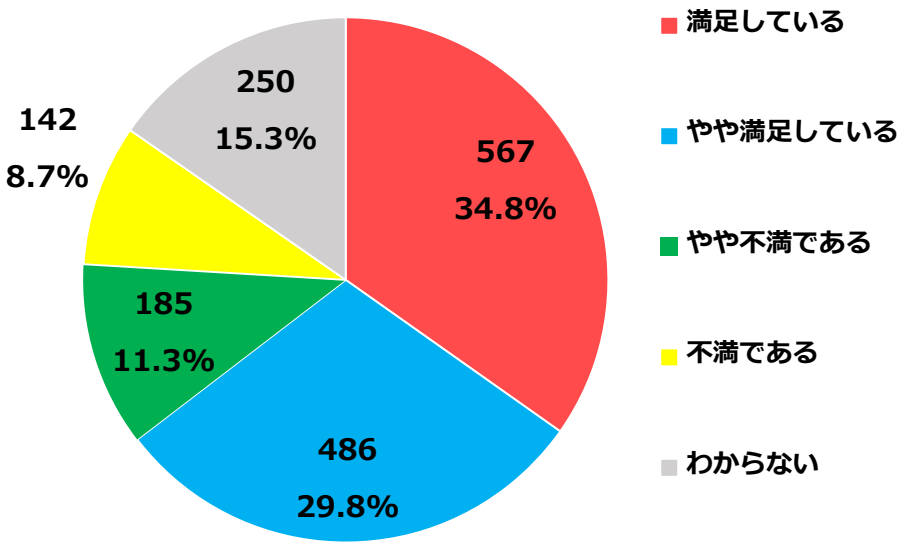

図 6.4.3　現在の図書館の開館時間に満足しているか

（4）主にどこで朝食を食べますか

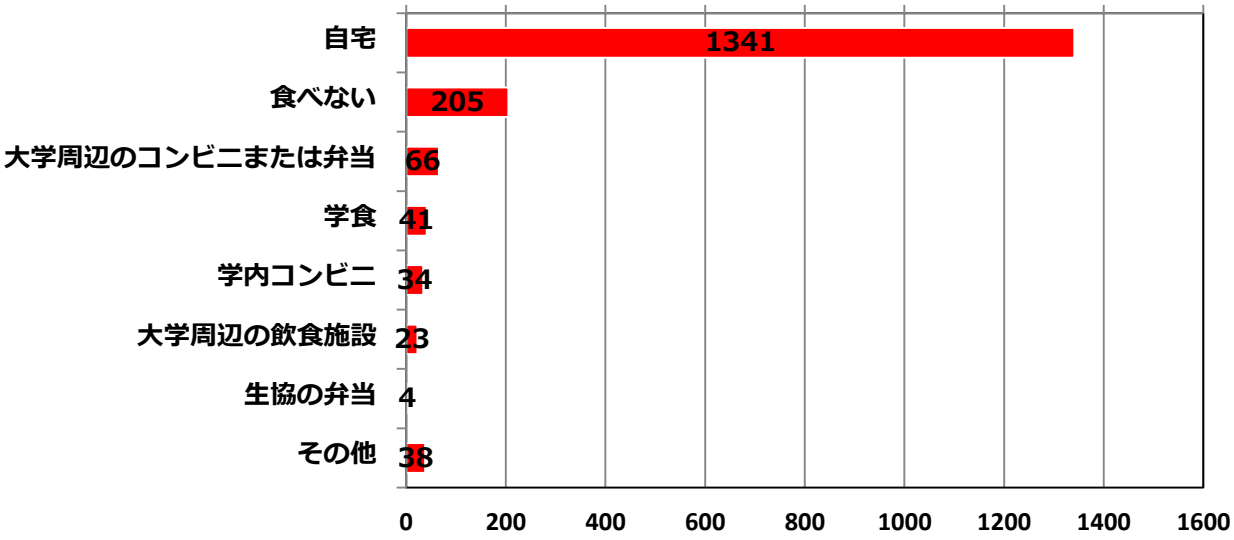

図 7.4.4　主にどこで朝食を食べるか

（5）主にどこで昼食を食べますか

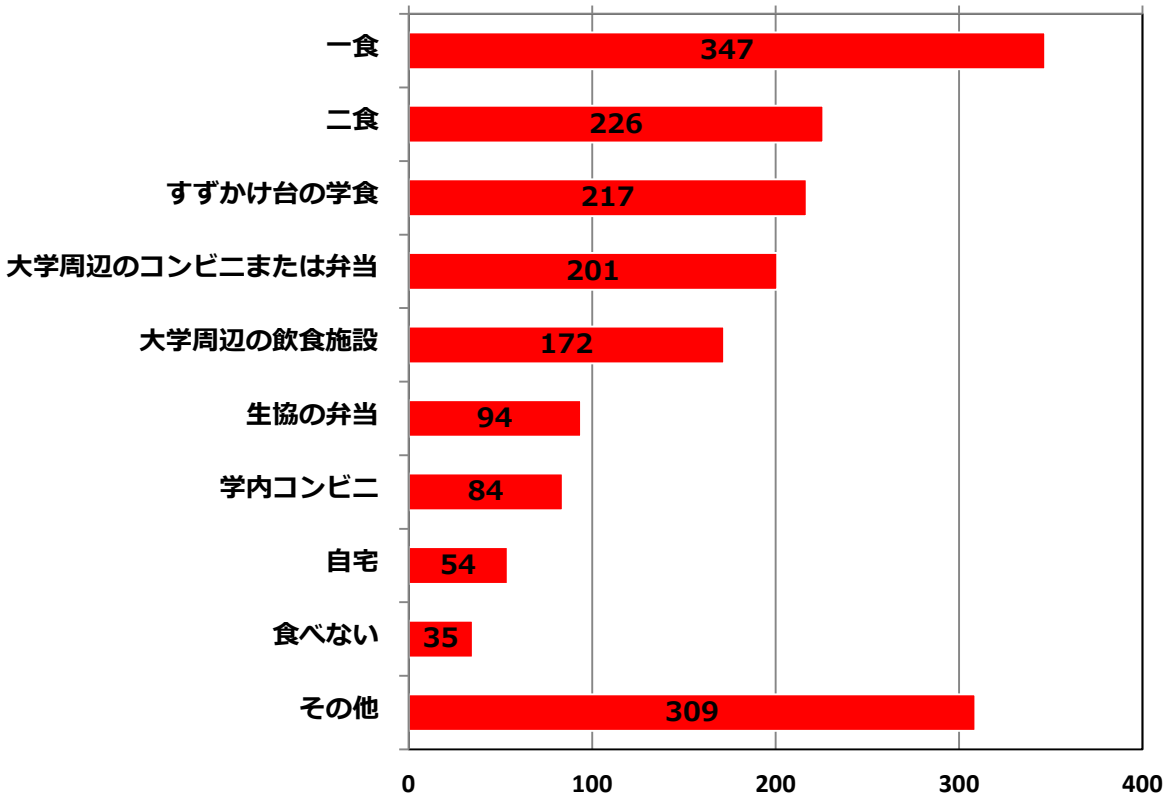

図 6.4.5　主にどこで昼食を食べるか

（6）主にどこで夕飯を食べますか

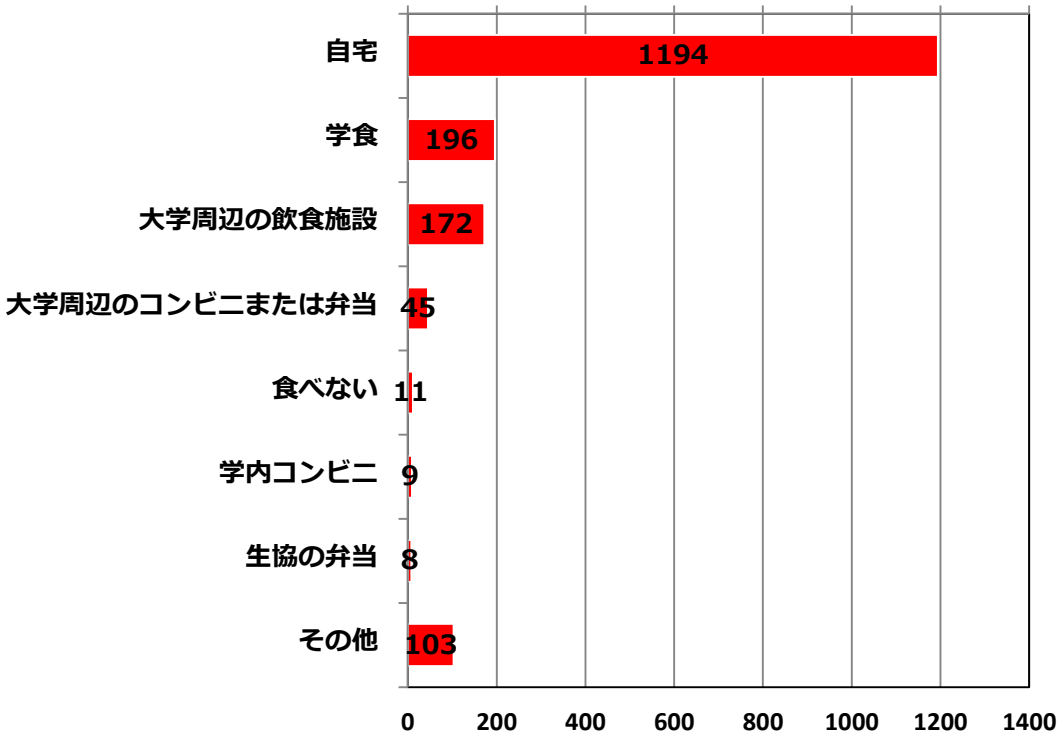

図 6.4.6　主にどこで夕飯を食べるか

(7)学食をどれくらいの頻度で利用しますか

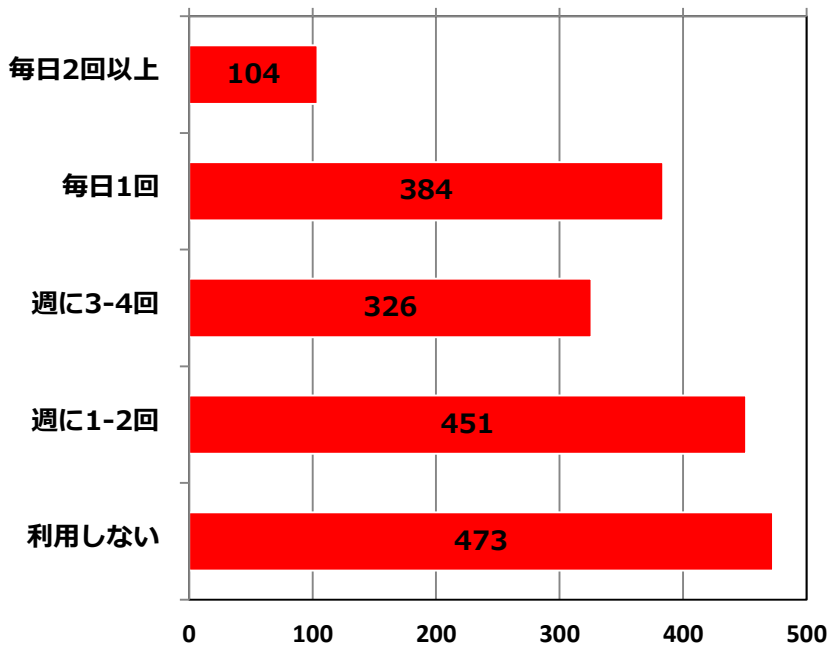

図 6.4.7 学食の利用頻度

(8)学食の価格はいかがですか

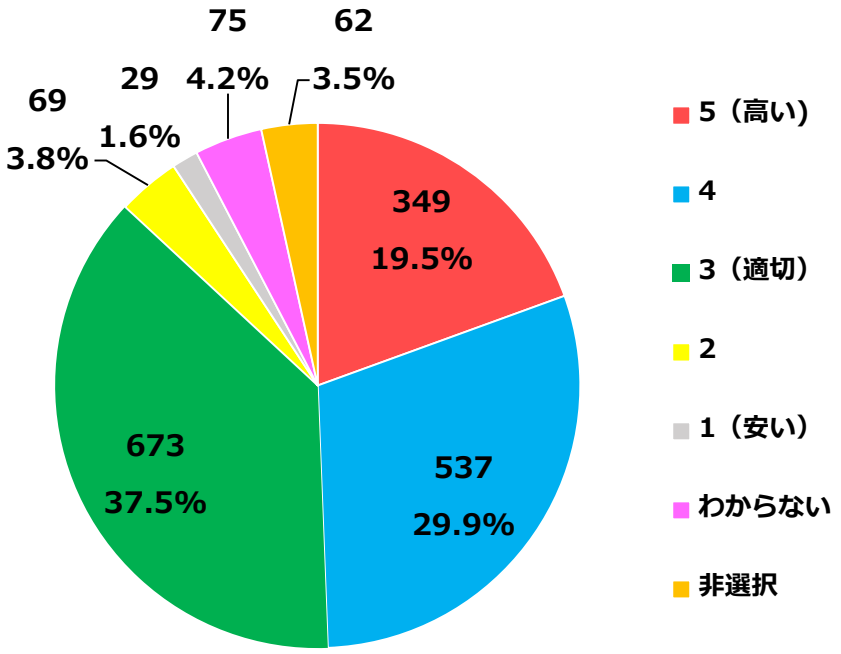

図 6.4.8 学食の価格

(9)学食の質はいかがですか

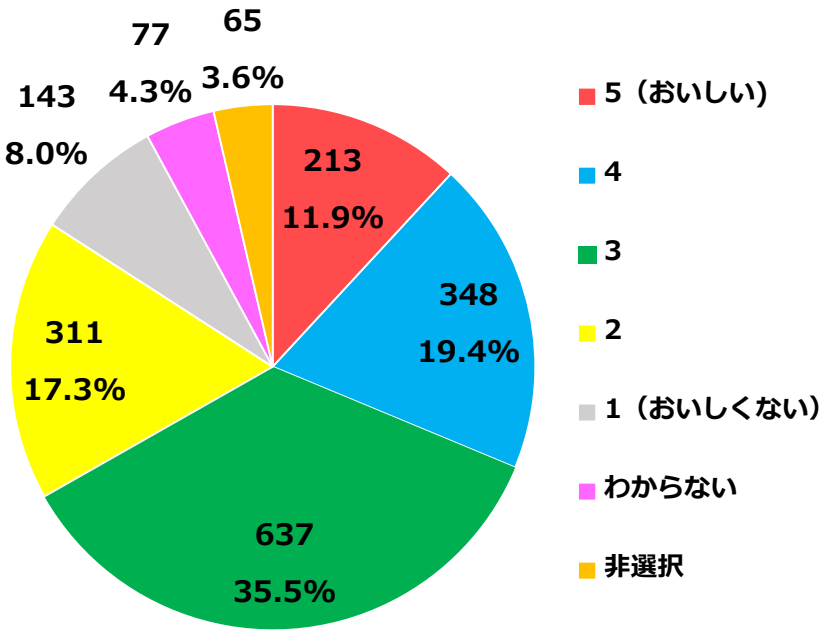

図 6.4.9　学食の質

(10)学食のメニューに求めるものは何ですか

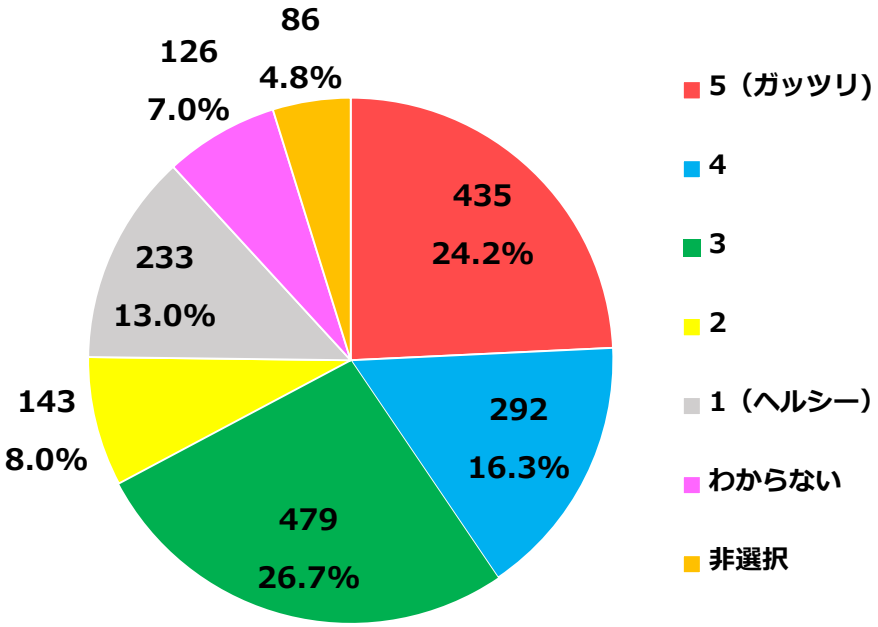

図 6.4.10　学食のメニューに求めるもの

(11)学内の弁当販売でどれくらいの頻度で弁当を購入しますか

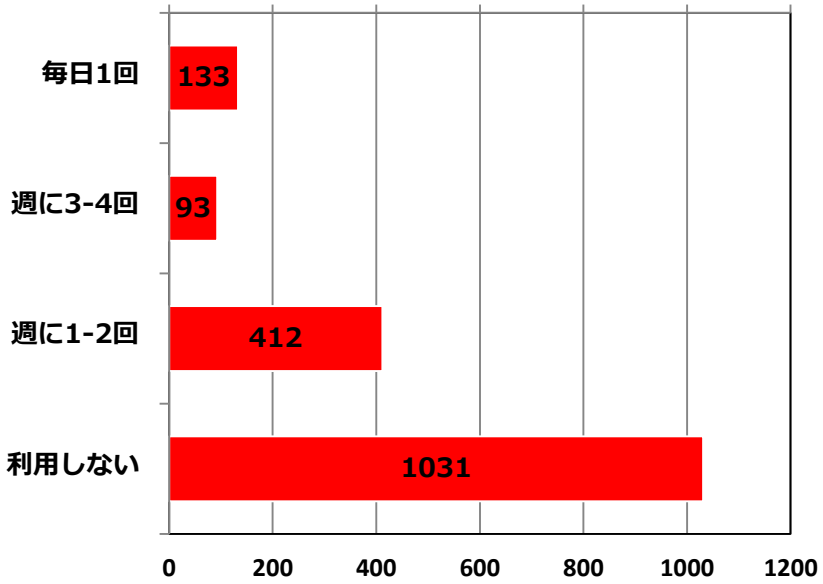

図 6.4.11　学内弁当の購入頻度

(12)学内弁当の価格はいかがですか

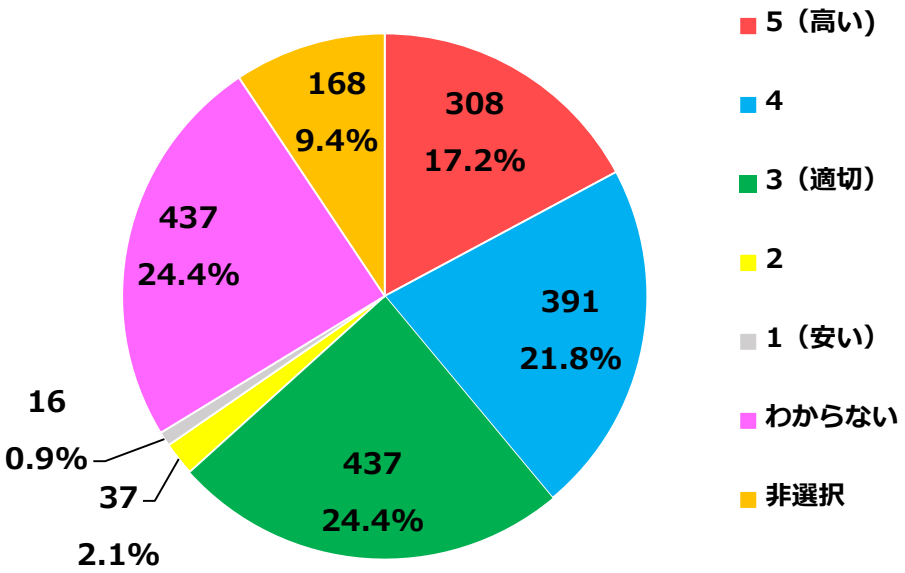

図 6.4.12　学内弁当の価格

(13)学内弁当の質はいかがですか

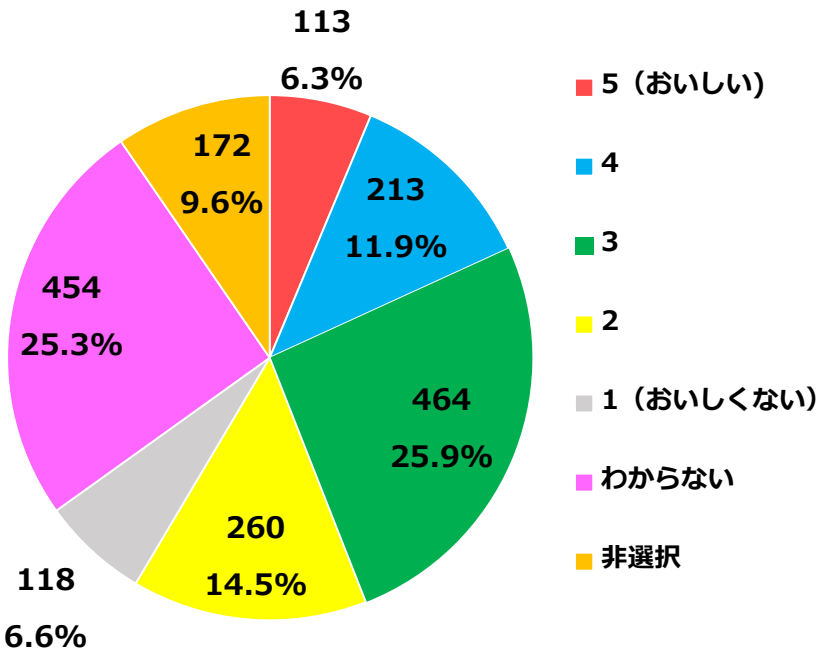

図 6.4.13　学内弁当の質

(14)学内の喫煙所を利用しますか

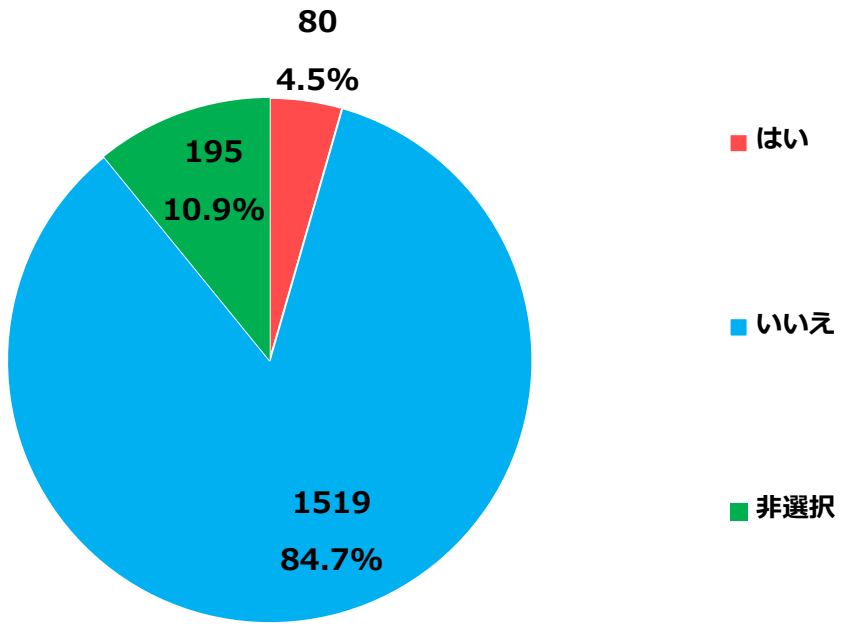

図 6.4.14　学内の喫煙所を利用するか

(15)喫煙所の位置に満足していますか

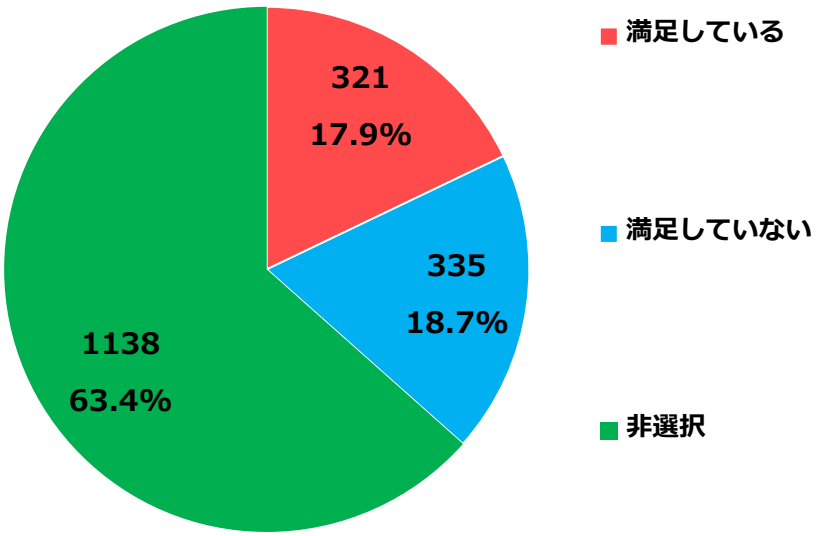

図 6.4.15 喫煙所の位置の満足度

(16)駐輪スペースは十分であると思いますか

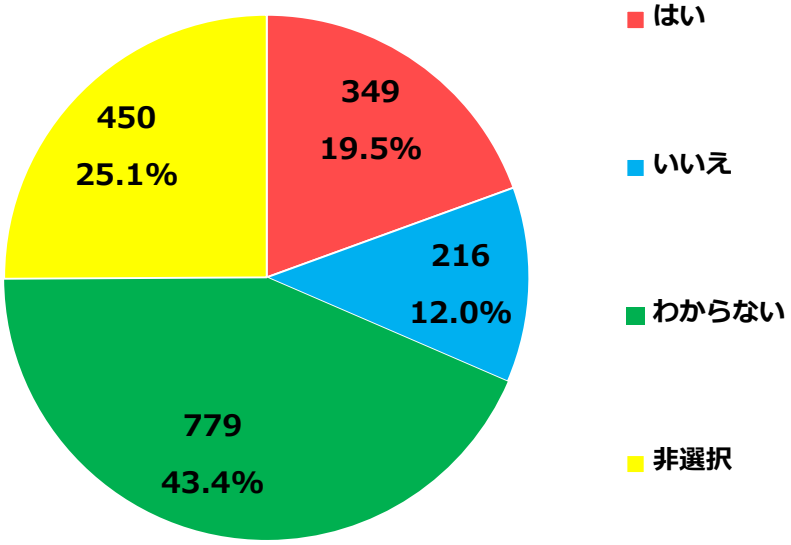

図 6.4.16 駐輪所スペースは十分か

(17)大学の施設のなかで充実してほしい施設(複数選択可)

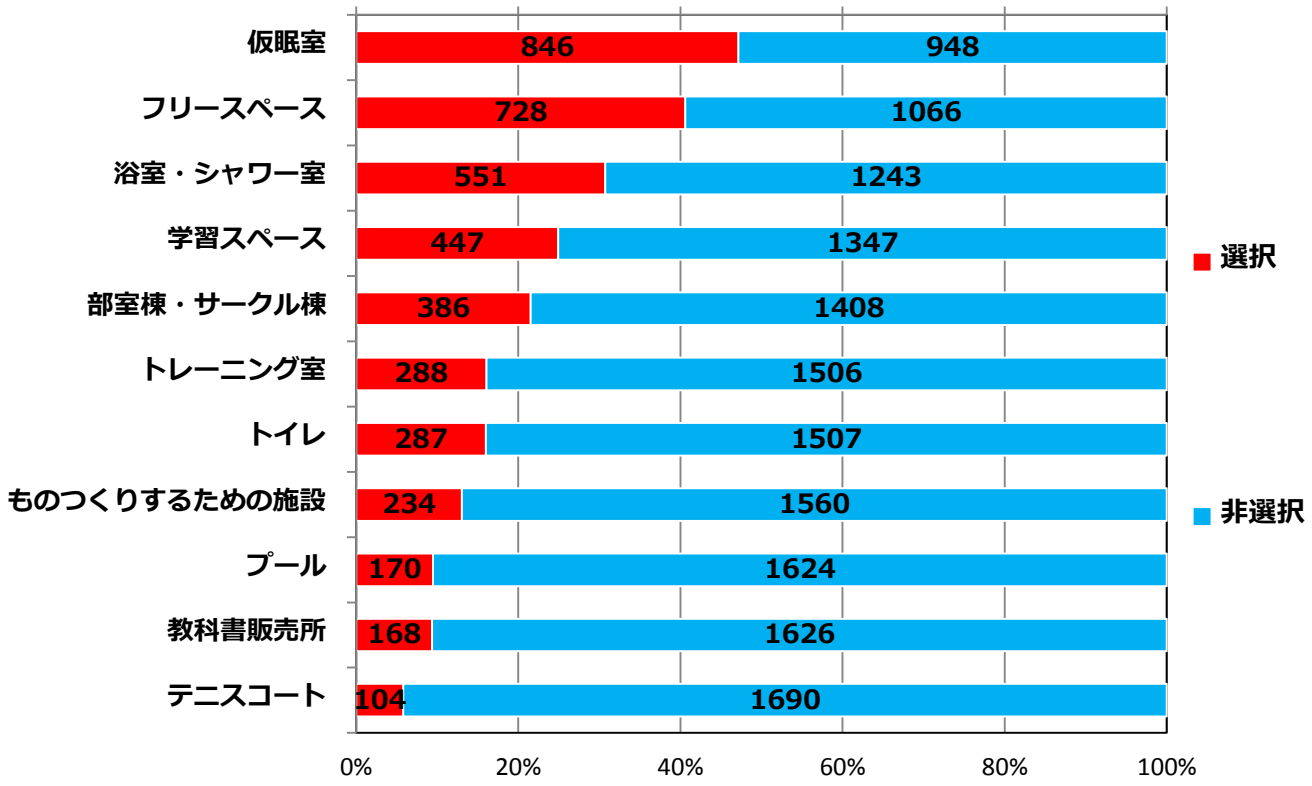

図 6.4.17　充実してほしい施設(複数選択可)

(18)大学に誘致してほしい施設(複数選択可)

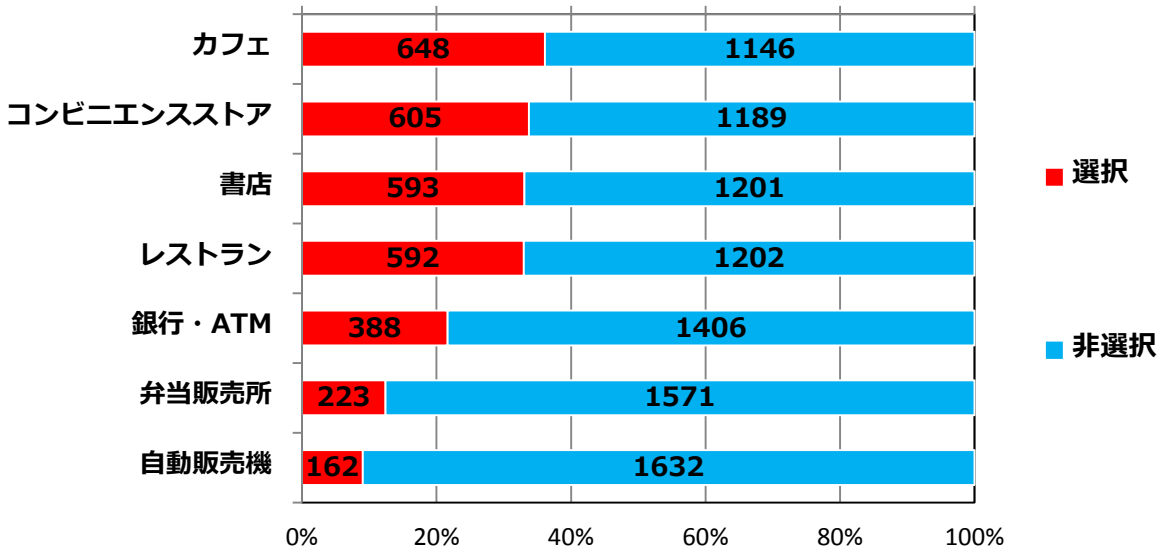

図 6.4.18　誘致してほしい施設(複数選択可)

6.5. サービス関連

(1)大学の発信する情報を得るために利用しているサービス(3 つまで選択可)

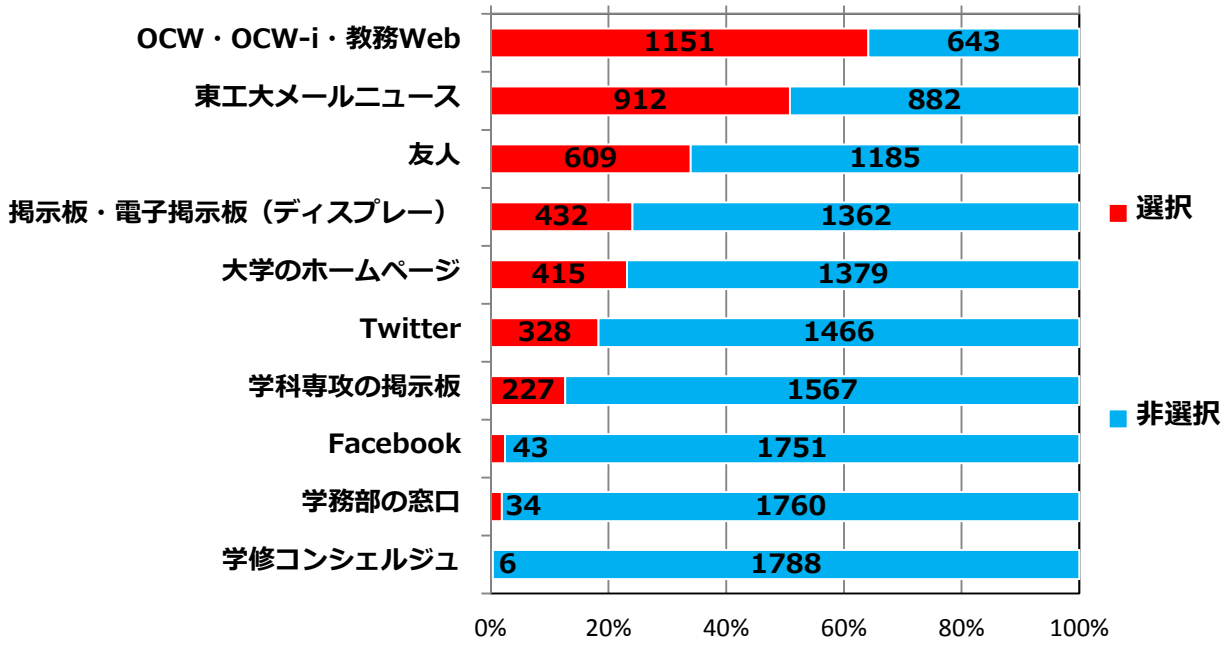

図 6.5.1　大学の発信する情報を得るために利用しているサービス(3 つまで選択可)

(2)学生生活サービスのうち、実現・充実してほしいサービス(複数選択可)

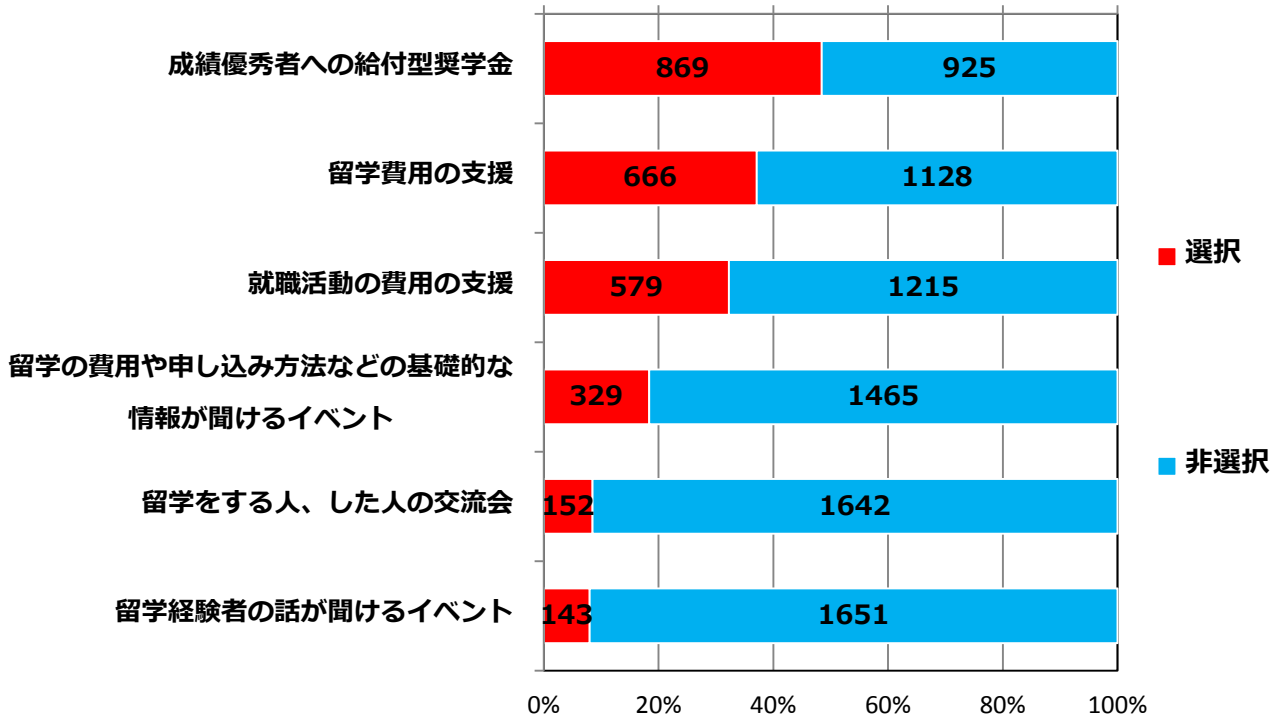

図 6.5.2　実現・充実して欲しいサービス(複数選択可)

(3)就職活動サービスの中で実現・充実してほしいサービス(複数選択可)

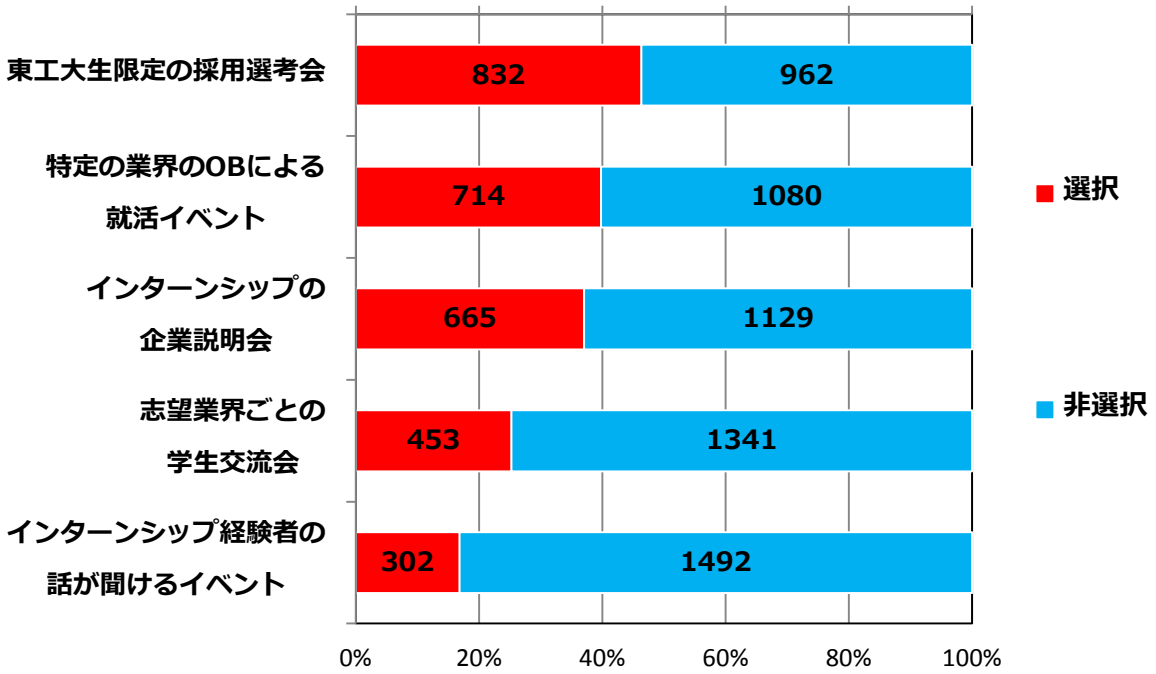

図 6.5.3　就職活動サービスの中で実現・充実してほしいサービス(複数選択可)

(4)学内の活動について知っているものをマークしてください(複数選択可)

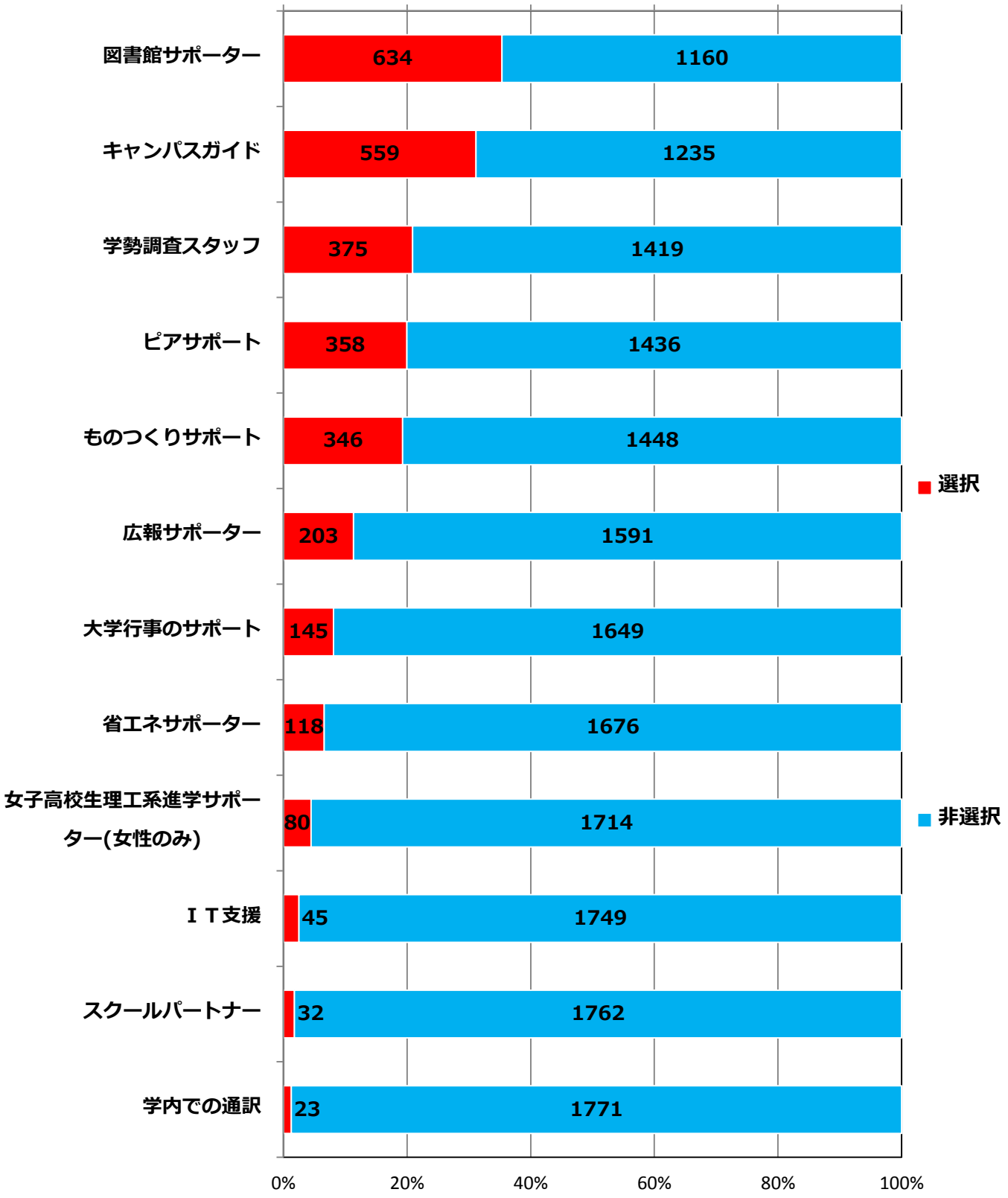

図 6.5.4 知っている学内の活動(複数選択可)

(5)興味がある学内の活動をマークしてください(複数選択可)

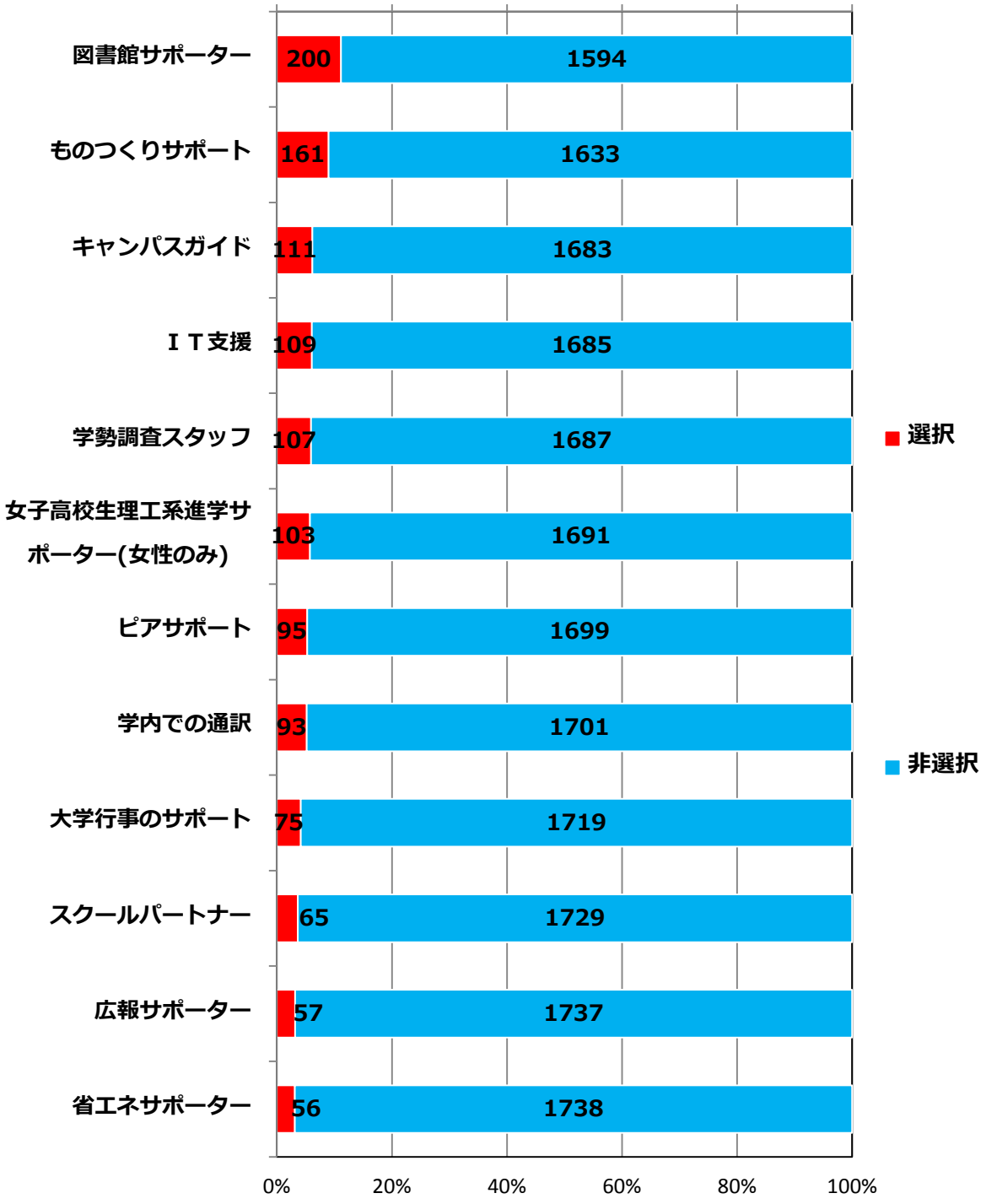

図 6.5.5　興味がある学内の活動(複数選択可)

(6)教員の対応は適切ですか

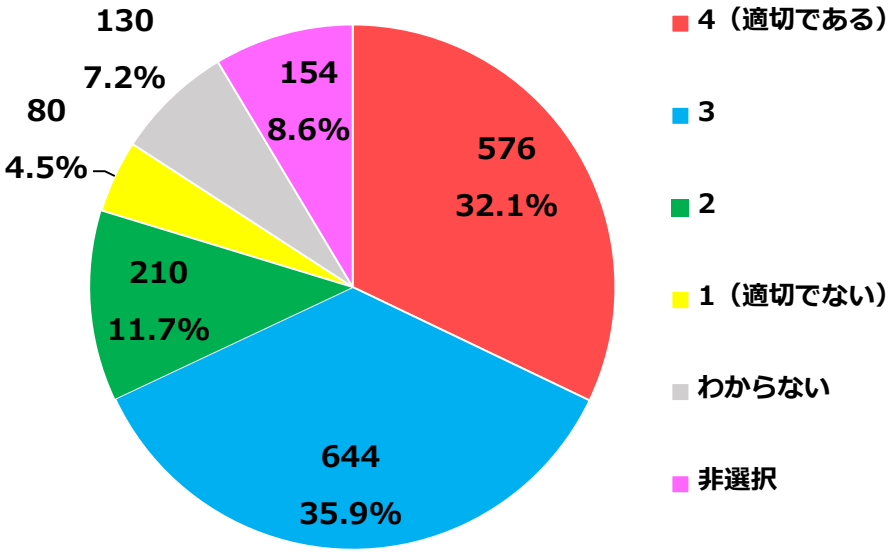

図 6.5.6　教員の対応について

(7)事務職員の対応は適切ですか

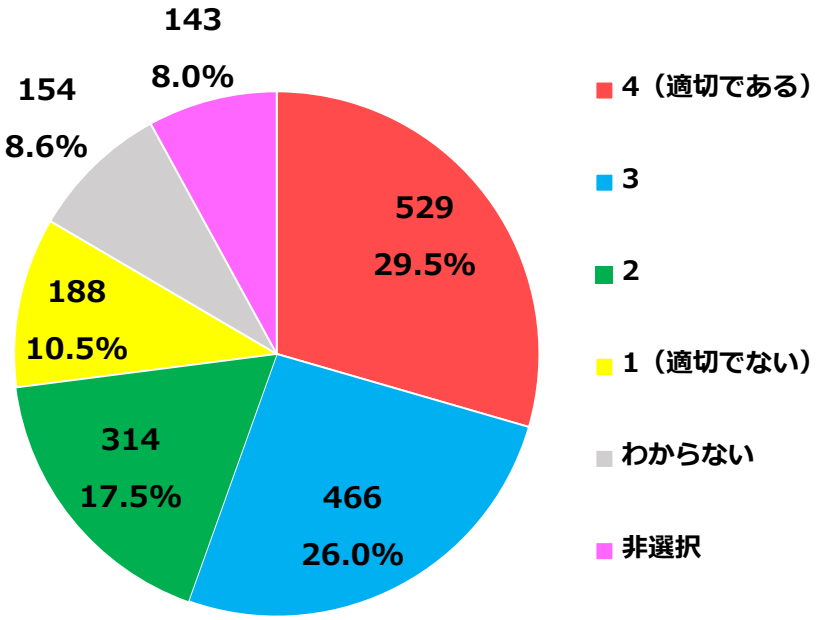

図 6.5.7　事務職員の対応について

(8)相談窓口として知っているものをマークしてください(複数選択可)

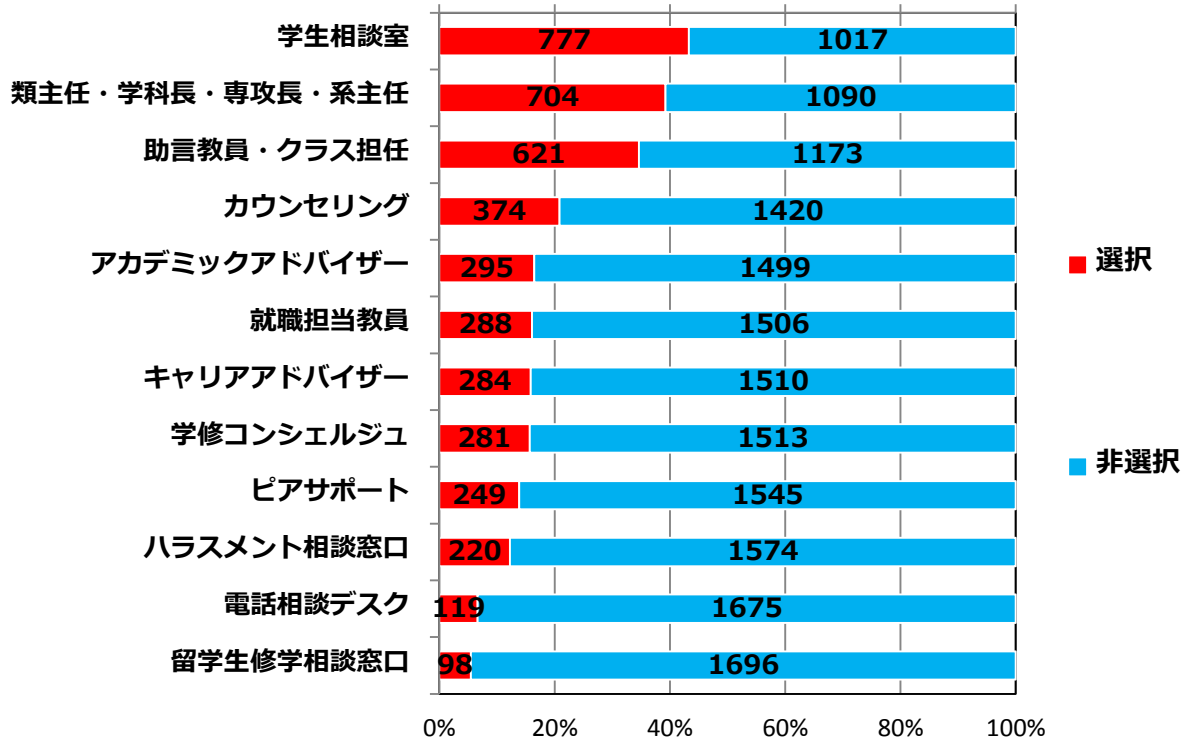

図 6.5.8 知っている相談窓口(複数選択可)

(9)利用してみたい相談窓口をマークしてください(複数選択可)

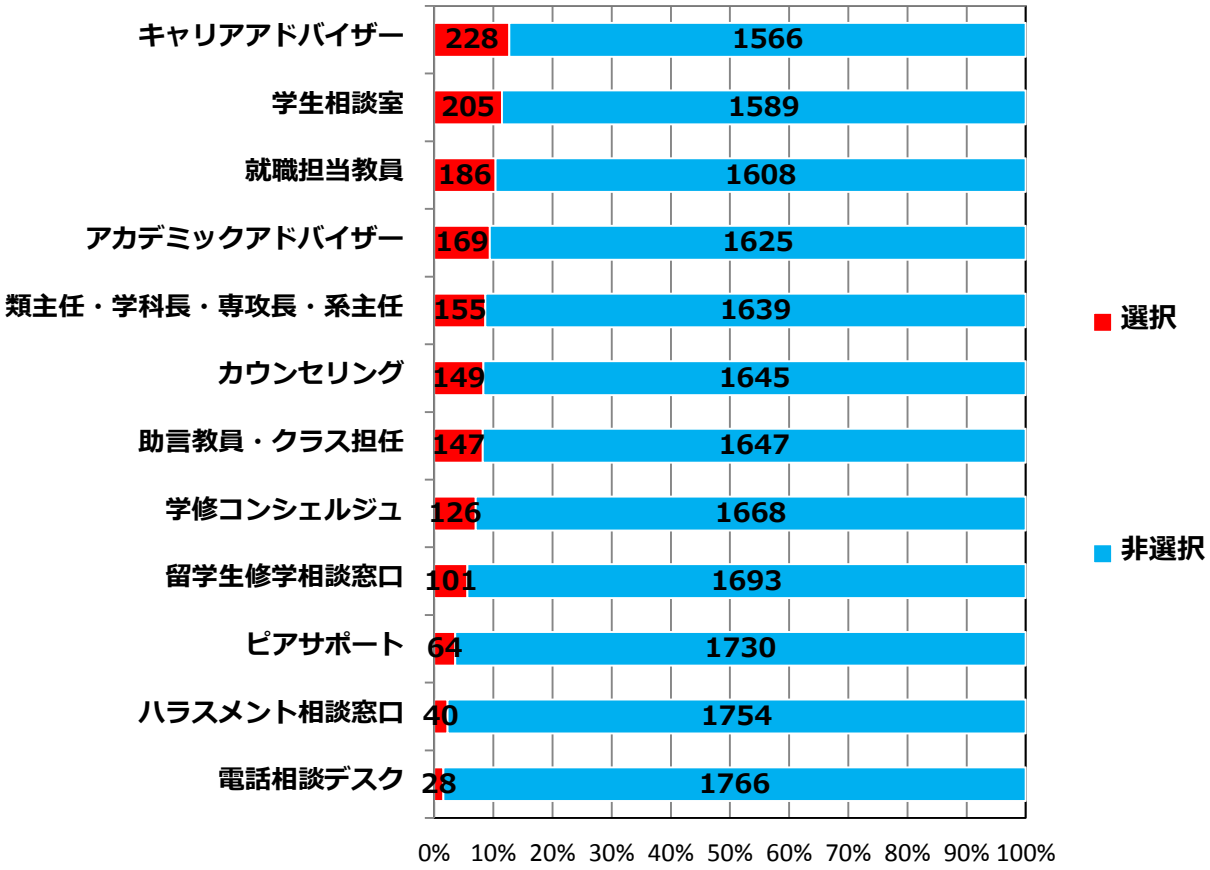

図 6.5.9 利用してみたい相談窓口(複数選択可)

(10)学内でハラスメントを見聞きしたことがありますか。

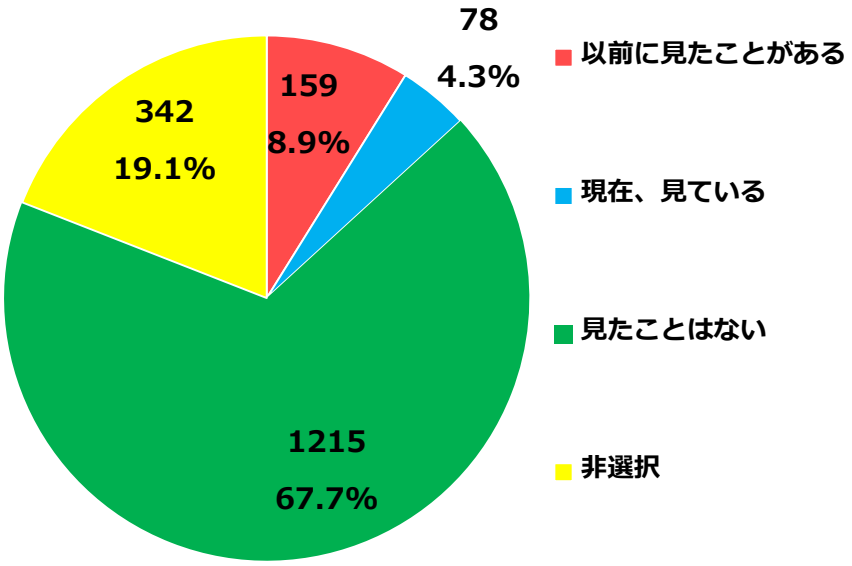

図 6.5.10 学内でハラスメントを見聞きしたことがあるか

(11)アルハラ(アルコールハラスメント)を見聞きしたことがありますか。(複数選択可)

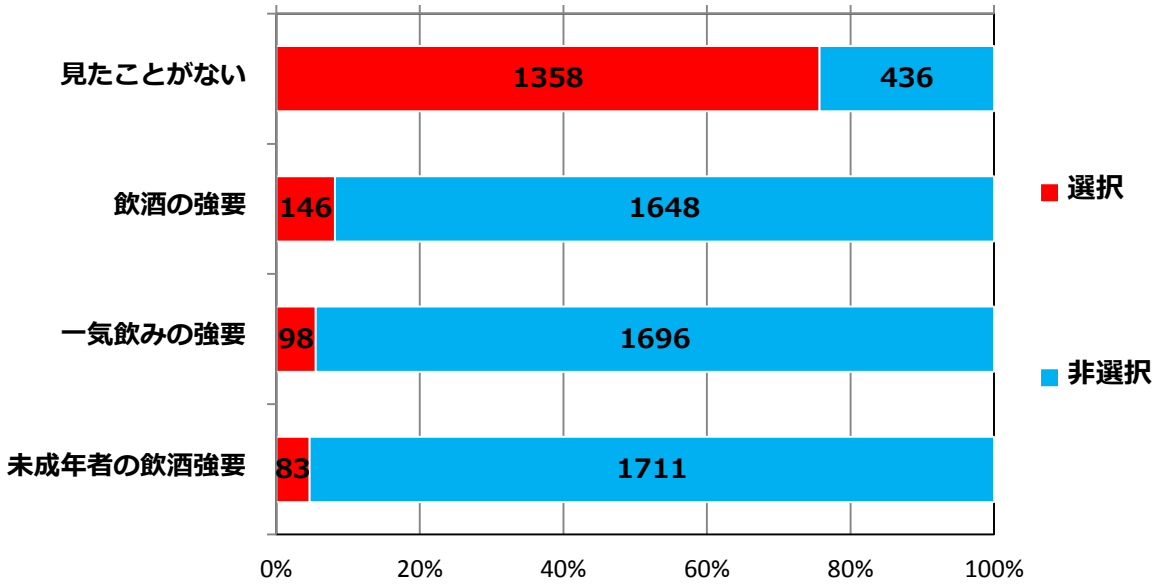

図 6.5.11 アルハラ(アルコールハラスメント)を見聞きしたことがあるか(複数選択可)

(12)防災関連に対する認知(複数選択可)

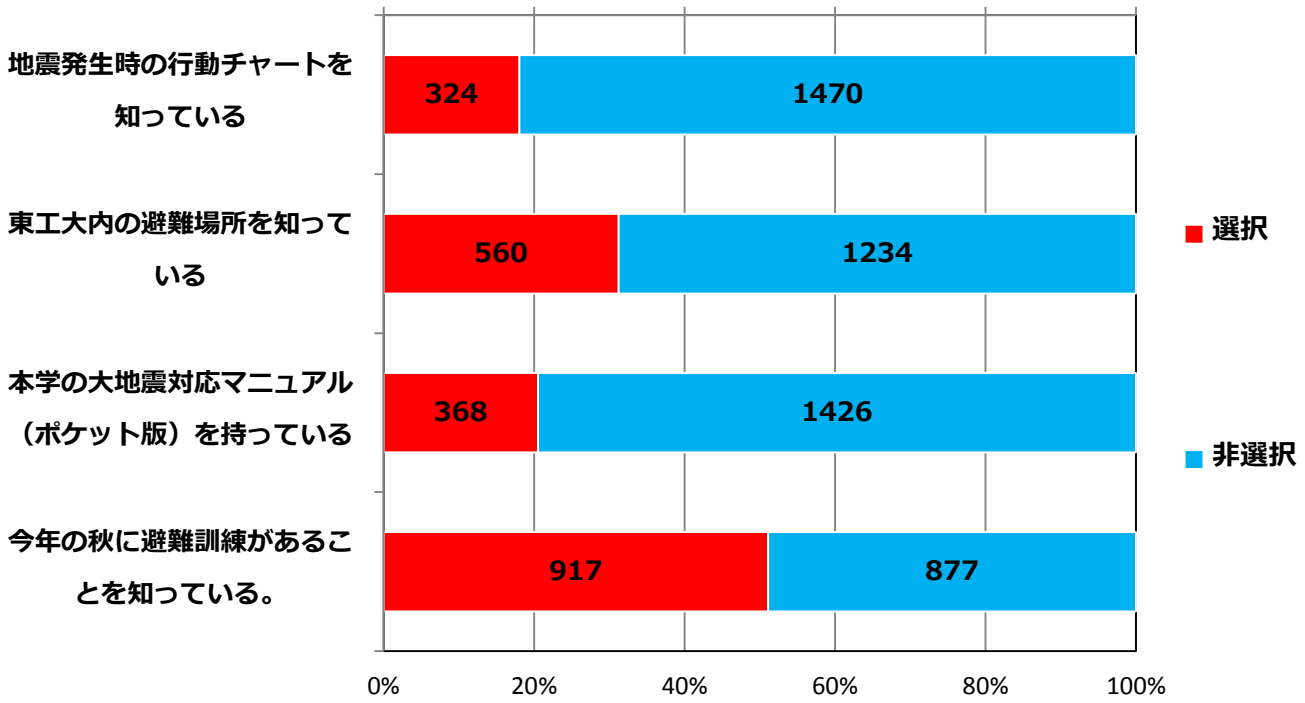

図 6.5.12 防災関連に対する認知(複数選択可)

(13)昨年の学内の防災訓練に参加しましたか

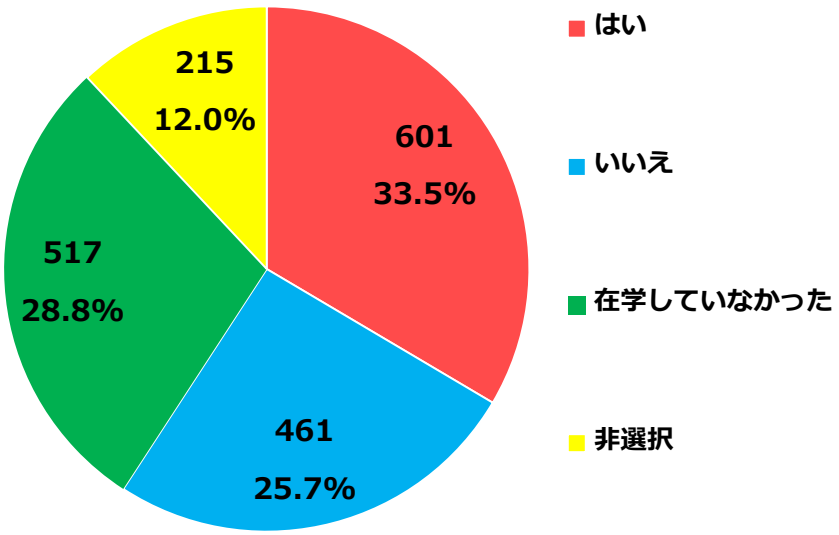

図 6.5.13 昨年の学内の防災訓練に参加したか

6.6. 設問一覧

○:ラジオボタン □:チェックボックス

【 】:ドロップダウンリストの設問(◇は選択肢)

Ⅰ.基本情報(必須)

1 あなたはどこでこのアンケートに回答していますか。

○ 学内 ○ 学外

2 学部／大学院

○ 学士課程 ○ 大学院修士課程 ○ 大学院博士課程 ○ 専門職学位課程 ○ 研究生 ○ その他

【3 現課程への入学年度】

◇ 2016 ◇ 2015 ◇ 2014 ◇ 2013 ◇ 2012 ◇ 2011 ◇ その他

4 以下に該当する方はチェックを入れてください。(複数選択可)

□ 高専や他大学に在籍していた □ 留学生である

5 性別

○ 男性 ○ 女性

6 所属

○ 類 ○ 学科 ○ 専攻 ○ コース ○ その他

【a 所属類】

◇ 1 類 ◇ 2 類 ◇ 3 類 ◇ 4 類 ◇ 5 類 ◇ 6 類 ◇ 7 類

【b 所属学科】

◇ 数学科 ◇ 物理学科 ◇ 化学科 ◇ 情報科学科 ◇ 地球惑星科学科 ◇ 金属工学科

◇ 有機材料工学科 ◇ 無機材料工学科 ◇ 化学工学科(化学工学コース) ◇ 化学工学科(応用化学コース)

◇ 高分子工学科 ◇ 機械科学科 ◇ 機械知能システム学科 ◇ 機械宇宙学科 ◇ 制御システム工学科

◇ 経営システム工学科 ◇ 電気電子工学科 ◇ 情報工学科 ◇ 土木･環境工学科 ◇ 建築学科

◇ 社会工学科 ◇国際開発工学科 ◇ 生命科学科(コース未所属) ◇ 生命科学科(分子生命コース)

◇ 生命科学科(生体機構コース) ◇ 生命科学科(生命情報コース) ◇ 生命工学科(コース未所属)

◇ 生命工学科(生物工学コース) ◇ 生命工学科(生体分子コース) ◇ 生命工学科(生命情報コース)

【c 所属専攻】

◇ 数学専攻 ◇ 基礎物理学専攻 ◇ 物性物理学専攻 ◇ 化学専攻 ◇ 地球惑星科学専攻

◇ 物質科学専攻 ◇ 材料工学専攻 ◇ 有機･高分子物質専攻 ◇ 応用化学専攻 ◇ 化学工学専攻

◇ 機械物理工学専攻 ◇ 機械制御システム専攻 ◇ 機械宇宙システム専攻 ◇ 電気電子工学専攻

◇ 電子物理工学専攻 ◇ 集積システム専攻 ◇ 通信情報工学専攻 ◇ 土木工学専攻 ◇ 建築学専攻

◇ 国際開発工学専攻 ◇ 原子核工学専攻 ◇ 分子生命科学専攻 ◇ 生体システム専攻 ◇ 生命情報専攻

◇ 生物プロセス専攻 ◇ 生体分子機能工学専攻◇ 物質科学創造専攻 ◇ 物質電子化学専攻

◇ 材料物理科学専攻　◇ 環境理工学創造専攻　◇ 人間環境システム専攻　◇ 創造エネルギー専攻
◇ 化学環境学専攻　◇ 物理電子システム創造専攻　◇ メカノマイクロ工学専攻　◇ 知能システム科学専攻
◇ 物理情報システム専攻　◇ 数理・計算科学専攻　◇ 計算工学専攻　◇ 情報環境学専攻
◇ 人間行動システム専攻　◇ 価値システム専攻　◇ 経営工学専攻　◇ 社会工学専攻 ◇ 技術経営専攻
◇ イノベーション専攻

【d 選択したコース】

◇ 数学コース　◇ 物理学コース　◇ 化学コース　◇ 地球惑星科学コース　◇ 機械コース
◇システム制御コース　◇ 電気電子コース　◇ 情報通信コース　◇ 経営工学コース　◇ 材料コース
◇ 応用化学コース　◇ 数理・計算科学コース　◇ 情報工学コース　◇ 生命理工学コース　◇ 建築学コース
◇ 土木工学コース　◇ 地球環境共創コース　◇ 社会・人間科学コース　◇ イノベーション科学コース
◇ 技術経営専門職学位課程(専門職学位課程)　◇ エネルギーコース　◇ エンジニアリングデザインコース
◇ ライフエンジニアリングコース　◇ 原子核工学コース　◇ 知能情報コース　◇都市・環境学コース

7 キャンパス内の主な活動場所はどこですか。

○ 大岡山地区(東地区,西地区,南地区,北地区)　○ 緑が丘地区　○ 石川台地区　○ すずかけ台キャンパス
○ 田町キャンパス

8 平日の平均的な時間の使い方を教えて下さい。

【a 睡眠】

◇ 0 時間 ◇ 0-2 時間 ◇ 2-4 時間 ◇ 4-5 時間 ◇ 5-6 時間 ◇ 6-7 時間 ◇ 7-8 時間 ◇ 8 時間以上

【b 勉強・研究(大学にいる時間を含む, 講義時間は含まない)】

◇ 0 時間 ◇ 0-2 時間 ◇ 2-4 時間 ◇ 4-5 時間 ◇ 5-6 時間 ◇ 6-7 時間 ◇ 7-8 時間 ◇ 8 時間以上

【c 娯楽】

◇ 0 時間 ◇ 0-2 時間 ◇ 2-4 時間 ◇ 4-5 時間 ◇ 5-6 時間 ◇ 6-7 時間 ◇ 7-8 時間 ◇ 8 時間以上

【d 仕事・アルバイト】

◇ 0 時間 ◇ 0-2 時間 ◇ 2-4 時間 ◇ 4-5 時間 ◇ 5-6 時間 ◇ 6-7 時間 ◇ 7-8 時間 ◇ 8 時間以上

9 過去に実施した学勢調査に回答しましたか。

○ 回答した ○ 回答していない　○ 憶えていない

【10 学勢調査 2016 をどこで知りましたか。】

◇ 東工大メールニュース　◇ ホームページ　◇ 電子掲示板(ディスプレイ)　◇ 学内掲示板　◇ ポスター
◇ 食堂のポップ　◇ SNS　◇ 知り合いに教えてもらった　◇ 学科や専攻からのメール　◇ 東工大ポータル
◇ その他＜自由記述＞

Ⅱ.大学・学科・専攻

【1 東工大生としてプライドをもっていますか。】

◇ 4(とてももっている)　◇ 3(もっている)　◇ 2(少しもっている)　◇ 1(もっていない)

2 あなたが思う東工大の人材育成における進むべき方向性を教えてください。

○ 国際的に活躍できるグローバルな人材を育成する大学　○ 専門を極めたスペシャリストを育成する大学

○ 理工系全域の見地を持った人材を育成する大学

○ 人文系と理工系など幅広い知識をもったジェネラリストを育成する大学

○ 自主的な活動を支援し、リーダーシップのある人材を育成する大学

○ 企業に必要とされる人材を世に送り出す就職に強い大学 ◇ その他＜自由記述＞

3 東工大をよりよい大学にするために、何が必要だと思いますか。(複数選択可)

□ 学生の学力の向上 □ 学生の主体性の向上 □ 研究水準の向上 □ 施設・環境の向上

□ 大学と学生の意思疎通の向上 □ その他＜自由記述＞

【4 本学および本学卒業生は国際社会において先導的役割を担っていると思いますか。】

◇ 4(とても思う) ◇ 3(思う) ◇ 2(少し思う) ◇ 1(思わない)

5 世界大学ランキングのなかでの東工大の順位を気にしたり、調べたりしたことがありますか。

○ 4(とても気にしている) ○ 3(気にしている) ○ 2(少し気にしている) ○ 1(気にしない) ○ わからない

【6 本学で学ぶべき(やりたい)目標をはっきり持っていますか。】

◇ 4(とてももっている) ◇ 3(もっている) ◇ 2(少しもっている) ◇ 1(もっていない)

7 大学に進学した理由を教えてください(複数選択可)

□ 研究を行うため □ 専門を極めるため □ 教養を身につけるため □ 就職のため □ 人脈を作るため

□ サークルや部活などの課外活動のため □ すぐに社会に出たくなかったから □ 周りの人に影響されたため

□ その他＜自由記述＞

8 本学への進学を決めた理由を教えてください(複数選択可)

□ 自宅から近かったため □ 自分の学力に相応であるため □ 東工大では、2 年次以降に学科配属になるため

□ 自分の興味ある分野に強かったため □ 周りの人に影響されたため □ 学びたい先生がいるため

□ 本学の雰囲気が自分に合うと思ったため □ その他＜自由記述＞

【9 現在在籍している類、学科、専攻、系(選択しているコース)等に満足していますか。】

◇ 4(満足) ◇ 3(やや満足) ◇ 2(やや不満である) ◇ 1(不満である)

10 現在在籍している類、研究科、専攻、系(選択しているコース)等に不満がある場合、該当するものにマークしてください。(複数選択可)

□ 想定した研究・学習内容と異なっていたから □ カリキュラムに不満があるため □ 教員に対して不満があるため

□ 施設設備に不満があるため □ 周りの学生に不満があるため □ 自分の時間が取れないため

□ その他＜自由記述＞

11 大学や学科・専攻に意見がある場合は記入してください。

Ⅲ.学習

【1 今年度の前期(1Q,2Q)の講義の出席状況はどうでしたか。】

◇ 80-100% ◇ 60-80% ◇ 40-60% ◇ 20-40% ◇ 0-20%

◇ 大学に在籍していなかった ◇ 講義をとる必要がなかった

2 履修申告をした講義に出ない主な理由は何ですか。(3 つまで選択可)

□ 講義に魅力がない □ 講義が理解できない □ 勉強意欲が起きない □ 健康上の理由

☐ 朝起きられない ☐ 出席と成績は関係ない ☐ 研究実験のため ☐ サークルや部活のため

☐ アルバイトのため ☐ 就職活動のため ☐ 自主学習で十分足りるため ☐ 他の科目の課題で忙しいため

☐ その他＜自由記述＞

3 次の項目の中から学習意欲向上に有効と思われるものにマークしてください。(3 つまで選択可)

☐ 学生主体・参加型の講義を増やす ☐ 研究室体験のような講義を増やす ☐ 実習・実験の講義を増やす

☐ 他学科の講義を取りやすくする ☐ 自由にグループ学習できる場を増やす ☐ 授業成績の評価方法を明確にする

☐ 出席重視の成績評価にする ☐ テスト重視の成績評価にする ☐ 英語で講義を行う ☐ その他＜自由記述＞

4 他学科や他大学(四大学連合など)の授業の履修状況を教えてください。

【a 他学科科目の履修について満足に履修できていますか。】

◇ 満足している ◇ やや満足している ◇ やや不満である ◇ 不満である ◇ そもそも取りたいとは思っていない

◇ わからない

b 他学科科目の履修が満足にできない理由を教えて下さい。

【c 他大学科目の履修について満足に履修できていますか。】

◇ 満足している ◇ やや満足している ◇ やや不満である ◇ 不満である ◇ そもそも取りたいとは思っていない

◇ わからない

d 他大学科目の履修が満足にできない理由を教えて下さい。

5 履修申告についてお聞きします。

【a 現在の履修申告の制度に関して満足していますか。】

◇ 満足している ◇ やや満足している ◇ やや不満である ◇ 不満である ◇ わからない

b 履修申告の制度に満足していない方は、その理由を教えてください。

6 本学の講義・カリキュラムについてどのような印象を持っていますか。

【a 理工系の基礎教育】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【b 理工系の専門科目】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【c 研究者の養成】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【d 人文系の科目】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【e キャリア科目】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【f 外国語教育】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

【g コミュニケーション能力の向上】

◇ 4(充実している) ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(充実していない) ◇ わからない

7 英語で講義を行うことについてお聞きします。

【a 英語で講義を受けることについて抵抗はありますか。】

◇ 抵抗はない　◇ それほど抵抗はない　◇ 多少抵抗がある　◇ 抵抗がある　◇ わからない

b 英語での講義について、どのような印象を持っていますか。

☐ 専門知識を英語で身につけられる　☐ 語学力を身につけられる　☐ 留学生が講義を受けやすい

☐ 大学の国際競争力を上げられる　☐ 自己の英語能力に自信がない　☐ 教員の英語能力が低い

☐ 講義内容が充実しなくなる　☐ 特にない　☐ その他＜自由記述＞

8 祝日に実施されている講義をずらすとすればどこが良いでしょうか

○ 祝日講義のままで良い ○ 夏休み ○ 冬休み ○ 春休み ○ クォーター間休み ○ その他＜自由記述＞

9 週 2 回の講義について、改善してほしい点をお書きください。

10 本学のカリキュラムに追加してほしい科目がある場合は具体的にご記入してください。

11 本学の学習カリキュラムについて，ご意見がある場合は記入してください。

12 本学での進学についてお聞きします。

a 以下のうちあてはまるものにマークしてください。

○ 博士課程まで進学する予定である　○ 修士課程まで進学する予定である　○ 学部以降は進学する予定でない

b 本学での修士課程進学を選択しないのはなぜですか。（3 つまで選択可）

☐ 経済的理由　☐ 早く社会に出たい　☐ 今学んでいる分野を極めたいと思わない

☐ 専門が異なる他大学に進学したい　☐ 専門が同じである他大学に進学したい　☐ 研究に興味がない

☐ その後の進路に不安になるから　☐ 英語で講義が行われるから　☐ その他＜自由記述＞

c 本学での博士課程進学を選択しないのはなぜですか。（3 つまで選択可）

☐ 経済的理由　☐ 早く社会に出たい　☐ 今学んでいる分野を極めたいと思わない

☐ 専門が異なる他大学に進学したい　☐ 専門が同じである他大学に進学したい　☐ 研究に興味がない

☐ その後の進路に不安になるから　☐ 英語で講義が行われるから　☐ その他＜自由記述＞

13 留学についてお聞きします。

a あなたは留学したことがありますか。

○ 留学したことはない　○ 本学入学前に留学したことがある　○ 本学在学中に留学したことがある

b どのくらいの期間で留学していましたか。

○ 1 週間以内　○ 2,3 週間程度　○ 1 ヶ月以上～3 ヶ月未満　○ 3 ヶ月以上～6 ヶ月未満

○ 6 ヶ月未満～1 年未満　○ 1 年以上～3 年未満　○ 3 年以上

c 本学入学後で、一番長く留学したのはどの時期からですか。

○ 学部 1 年　○ 学部 2 年　○ 学部 3 年　○ 学部 4 年　○ 修士 1 年　○ 修士 2 年　○ 博士課程

○ その他＜自由記述＞

d その留学はどの期間でしたか？

☐ 1Q　☐ 2Q　☐ 夏休み　☐ 3Q　☐ 4Q　☐ 冬休み　☐ 春休み

e 留学をしたいと思いますか。

○ 既に留学した・留学する予定がある ○ 大いにしたい ○ したいと思うができない ○ 機会があればしたい

○ したくない ○ わからない

f 留学をしたくない・できない理由を選択して下さい。(3 つまで選択可)

□ 経済的理由 □ 家庭の事情 □ 語学に自信がない □ 今の研究・講義を優先する

□ 在学年数が延びることが不安 □ 海外生活に不安がある □ 就職に不利 □ 興味がない

□ 情報がない □ 海外への渡航・居住経験があるから □ その他＜自由記述＞

g 東工大の留学制度について、改善して欲しい点があればお書き下さい。

14 大学で実施している教育プログラム等についてお答えください。

a 以下のプログラムのうち知っているものがあればマークしてください。(複数選択可)

□ 四大学連合複合領域コース □ グローバル理工人育成コース □ 大学院教育研究特別コース

□ 清華大学との大学院合同プログラム □ 博士一貫教育プログラム □ グローバルリーダー教育院

□ 環境エネルギー協創教育院 □ 情報生命博士教育院 □ グローバル原子力安全セキュリティエージェント教育院

□ 特にない

b 以下のプログラムのうち参加したいものがあればマークしてください。(複数選択可)

□ 四大学連合複合領域コース □ グローバル理工人育成コース □ 大学院特別教育研究コース

□ 清華大学との大学院合同プログラム □ 博士一貫教育プログラム □ グローバルリーダー教育院

□ 環境エネルギー協創教育院 □ 情報生命博士教育院 □ グローバル原子力安全セキュリティエージェント教育院

□ 特にない

c 大学で実施しているプログラムについて意見がある場合は記入してください。

15 東工大ポータルについてお聞きします。

a アクセスする際に使用する端末を選択してください。(複数選択可)

□ スマートフォン □ タブレット □ 自分のコンピュータ □ 学内のコンピュータ

b SSL-VPN(学内ネットワークアクセス)を利用することがありますか。

○ 週に 3 回以上利用している ○ 週に 1,2 回利用している ○ 月に 1 回程度利用している

○ 利用したことはある ○ 利用したことがない ○ 知らなかった

c 東工大ポータル(メール,教務 Web,OCW-i,学修ポートフォリオなど)を良くするために意見があればご記入ください。

Ⅳ. 施設

1 附属図書館についてお聞きします。

a 附属図書館(オンラインサービスを含む)をどの程度利用していますか。

○ ほぼ毎日 ○ 週に 4-5 日 ○ 週に 2-3 日 ○ 週に 1 日 ○ 月に 1 回 ○ ほとんどない

b 図書館サービス:TDL オンラインリクエストを利用したことがありますか。

○利用したことがある ○利用したことはない ○ そもそも TDL オンラインリクエストを知らなかった ○ わからない

c 現在の図書館の開館時間に満足していますか。

○満足している ○やや満足している ○ やや不満である ○ 不満である ○ わからない

d 図書館の開館時間に満足していない方は、希望する開館時間をお書き下さい。

e 附属図書館に対する要望を自由に記入してください。

2 主に食事をする場所についてお聞きします。

【a 主にどこで朝食を食べますか。】

◇ 自宅 ◇ 学食 ◇ 生協の弁当 ◇ 学内コンビニ ◇ 大学周辺のコンビニまたは弁当

◇ 大学周辺の飲食施設 ◇ その他 ◇ 食べない

【b 主にどこで昼食を食べますか。】

◇ 自宅 ◇ 一食 ◇ 二食 ◇ すずかけ台の学食 ◇ 生協の弁当 ◇ 学内コンビニ

◇ 大学周辺のコンビニまたは弁当 ◇ 大学周辺の飲食施設 ◇ その他 ◇ 食べない

【c 主にどこで夕飯を食べますか。】

◇ 自宅 ◇ 学食 ◇ 生協の弁当 ◇ 学内コンビニ ◇ 大学周辺のコンビニまたは弁当

◇ 大学周辺の飲食施設 ◇ その他 ◇ 食べない

3 学内の食堂についてお聞きします。

【a 学食をどれくらいの頻度で利用しますか。】

◇ 毎日 2 回以上 ◇ 毎日 1 回 ◇ 週に 3-4 回 ◇ 週に 1-2 回 ◇ 利用しない

【b 価格はいかがですか。】

◇ 5(高い) ◇ 4 ◇ 3(適切) ◇ 2 ◇ 1(安い) ◇ わからない

【c 質はいかがですか。】

◇ 5(おいしい) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(おいしくない) ◇ わからない

【d 学食に求めるものは何ですか？】

◇ 5(ガッツリ) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(ヘルシー) ◇ わからない

e 利用しない理由を教えて下さい。

f 食堂を利用する方で、何か食堂について要望があれば自由にお書き下さい。

4 学内の弁当販売についてお聞きします。

【a どれくらいの頻度で弁当を購入しますか。】

◇ 毎日 1 回 ◇ 週に 3-4 回 ◇ 週に 1-2 回 ◇ 利用しない

【b 価格はいかがですか。】

◇ 5(高い) ◇ 4 ◇ 3(適切) ◇ 2 ◇ 1(安い) ◇ わからない

【c 質はいかがですか。】

◇ 5(おいしい) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(おいしくない) ◇ わからない

d 利用しない理由を教えて下さい。

e 弁当販売を利用する方で、何か弁当販売について要望があれば自由にお書き下さい。

5 喫煙所についてお聞きします。

a 学内の喫煙所を利用しますか。

○ はい ○ いいえ

b 喫煙所の位置に満足していますか。

○ はい ○ いいえ

c 満足していない理由をお書き下さい。(b がいいえの場合)

6 学内での自転車の利用についてお聞きします。

a 駐輪スペースは十分であると思いますか。

○ はい　○ いいえ　○ わからない

b 駐輪スペースが足りない，あるとよい場所をお書き下さい。(a がいいえの場合)

7 学内無線 LAN(TokyoTech,titech-pubnet)のつながりにくい場所や状況があれば教えてください。

8 その他の施設についてお聞きします。

a 次の大学の施設の中で充実してほしい施設があればお選び下さい。

☐ フリースペース　☐ 仮眠室　☐ 部室棟・サークル棟　☐ テニスコート　☐ 学習スペース　☐ トレーニング室

☐ トイレ　☐ 浴室・シャワー室　☐ 教科書販売所　☐ ものつくりするための施設　☐ プール

b 次の施設の中で誘致をしてほしい施設があればお選び下さい。

☐ コンビニエンスストア　☐ レストラン　☐ カフェ　☐ 自動販売機　☐ 弁当販売所　☐ 書店　☐ 銀行・ATM

9 学内の施設に関しての意見をご自由にお書きください。

Ⅴ.サービス

1 講義や学内行事など大学の発信する情報を得るために主に利用するものを3つまでマークしてください。

☐ 掲示板・電子掲示板(ディスプレー)　☐ 学科専攻の掲示板　☐ OCW・OCW-i・教務 Web

☐ 学務部の窓口　☐ 大学のホームページ　☐ Twitter　☐ Facebook　☐ 東工大メールニュース

☐ 学修コンシェルジュ　☐ 友人　☐ その他＜自由記述＞

2 学生生活サービスについてお聞きします。

a 以下の学生生活サービスのうち、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものをマークしてください。(複数選択可)

☐ 成績優秀者への給付型奨学金　☐ 留学費用の支援　☐ 就職活動の費用の支援

☐ 留学の費用や申し込み方法などの基礎的な情報が聞けるイベント　☐ 留学経験者の話が聞けるイベント

☐ 留学をする人、した人の交流会

b 特に就職活動のサービスのうち、実現してほしいもの、いっそう充実してほしいものをマークしてください(複数選択可)

☐ 特定の業界の OB による就活イベント　☐ 東工大生限定の採用選考会　☐ 志望業界ごとの学生交流会

☐ インターンシップの企業説明会　☐ インターンシップ経験者の話が聞けるイベント

c 学生生活サービスについて意見があればお書きください。

3 学内の活動についてお聞きします。

a 活動を知っているものをマークしてください(複数選択可)

☐ ピアサポート　☐ キャンパスガイド　☐ 広報サポーター　☐ スクールパートナー　☐ ものつくりサポート

☐ 図書館サポーター　☐ 学勢調査スタッフ　☐ 大学行事のサポート　☐ 学内での通訳　☐ IT支援

☐ 女子高校生理工系進学サポーター(女性のみ)

b 興味があるものをマークしてください(複数選択可)

☐ ピアサポート　☐ キャンパスガイド　☐ 広報サポーター　☐ スクールパートナー　☐ ものつくりサポート

☐ 図書館サポーター　☐ 学勢調査スタッフ　☐ 大学行事のサポート　☐ 学内での通訳　☐ IT支援

☐ 女子高校生理工系進学サポーター(女性のみ)

c その他大学に必要な活動があれば自由にお書きください。

4 教職員の学生への対応・サービスについてお聞きします。

a 教員の対応は適切ですか

○ 4(適切である) ○ 3 ○ 2 ○ 1(適切でない) ○ わからない

b 事務職員の対応は適切ですか

○ 4(適切である) ○ 3 ○ 2 ○ 1(適切でない) ○ わからない

c 教職員の対応に関して意見がありましたら記入してください。

5 本学にある様々な相談窓口についてお聞きします。

a 以下のうち相談窓口として知っているものをマークしてください。 (複数選択可)

☐ ピアサポート ☐ 助言教員・クラス担任 ☐ 類主任・学科長・専攻長・コース主任 ☐ 就職担当教員

☐ 留学生修学相談窓口 ☐ 学生相談室 ☐ 電話相談デスク ☐ ハラスメント相談窓口

☐ カウンセリング ☐ キャリアアドバイザー ☐アカデミックアドバイザー ☐学修コンシェルジュ

b 以下のうち利用してみたいものをマークしてください。(複数選択可)

☐ ピアサポート ☐ 助言教員・クラス担任 ☐ 類主任・学科長・専攻長・系主任 ☐ 就職担当教員

☐ 留学生修学相談窓口 ☐ 学生相談室 ☐ 電話相談デスク ☐ ハラスメント相談窓口

☐ カウンセリング ☐ キャリアアドバイザー ☐アカデミックアドバイザー ☐学修コンシェルジュ

6 ハラスメントについてお聞きします。

a 学内でセクハラ(セクシャル・ハラスメント),アカハラ,(アカデミック・ハラスメント)パワハラ(パワーハラスメント)などのハラスメントを見聞きしたことがありますか。

○ 以前に見たことがある ○現在、見ている ○ 見たことはない

b アルハラ(アルコール・ハラスメント)を見聞きしたことがありますか

○ 見たことがない ○ 飲酒の強要 ○ 一気飲みの強要 ○ 未成年者への飲酒強要

c その時の自身を含めた周囲あるいは大学組織の対応についてご存知であればお教えください。

d ハラスメント防止策について意見があれば記入してください。

7 防災関連についてお聞きします。

a 以下の項目であてはまるものにマークしてください。(複数選択可)

☐ 地震発生時の行動チャートを知っている ☐ 東工大内の避難場所を知っている

☐ 本学の大地震対応マニュアル(ポケット版)を持っている

☐毎年秋に避難訓練があることを知っている。(今年は「11月9日(水)午後」)

b 昨年の学内の防災訓練に参加しましたか

○ はい ○ いいえ ○ 在学していなかった

c 避難訓練に参加しなかった理由を教えてください。(b でいいえの場合)

d 防災に関して大学に求めることがあれば記入してください。

6.6. Questions of Student Survey 2016 (English)

○:radio button □:check box
【 】:drop down list (◇ is choices)

Ⅰ.About yourself(Required)

1 Where are you taking this survey?
○ In campus ○ Out of campus

2 Undergraduate / graduate student
○ Undergraduate student ○ Graduate student in master's program
○ Graduate student in doctoral program ○ Graduate student in professional master's program
○ Research student ○ Others

【3 Enrollment year to the present program】
◇ 2016 ◇ 2015 ◇ 2014 ◇ 2013 ◇ 2012 ◇ 2001 ◇ Others

4 Please check the items below which apply to you.
□ Having attended other university or technical college □ Overseas student

5 Sex
○ Male ○ Female

6 Group, Department, Major
○ Group ○ Undergraduate department ○ Graduate department ○ Graduate major ○ Others

【a Group】
◇ Group 1 ◇ Group 2 ◇ Group 3 ◇ Group 4 ◇ Group 5 ◇ Group 6 ◇ Group 7

【b Department (Undergraduate)】
◇ Mathematics ◇ Physics ◇ Chemistry ◇ Information Science ◇ Earth and Planetary Science
◇ Metallurgical Engineering ◇ Organic and Polymeric Materials ◇ Inorganic Materials
◇ Chemical Engineering (Applied Chemistry Course)
◇ Chemical Engineering (Chemical Engineering Course) ◇ Polymer Chemistry
◇ Mechanical Engineering and Science ◇ Mechanical and Intelligent Systems Engineering
◇ Mechano-Aerospace Engineering ◇ Control and Systems Engineering
◇ Industrial and Systems Engineering ◇ Electrical and Electronic Engineering ◇ Computer Science
◇ Civil and Environmental Engineering ◇ Architecture and Building Engineering
◇ Social Engineering ◇ International Development Engineering
◇ Bioscience (Not belonged to courses) ◇ Bioscience (Biological Science Course)
◇ Bioscience (Life Science Course) ◇ Bioscience (Biological Information Course)
◇ Biotechnology (Not belonged to courses) ◇ Biotechnology (Bioengineering Course)
◇ Biotechnology (Biomolecular Engineering Course) ◇ Biotechnology (Biological Information Course)

【c Department (Graduate schools)】
◇ Mathematics ◇ "Physics (Particle-, Nuclear- and Astro-Physics)"
◇ Physics (Condensed Matter Physics) ◇ Chemistry ◇ Earth and Planetary Science
◇ Chemistry and Material Science ◇ Metallurgy and Ceramics Science
◇ Organic and Polymeric Materials ◇ Applied Chemistry ◇ Chemical Engineering
◇ Mechanical Science and Engineering ◇ Mechanical and Control Engineering
◇ Mechanical and Aerospace Engineering ◇ Electrical and Electronic Engineering
◇ Physical Electronics ◇ Communications and Integrated Systems
◇ Communications and Computer Engineering ◇ Civil Engineering
◇ Architecture and Building Engineering ◇ International Development Engineering
◇ Nuclear Engineering ◇ Life Science ◇ Biological Sciences ◇ Biological Information
◇ Bioengineering ◇ Biomolecular Engineering ◇ Innovative and Engineered Materials

◇ Electronic Chemistry ◇ Materials Science and Engineering
◇ Environmental Science and Technology ◇ Built Environment ◇ Energy Science
◇ Environmental Chemistry and Engineering ◇ Electronics and Applied Physics
◇ Mechano-Micro Engineering ◇ Computational Intelligence and Systems Science
◇ Information Processing ◇ Mathematical and Computing Sciences ◇ Computer Science
◇ Mechanical and Environmental Informatics ◇ Human System Science ◇ Value and Decision Science
◇ Industrial Engineering and Management ◇ Social Engineering ◇ Management of Technology
◇ Innovation

【d Graduate major】
◇ Mathematics ◇ Physics ◇ Chemistry ◇ Earth and Planetary Science
◇ Mechanical Engineering ◇ Systems and Control Engineering
◇ Electrical and Electronic Engineering ◇ Information and Communications Engineering
◇ Industrial Engineering and Economics ◇ Materials Science and Engineering
◇ Chemical Science and Engineering ◇ Mathematical and Computing Sciences ◇ Computer Science
◇ Life Science and Technology ◇ Architecture and Building Engineering ◇ Civil Engineering
◇ Global Engineering for Development, Environment and Society ◇ Social and Human Sciences
◇ Innovation Science
◇ Technology and Innovation Management (Professional Master's Degree Program)
◇ Energy Science and Engineering ◇ Engineering Sciences and Design
◇ Human Centered Science and Biomedical Engineering ◇ Nuclear Engineering
◇ Artificial Intelligence ◇ Urban Design and Built Environment

7 In which area of campus do you spend much time of yours?
○ Ookayama area (North, South, East or West) ○ Midorigaoka area ○ Ishikawadai area
○ Suzukakedai campus ○ Tamachi campus

8 On average, how much time do you spend on the following activities on weekdays?
【a Sleeping】
◇ 0 hours ◇ 0-2 hours ◇ 2-4 hours ◇ 4-5 hours ◇ 5-6 hours ◇ 6-7 hours
◇ 7-8 hours ◇ More than 8 hours

【b Studying or conducting research (including time spent on campus but excluding time attending courses/classes)】
◇ 0 hours ◇ 0-2 hours ◇ 2-4 hours ◇ 4-5 hours ◇ 5-6 hours ◇ 6-7 hours
◇ 7-8 hours ◇ More than 8 hours

【c Leisure】
◇ 0 hours ◇ 0-2 hours ◇ 2-4 hours ◇ 4-5 hours ◇ 5-6 hours ◇ 6-7 hours
◇ 7-8 hours ◇ More than 8 hours

【d Working at a part-time job】
◇ 0 hours ◇ 0-2 hours ◇ 2-4 hours ◇ 4-5 hours ◇ 5-6 hours ◇ 6-7 hours
◇ 7-8 hours ◇ More than 8 hours

9 Have you ever taken a Student Survey before?
○ Yes, I have. ○ No, I haven't. ○ I don't remember.

【10 How/where did you find out about the Student Survey 2016?】
◇ Tokyo Tech mailnews ◇ Tokyo Tech web page ◇ Electronic bulletin board ◇ Bulletin board
◇ Poster ◇ Information on the tables in cafeteria ◇ Social network service
◇ From a friend or acquaintance ◇ Mailnews from the department etc. ◇ Tokyo Tech Portal
◇ Others <please describe>

Ⅱ. About Tokyo Tech / department / major / school / academic group

【1 Are you proud to be a Tokyo Tech student?】
◇ 4(Yes, very much)◇ 3(Yes) ◇ 2(Yes, a little) ◇ 1(NO, not at all)

2 Please explain how you think Tokyo Tech should educate and nurture its students.

○ By offering educational programs which cultivate human resources for the international domain.
○ By training students to become specialists in their fields.
○ By helping students to broaden their knowledge of and obtain insight into matters related to science and technology.
○ By fostering generalists with a broad knowledge and understanding of humanities as well as science and technology.
○ By fostering future leaders and supporting independent activities of the student.
○ By preparing and helping future graduates become valuable assets for companies.
○ Others <please describe>

3 What do you think is needed to improve Tokyo Tech? (Select all that apply)
☐ Help in enhancing students' academic abilities ☐ Help for students to become more independent
☐ Improvement in research standards ☐ Improvement in facilities and the study environment
☐ Improvement in the quality of communication between the university staff and students
☐ Improvement in the quality of education. ☐ Others <please describe>

【4 Do you believe that this university and its alumni play a leading role in international society?】
◇ 4 (Strongly agree) ◇ 3 (Agree) ◇ 2 (Disagree) ◇ 1 (Strongly disagree)

5 Are you concerned with or interested in Tokyo Tech's ranking among other universities?
○ 4 (Yes, very much) ○ 3(Yes) ○ 2(Yes, a little) ○ 1(No,not at all)

【6 Do you have a clear goal concerning your studies here?】
◇ 4 (Yes, absolutely) ◇ 3(Yes) ◇ 2 (Not really) ◇ 1(NO,not at all)

7 Please indicate your reasons for attending university (select all that apply).
☐ To conduct research ☐ To acquire specialist skills ☐ To acquire a liberal arts education
☐ To find a job ☐ To broaden my social network ☐ To engage in clubs and extra-curricular activities
☐ To put off working right away ☐Peer pressure ☐ Others <please describe>

8 Please indicate your reasons for enrolling at Tokyo Tech (select all that apply).
☐ It is close to where I live. ☐ It was an appropriate selection in terms of my academic level.
☐ Tokyo Tech requires the affiliation with a department during the second year of a bachelor program.
☐ Tokyo Tech specializes in my field of interest. ☐ I was influenced by others (e.g., peers, parents).
☐ There is a particular Tokyo Tech teacher under whom I wished to study.
☐ I felt that the atmosphere of the university would suit me. ☐ Others <please describe>

【9 Are you satisfied with your current academic group, department or major (undergraduate or graduate)?】
◇ 4 (Yes, very satisfied) ◇ 3 (Yes, somewhat satisfied) ◇ 2 (No, I am somewhat dissatisfied)
◇ 1 (No, I am very dissatisfied) ◇ I don't know.

10 Please indicate the reasons you are dissatisfied with your current academic group, department or major (select all that apply).
☐ The research and learning environment is not what I had expected.
☐ The curriculum lacks the necessary course material. ☐ The faculty staff are unhelpful or unavailable.
☐ The facilities and equipment are old and/or need proper maintenance.
☐ There are problems with the other students.
☐ The workload is too heavy and, as a result, I do not have enough free time. ☐ Others (please describe)

11 If you have any comments regarding your department or major, please provide them in the column below.

Ⅲ.About study and research

【1 What was your attendance rate for the spring term (1Q and 2Q)?】
◇ 80-100% ◇ 60-80% ◇ 40-60% ◇ 20-40% ◇ 0-20% ◇ I was on leave
◇I wasn't a student at Tokyo Tech (e.g., not yet enrolled, studying abroad, etc.)

2 What are your reasons for not attending classes?
☐ Lectures were not appealing. ☐ Lectures were not comprehensible. ☐ I didn't want to study.
☐ Health reasons ☐ The class is held too early in the morning. ☐ Attendance was not required.

☐ I was busy with my research and/or experiments.
☐ I was more interested in club and extra-curricular activities. ☐ I was busy with my part-time job.
☐ I was job hunting. ☐ I prefer studying independently. ☐ I was busy with other course work.
☐ Others (please describe)

3 Please check the items that you feel would help increase the motivation of students.
☐ Increasing the number of courses which foster independent student learning and proactive participation.
☐ Increasing the number of courses in which the student can be involved in the research of other laboratories.
☐ Increasing the number of courses which offer experiments and practical application.
☐ Allowing students to take courses in other departments.
☐ Increasing opportunities for students to freely engage in group learning.
☐ Enhancing the transparency of course grading and its evaluation criteria.
☐ Placing emphasis on attendance in the overall assessment.
☐ Placing emphasis on written examinations in the overall assessment.
☐ Conducting more courses in English. ☐ Others (please describe)

4 Please provide details on courses taken at other departments and universities (e.g., Confederation of the Four Universities)
【a Are you satisfied with the courses of other departments?】
◇ 4 (Yes, I am satisfied) ◇ 3 (Yes, I am somewhat satisfied) ◇ 2 (No, not really)
◇ 1 (No, I am dissatisfied) ◇ I do not intend to take such courses. ◇ I don't know

b If you are not satisfied, please state the reason(s).

【c Are you satisfied with the registration of courses from other universities?】
◇ 4 (Yes, I am satisfied) ◇ 3 (Yes, I am somewhat satisfied) ◇ 2 (No, not really)
◇ 1 (No, I am dissatisfied) ◇ I do not intend to take such courses. ◇ I don't know

d Please describe the reason(s) why you are not able to register courses from other universities as you would like.

5 Questions regarding courses:
【a Are you satisfied with the current course registration system?】
◇ 4 (Yes, I am satisfied) ◇ 3 (Yes, I am somewhat satisfied) ◇ 2 (No, not really)
◇ 1 (No, I am dissatisfied) ◇ I don't know

b If you are not satisfied, please state the reason(s).

6 What do you think of the following courses and educational programs offered by Tokyo Tech?
【a Basic education in science and technology】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know

【b Specialized subjects in science and technology】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know.

【c Training to become a researcher】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know

【d Subjects in social science and humanities】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know

【e Career development courses】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know

【f Education of foreign languages】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know

【g Improving communication skills】
◇ 4 (Good) ◇ 3 (Okay) ◇ 2 (Not good) ◇ 1 (Bad) ◇ I don't know

7 Questions regarding courses conducted in English.

【a Do you feel uncomfortable attending courses that are conducted in English?】

◇ 1(No) ◇ 2 (A little) ◇ 3(Somewhat) ◇ 4(Yes) ◇ I don't know.

b What do you think about taking courses that are conducted in English?
☐ I will be able to acquire specialized knowledge in English.
☐ I will be able to brush up my English skills. ☐ Such courses would benefit foreign students.
☐ Such courses would elevate Tokyo Tech's international competitiveness.
☐ I am not confident in my English skills. ☐ Course instructors need to improve their English skills.
☐ It would decrease the quality of the course/class. ☐ Nothing in particular. ☐ Other (please describe)

8 When do you think would be a better time to offer courses which are conducted during public holidays?
○ Holiday courses should remain as is. ○ During summer vacation. ○ During winter vacation.
○ During spring vacation. ○ During recess between quarters. ○ Others (please describe)

9 Please provide your opinion regarding the current course format (two courses conducted per week).

10 Please provide your opinion on the curriculum of Tokyo Tech.

11 Please provide the details on any courses you would like to see added to the educational program of Tokyo Tech.

12 In regards to advancing to graduate school, are you planning to:
a You are planning to:
○ Advance to a doctoral degree program ○ Advance to a master's degree program
○ Not advance to graduate school.

b If you will not be advancing to graduate school, please indicate the reasons.
☐ Financial reasons. ☐ I would like to work.
☐ I am not interested in pursuing my current field of study.
☐ I would like to enroll at a university where I can pursue a different field of study.
☐ I would like to enroll at a different university that focuses on a similar research topic.
☐ I have lost interest in research. ☐ I am concerned about my future career.
☐ The courses are conducted in English. ☐Others (please describe)

c If you will not be advancing to a doctoral program, please indicate the reasons.
☐ Financial reasons. ☐ I would like to work.
☐ I am not interested in pursuing my current field of study.
☐ I would like to enroll at a university where I can pursue a different field of study.
☐ I would like to enroll at a different university that focuses on a similar research topic.
☐ I have lost interest in research. ☐ I am concerned about my future career.
☐ The courses are conducted in English. ☐Others (please describe)

13 About studying abroad,
a Have you ever studied abroad?
○ No, I have not. ○ Yes, before enrolling at Tokyo Tech. ○ Yes, while enrolled at Tokyo Tech.

b For how long did you study abroad?
○ One week or less. ○ Two to three weeks. ○ One to three months. ○ Three to six months.
○ Six months to one year. ○ One to three years. ○ Over three years.

c When was your longest study-abroad period while enrolled at Tokyo Tech?
○ During the first-year of undergraduate studies ○ During the second-year of undergraduate studies
○ During the third-year of undergraduate studies ○ During the fourth-year of undergraduate studies
○ During the first-year of my master's program ○ During the second-year of my master's program
○ While enrolled in the doctoral degree program ○ Others (please describe)

d What period was the study abroad?
○ 1Q ○ 2Q ○ During summer vacation ○ 3Q ○ 4Q ○ During winter vacation
○ During spring vacation

e Would you like to study abroad?
○ I have already studied abroad or have plans to study abroad. ○ Yes, I would like to.

○ Yes, I would like to but cannot. ○ If I have the chance.
○ No, I don't want to nor do I have any plans to study abroad. ○ I don't know.

f If not, please state your reasons.
☐ Financial ☐Family ☐ I am not confident in my English skills.
☐ My main priority is my current research.
☐ I am concerned about over-extending the duration of my enrollment at the university.
☐ I am concerned about living in a foreign country.
☐ I am concerned that it may become a disadvantage when job hunting. ☐ I am not interested.
☐ I do not have enough information. ☐ I already have experience traveling or living abroad.
☐ Others (please describe)

14 Regarding educational programs offered at Tokyo Tech.

a Please select the educational program(s) with which you are familiar.
☐ The Confederation of the Four Universities (Special Composite Domain Course)
☐ Global Scientists and Engineers Course ☐ Graduate School Special Academic Course
☐ Tokyo Tech-Tsinghua University Joint Graduate Program ☐ Integrated Doctoral Education Program ☐ Academy for Global Leadership
☐ Academy for Co-creative Education of Environment and Energy Science
☐ Education Academy of Computational Life Science
☐ Academy for Global Nuclear Safety and Security Agent ☐ I am not familiar with any of the programs.

b Please select the educational program(s) in which you would like to participate.
☐ The Confederation of the Four Universities (Special Composite Domain Course)
☐ Global Scientists and Engineers Course ☐ Graduate School Special Academic Course
☐ Tokyo Tech-Tsinghua University Joint Graduate Program ☐ Integrated Doctoral Education Program ☐ Academy for Global Leadership
☐ Academy for Co-creative Education of Environment and Energy Science
☐ Education Academy of Computational Life Science
☐ Academy for Global Nuclear Safety and Security Agent ☐ I am not familiar with any of the programs.

c Please provide any opinions or comments you may have regarding the educational program at Tokyo Tech.

15 About the Tokyo Tech Portal

a How do you access the Tokyo Tech Portal?
☐ Smartphone ☐ Tablet ☐ Personal computer. ☐ Computer at Tokyo Tech.

b Do you use SSL-VPN to access the Tokyo Tech network from outside the campus?
○ Yes, more than three times a week. ○ Yes, once or twice a week. ○ Yes, once a month.
○ Yes, I have used it before. ○ No, I have never used it. ○ No, I did not know about it.

c Please provide any suggestions that you may have to improve the Tokyo Tech Portal (Email, Web System for Students and Faculty, OCW-I, Learning Portfolio system).

Ⅳ. Facilities of Tokyo Tech.

1 Regarding the library.

a How frequently do you use the library?
○ Almost everyday. ○ Four to five times a week. ○ Two to three times a week. ○ Once a week.
○ Once a month. ○Almost never.

b Library services: Have you ever made a TDL online request?
○ Yes I have ○ No, I have not. ○ I am not aware of the TDL online request. ○ I don't know

c Are you satisfied with the library's hours of operation?
○ 4 (Yes, very satisfied) ○ 3 (Yes, somewhat satisfied) ○ 2 (No, I am somewhat dissatisfied)
○ 1 (No, I am very dissatisfied) ○ I don't know

d For those who are dissatisfied, please state your desired hours of operation of the library.

e Please provide any comments or opinions you may have regarding the library of Tokyo Tech.

2 Location of meals.

【a Where do you usually eat breakfast?】
◇ At home. ◇ At the cafeteria ◇ Coop Bento (meal plate) at various places on campus.
◇ At a convenience store on campus. ◇ At a convenience store or bento shop near Tokyo Tech.
◇ At other facilities near Tokyo Tech. ◇ Other locations ◇ I do not eat breakfast.

【b Where do you usually eat lunch?】
◇ At home. ◇ At the first campus cafeteria ◇ At the second campus cafeteria
◇ At the cafeteria of Suzukakedai campus ◇ Coop Bento (meal plate) at various places on campus.
◇ At a convenience store on campus. ◇ At a convenience store or bento shop near Tokyo Tech.
◇ At other eating facilities near Tokyo Tech. ◇ Others ◇ I do not eat lunch.

【c Where do you usually eat dinner?】
◇ At home. ◇ At the cafeteria ◇ Coop Bento (meal plate) at various places on campus.
◇ At a convenience store on campus. ◇ At a convenience store or bento shop near Tokyo Tech.
◇ At other eating facilities near Tokyo Tech. ◇ Others ◇ I do not eat dinner.

3 How often do you eat at the cafeteria?

【a How often do you eat at the cafeteria?】
◇ More than twice a day. ◇ Once a day. ◇ Three to four times a week. ◇ Once or twice a week.
◇ I do not use the cafeteria.

【b What do you think about the price of the food?】
◇ 5(Expensive) ◇ 4 ◇ 3(Appropriate) ◇ 2 ◇ 1(Cheap) ◇ I don't know.

【c What do you think about the quality of the food?】
◇ 5(Delicious) ◇ 4 ◇ 3 (Decent) ◇ 2 ◇ 1(Not good) ◇ I don't know.

【d What do you demand of the campus cafeteria menu?】
◇ 5(High calorie) ◇ 4 ◇ 3 ◇ 2 ◇ 1(Healthy) ◇ I don't know.

e If you do not use the cafeteria, please provide your reasons.

f Please provide any comments or opinions you may have regarding the cafeteria of Tokyo Tech.

3 About bento shops on campus.

【a How often do you buy bentos on campus?】
◇ Once or twice a week. ◇ Three to four times a week. ◇ Five to six times a week.
◇ More than seven times a week.
【b What do you think about the price of bentos?】
◇ 5(Expensive) ◇ 4 ◇ 3(Appropriate) ◇ 2 ◇ 1(Cheap) ◇ I don't know.

【c What do you think about the quality of the bento?】
◇ 5(Delicious) ◇ 4 ◇ 3 (Decent) ◇ 2 ◇ 1(Not good) ◇ I don't know.

e If you do not buy campus bento, please provide your reasons.

f Do you have any requests or comments regarding bento shops on campus?

5 Regarding smoking areas on campus.

a Do you use the designated smoking areas on campus?
○ Yes, I do. ○ No, I don't.

b Are you satisfied with the locations of the smoking areas?
○ Yes ○ No

c If not, please state your reasons.

6 Regarding bicycle parking lots.

a Do you feel the bicycle parking lots are spacious enough?
○ Yes ○ No ○ I don't know.

b Do you feel that there are enough bicycle parking lots? Are there any locations at which you think bicycle parking lots should be added?

7 Please let us know if there are any locations on campus which you feel have no access or a bad connection to the Titech-pubnet (campus Wi-Fi).

8 Regarding other facilities of Tokyo Tech.

a Please select the facilities of Tokyo Tech which you feel have room for improvement (select all that apply).
☐ Free spaces ☐ Napping rooms ☐ Extracurricular activities rooms ☐ Tennis courts
☐ Learning spaces ☐ Training rooms ☐ Washrooms ☐ Bath and shower rooms ☐ Textbook shops
☐ Facilities for technical innovation ☐ The swimming pool

b Please select other facilities you wish to see at Tokyo Tech.
☐ Convenience stores ☐ Restaurants ☐ Cafes ☐ Vending machines ☐ Bento shops ☐ Bookstores
☐ Banks / ATMs

9 Please provide any comments or opinions you may have regarding the facilities of Tokyo Tech.

Ⅴ. About campus services.

1 Please select up to three ways in which you acquire information regarding courses and events at Tokyo Tech.
☐ Bulletin boards and electronic bulletin boards ☐ Department bulletins
☐ OCW/OCW-i/Web System for Students and Faculty ☐ Student Services office ☐ Tokyo Tech website
☐ Twitter ☐ Facebook ☐ Tokyo Tech Mail News ☐ Student Life Coach ☐ Friends
☐ Others (please describe)

2 Regarding student life services.

a What student life services would you like to see improved or installed? (Select all that apply)
☐ Scholarship grants for excelling students. ☐ Financial support for students studying abroad.
☐ Financial support for students who are job hunting.
☐ Seminars that provide basic information (e.g., fees and how to register, etc.) regarding studying abroad.
☐ Events at which students who have studied abroad may share their experiences.
☐ Gatherings between those who have studied abroad and those who are planning to study abroad.

b What university services related to job hunting would you like to see improved or installed? (Select all that apply)
☐ Job hunting events where current students can meet graduates who now work in fields of their interest.
☐ Employment screening limited to Tokyo Tech students.
☐ A student exchange session based on a specific industry.
☐ Seminars held by corporations that offer internships.
☐ Events that enable students to communicate with former internship students.

c Please provide any comments you may have about student life services.

3 Regarding on-campus activities.

a Please select the on-campus activities with which you are familiar (select all that apply).
☐ Peer support ☐ Campus guide ☐ PR support ☐ School Partner
☐ Production(Monotsukuri) Support ☐ Librarian's Support ☐ Student Survey staff
☐ Assistant for university events ☐ On-campus interpretation ☐ IT support
☐ Energy conservation supporter
☐ Student support for female high school students who seek to advance to a science and technology oriented university

b Please mark the on-campus activities that you are interested in. (Select all that apply)
☐ Peer support ☐ Campus guide ☐ PR support ☐ School Partner

☐ Production(Monotsukuri) Support ☐ Librarian's Support ☐ Student Survey staff
☐ Assistant for university events ☐ On-campus interpretation ☐ IT support
☐ Energy conservation supporter
☐ Student support for female high school students who seek to advance to a science and technology oriented university

c Please state other on-campus activities you would like to see at Tokyo Tech.

4 About services provided by faculty and university administrative staff.

a Do you feel that the faculty staff have treated you appropriately?
○ 4(I think so) ○ 3 ○ 2 ○ 1 (I don't think so) ○ I don't know

b Do you feel that the university administrative staff have treated you appropriately?
○ 4(I think so) ○ 3 ○ 2 ○ 1 (I don't think so) ○ I don't know

c Please provide any comments you may have regarding the services provided by faculty and university administrative staff.

5 Regarding the various counseling and consultation services provided by Tokyo Tech.

a Please indicate the contacts for counseling and consultation services with which you are familiar (select all that apply).
☐ Peer support ☐ Guidance tutors, course instructors
☐ Head of the academic group, Chair of the Department
☐ Faculty staff assisting in employment and job hunting
☐ Learning consultation for international students ☐ Student consultation office
☐ Telephone consultation services ☐ Harassment consultation services ☐ Health counseling
☐ Career advisory services ☐ academic advisor ☐ Student life coach

b Please indicate the services you would like to receive. (Select all that apply)
☐ Peer support ☐ Guidance tutors, course instructors
☐ Head of the academic group, Chair of the Department
☐ Faculty staff assisting in employment and job hunting
☐ Learning consultation for international students ☐ Student consultation office
☐ Telephone consultation services ☐ Harassment consultation services ☐ Health counseling
☐ Career advisory services ☐ academic advisor ☐ Student life coach

6 Regarding harassment on campus

a Have you ever witnessed any form of harassment on campus (e.g., sexual, academic, power, etc.)?
○ Yes, I have in the past. ○ Yes, currently there is a case(s) of harassment to which I have been witness
○ No.

b Have you ever witnessed alcohol harassment? (Select all that apply)
☐ No, I have never witnessed alcohol harassment.
☐ Yes, I have witnessed people being pressured to drink.
☐ Yes, I have witnessed people being pressured to chug alcohol.
☐ Yes, I have witnessed minors being pressured to drink.

c Please provide the measures taken, if any, by the participants, university staff or by yourself after witnessing the alcohol harassment.

d What do you think would help prevent harassment?

7 Regarding disaster prevention.

a Please select all items which apply to you. (Select all that apply)
☐ I am aware of the steps I need to take in the case of an earthquake.
☐ I am aware of the on-campus evacuation sites.
☐ I have a pocket-sized manual regarding what to do in the event of a large-scale earthquake.
☐ I am aware of the disaster drills held every year in autumn (to be held on November 9, 2016)

b Did you participate in the disaster drill last year?
○ Yes ○ No ○ I was not enrolled at Tokyo Tech.

c If you did not participate in the disaster drill last year, please state the reasons.

d Please provide any comments or suggestions you may have regarding Tokyo Tech's disaster prevention.

謝辞

学勢調査 2016 アンケートの実施および本提言書作成に際し、多くの皆様にご協力を頂きましたので、ここで感謝の意を表したいと思います。

まず、学勢調査 2016 のアンケート調査にご参加頂き、最後まで回答していただいた 1794 名の本学学生の皆様に厚くお礼申し上げます。今回のアンケート調査では特に、教育改革に関する多くの自由記述を頂きました。アンケートは教育改革実施のわずか半年後の移行期であったため、今回の提言書では、安易に集約した提言の作成は避けました。しかし、皆様に頂いた声はすでに東工大執行部をはじめ、多くの教職員にフィードバックされ、今後の改善の参考にさせて頂いています。多数の貴重なご意見をありがとうございました。

次に、キャンパスミーティングなどを通じて多くの意見交換をさせて頂き、本提案書の作成に多大なご協力を頂いた、本学教員の皆様、職員の皆様、生協の皆様に深く感謝いたします。皆様のご協力なしには、本提案書の完成はありませんでした。ありがとうございました。

2017 年 3 月

学勢調査 2016 学生スタッフ一同

学勢調査 2016 に参加して頂いた本学学生の皆様

学長　三島 良直　先生

副学長（教育運営担当） 水本 哲弥　先生

事務局（下記の部署）の皆様

総務部 人事課

総務部　労務室

財務部　経理課

国際部　国際連携課

国際部　留学生交流課

国際部　国際事業課

学務部 教務課

学務部 学生支援課

研究推進部 情報図書館課

施設運営部　安全企画室

すずかけ台地区事務部　会計課

すずかけ台地区事務部　学務課

大岡山第一事務区

大岡山第二事務区

東京工業大学生協本部の皆様

学勢調査 2016 スタッフ

代 表	理学部	物理学科	学部 3 年 児島 佑樹
副代表	理工学研究科	原子核工学専攻	博士 2 年 Laosunthara Ampan
副代表	環境･社会理工学院	技術経営専門職学位課程	修士 1 年 磯部 宇彰

学習班

班 長	環境･社会理工学院	技術経営専門職学位課程	修士 1 年 磯部 宇彰
班 員	理工学研究科	原子核工学専攻	博士 2 年 Laosunthara Ampan
班 員	環境･社会理工学院	融合理工学系 原子核工学コース	博士 1 年 米岡 修一郎
班 員	理学部	物理学科	学部 4 年 渡邊 正理

施設･サービス班

班 長	生命理工学部	生命科学科	学部 2 年 長谷川 葉月
班 員	理工学研究科	原子核工学専攻	修士 2 年 村山 真道
班 員	工学部	高分子工学科	学部 4 年 栗林 純平
班 員	工学部	無機材料工学科	学部 3 年 石曾根 香菜
班 員	工学部	機械科学科	学部 3 年 紺野 隆志

データ班

班 長	環境･社会理工学院	融合理工学系 原子核工学コース	博士 1 年 米岡 修一郎
班 員	理工学研究科	原子核工学専攻	博士 2 年 Laosunthara Ampan
班 員	環境･社会理工学院	融合理工学系 原子核工学コース	修士 1 年 西川 崇

表紙デザイン

生命理工学部	生命科学科	学部 2 年 長谷川 葉月

学勢調査 2016 WG 教職員スタッフ

科学技術創成研究院	未来産業技術研究所	准教授	沖野 晃俊(主査)
工学院	機械系 機械コース	教授	岩附 信行
工学院	機械系 機械コース	教授	岡村 哲至
工学院	機械系 機械コース	准教授	長谷川 純
工学院		特任教授	西原 明法
物質理工学院	材料系 材料コース	教授	篠崎 和夫
保健管理センター		教授	齋藤 憲司
学生支援センター	自律支援部門	特任准教授	山田 恵美子
学生支援センター	自律支援部門	事務支援員	小森 友紀子
学生支援課		課長	堤田 直子
学生支援課	支援企画グループ	グループ長	関口 広海
学生支援課	支援企画グループ	主任	笹川 祐輔
学生支援課	支援企画グループ	スタッフ	福原 佳菜美